



とんがり帽子の
アトリエ

ATELIER OF WITCH HAT

自浜 鷗

KAMOME SHIRAHAMA

4



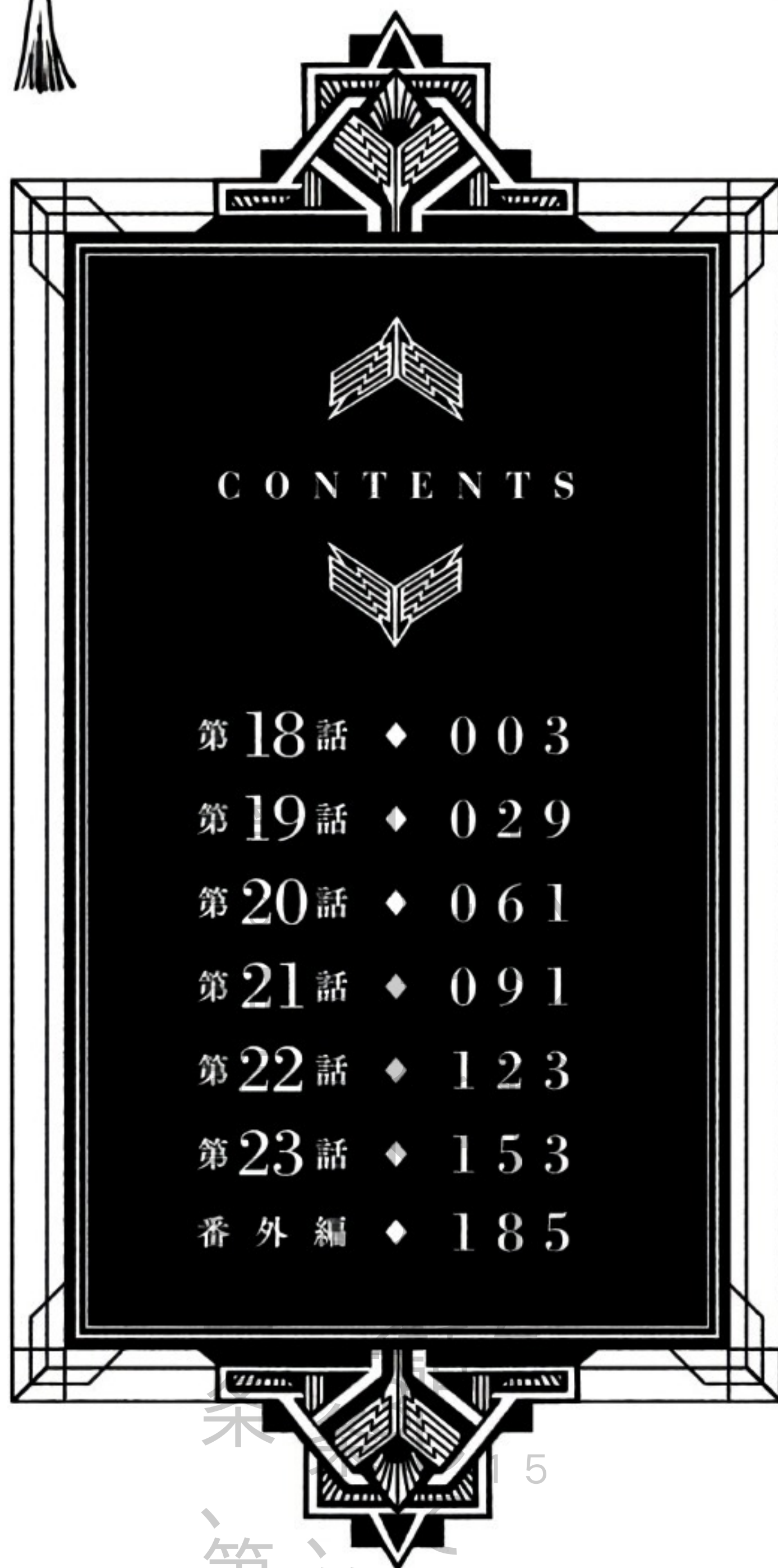
とんがり帽子の
アトリエ

ATELIER OF WITCH HAT

自浜 鷗

KAMOME SHIRAHAMA

4

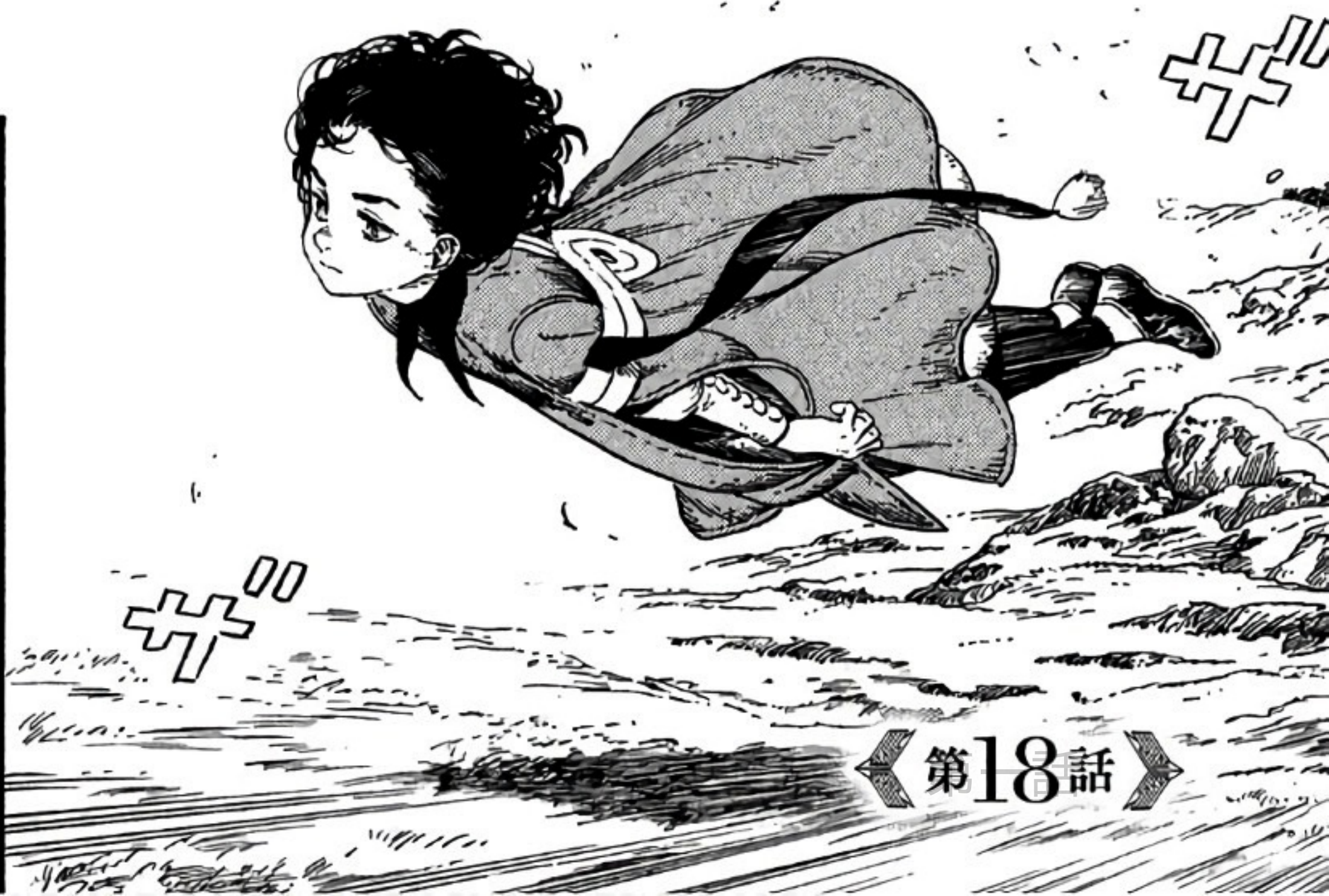
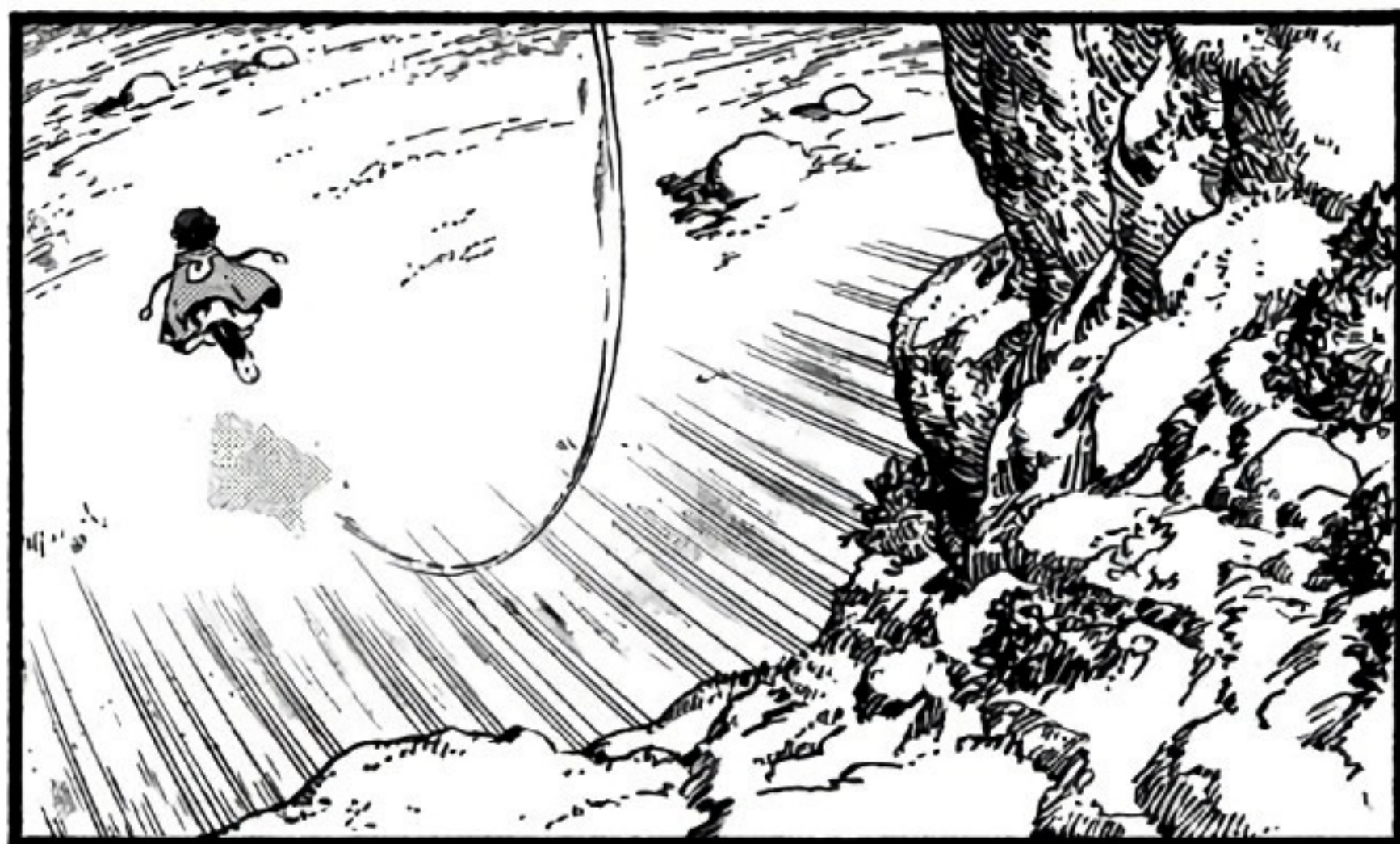


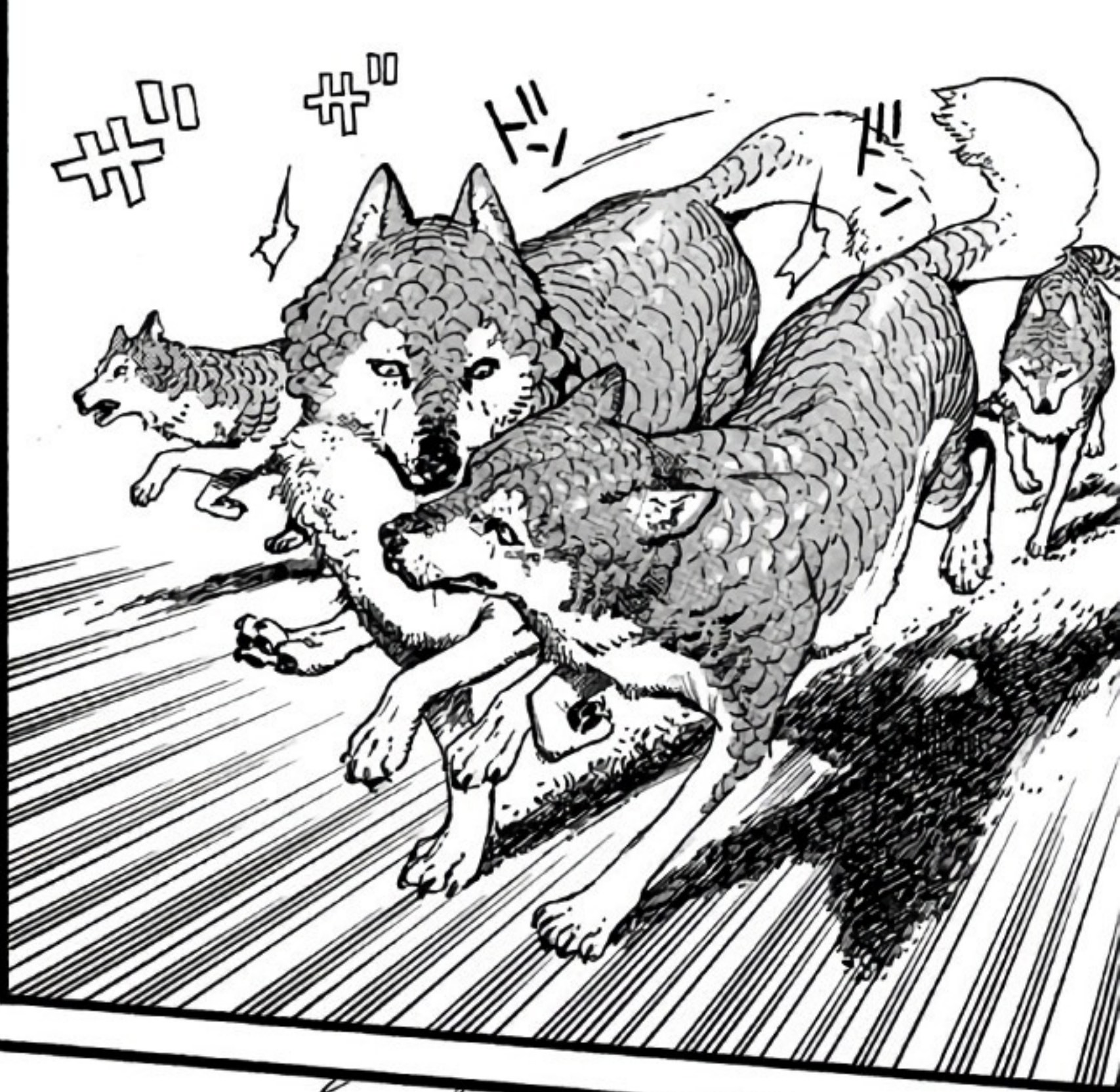
CONTENTS

第 18 話	◆	0 0 3
第 19 話	◆	0 2 9
第 20 話	◆	0 6 1
第 21 話	◆	0 9 1
第 22 話	◆	1 2 3
第 23 話	◆	1 5 3
番 外 編	◆	1 8 5

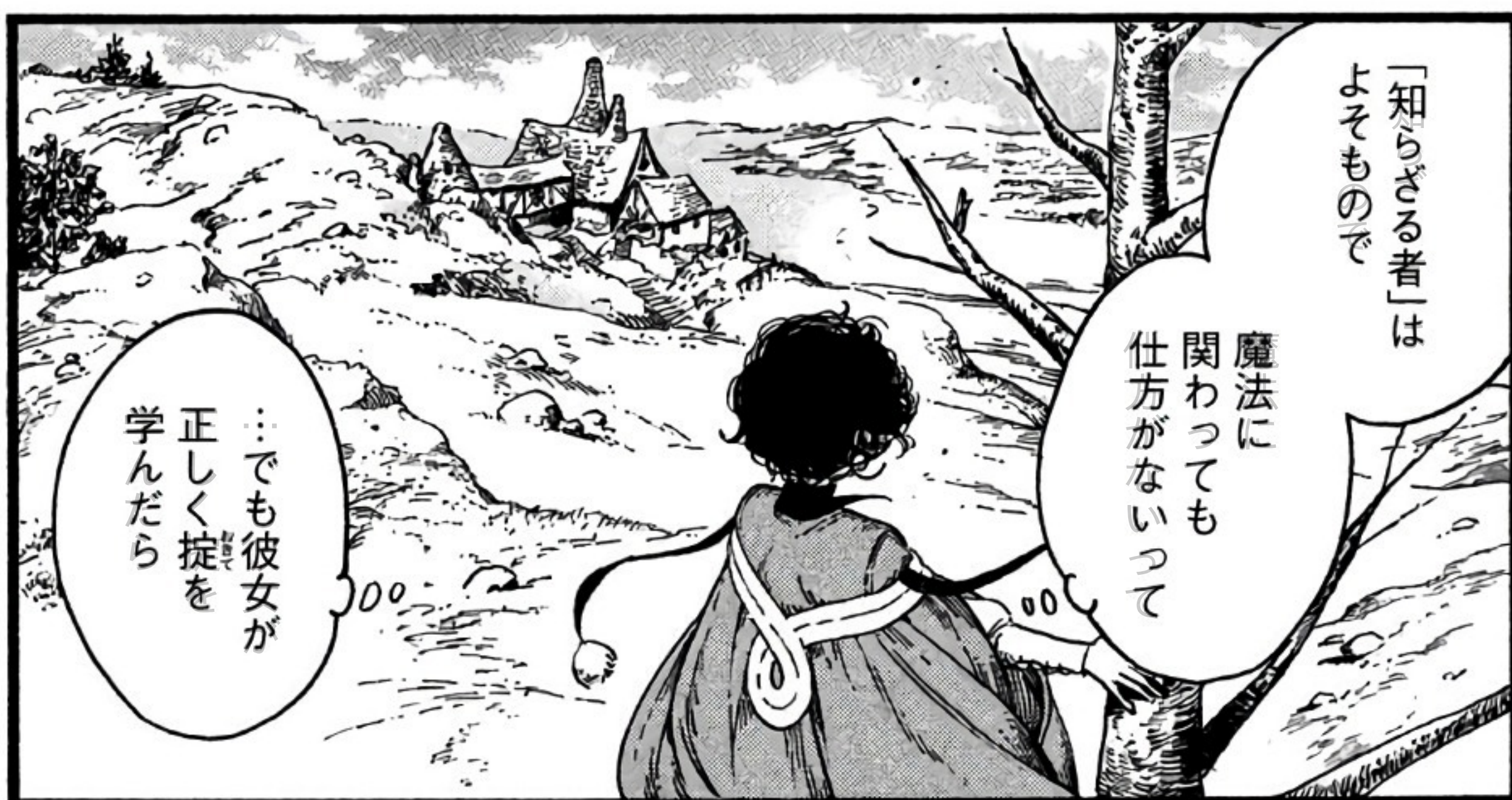
ATELIER OF WITCH HAT

KAMOME
SHIRAHAMA

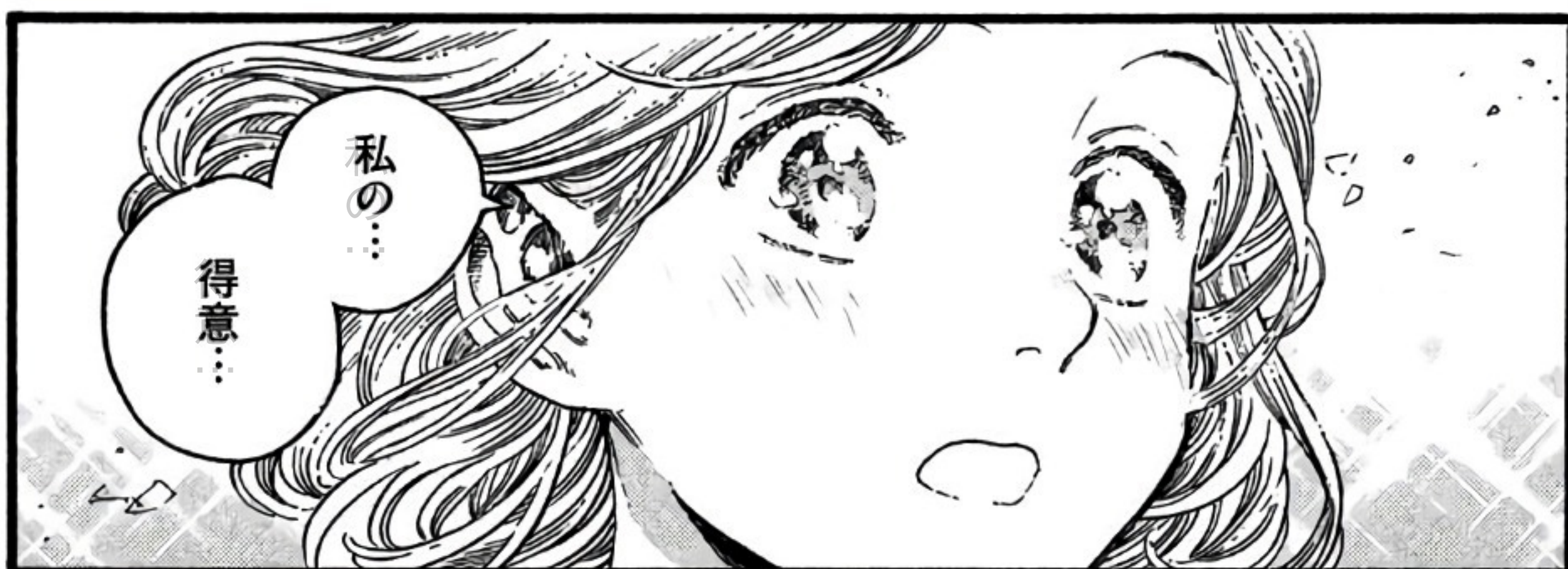
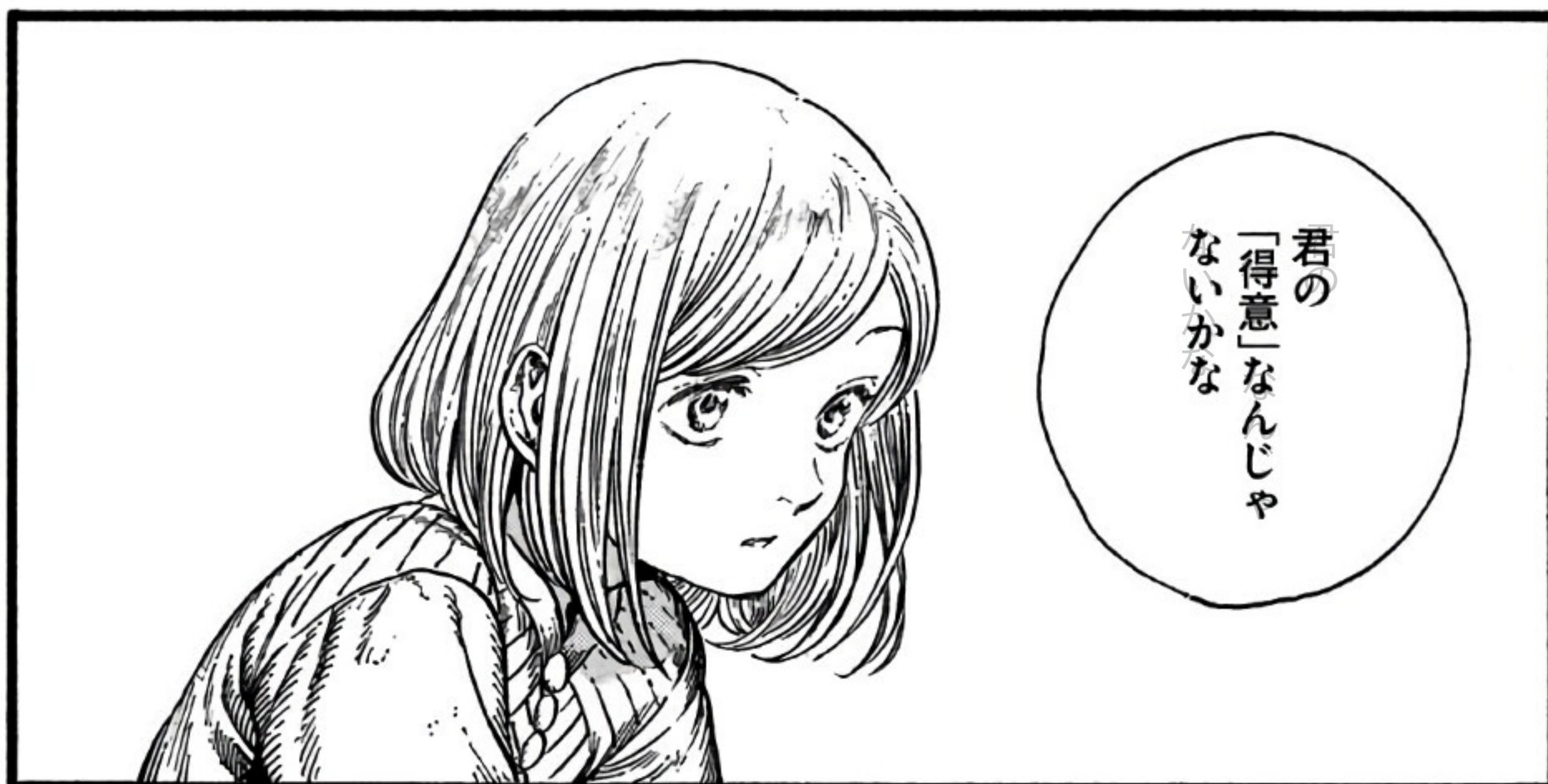


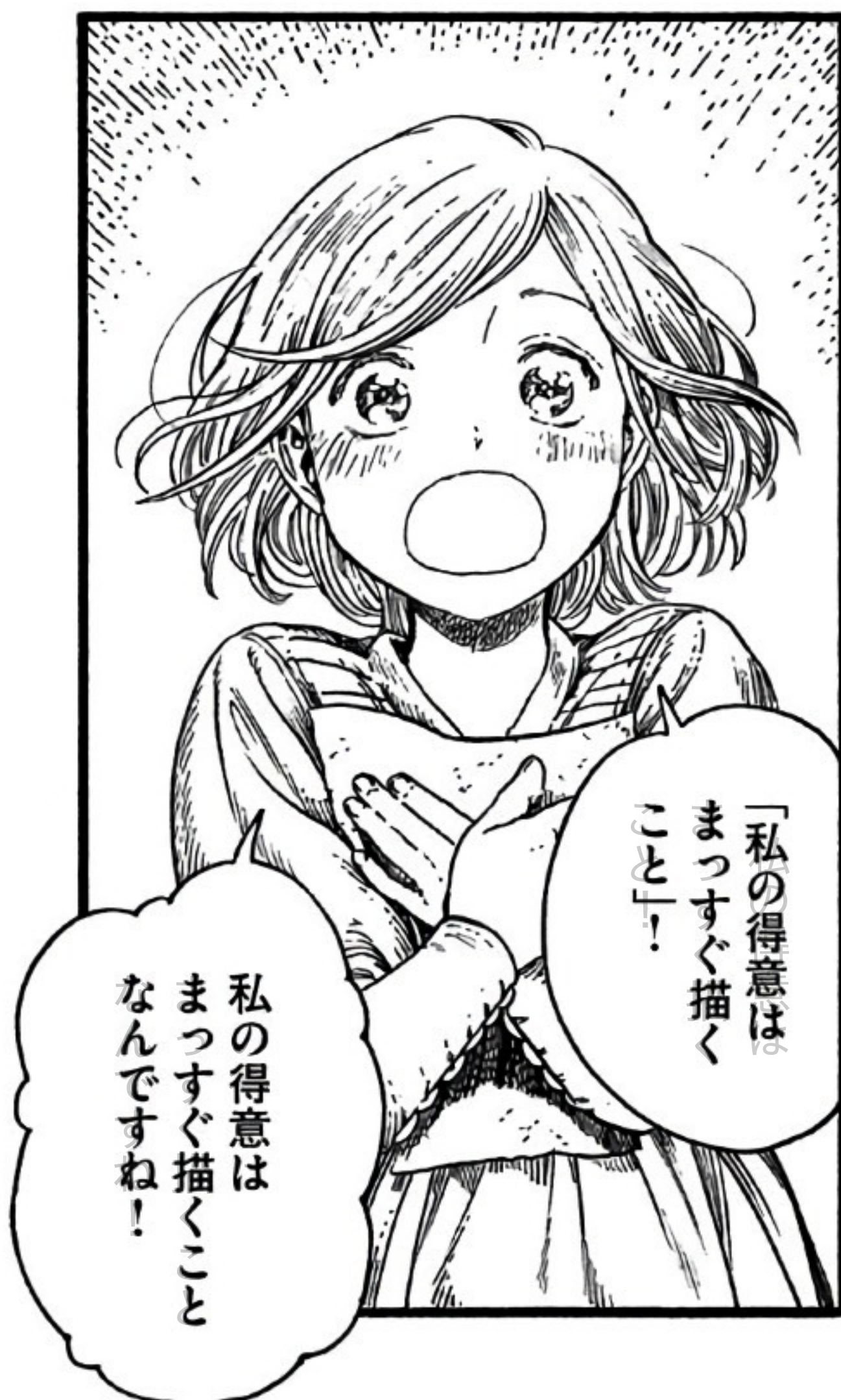


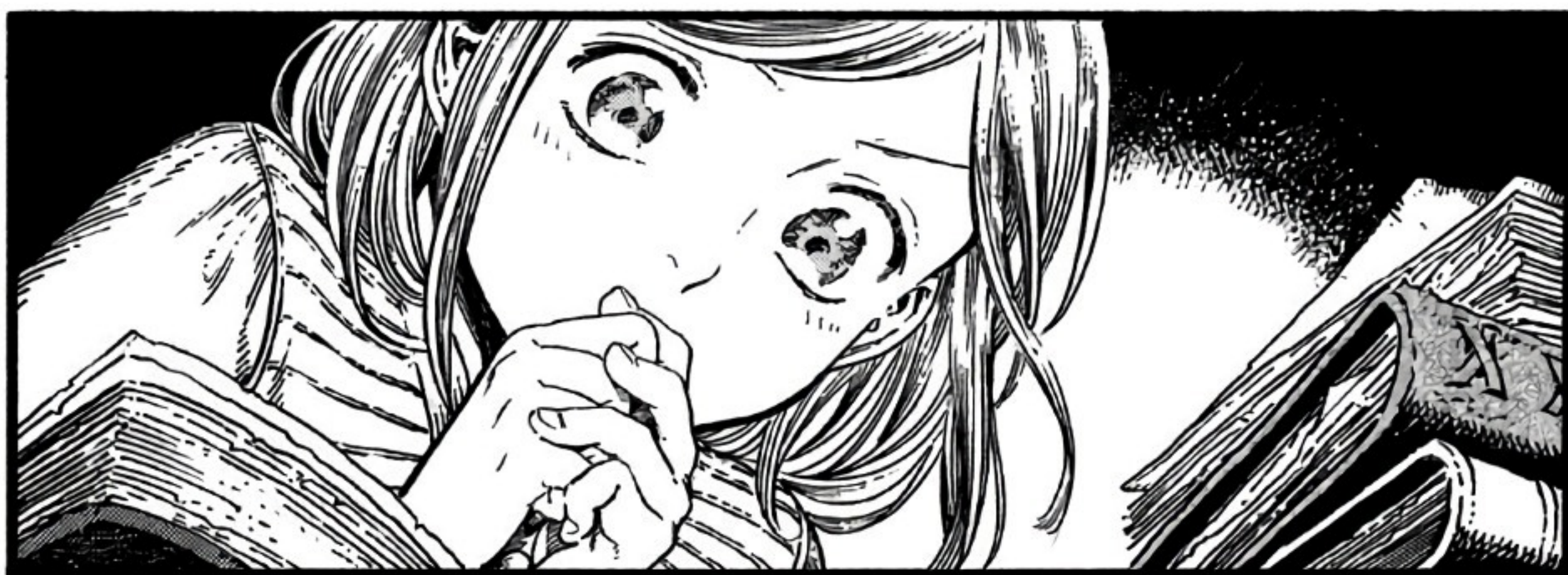




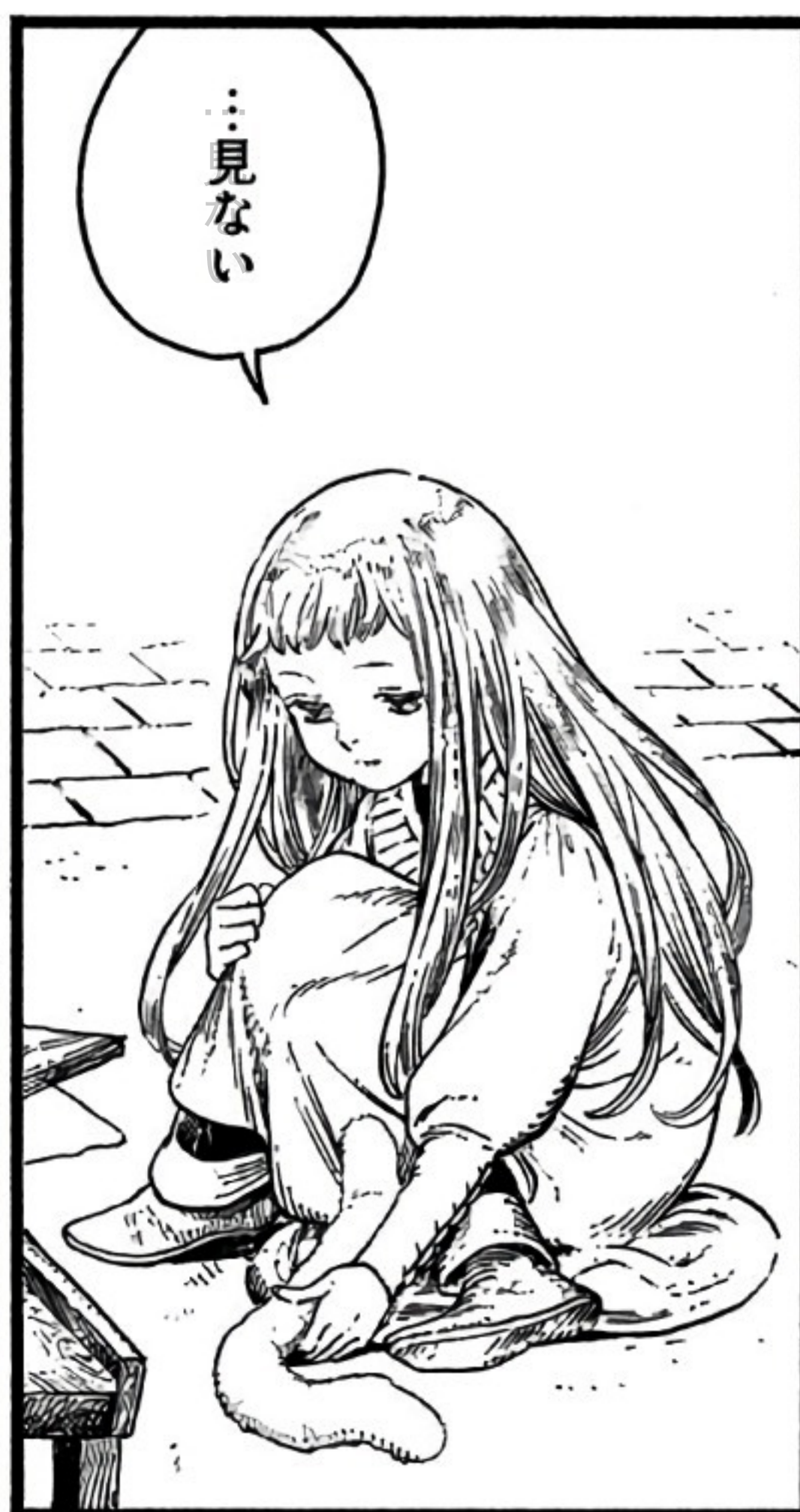




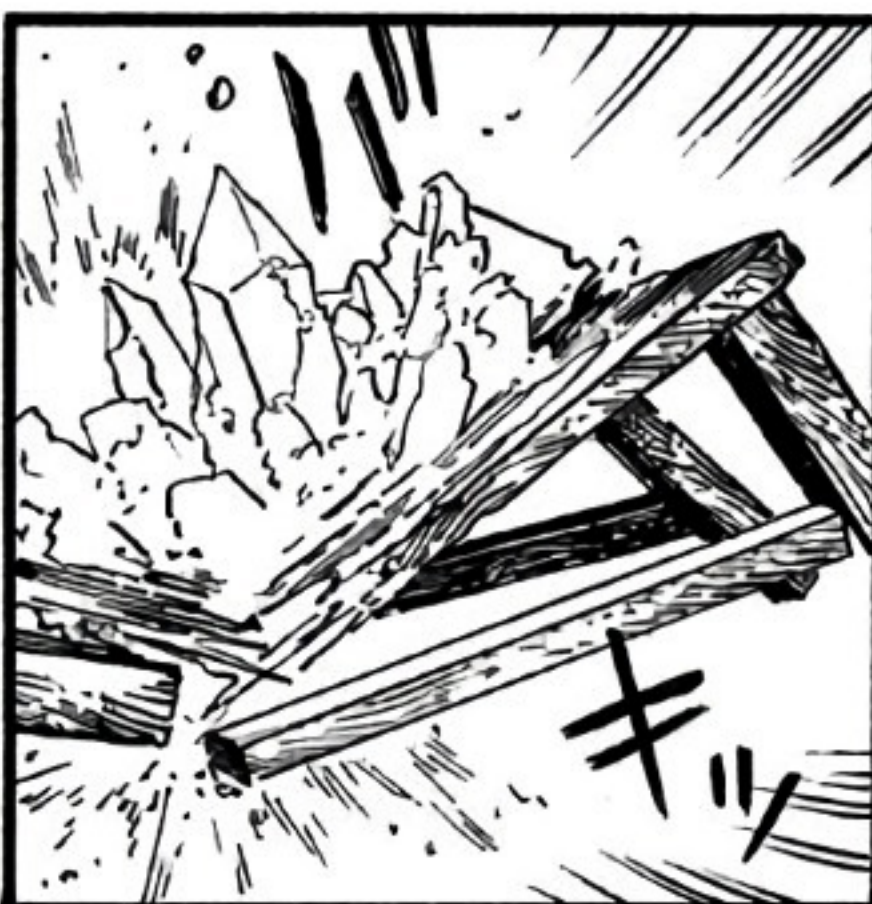






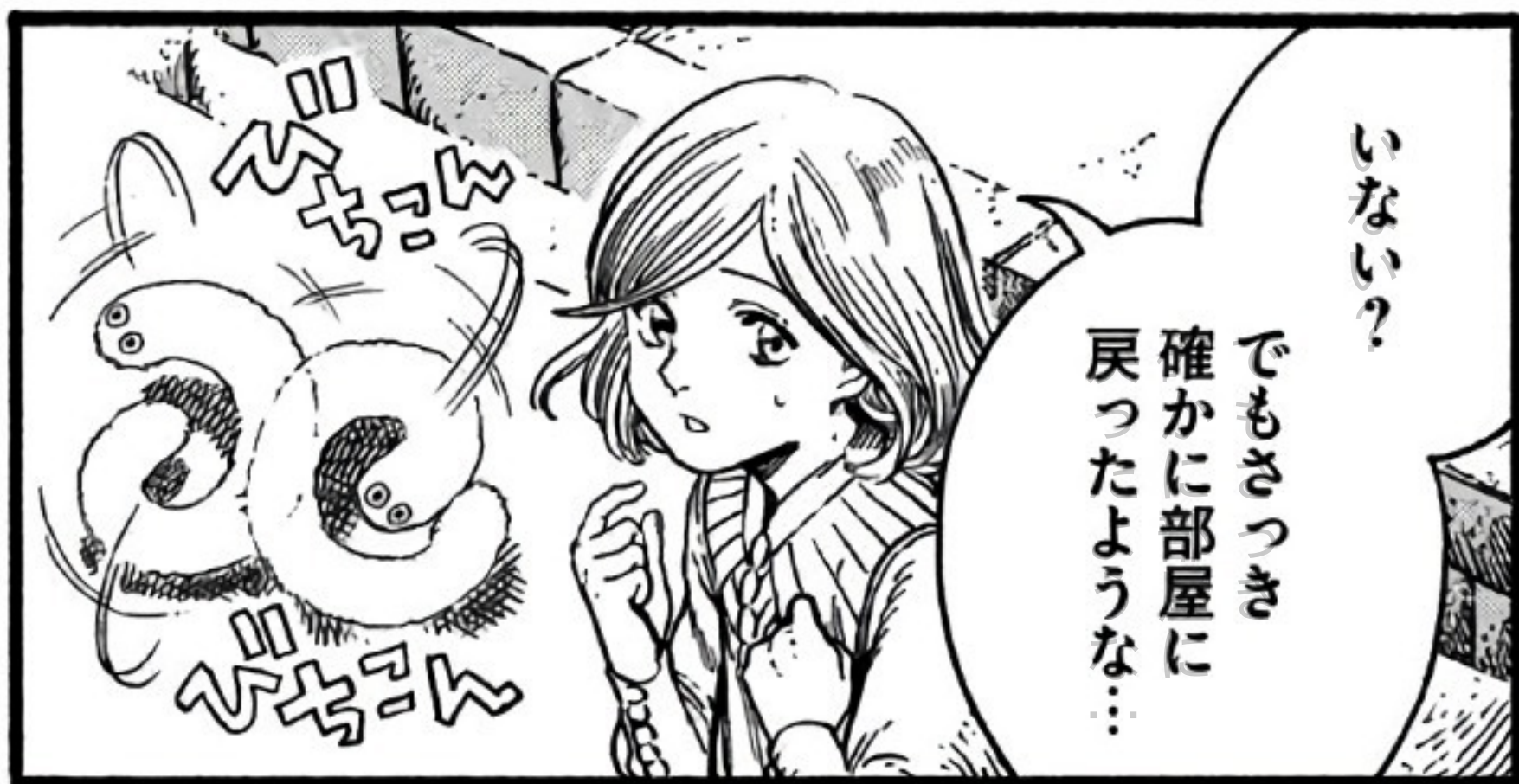
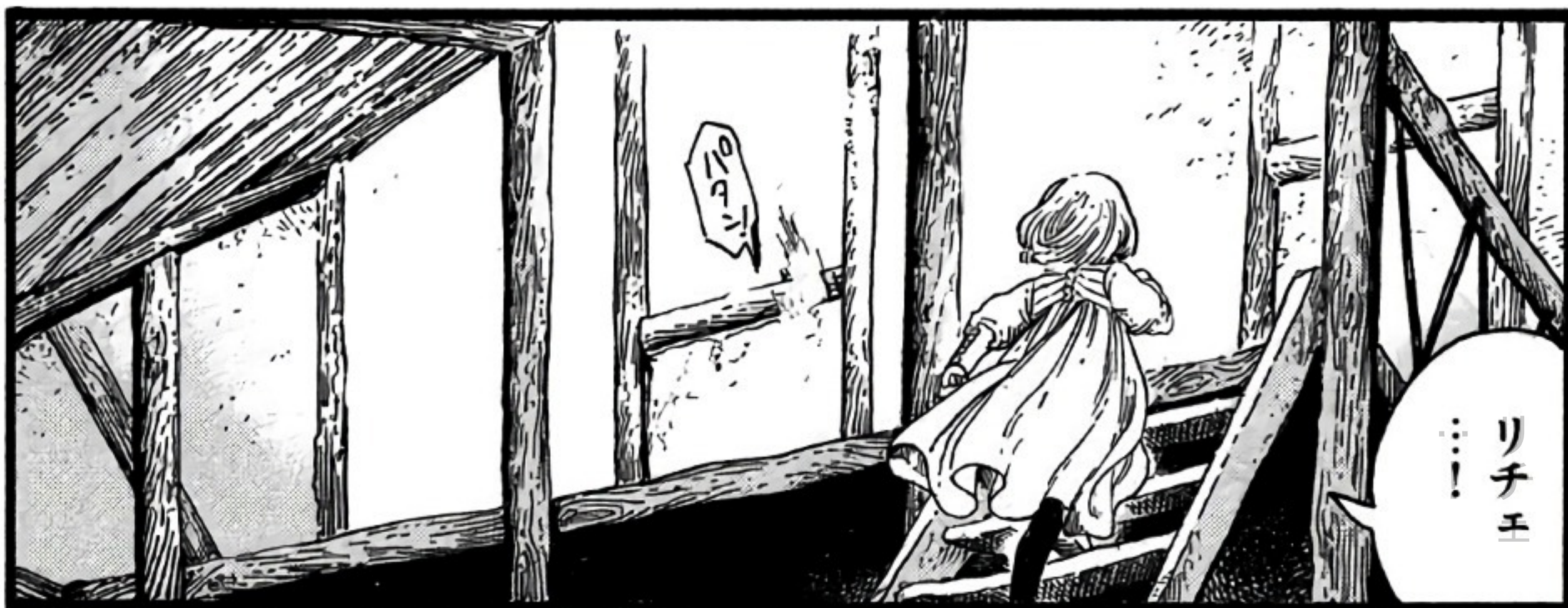


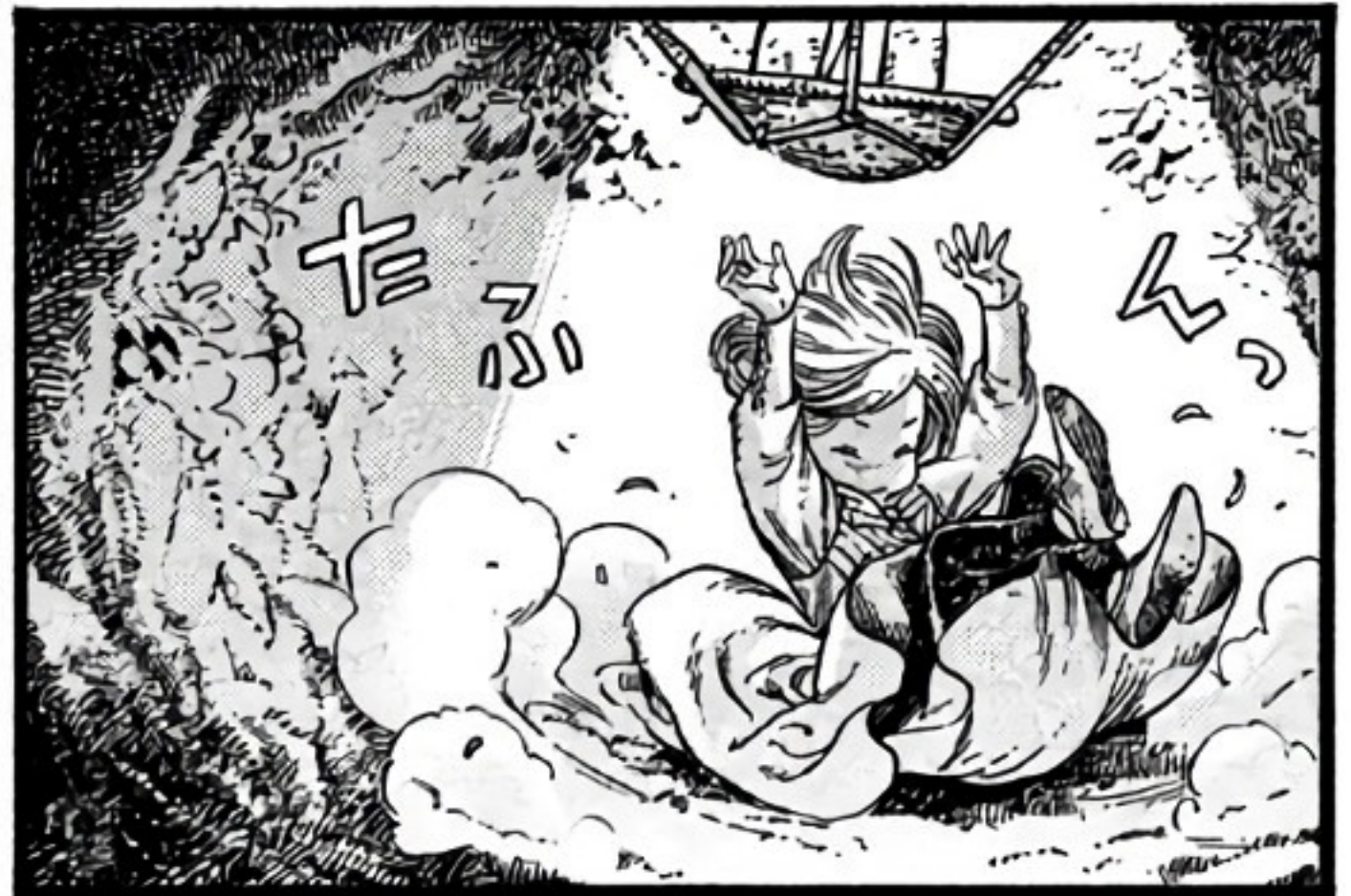
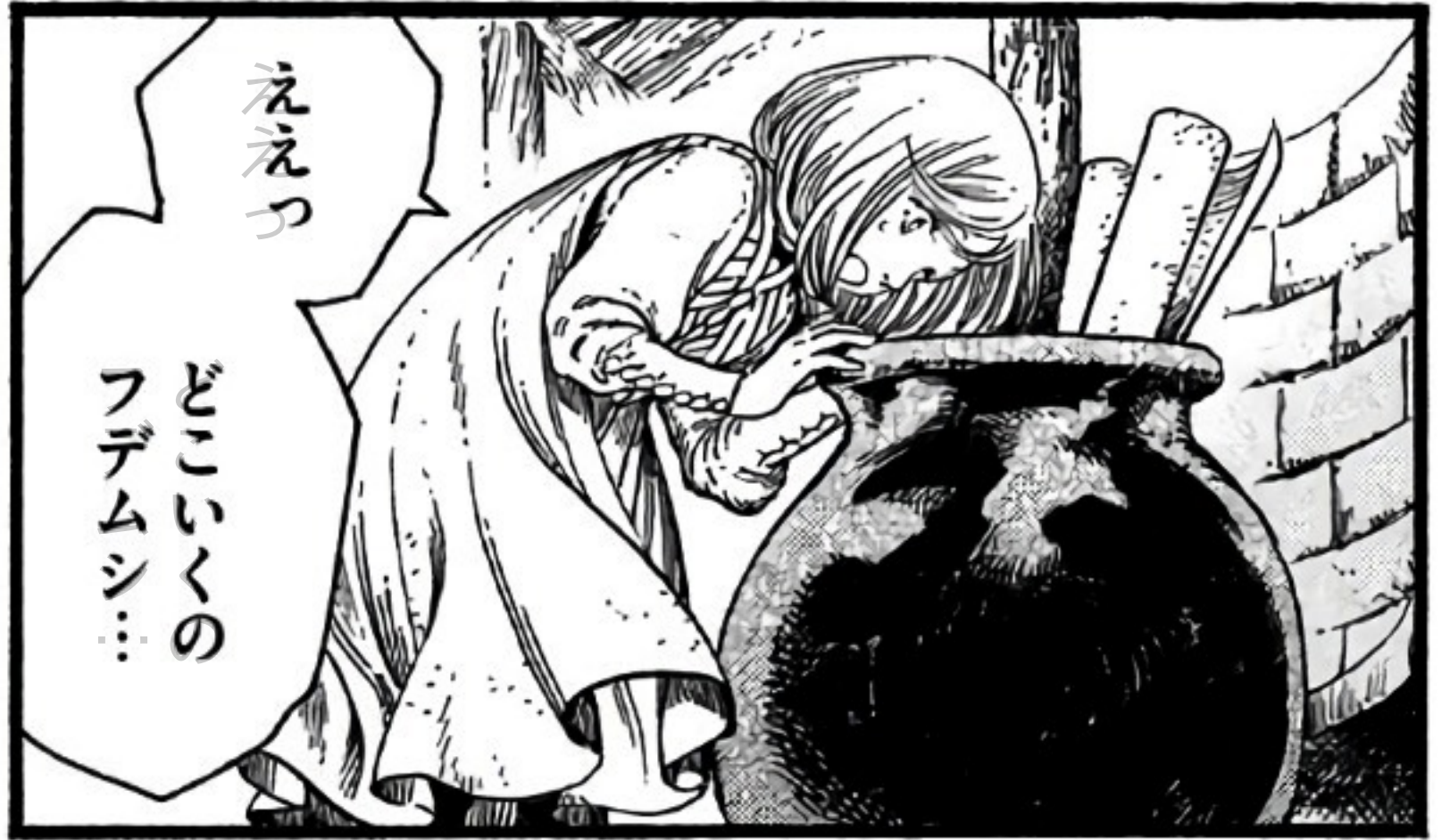
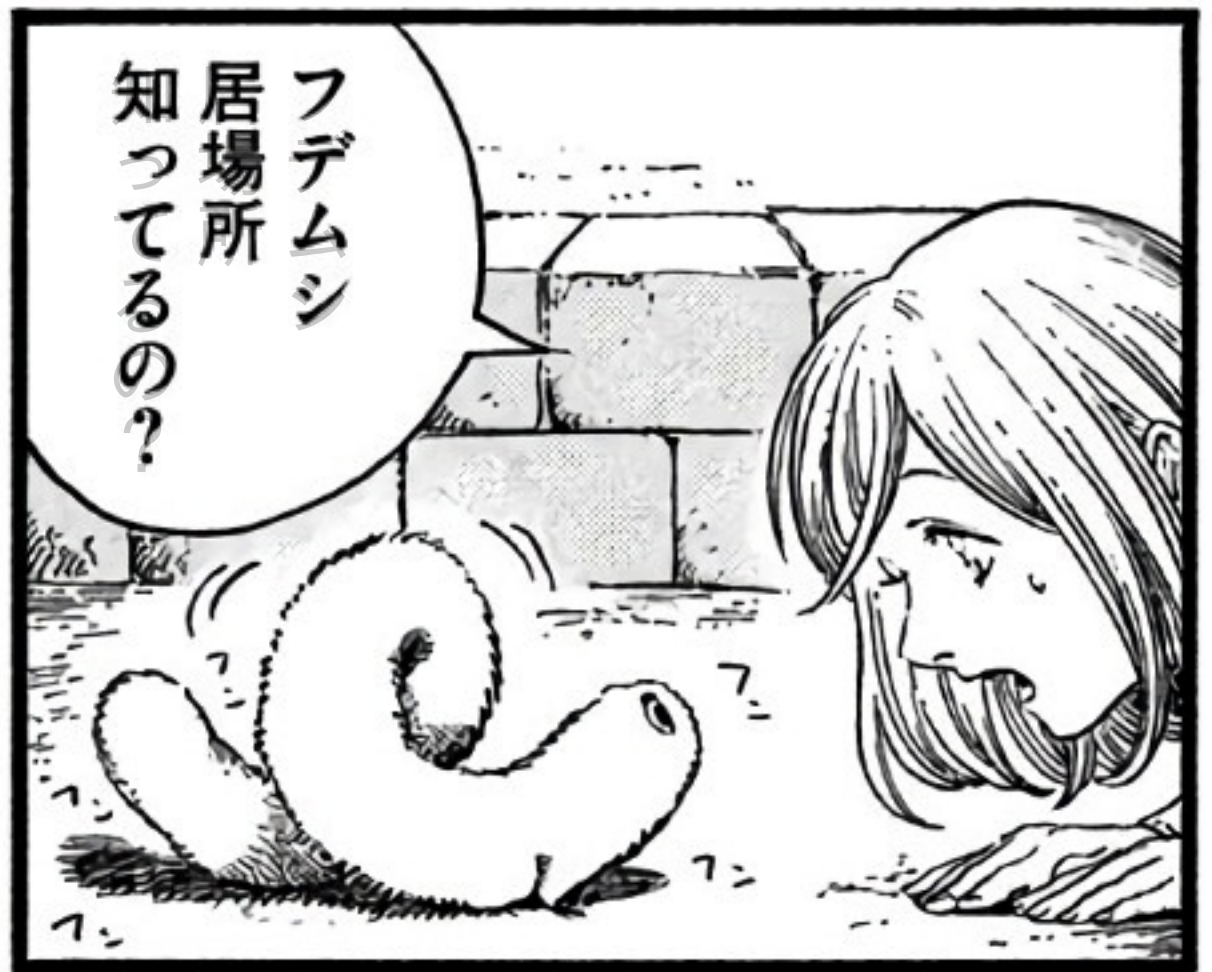
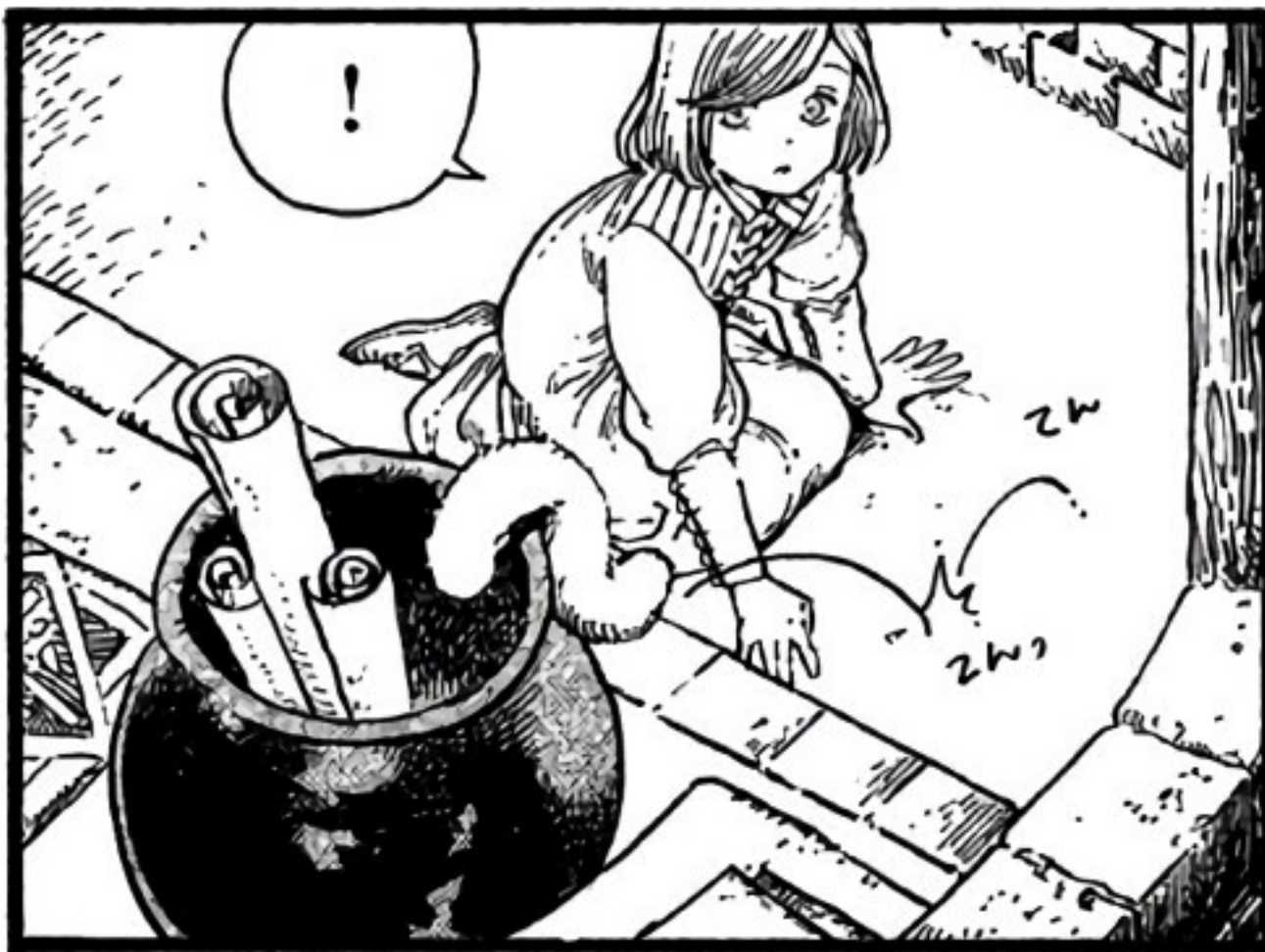


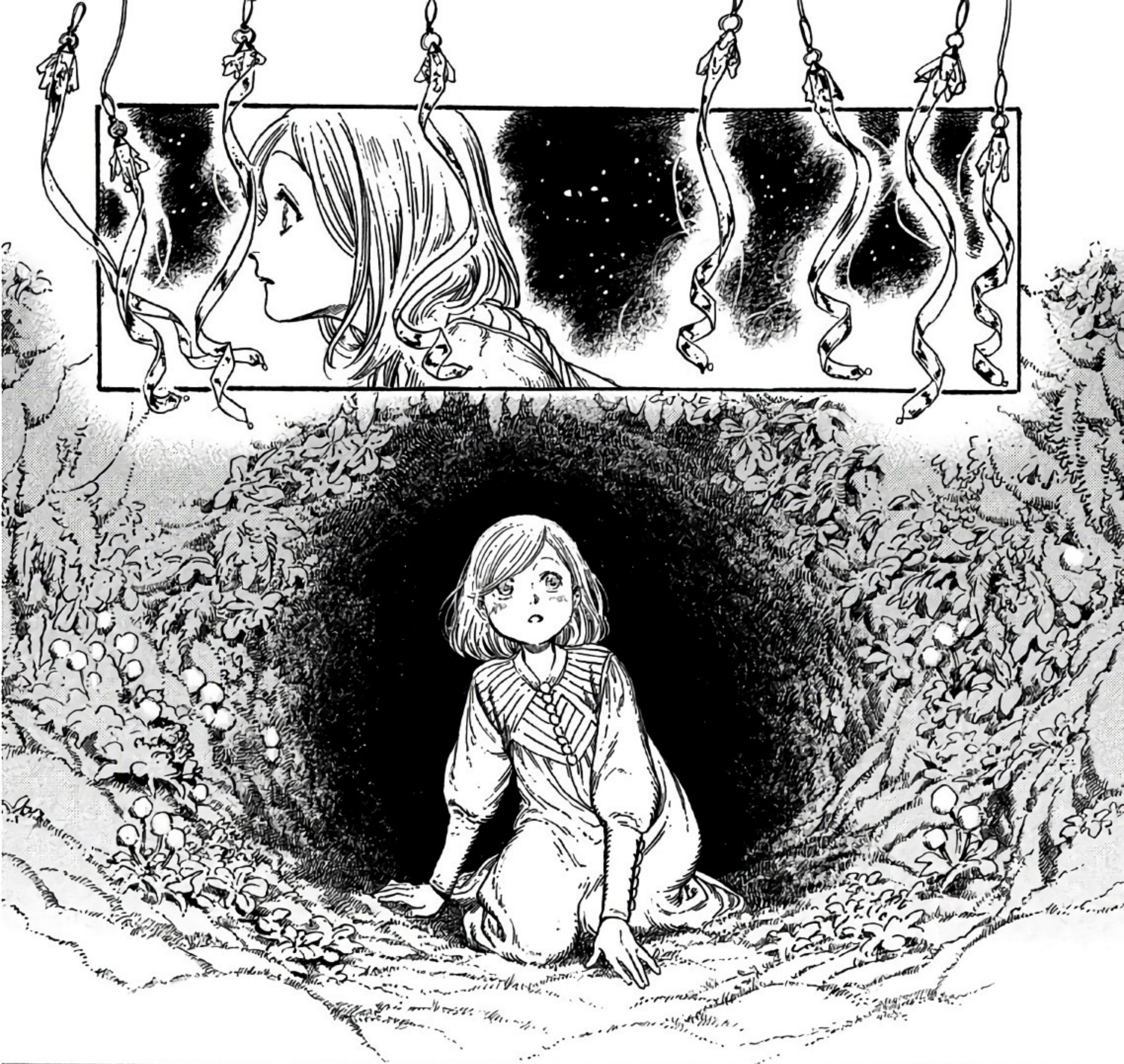


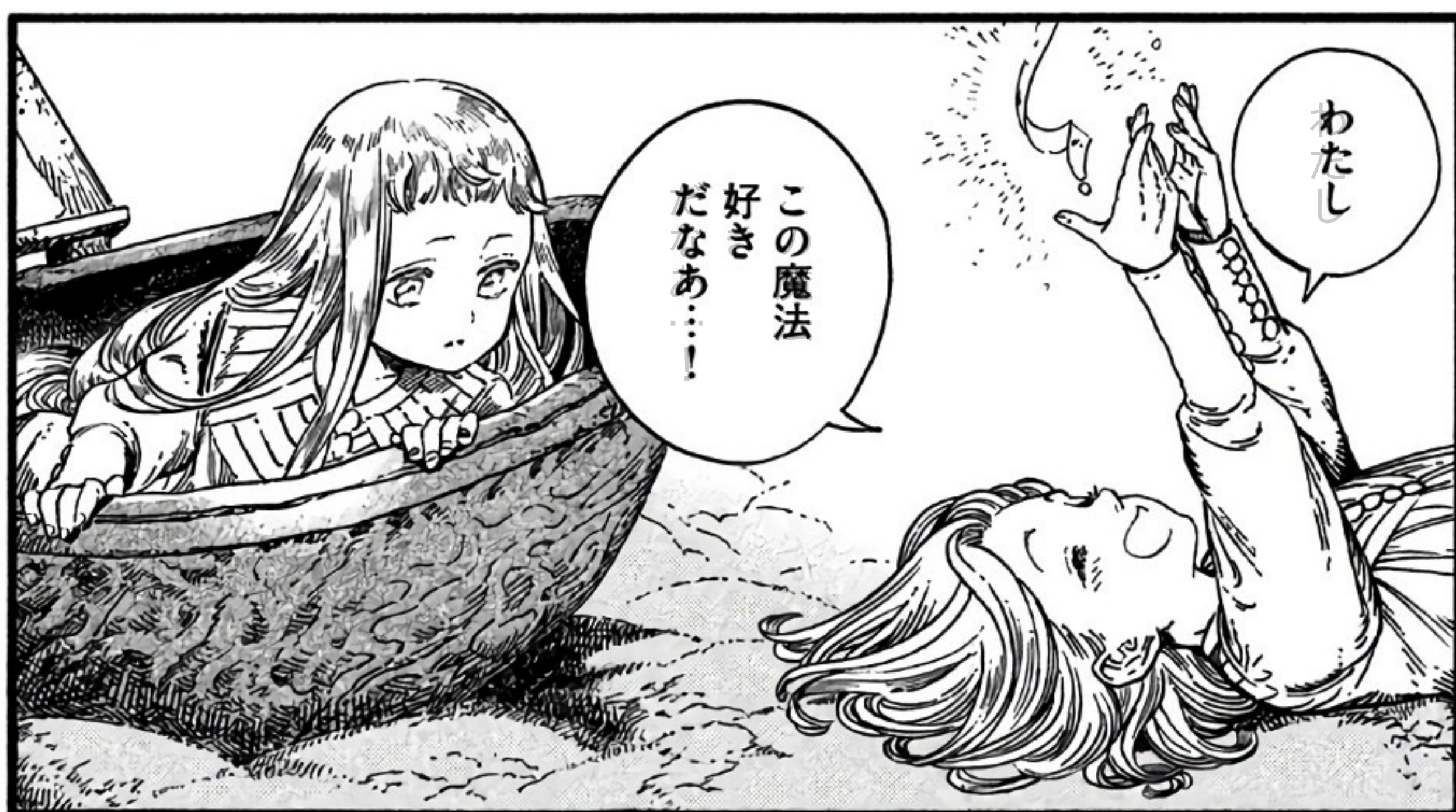
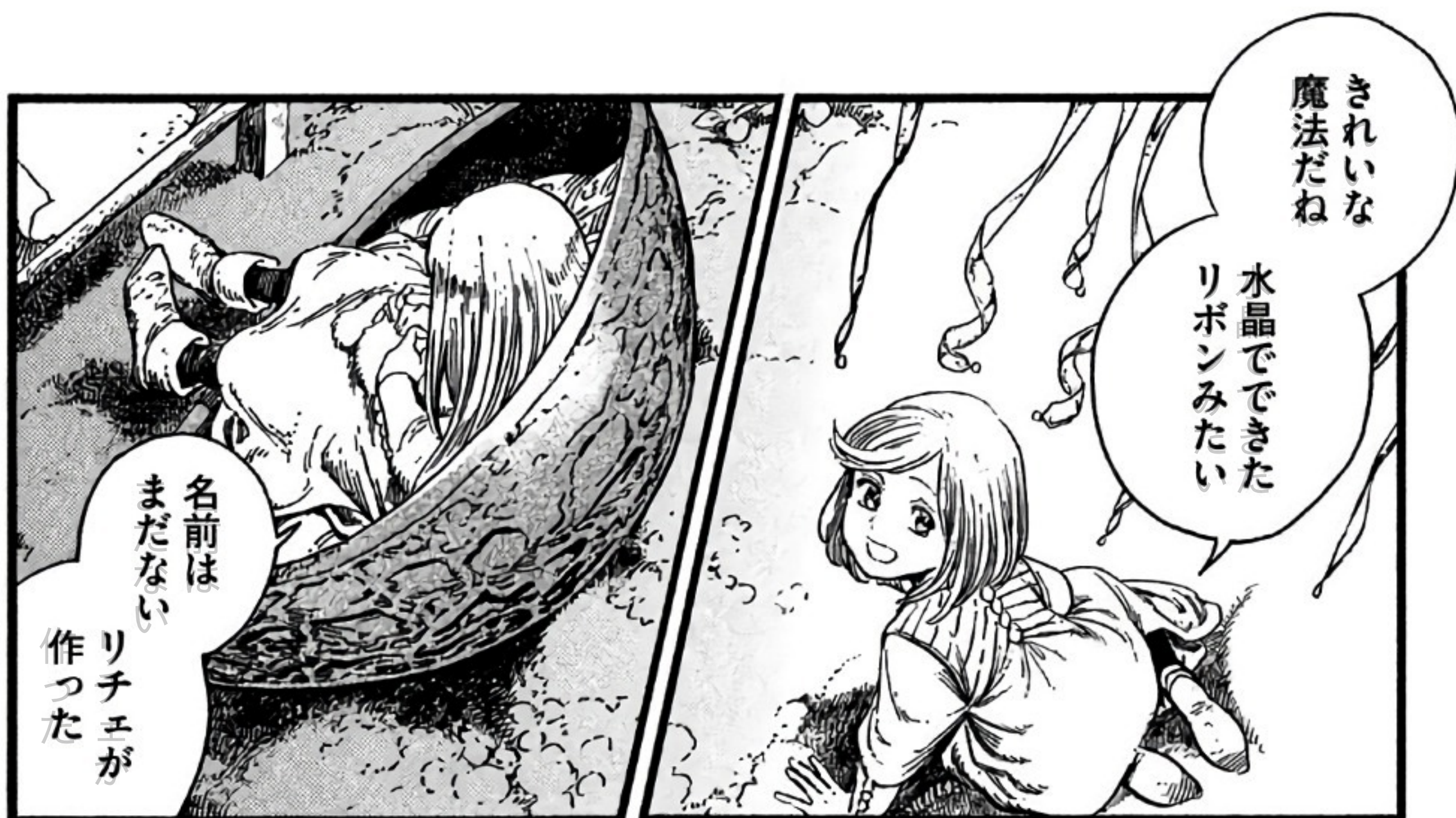
どこへも
進めなく
なっちまう
のにな

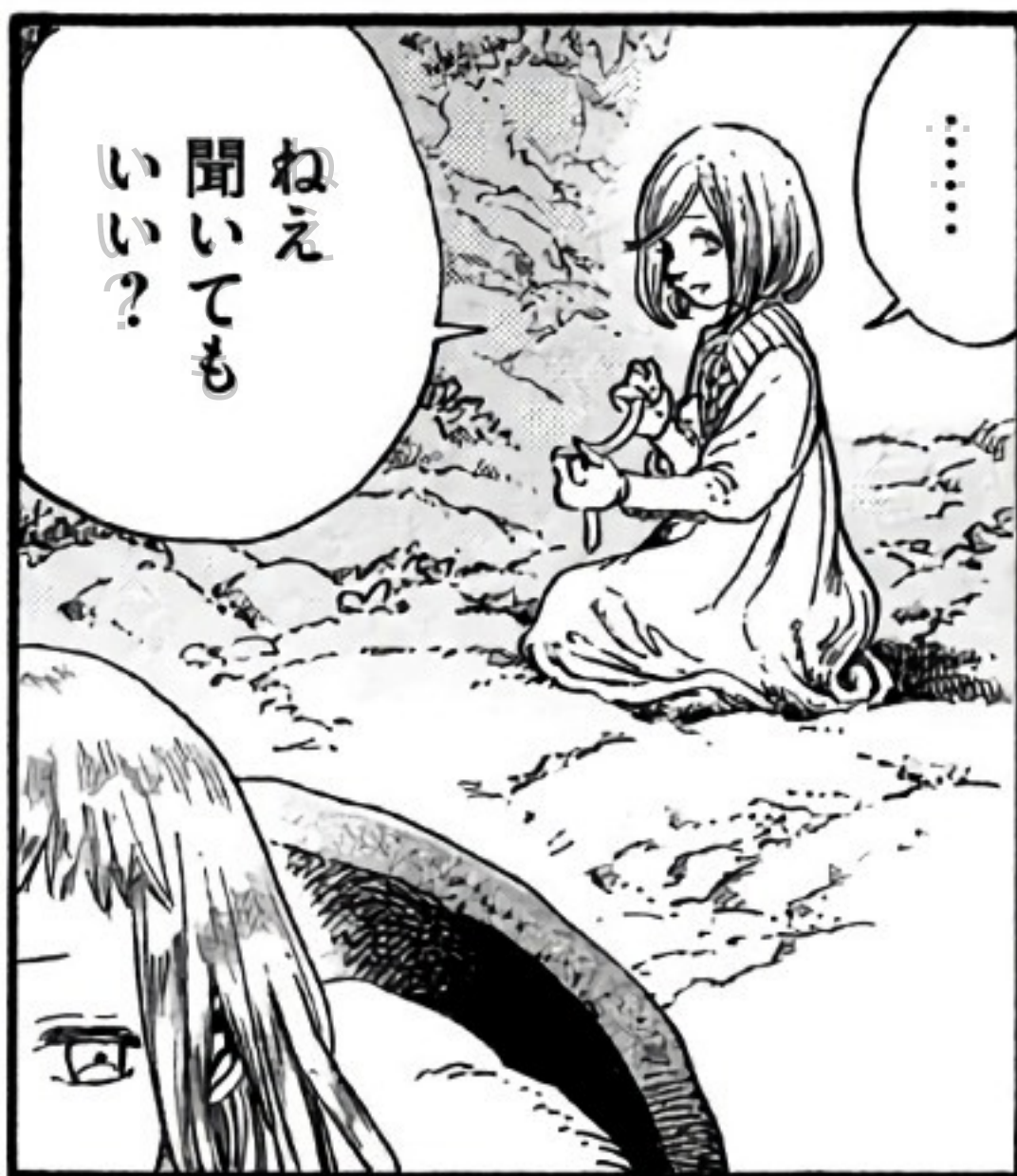
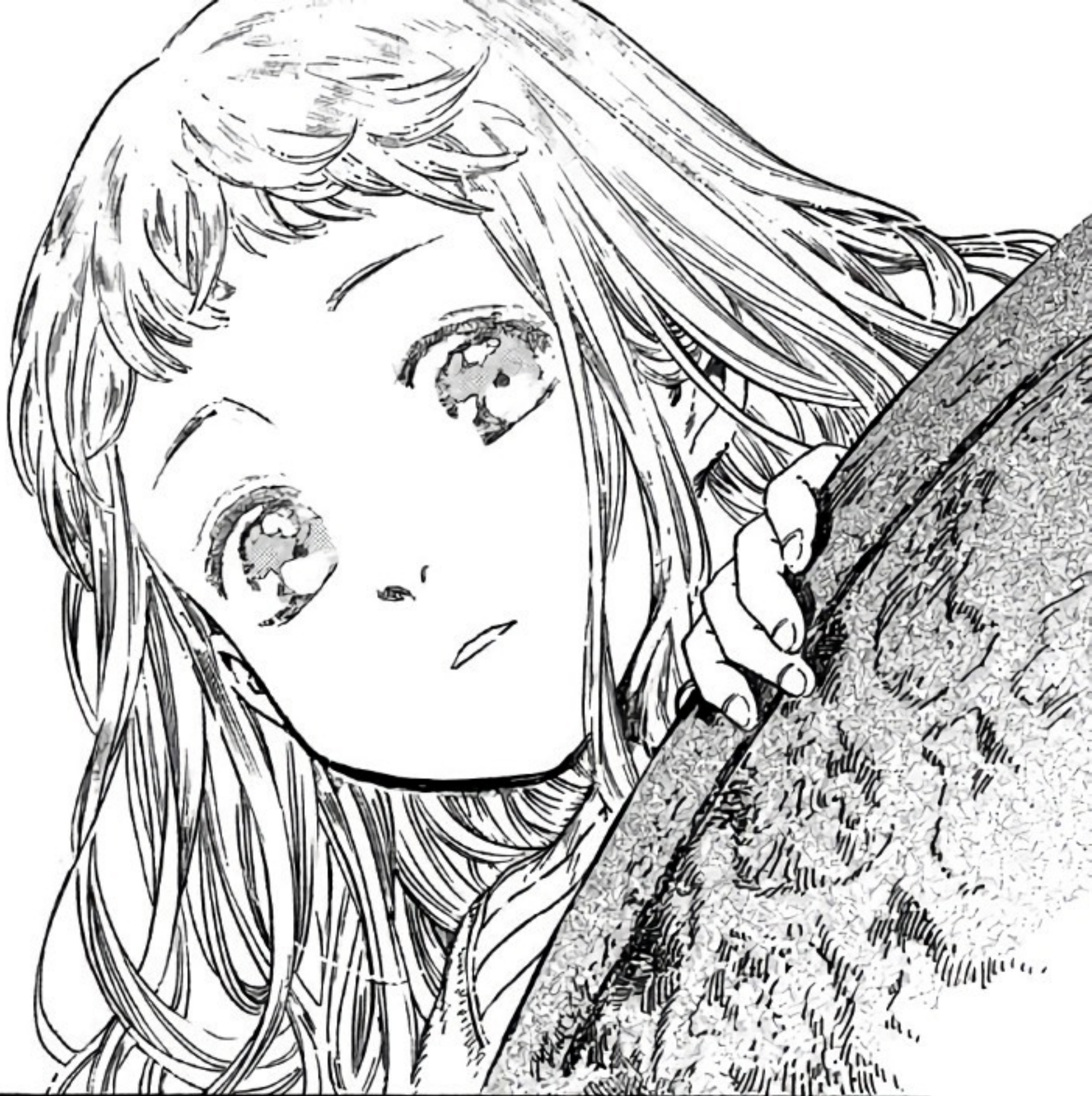










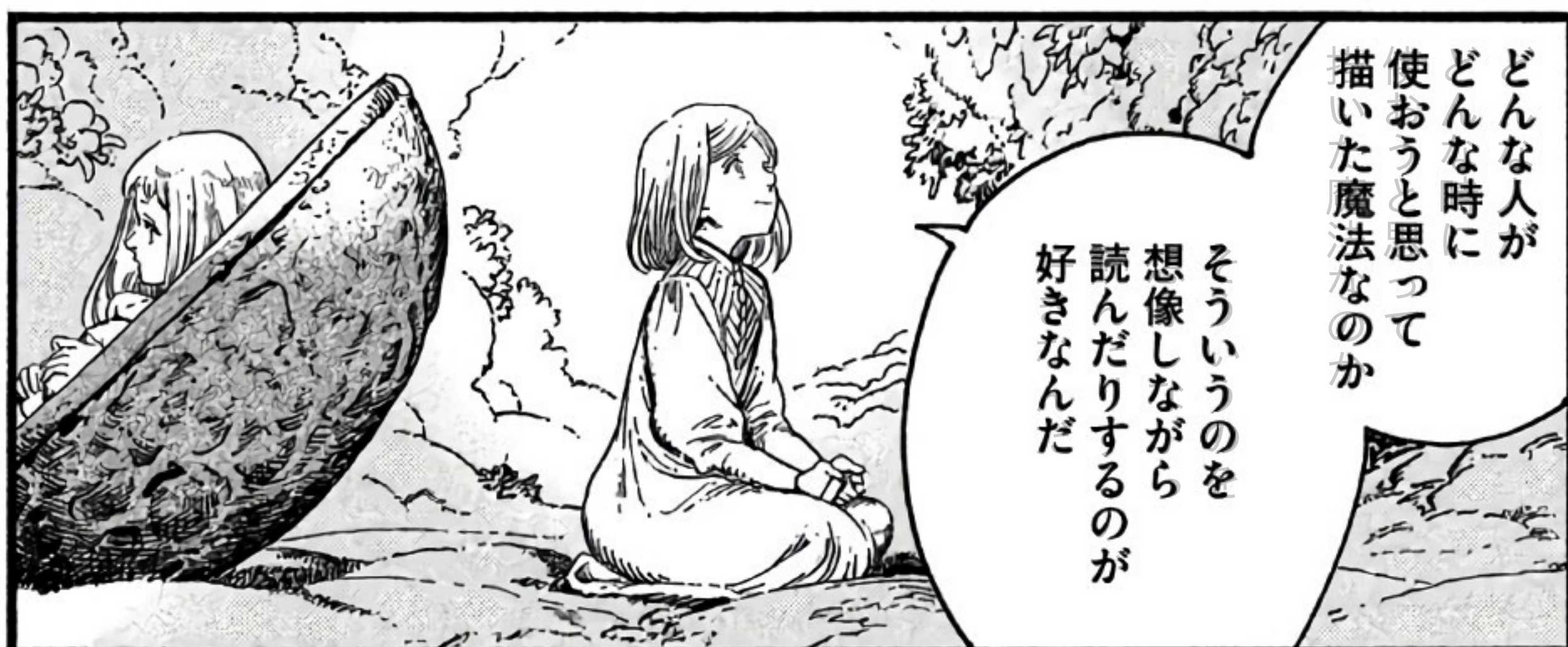




私は魔法のことを全然知らないから本を読むのが楽しくて...



どうして本を見るの嫌なの？

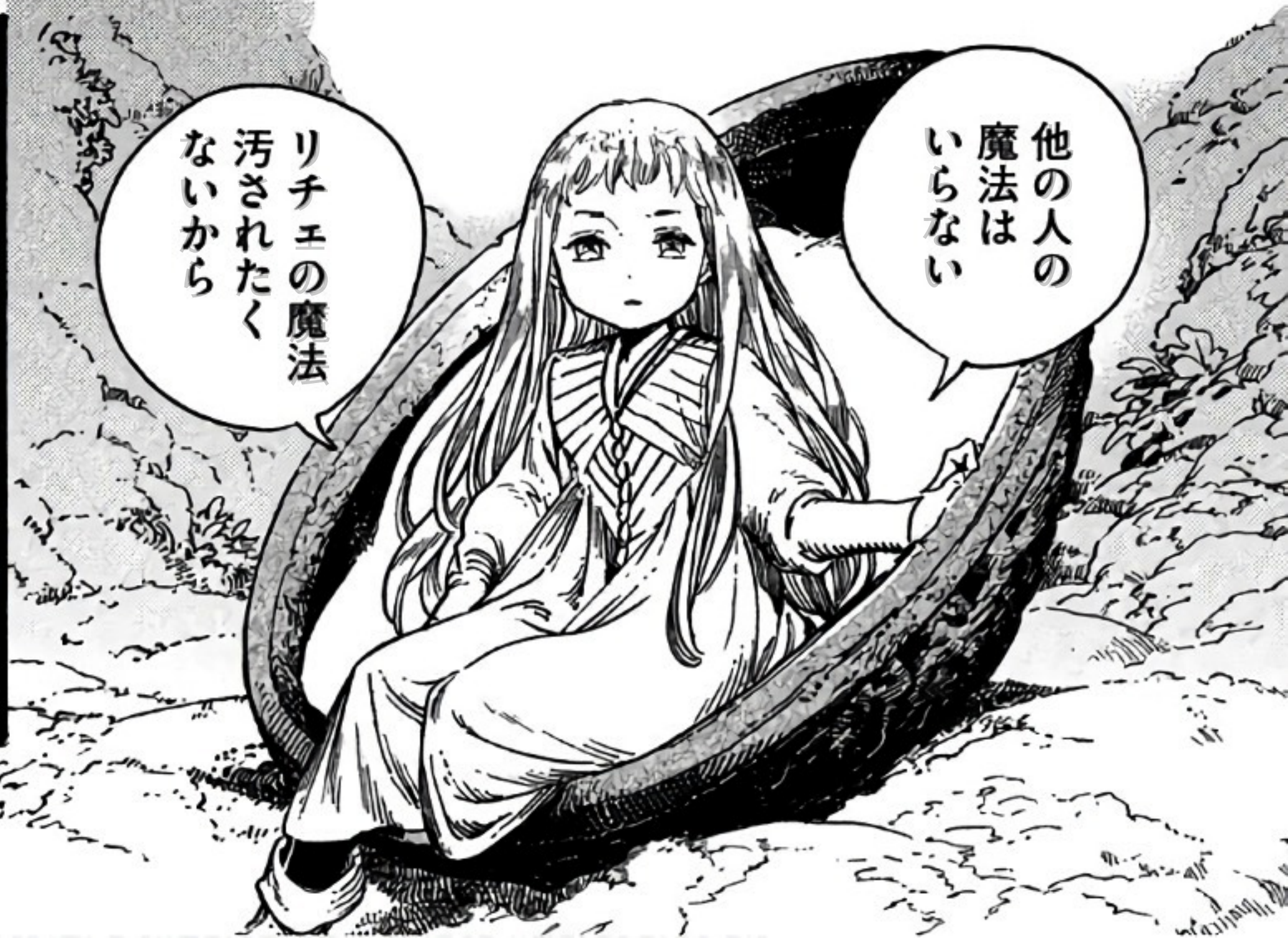
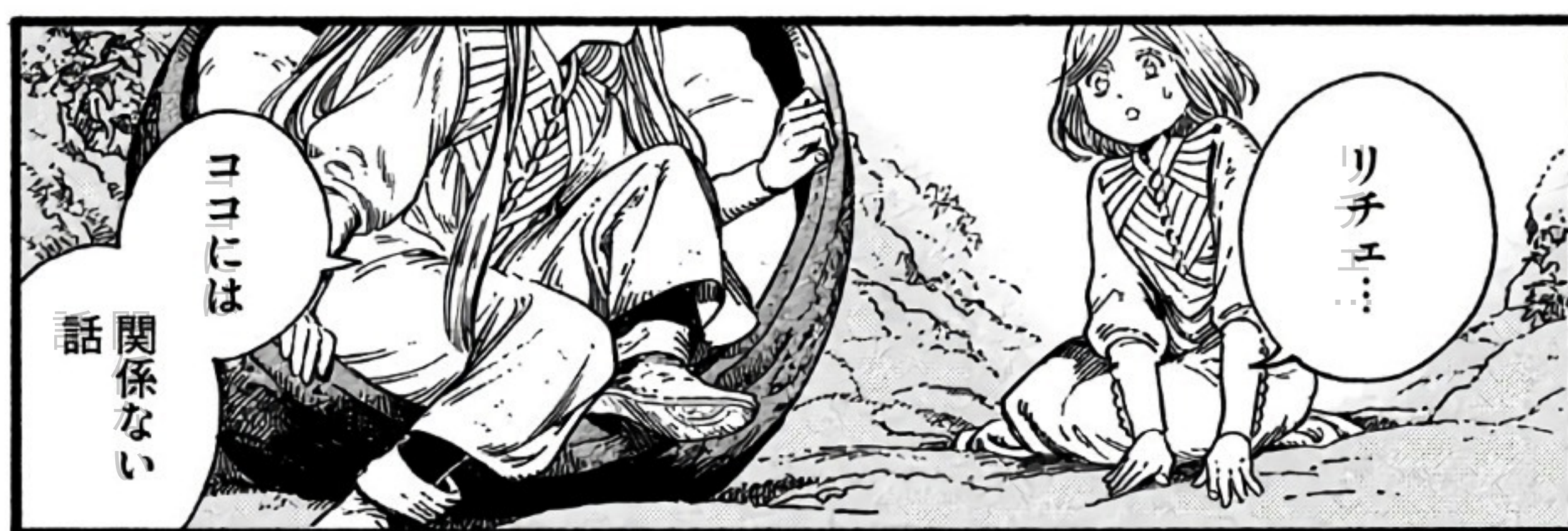


どんな人がどんな時に使おうと思って描いた魔法なのか

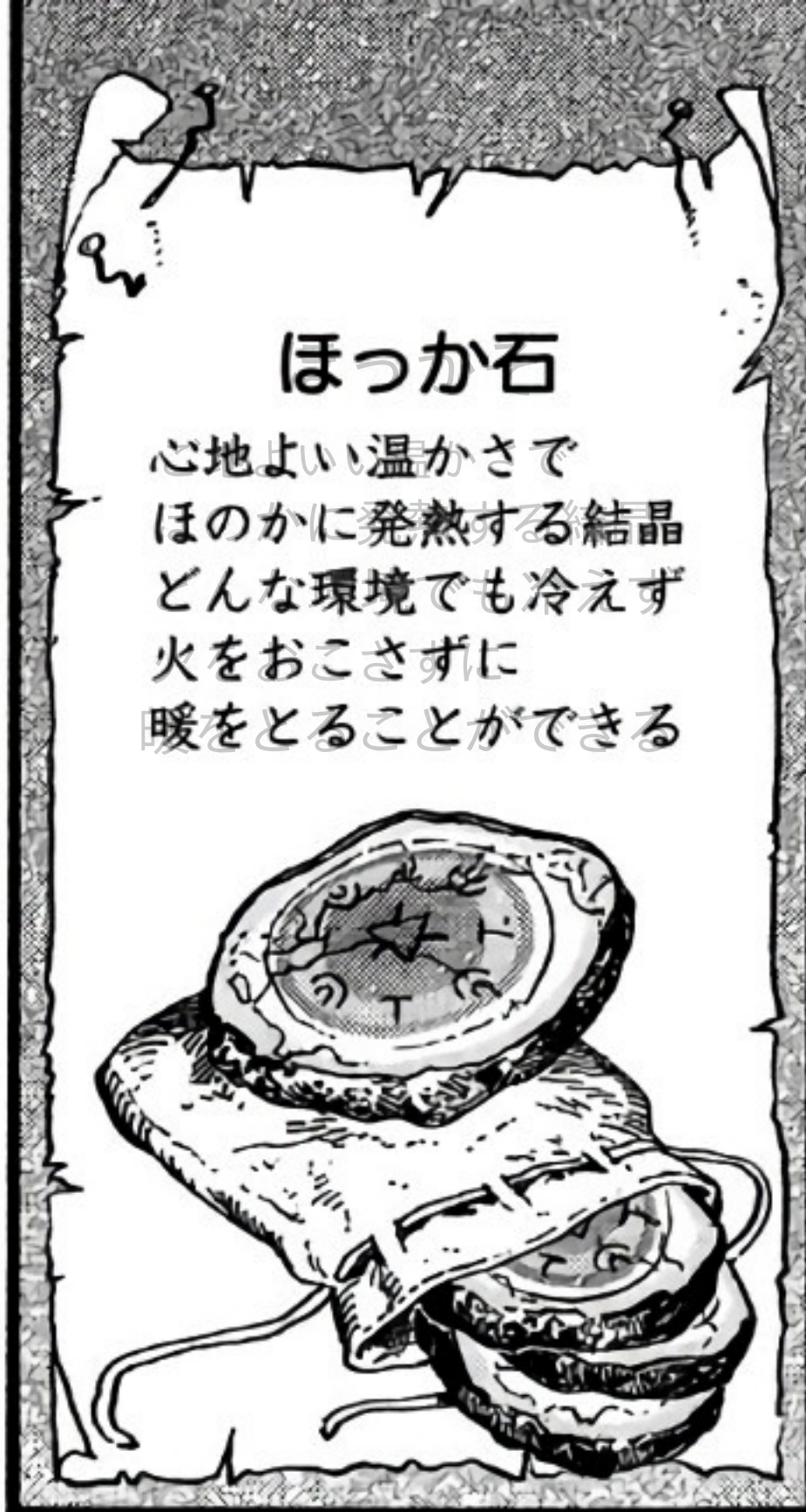
そういうのを想像しながら読んだりするのが好きなんだ

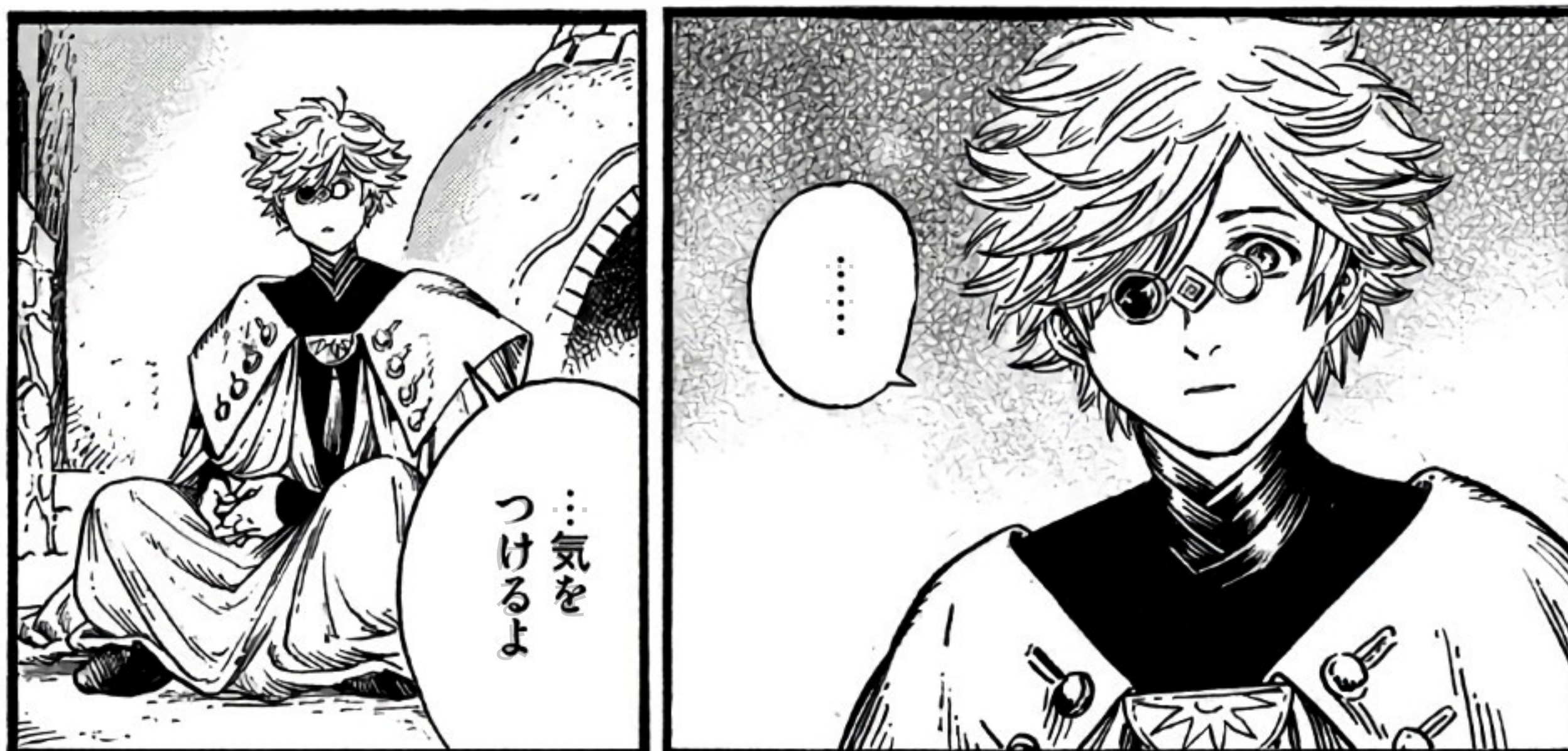


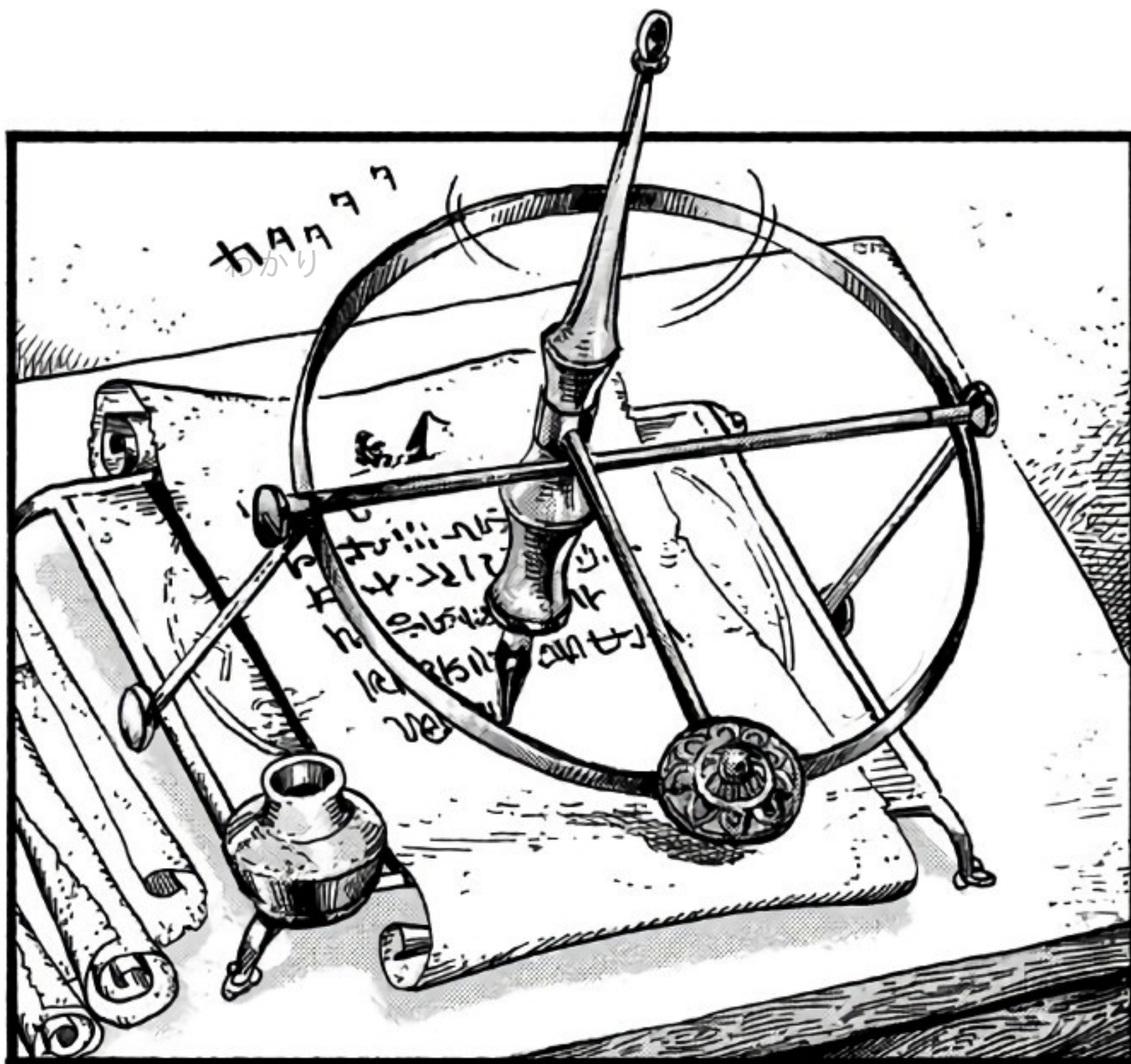
リチエはリチエの魔法のことだけ考えてたいの

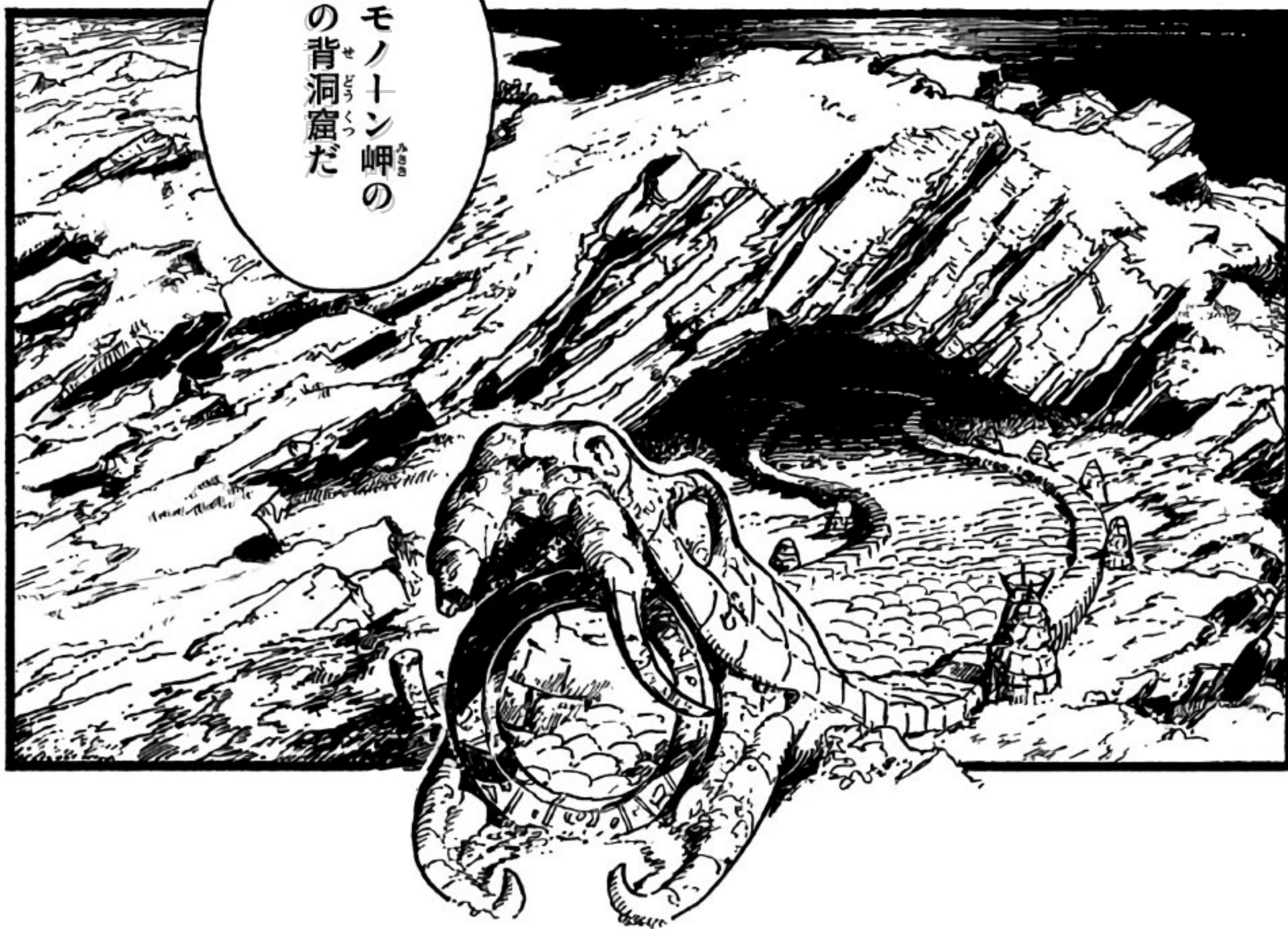








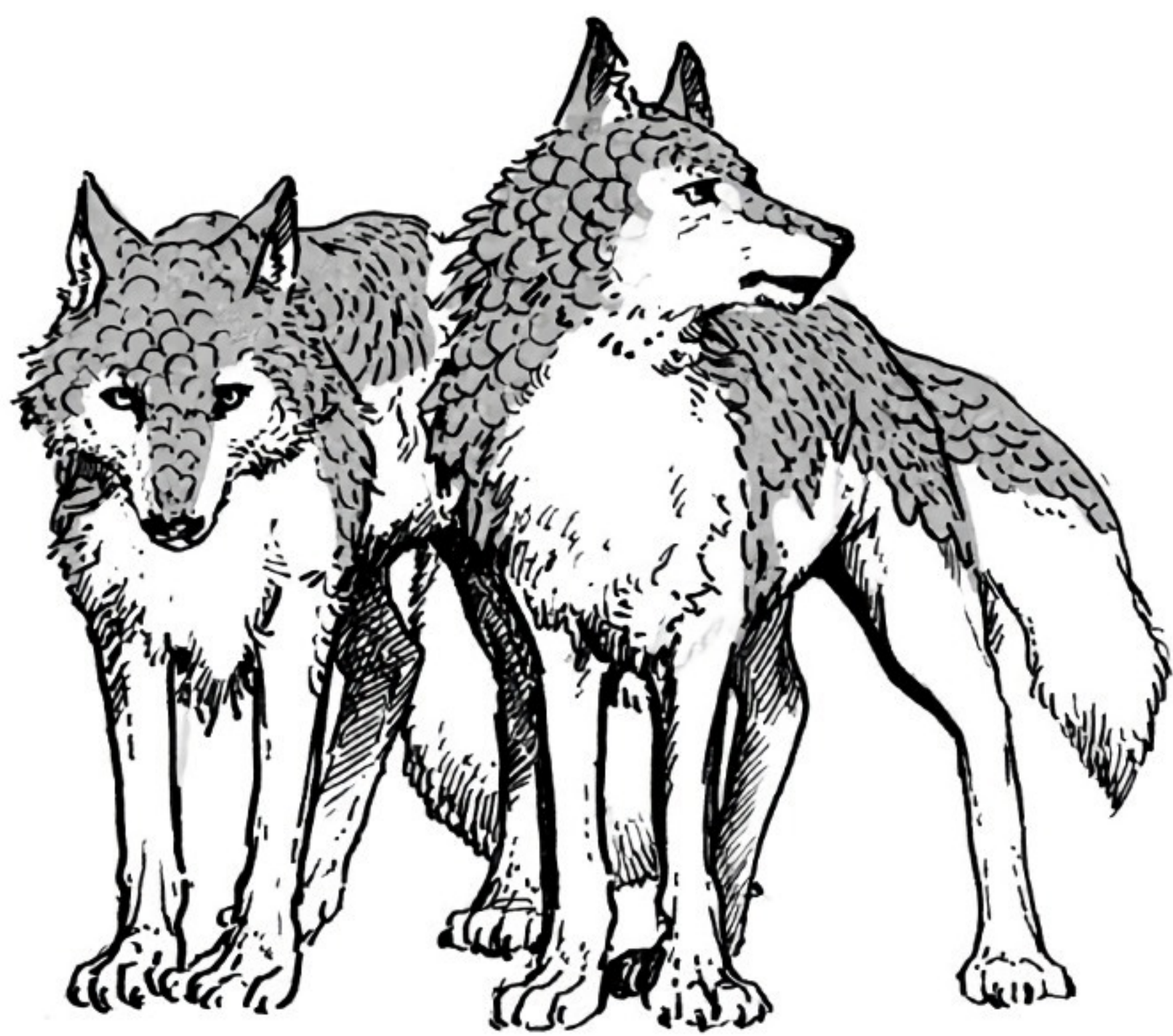


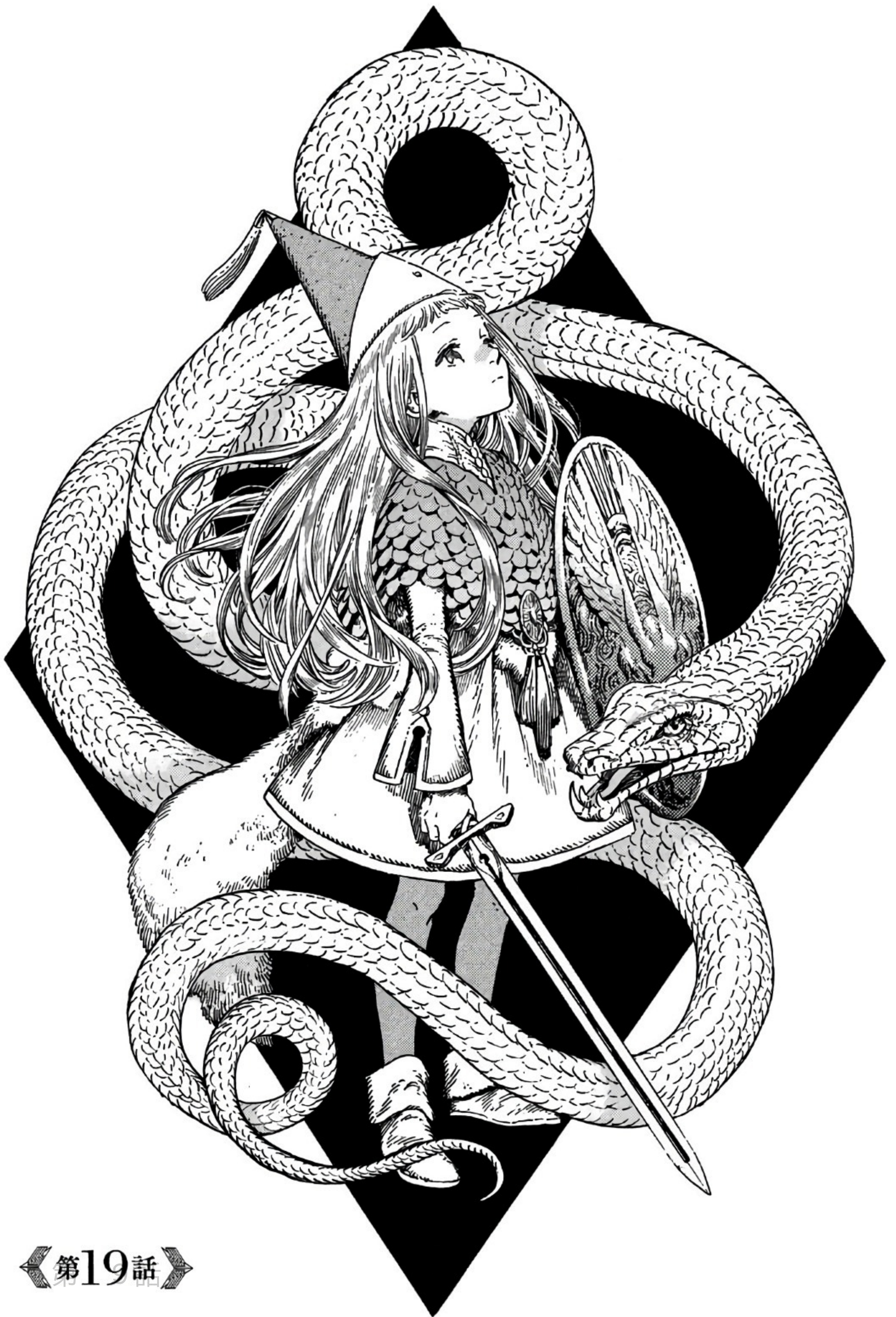


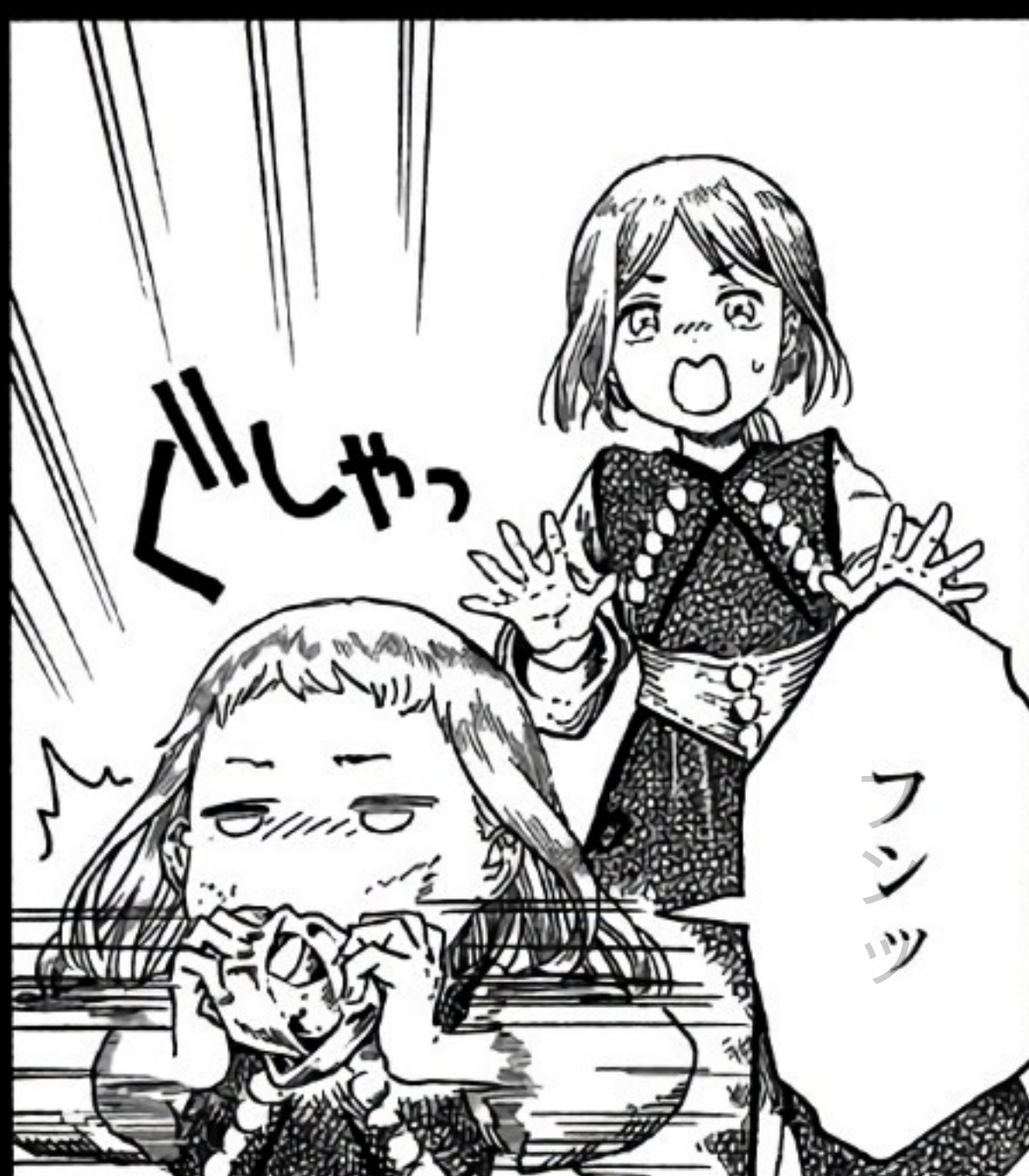
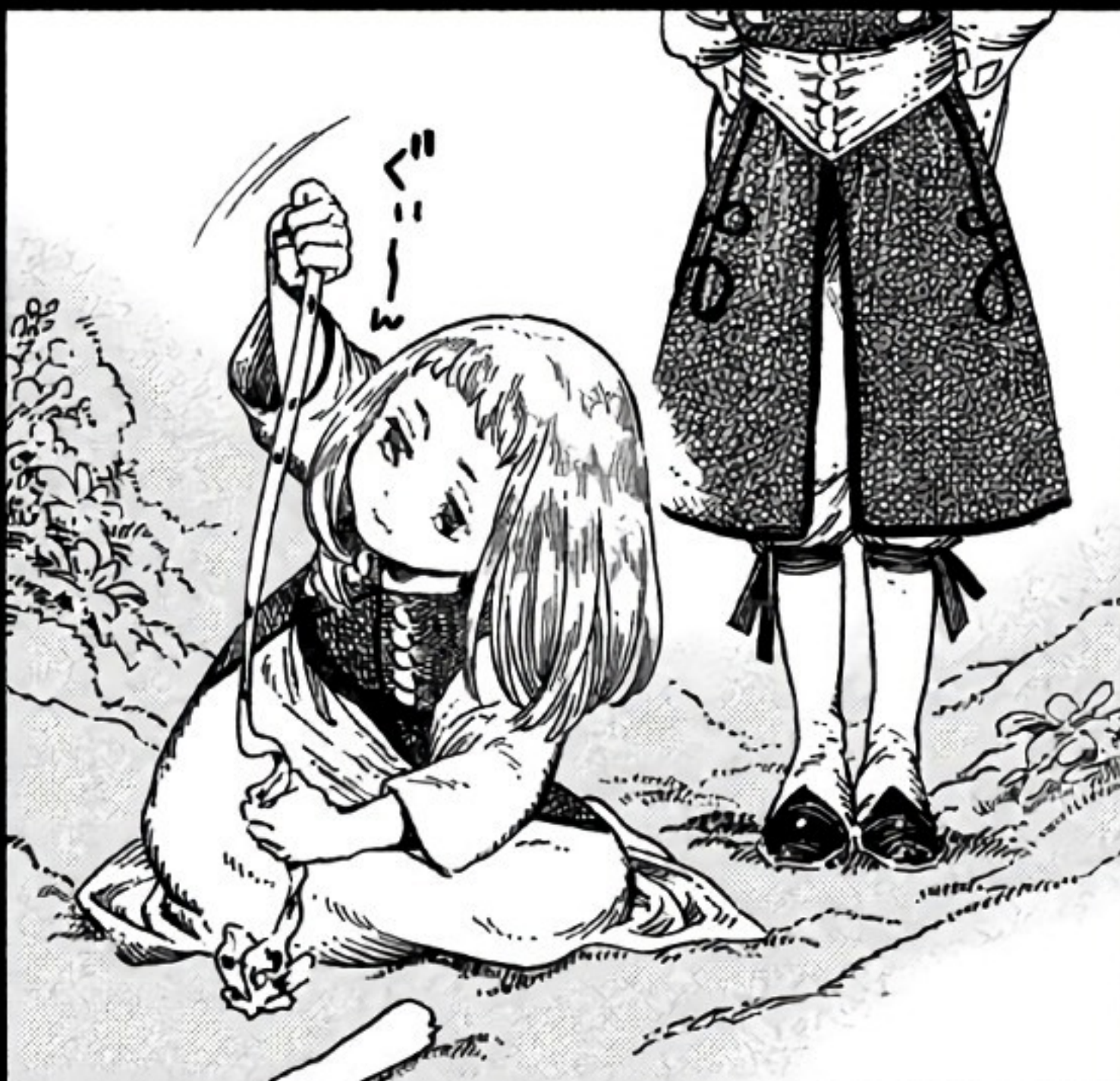
とんがり帽子のアトリエ

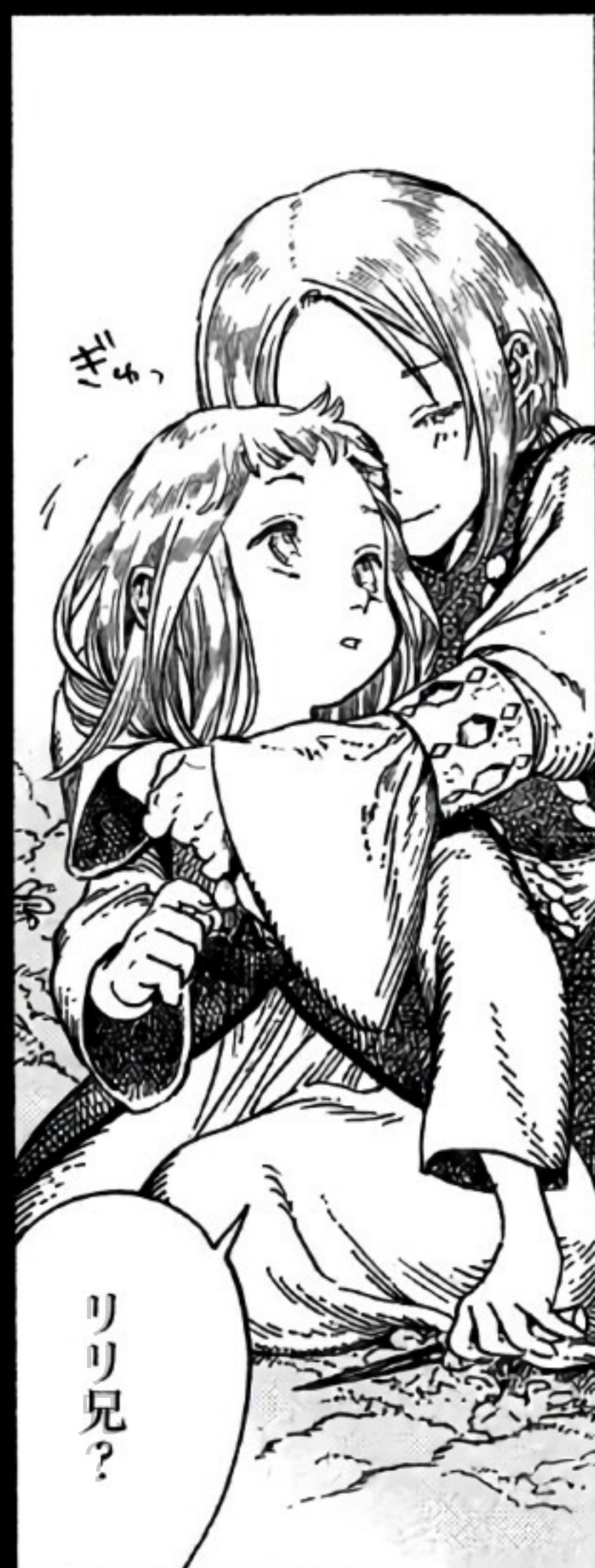
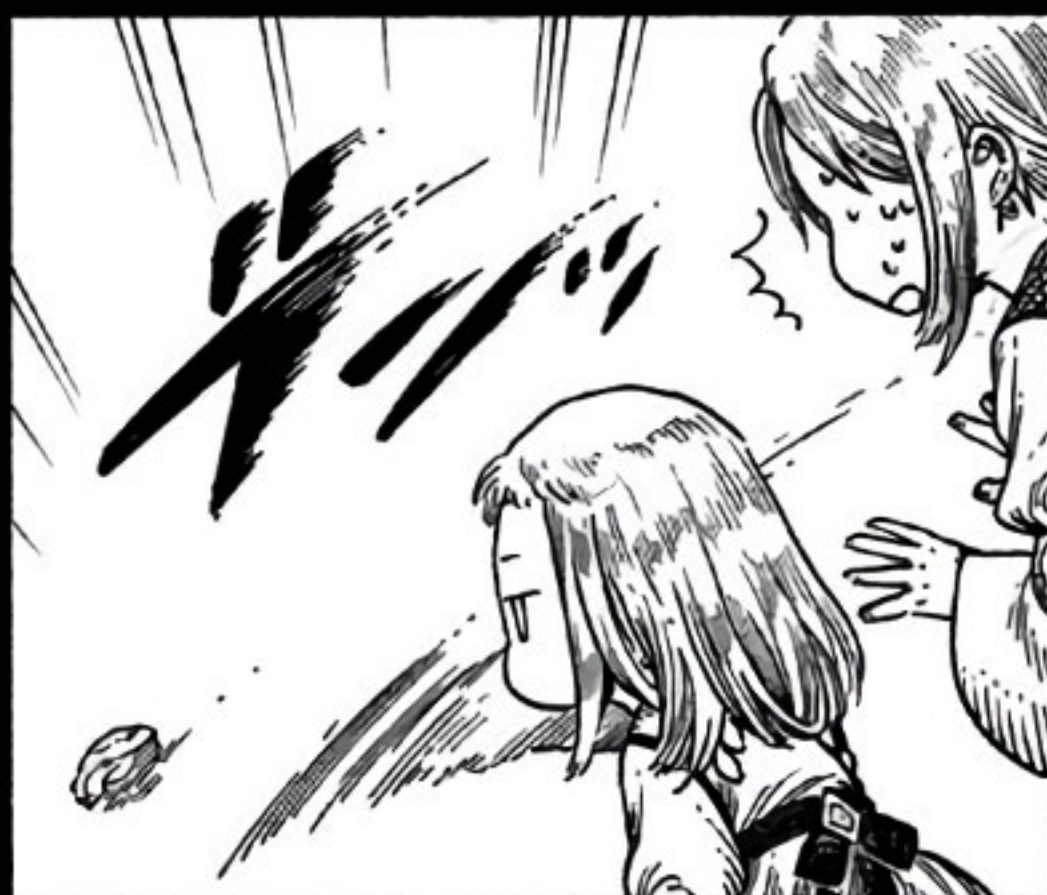


ATELIER OF WITCH AHAT











どうか
そのままの

リチエでいて
くださいね



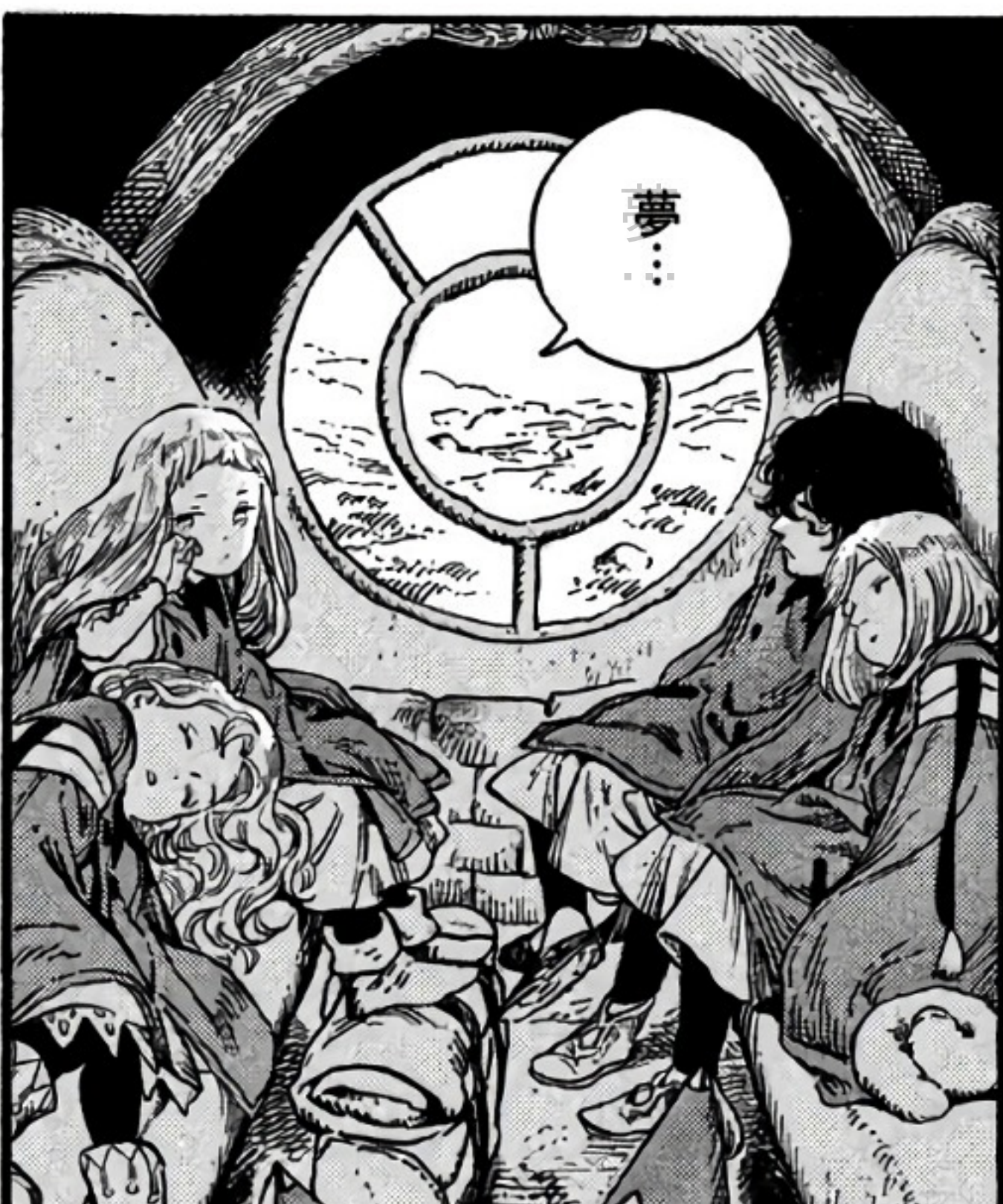
リリ兄はね

リチエの
リチエらしい魔法が
だあいすきですよ



リリ兄?
どこ行くの…

リチエの魔法
もう見て
くれないの?

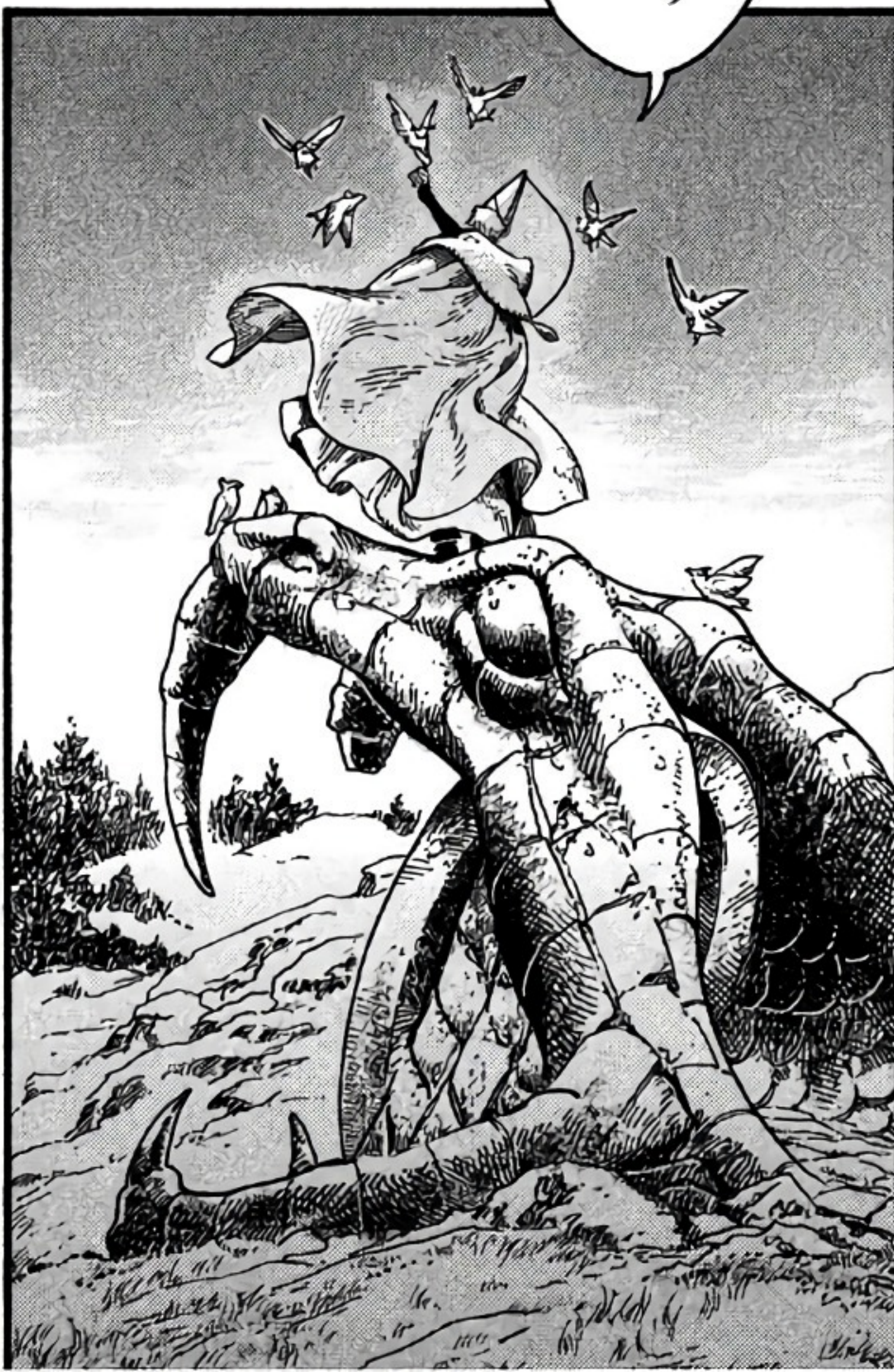
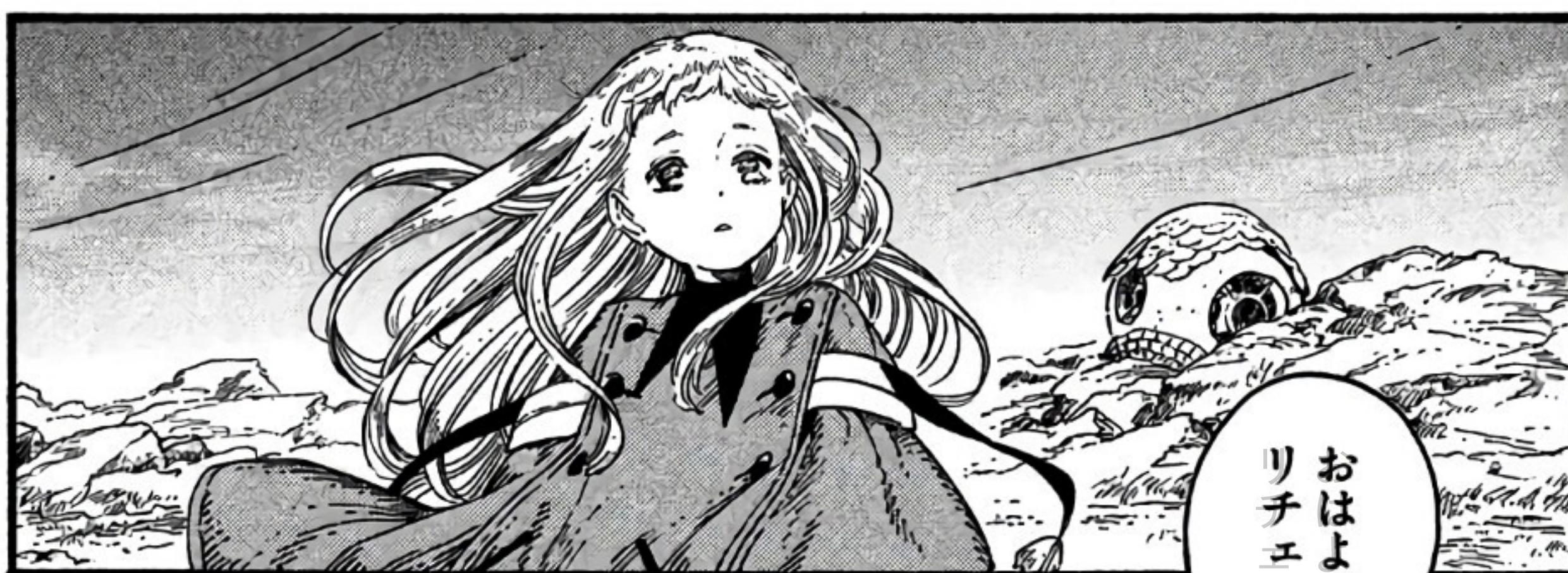
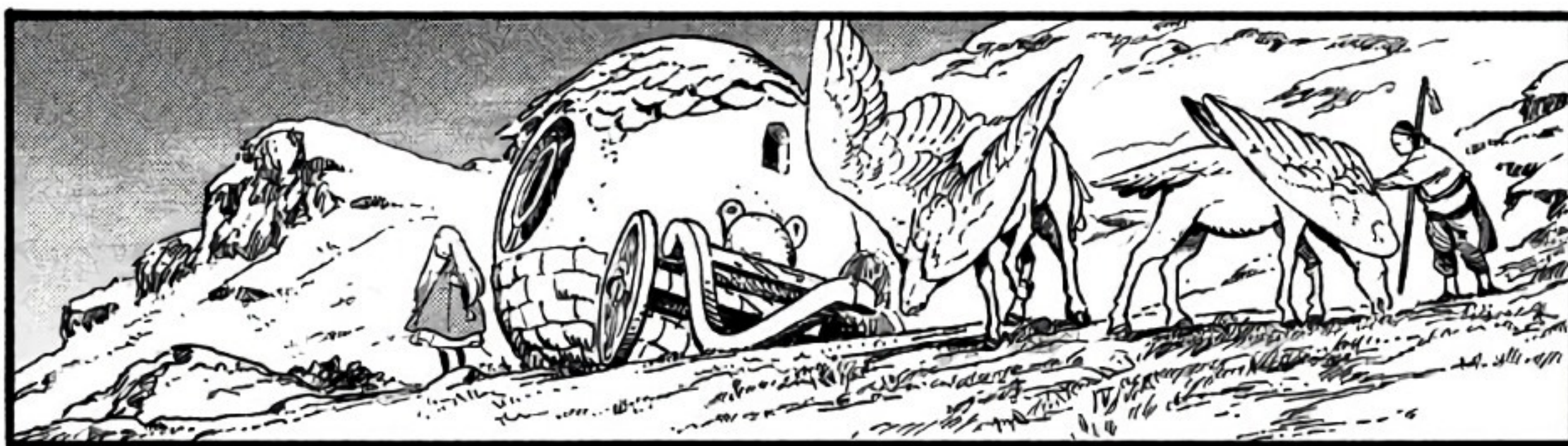


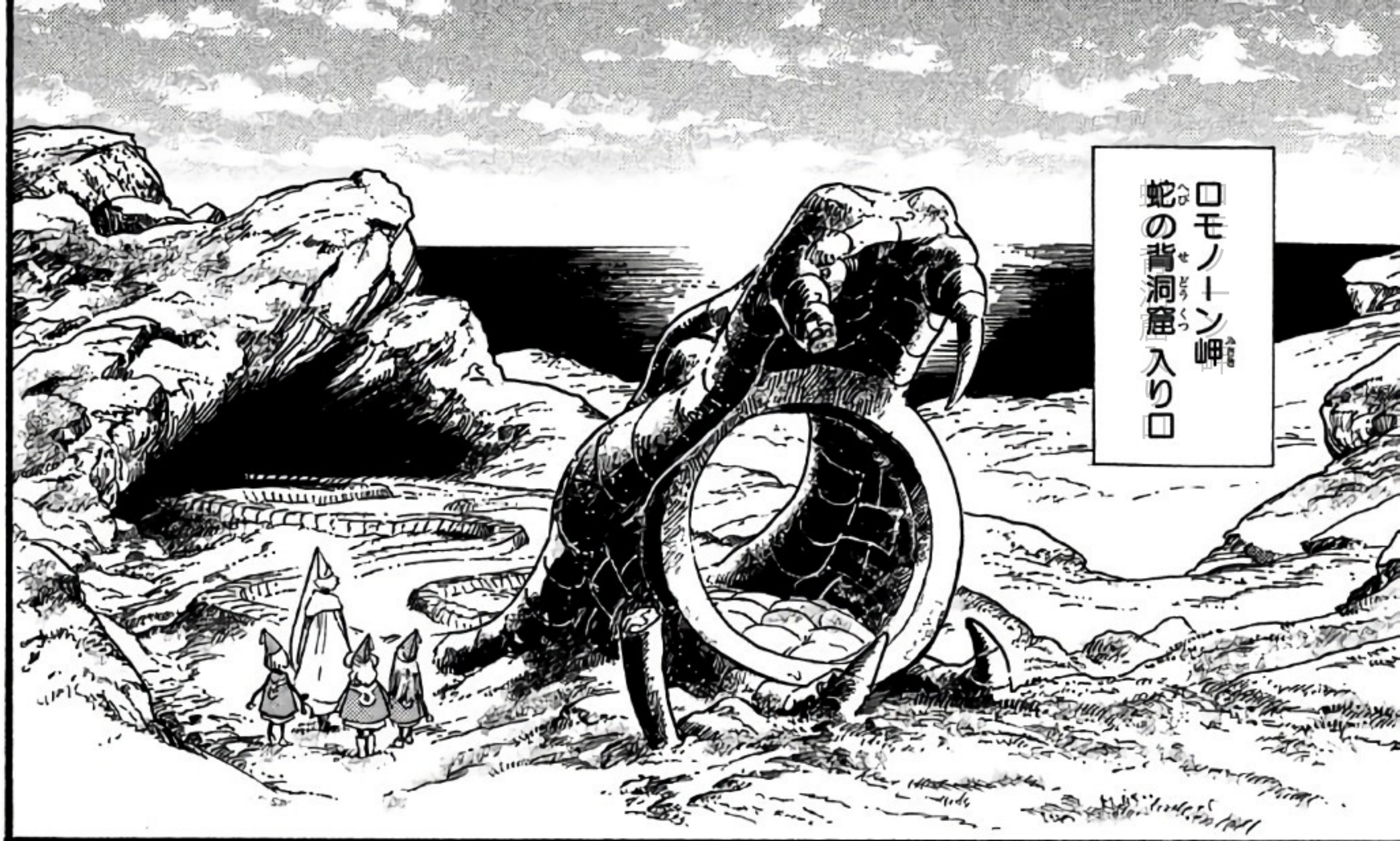
夢…



行っちゃ
やだ…

リリ兄…





ロモノーン岬
蛇の背洞窟入り口



ぐつつつつつ
すりと…

眠って
しまったわ…



大丈夫だ
アガツト

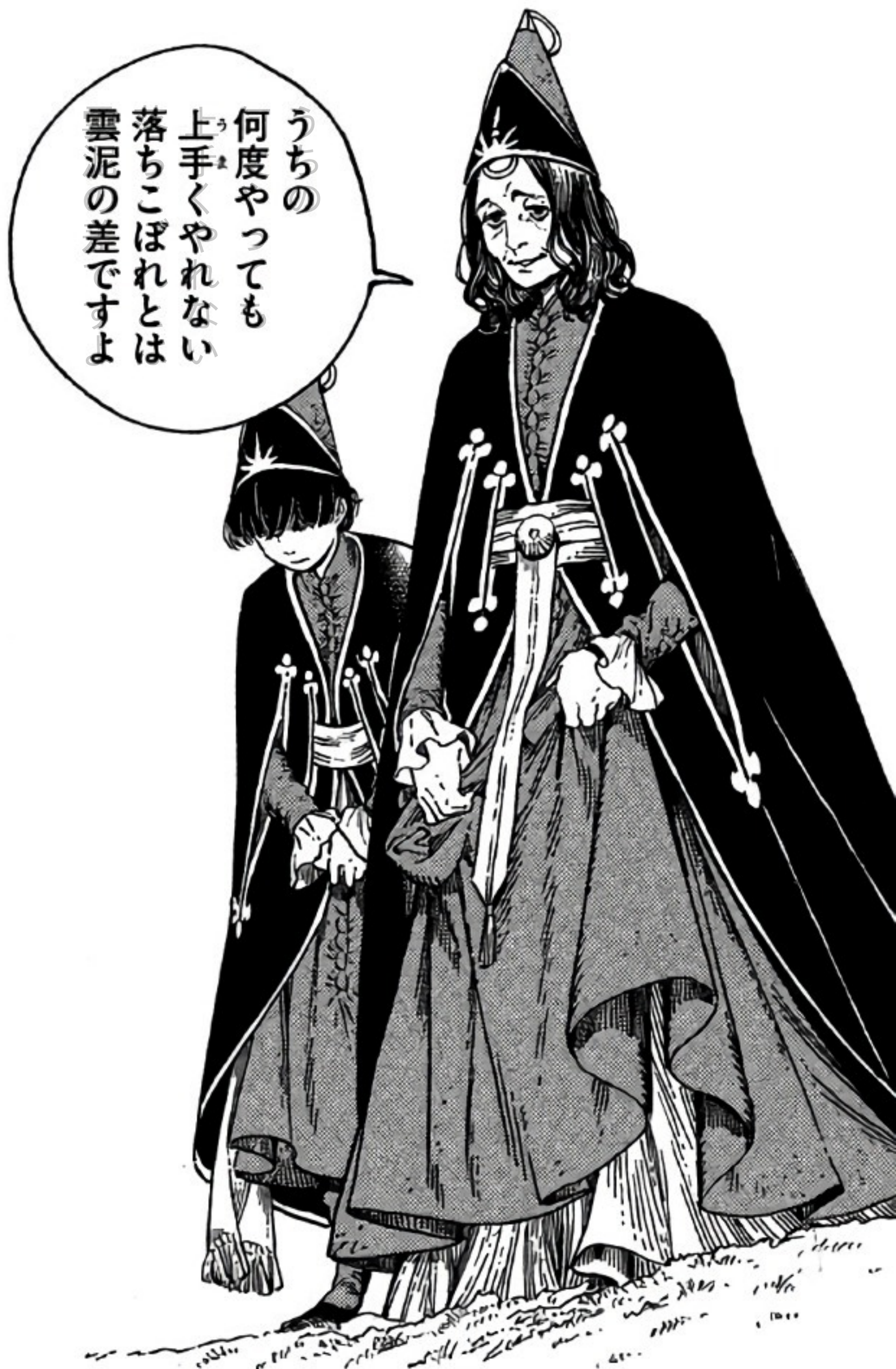


試験前日は
ギリギリまで
練習するつもり
だったのに…!!

このほっか石の
せいで…この
ほっかほかの
せいで!!

君が
よく寝れて
よかったよ





だから
困り物
なのです

修理すること
できませんし

そんな
言い方
すること…

あっあの
いいんです

ボクが
ダメなのが
悪いんです！

全部
本当の
ことなので

ボクが出来の悪い
弟子だからずっと
クックロウ先生にも
迷惑かけてて

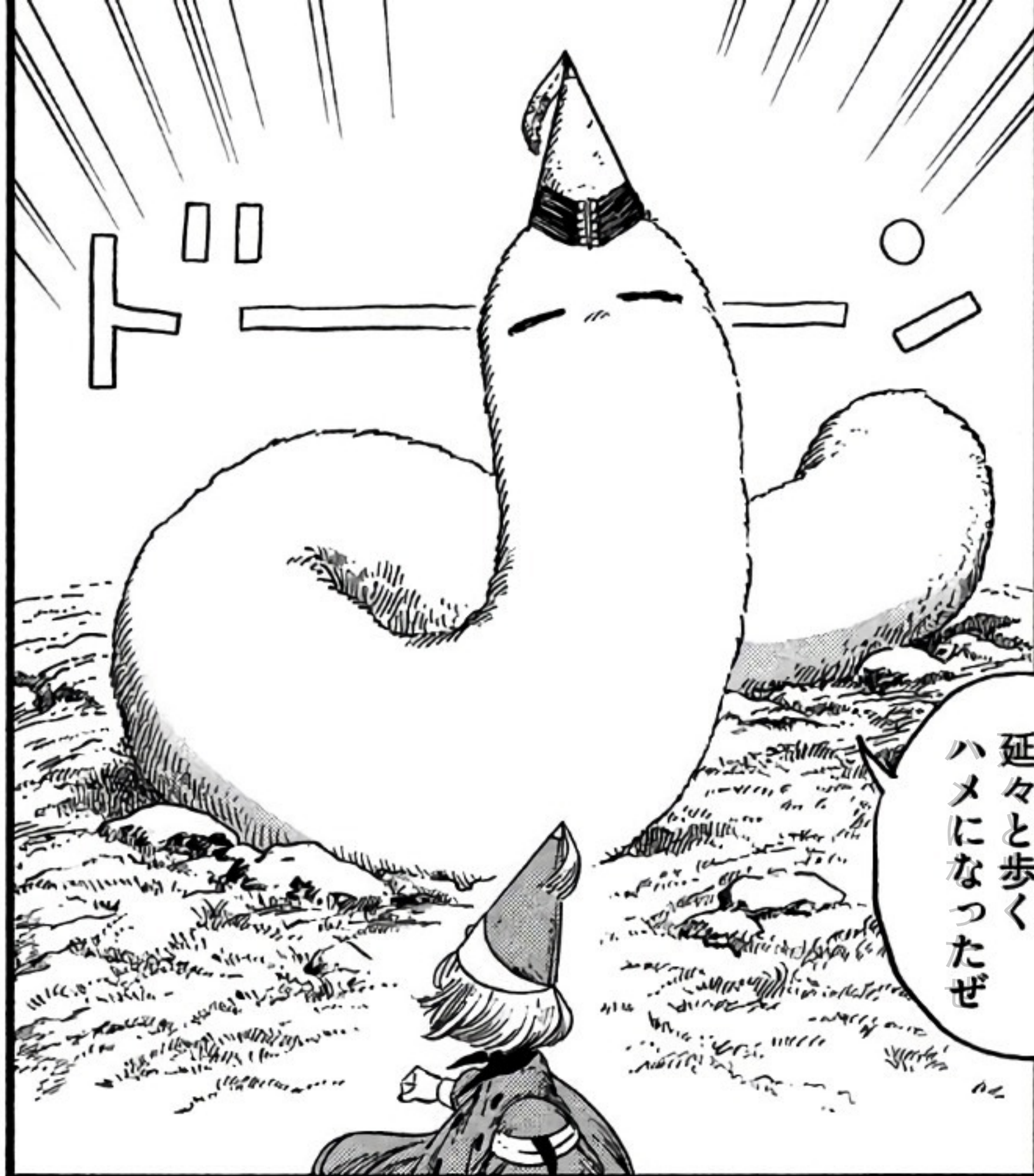
あの

ていうかボクがダ
メなせいで先生が
また悪く言われて
しまつて本当に申
し訳ないですこん
なボクがまともな
魔法使いになれる
はずなんてなくて
その

あの…

ユイニイ
くん？

いやあ
遅れたな
悪い悪い



一番近くの
扉窓が
崩れて使えなく
なってたから

ここまで
延々と歩く
ハメになったぜ



ようく
見てごらん
彼女は
れっきとした
魔法使いだよ



ココ顔の
キラキラが
すごい

あつ
すごい

え…でも
変身は

禁止
魔法じゃ…

影借りの
鏡外套

まといっている間
目の前にいる
獣の姿の幻を
見せてくれる
魔法器さ

はじめ
まして！
あたしは
アライラ

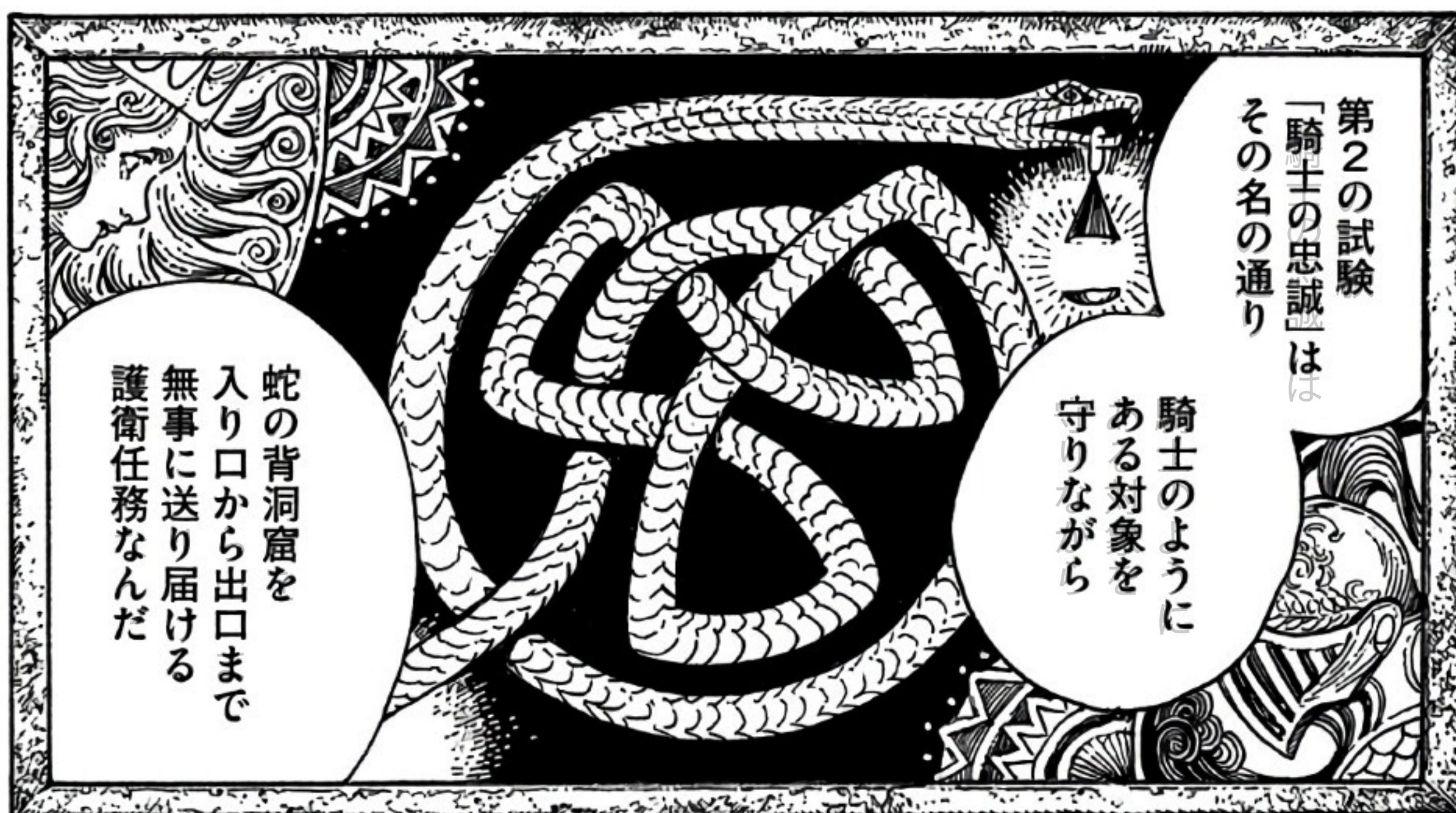
第2の試験で
立ち会いをつとめる
試験監督の
お姉さんさ！

試験監督が
君とはね

偶然だ

試験を受ける
弟子以外も
全員連れて
きたんだな

……？



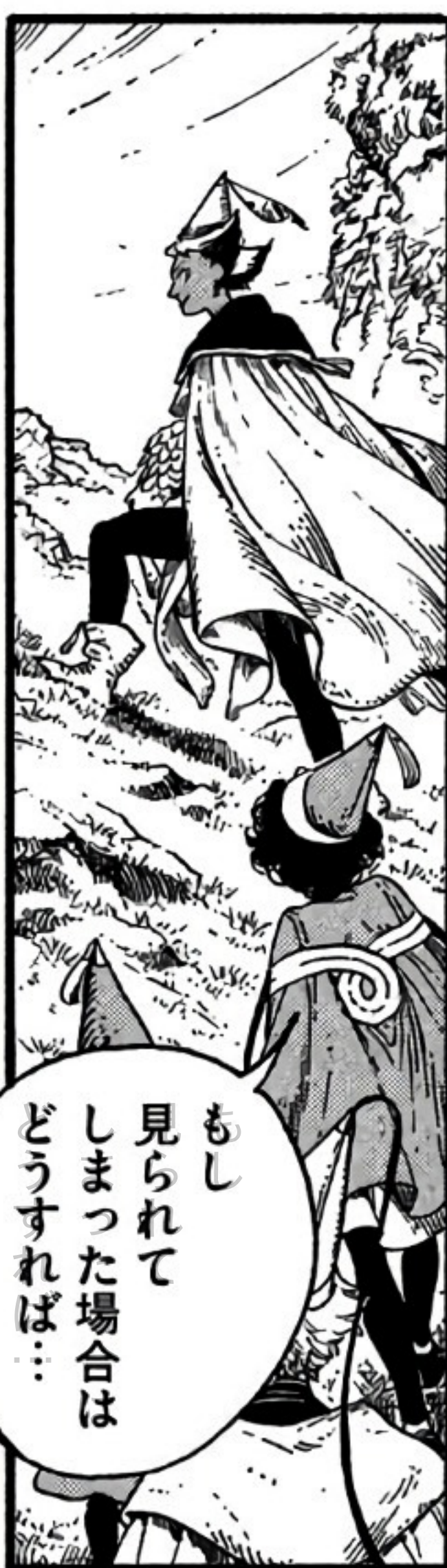
第2の試験
「騎士の忠誠」は
その名の通り

騎士のように
ある対象を
守りながら

蛇の背洞窟を
入り口から出口まで
無事に送り届ける
護衛任務なんだ



ま…まさか
記憶を…？



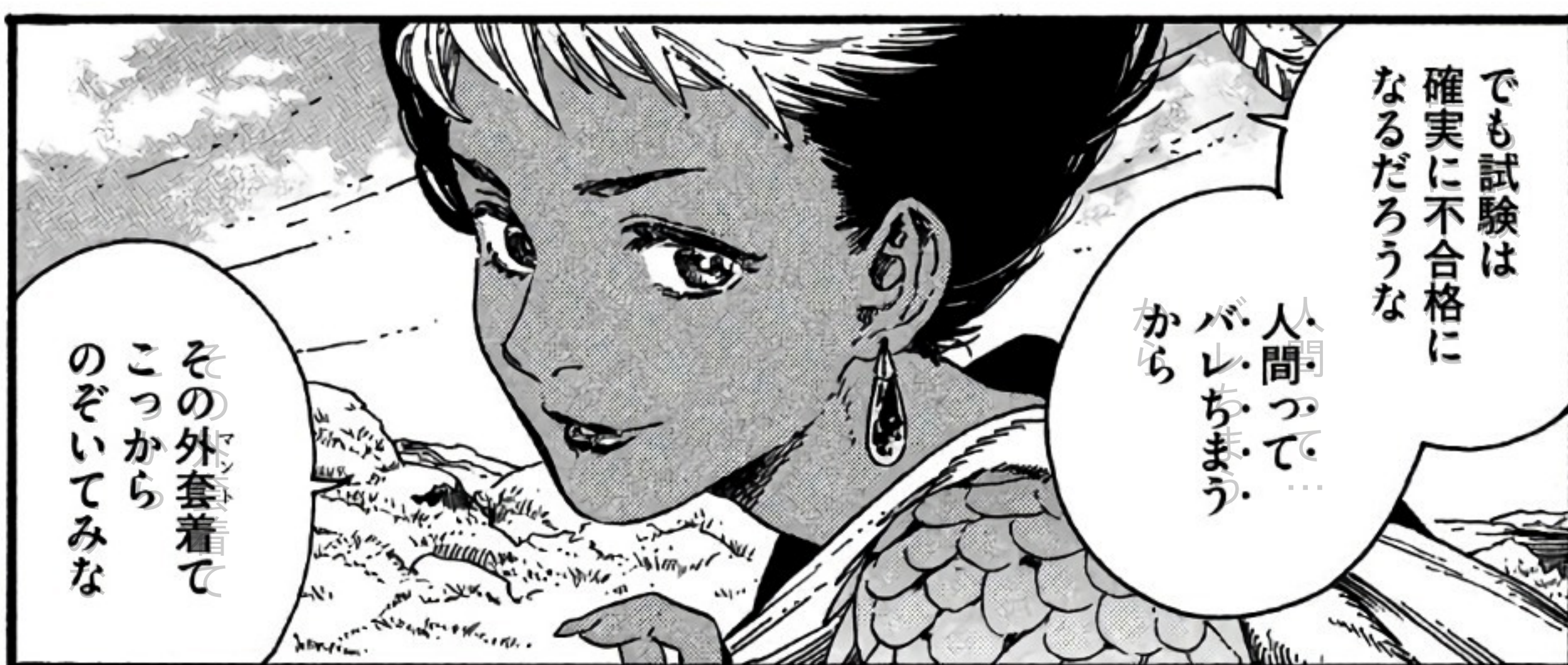
もし
見られて
しまった場合は
どうすれば…



途中で
護衛対象を
見失っても
ダメ

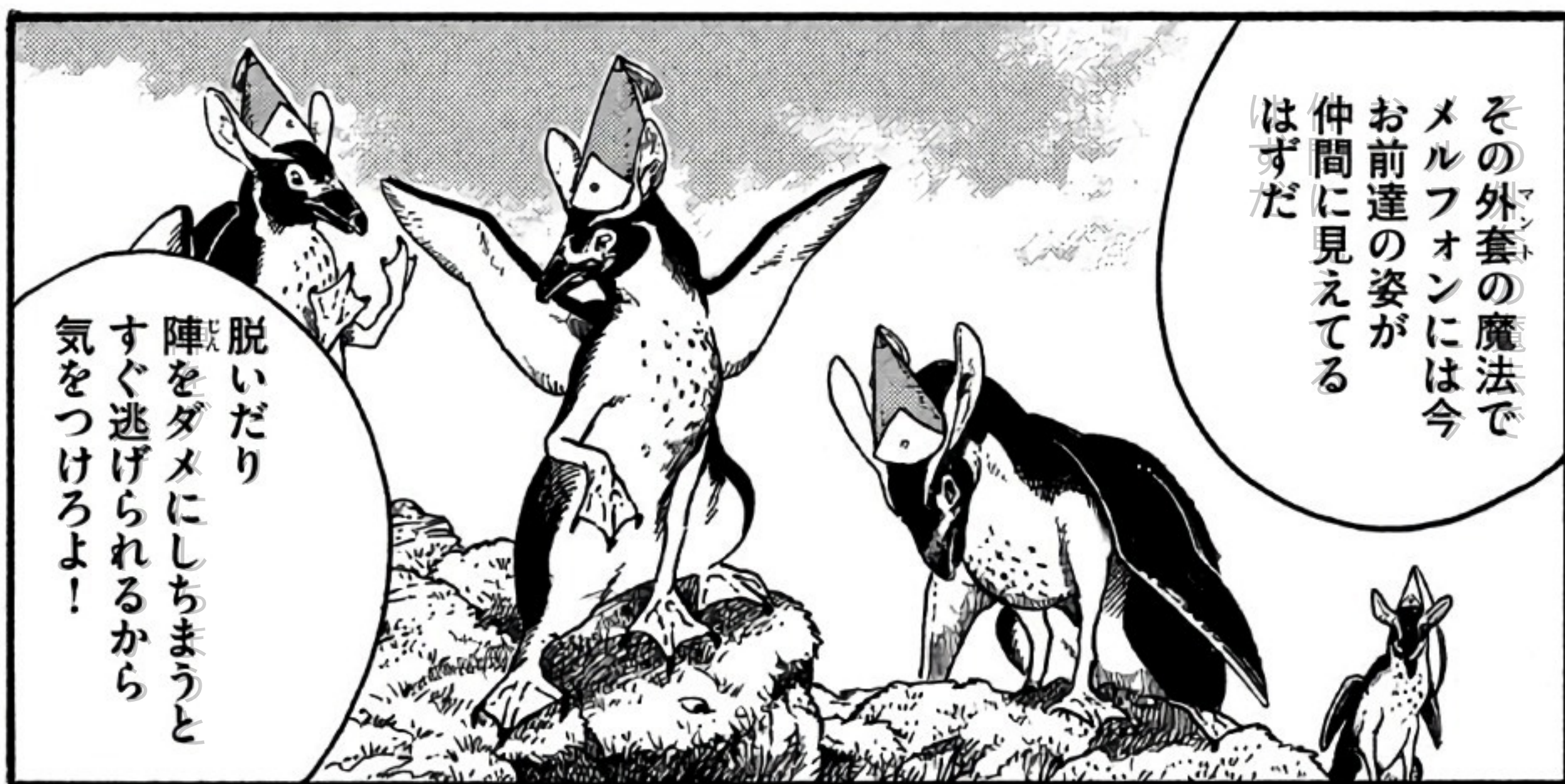
どちらか
片方だけが先に
出口に着いちまっ
てもアウト

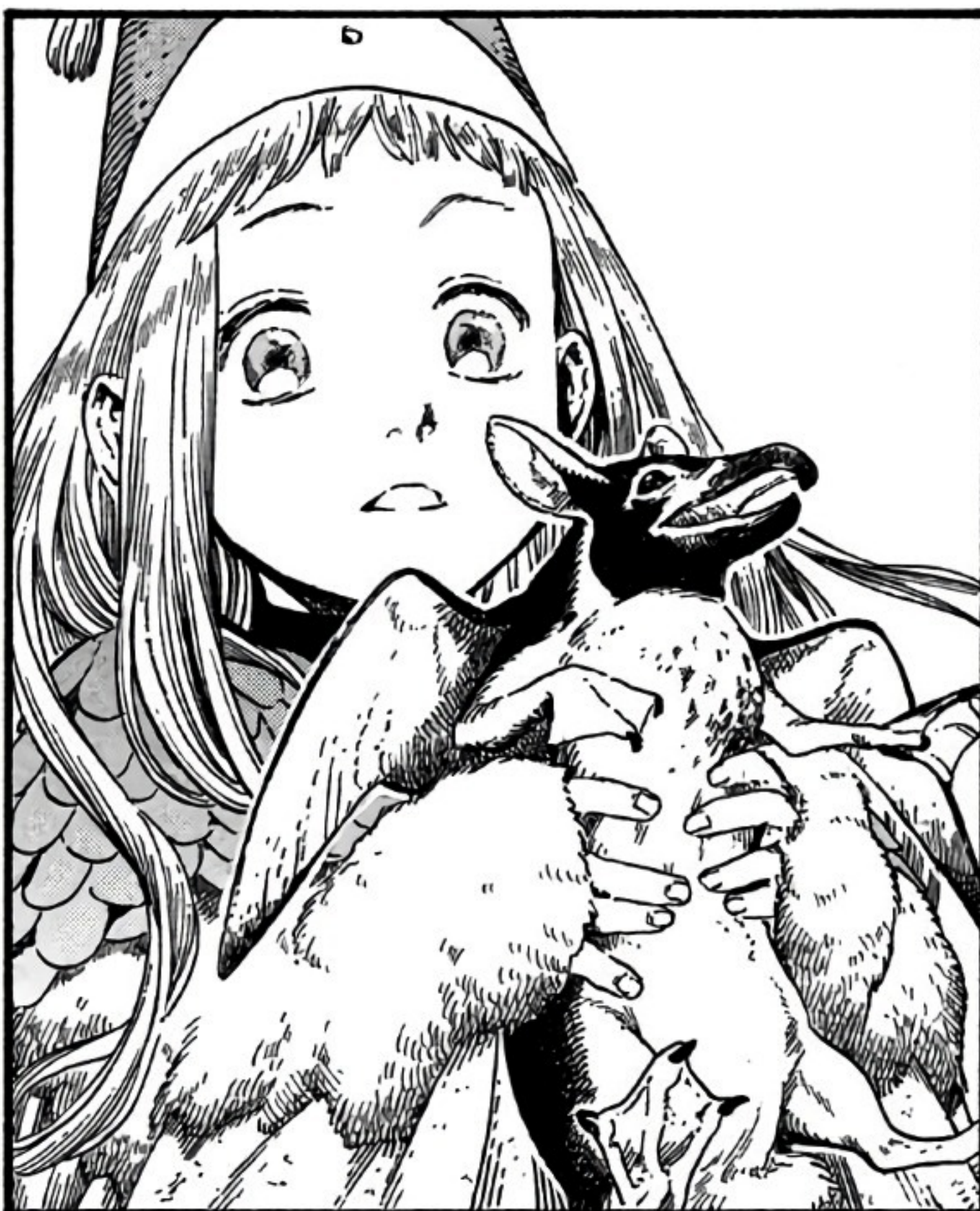
もちろん
魔法を描くところを
見られちまっても
失格だ

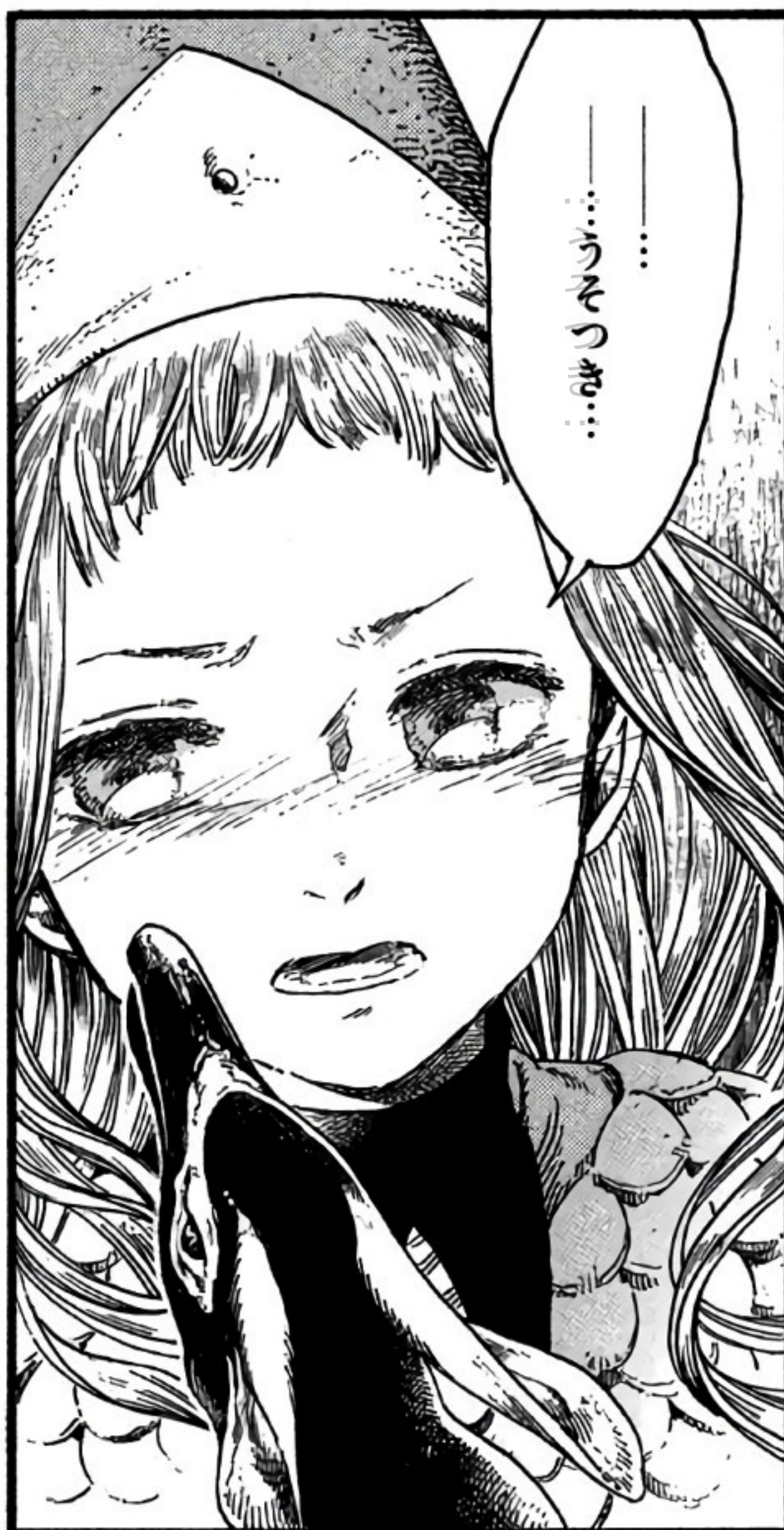
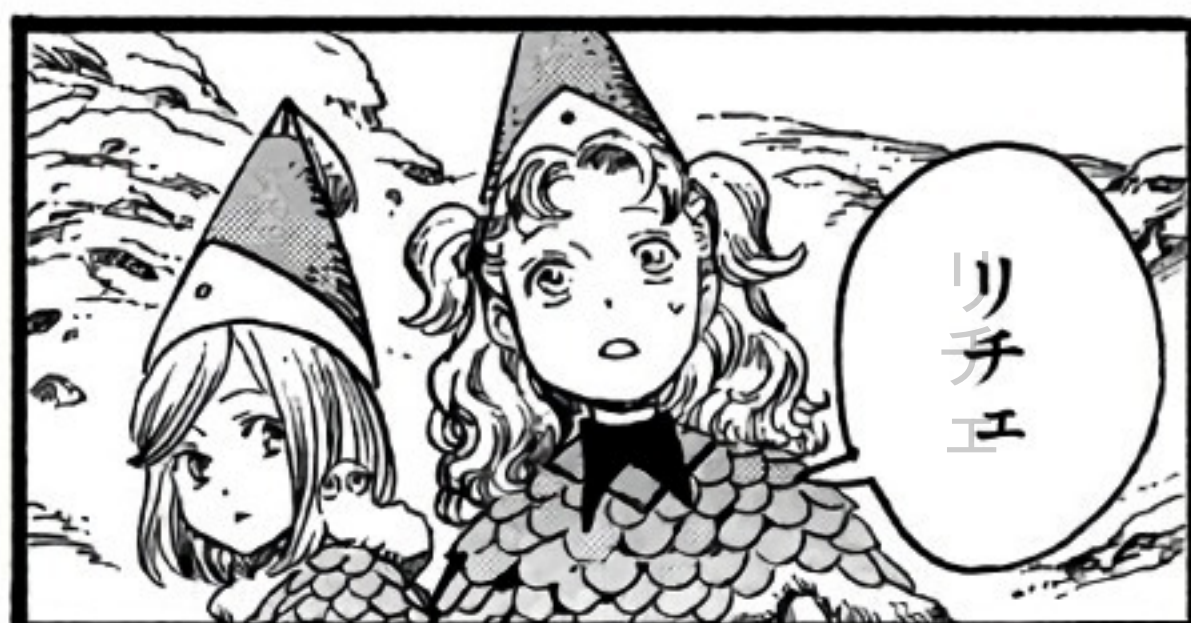
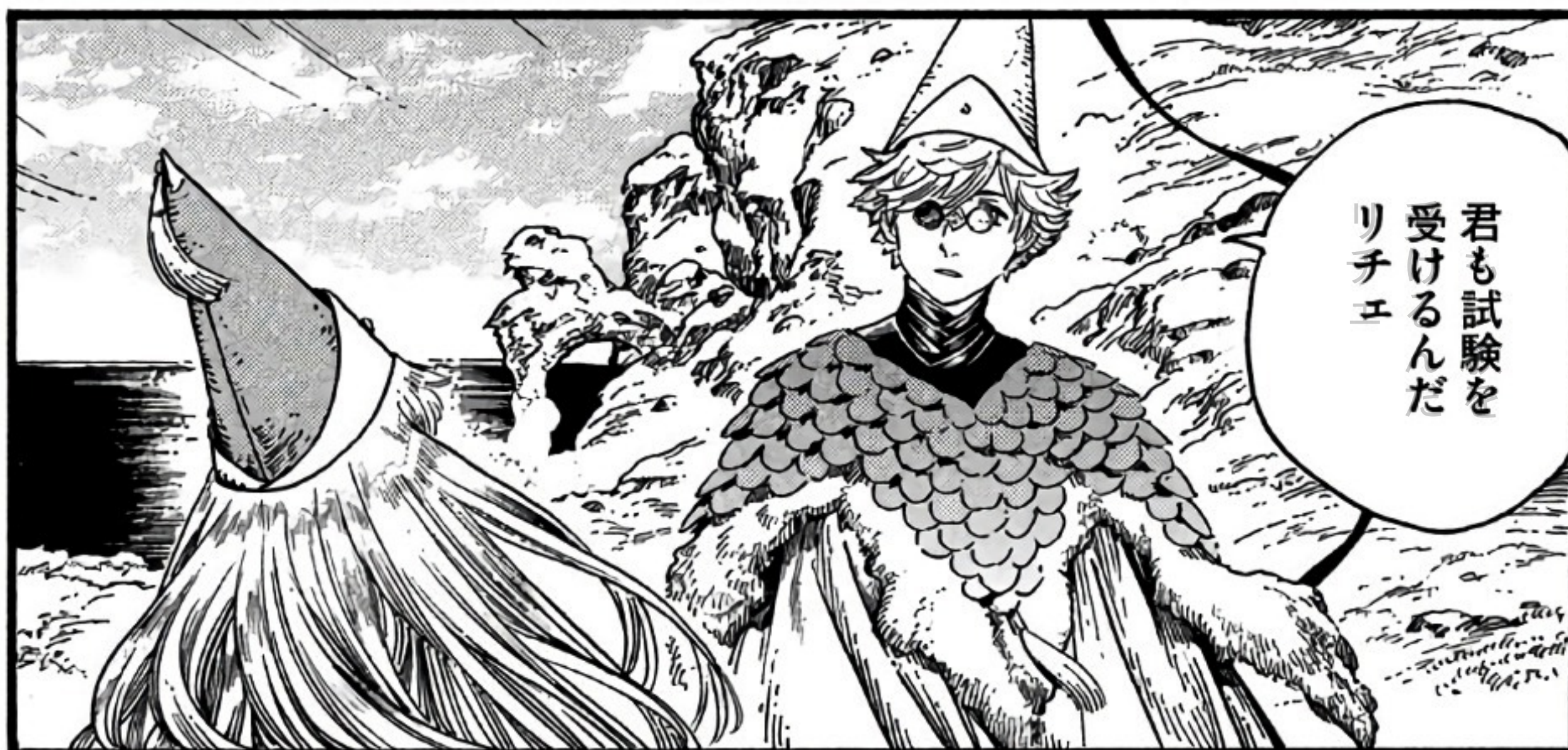












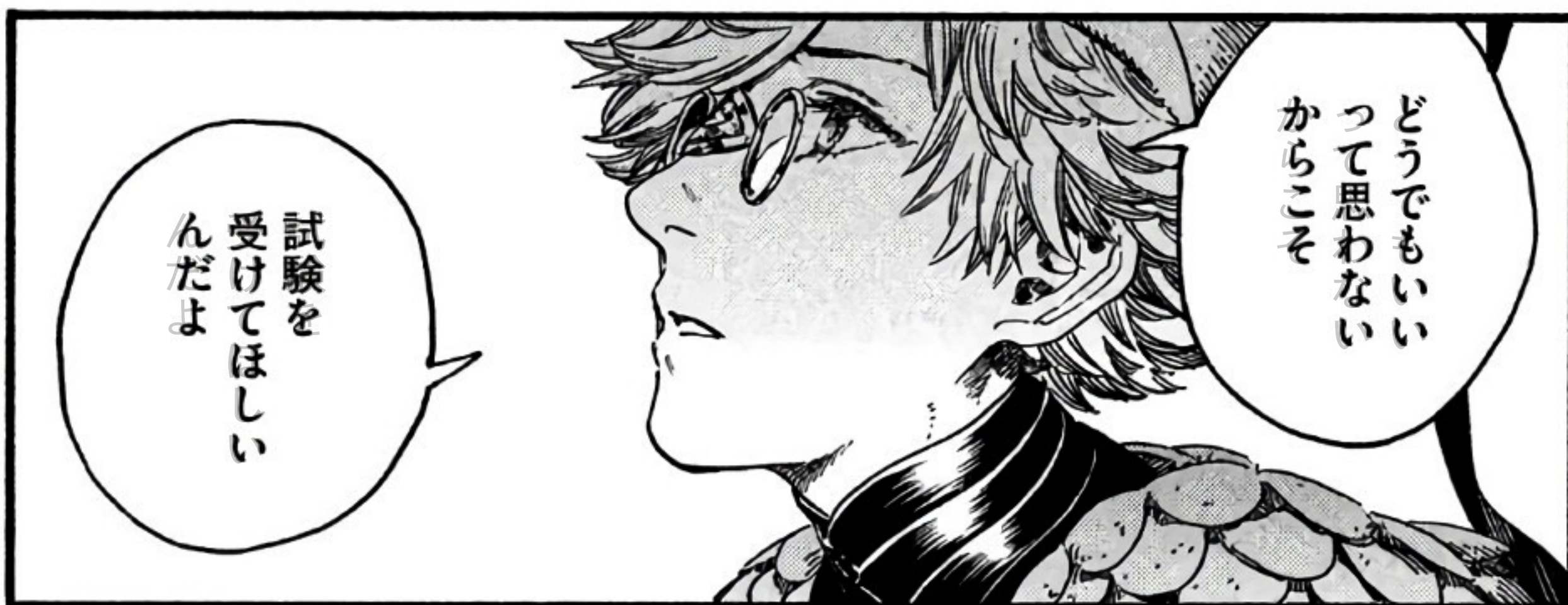


どうでも
いいなんて
思わないさ

大人が
やりたいこと
やらせるんだ…



先生も
リチエの望みは
どうでもよくて



どうでもいい
って思わない
からこそ

試験を
受けてほしい
んだよ

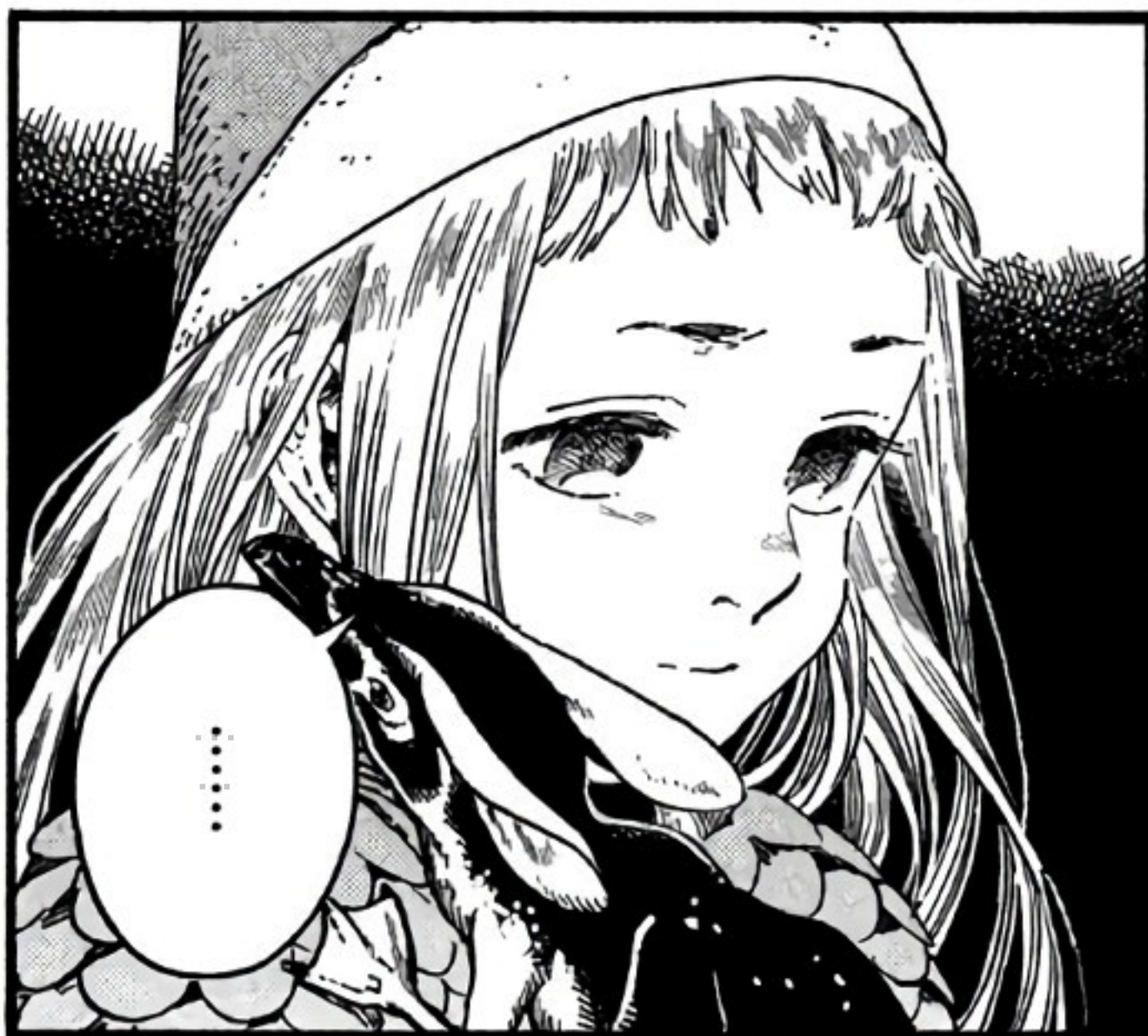
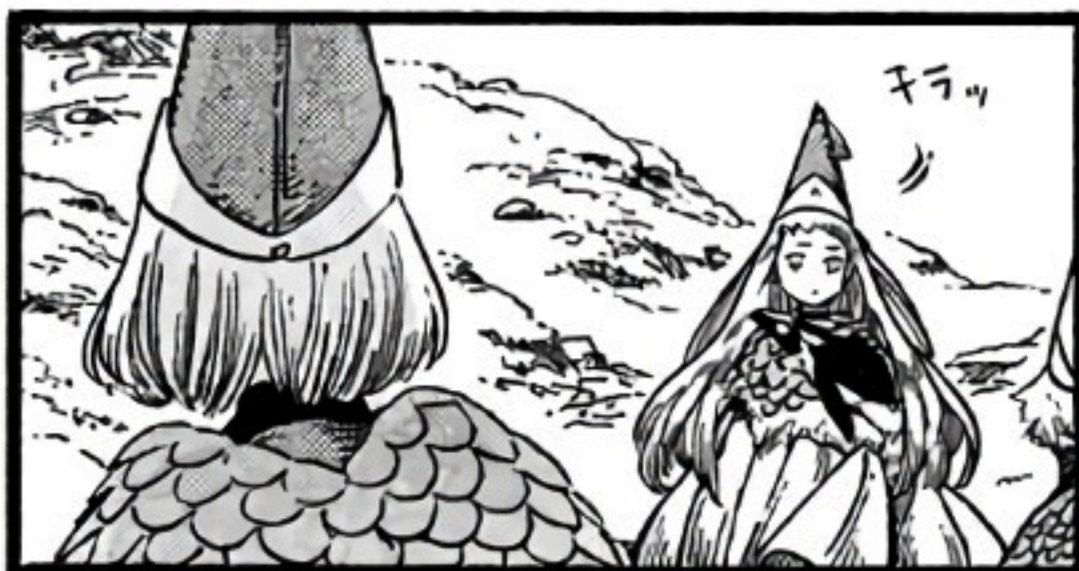
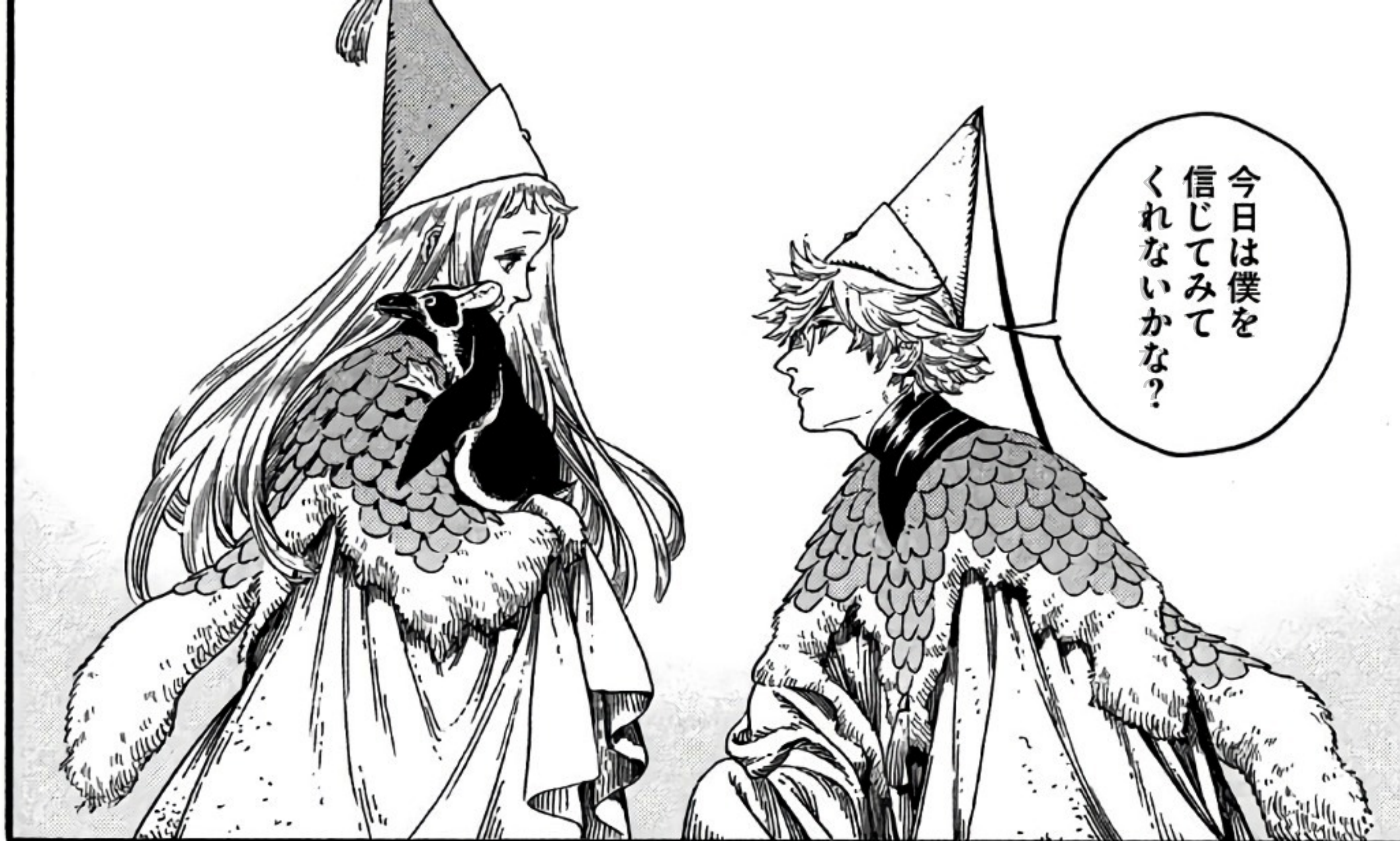


だから…



この試験で
学べることは
きっと

君が
望むように
生きるための
力になる









弟子は
師を選ぶ
権利がある

アトリエを
変えたかったら
変えていいんだよ



うそだろ
本当に
帰りやがった…

ユイニイ君…



ボ…

ボクが
ダメなのは
どこに行っても
同じですよ…

それに
きっと



そうだったらどうし
よう先生がボクのこ
と自慢の弟子とかい
ってほめてくれちゃ
ったりなんかしちゃ
ったりして

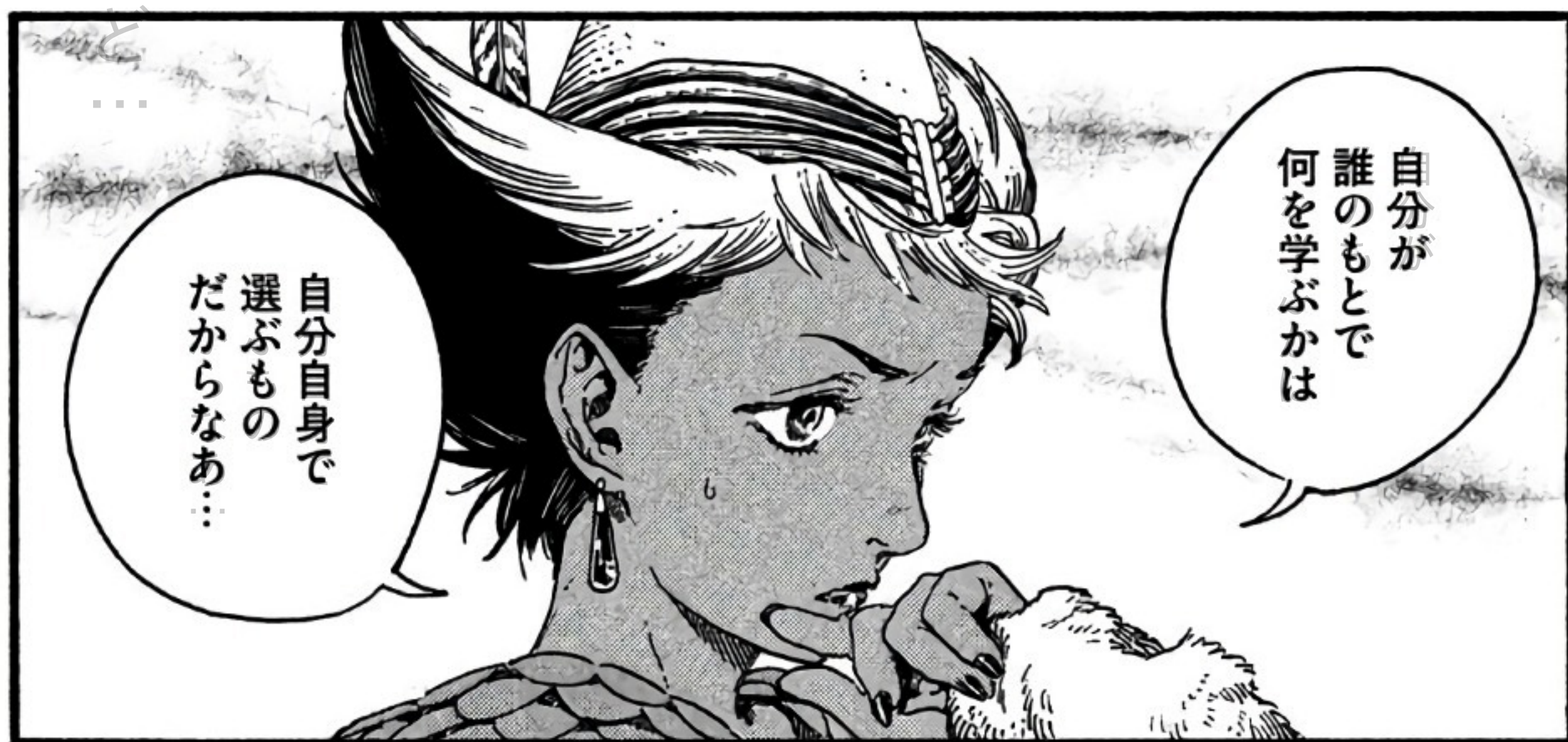
……

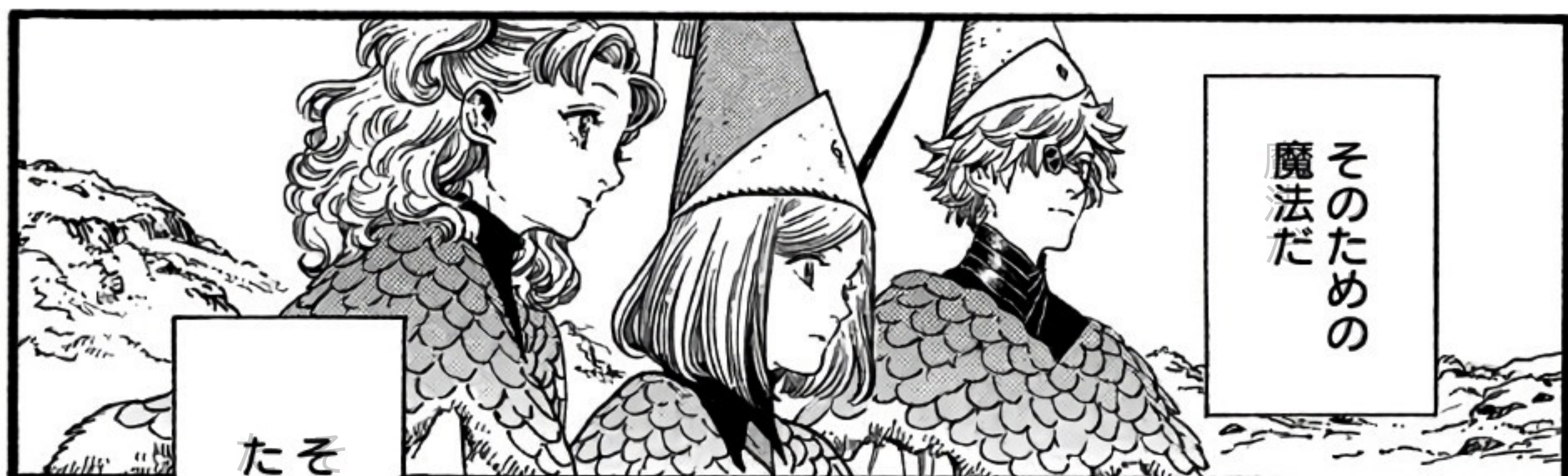


この試験に
合格したら

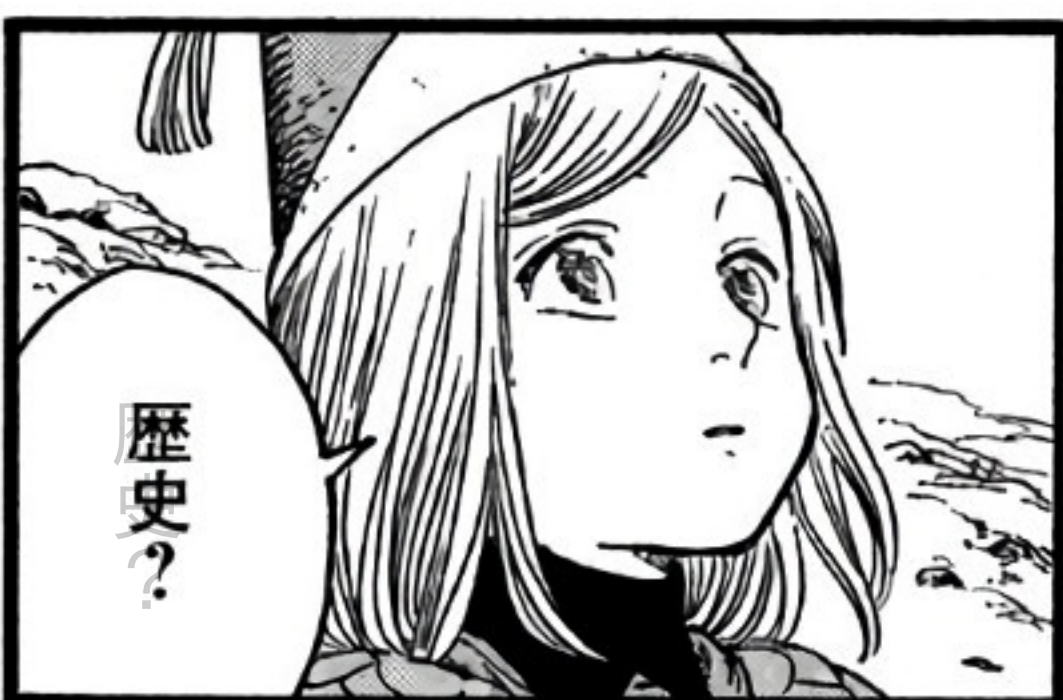
先生も
ボクのこと

み…見直して
くれるかも
しれないし…










そう

蛇の背洞窟の
ような
魔法の遺跡

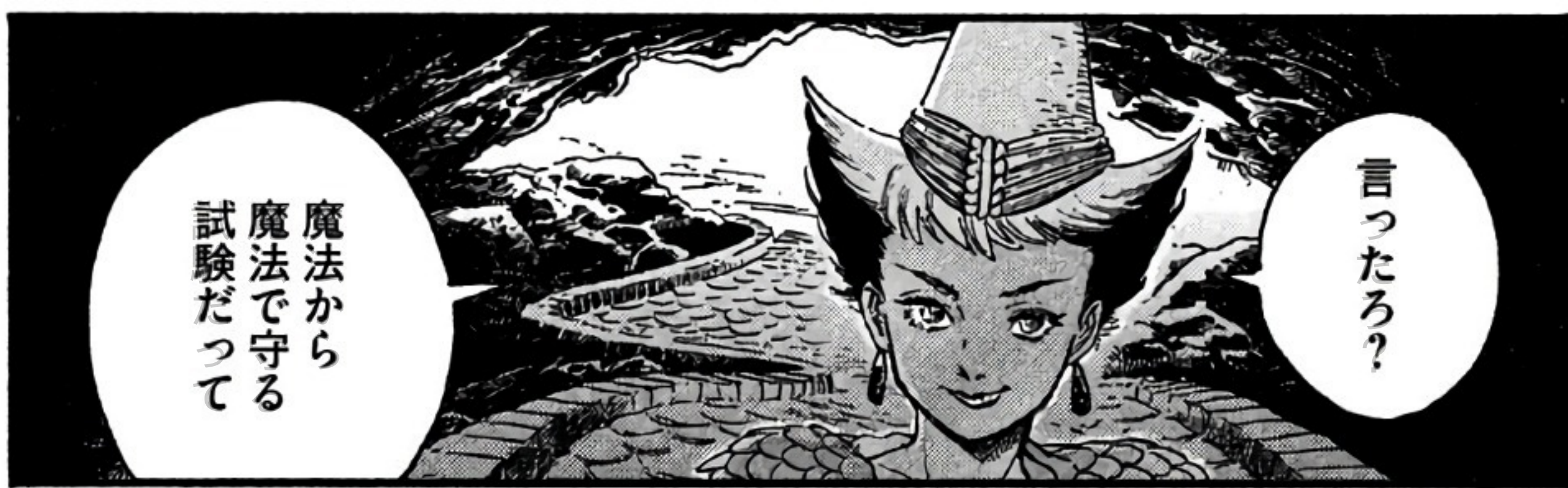
ココはまだ
あまり知らない
だろう？





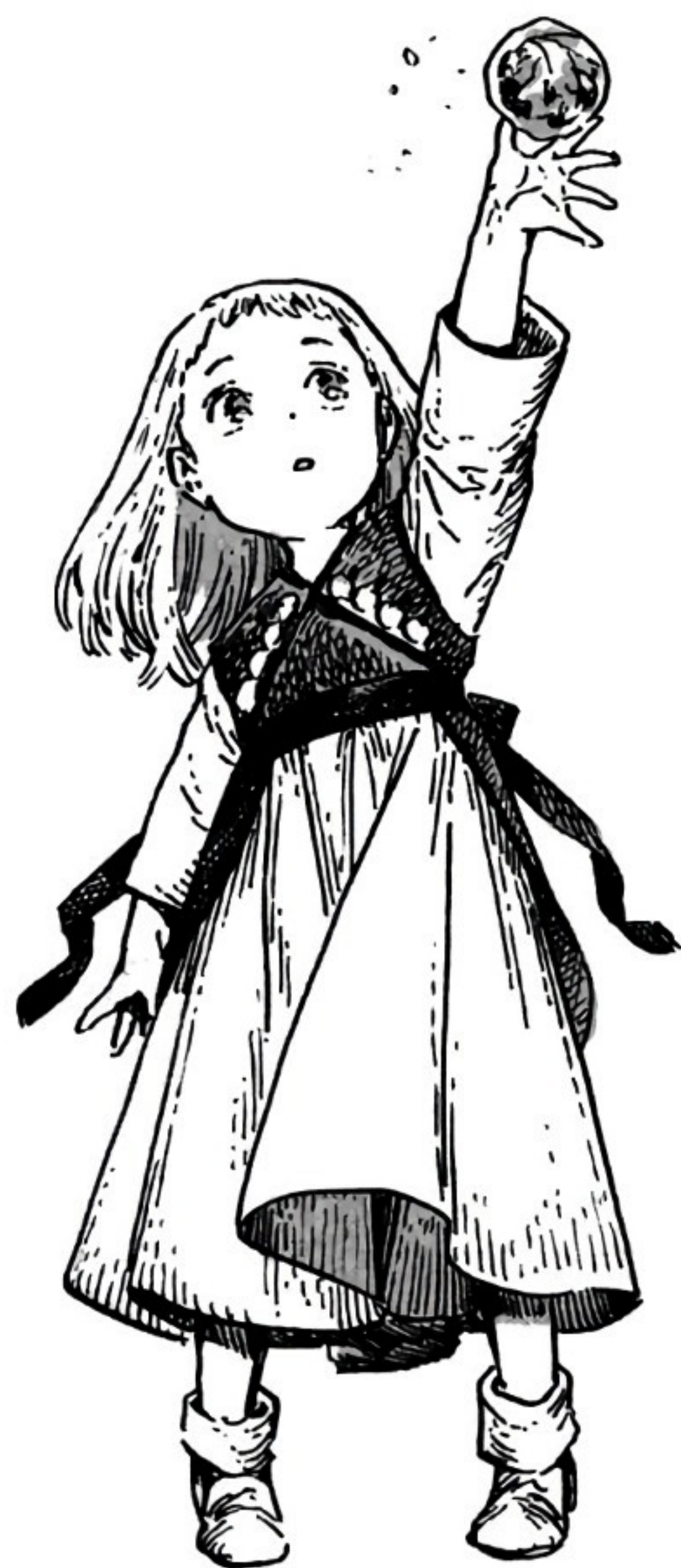
「結託の目」以前に
描かれた
禁止魔法が

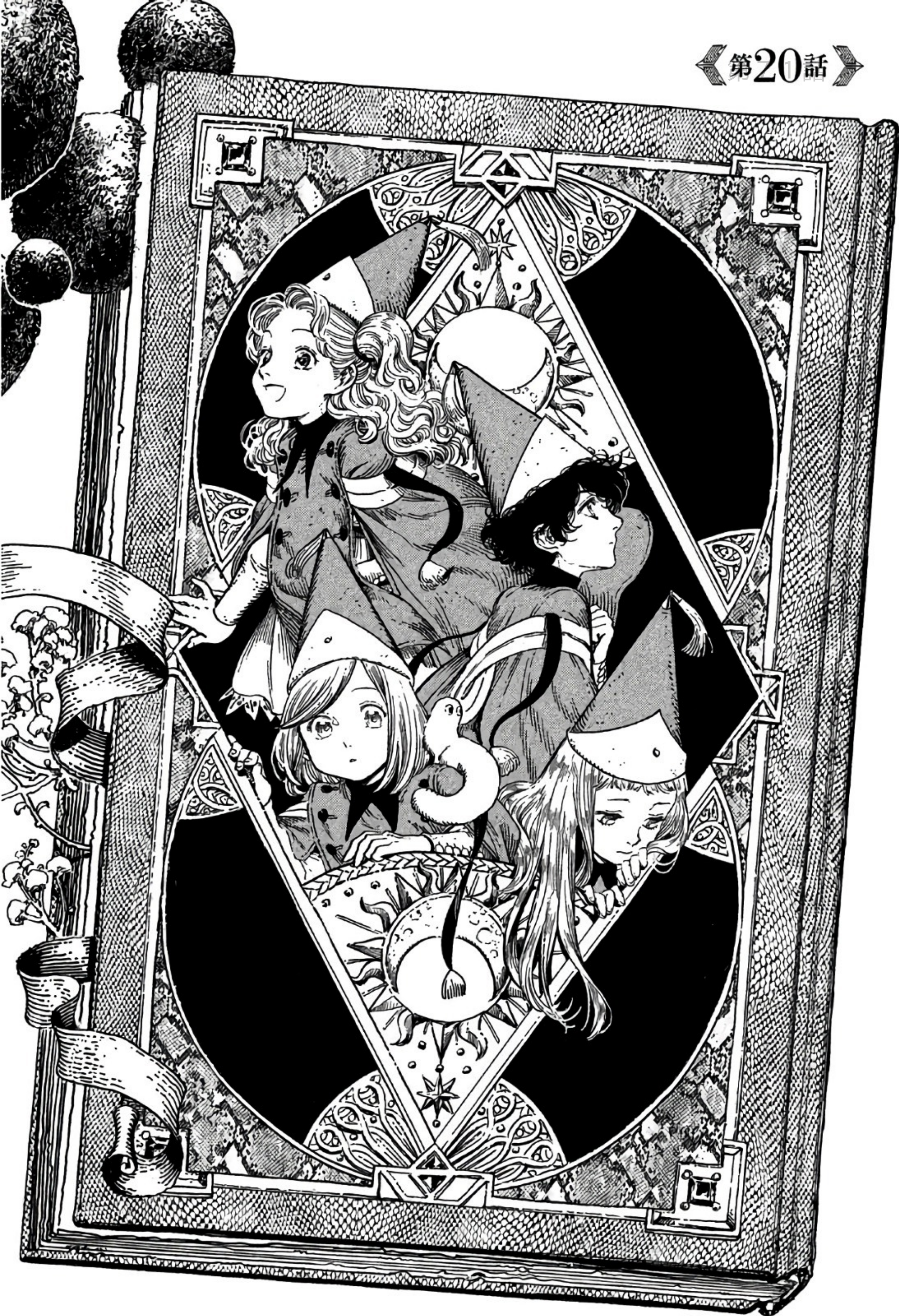
世界に
遺した
爪跡のこと




とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH AHAT







誰よりも高い頂に
己の冠がなければ
気が済まず

戦場を見下ろす
ためだけに
山を浮かせた
ダダの王

死者を蘇らせ
ようとして
銀葉樹の森を
まるごとひとつ

瘴気漂う
影の森に
変えてしまった
闇魔法使い
スリスタス

北の果ての
煙荒野も

東に口開く
ゾザの海峡も

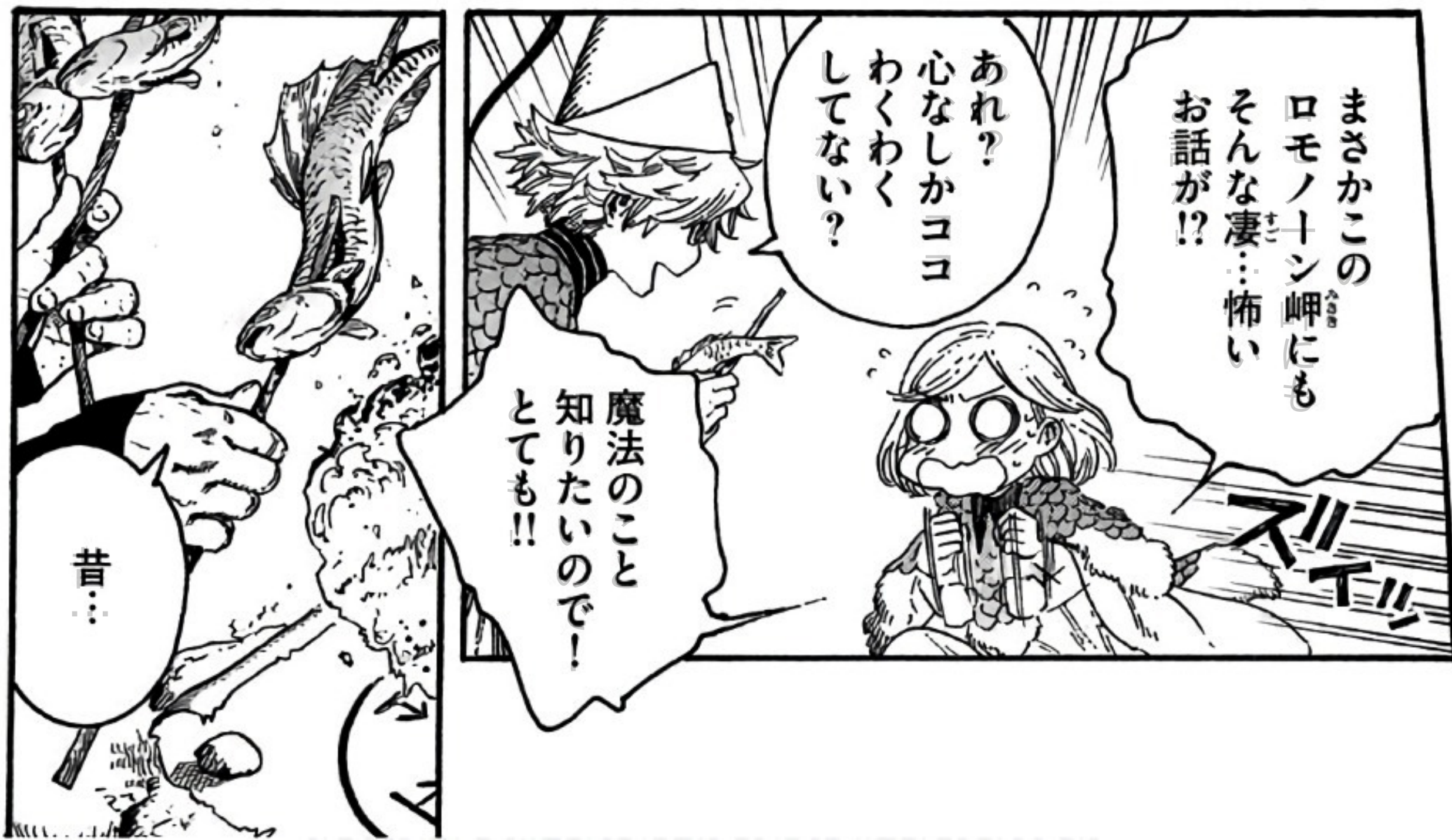
「結託の日」以前に
魔法が世界を
歪めてしまった
土地なんだった



だからその罪を
繰り返さないため
過ちの歴史を
知るために



魔法使いの
五芒星試験は
古の魔法遺跡で
行われることにな
ったんだよ



まさかこの
ロモノーシ岬にも
そんな凄惨な怖い
お話が!?

あれ?
心なしかココ
わくわく
してない?

魔法のこと
知りたいので!
とても!!

昔...

この岬の洞窟には
繊細な魔法細工の
工芸に優れた


ロモノーシ^{ロモノシ}洞国^{洞国}という
豊かな国があつた…

魔法の金細工を
身にまとい
尊大な態度を
隠そうともしない
ロモノーシ人は

洞窟の外の国や
そこから訪れる
人々を

自分たちとは
分けて考え
見下していた






ロモノーソンの豊かさに
噂が噂を呼び
地上からの旅人が
増えた頃

彼らにとって
益のある者だけを
迎え入れるために


選ばれた者
のみが通れる
蛇の背の道を
作った



そしてその道を
通ることを
許されない
無益な者は

ロモノーソンに
決して辿り
着けぬよう

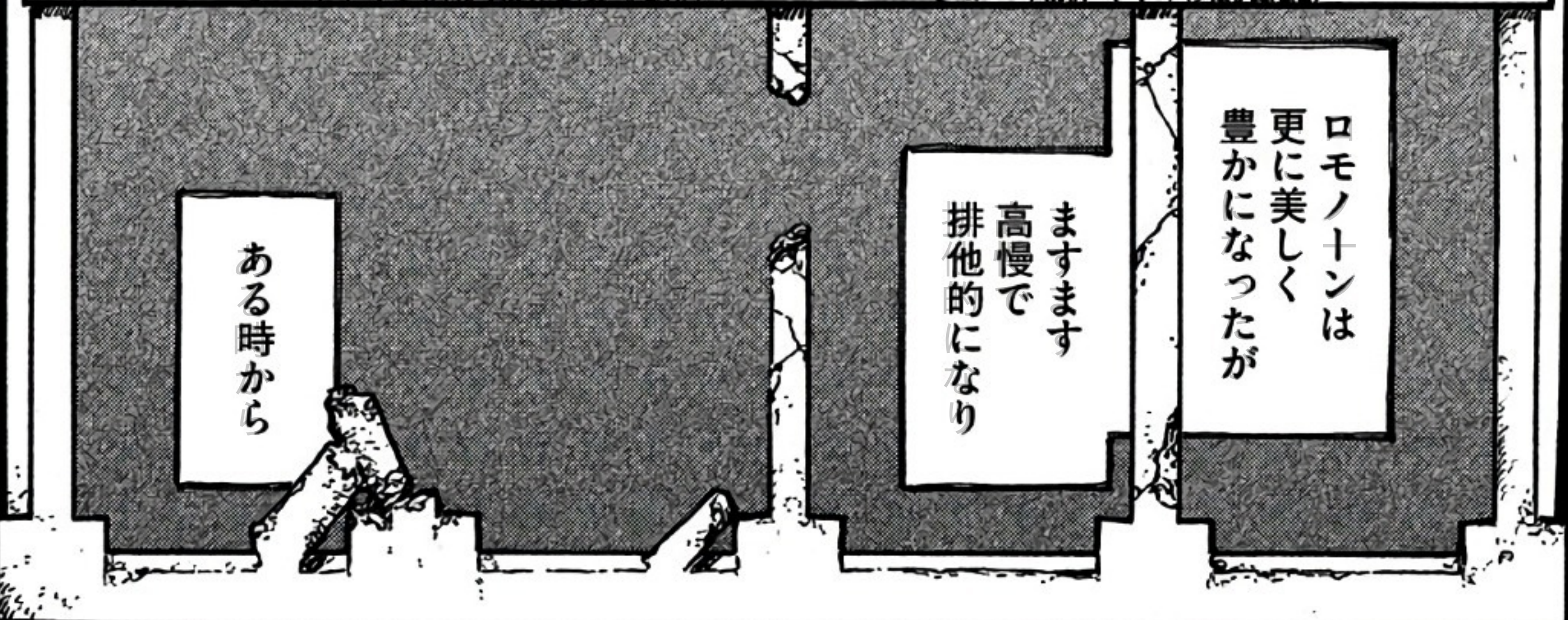
洞窟に
迷宮の魔法を
刻んだんだ…



病める者も
貧しい者も
醜い者も
我が国には
立ち入らせぬ



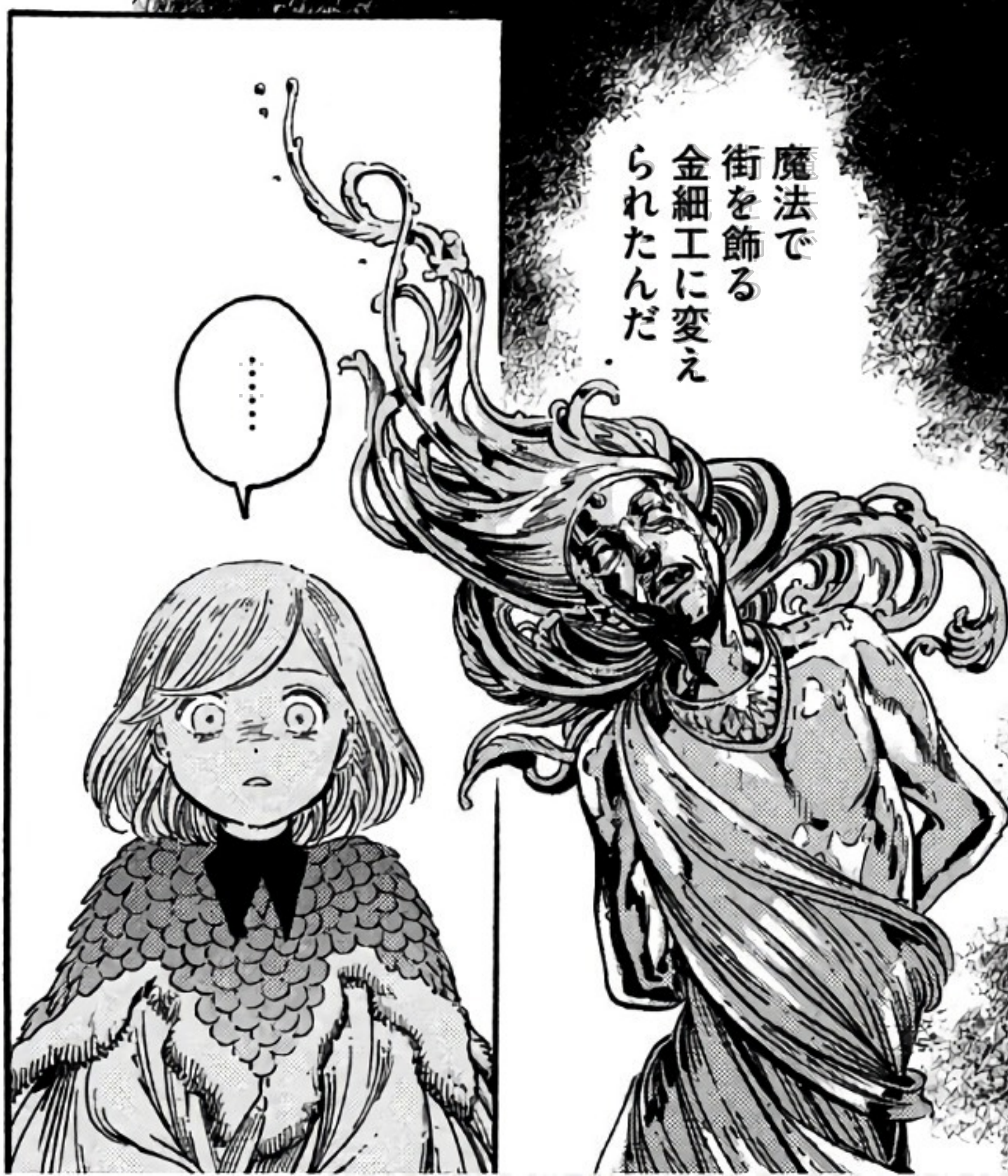
すばら
しい
ロモノーソンに
光あれ！

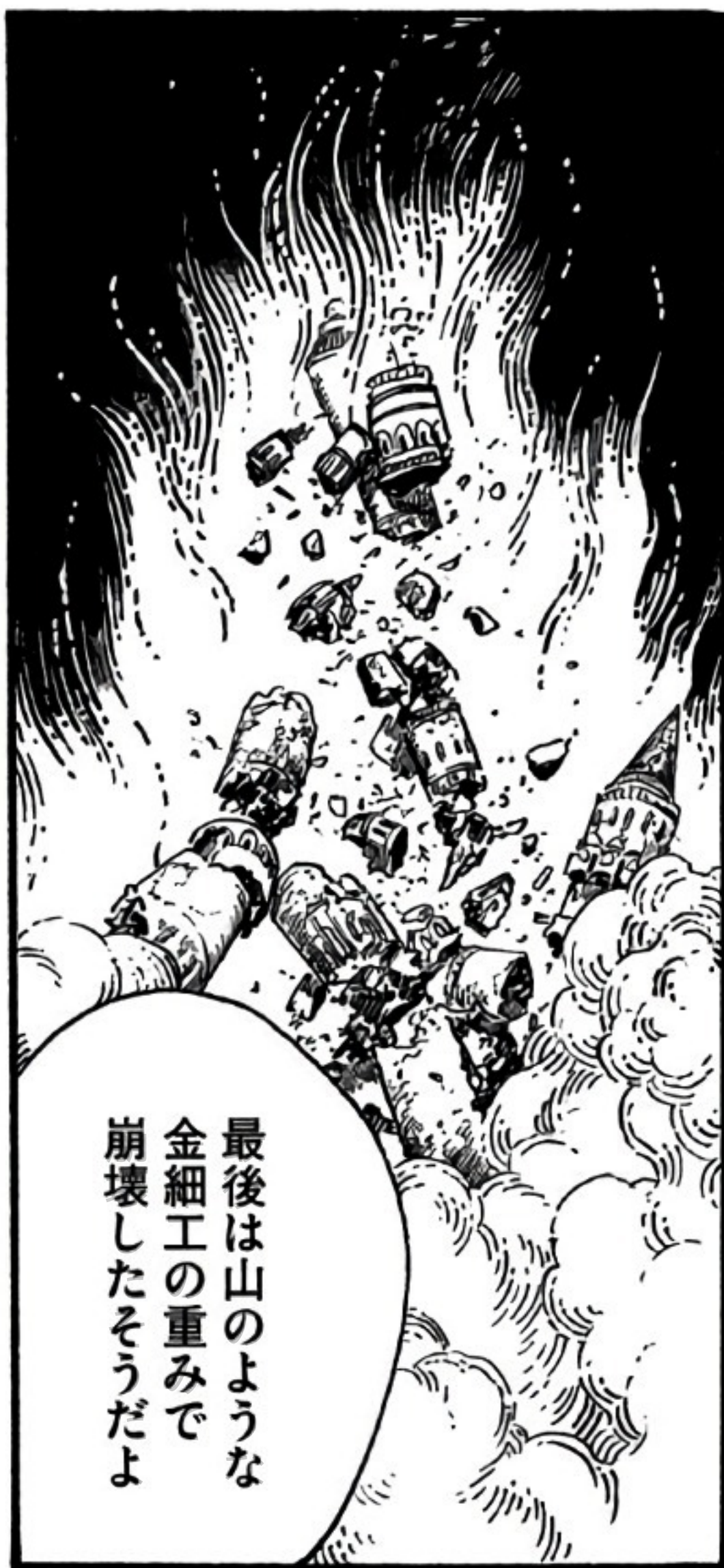


ロモノーソンは
更に美しく
豊かになったが

ますます
高慢で
排他的になり

ある時から





最後は山のような
金細工の重みで
崩壊したようだよ



流れの止まった
水が濁る
ように

閉ざされた
ロモノーシは
淀んでいった



国の内側で
憎み合い
争い…

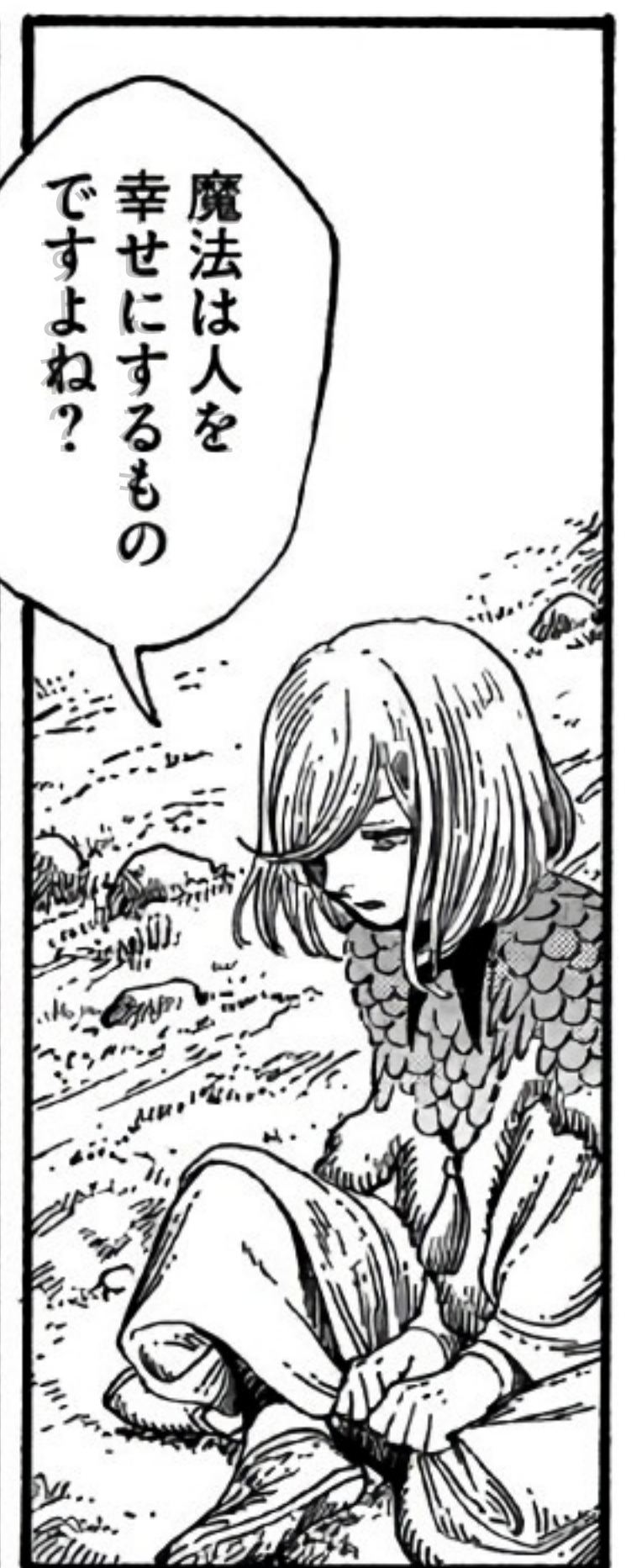
疲れて

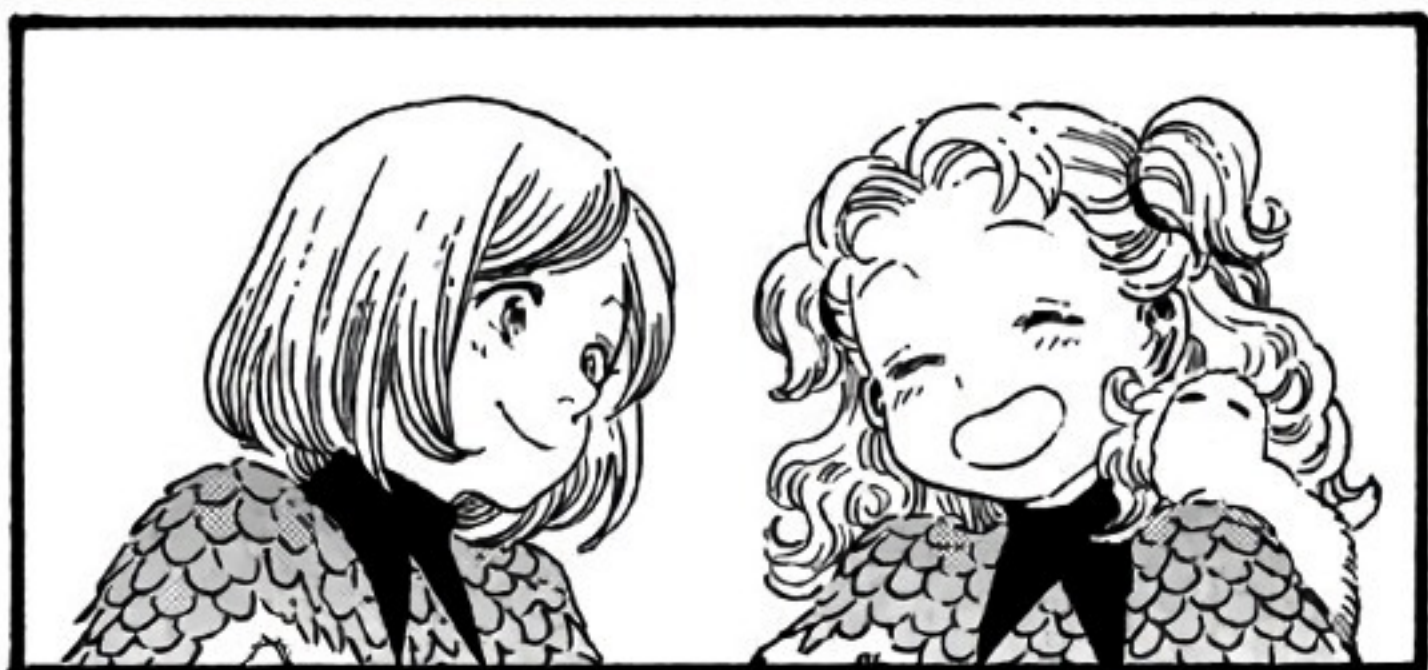
…弱って



後にはただ
蛇の背の道と

迷宮と化した
洞窟を
残してね…



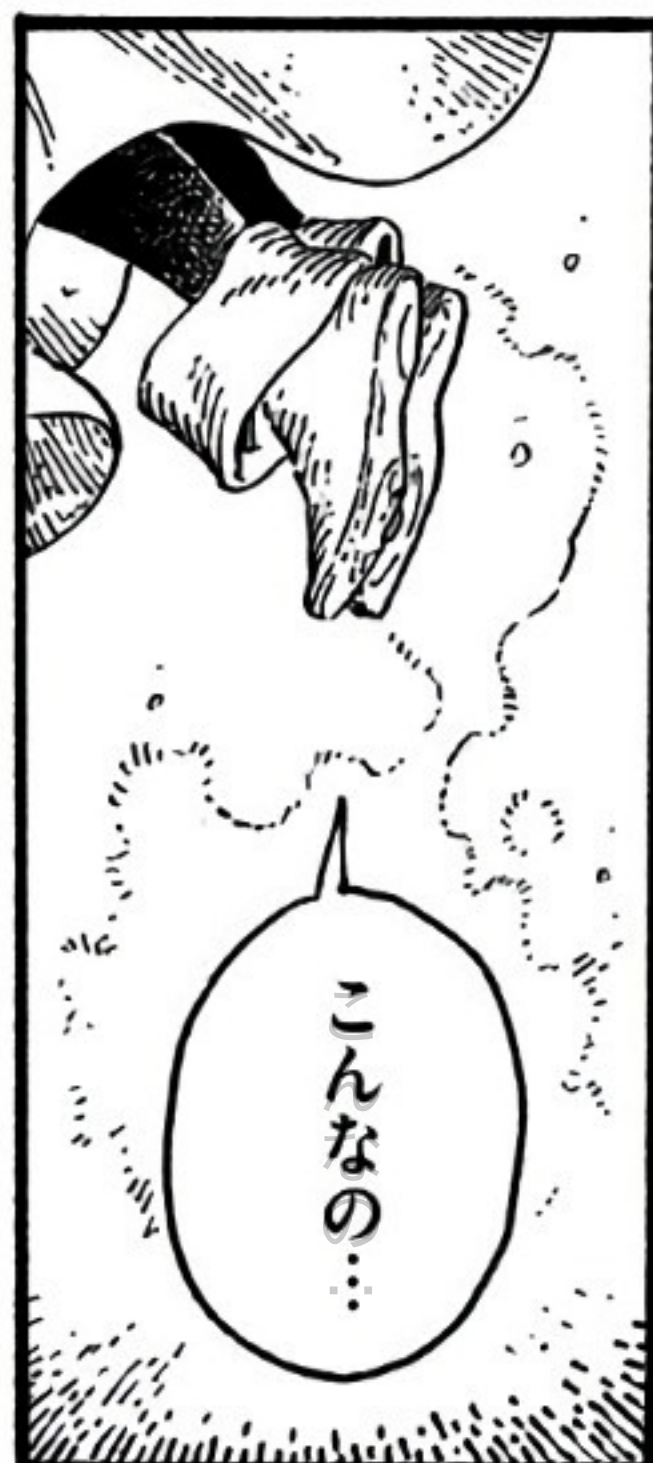




そう願う

あたしは
試験監督だから
ここからはもう
口出さないぜ

さあこの道を
どう進む？



こんなの…



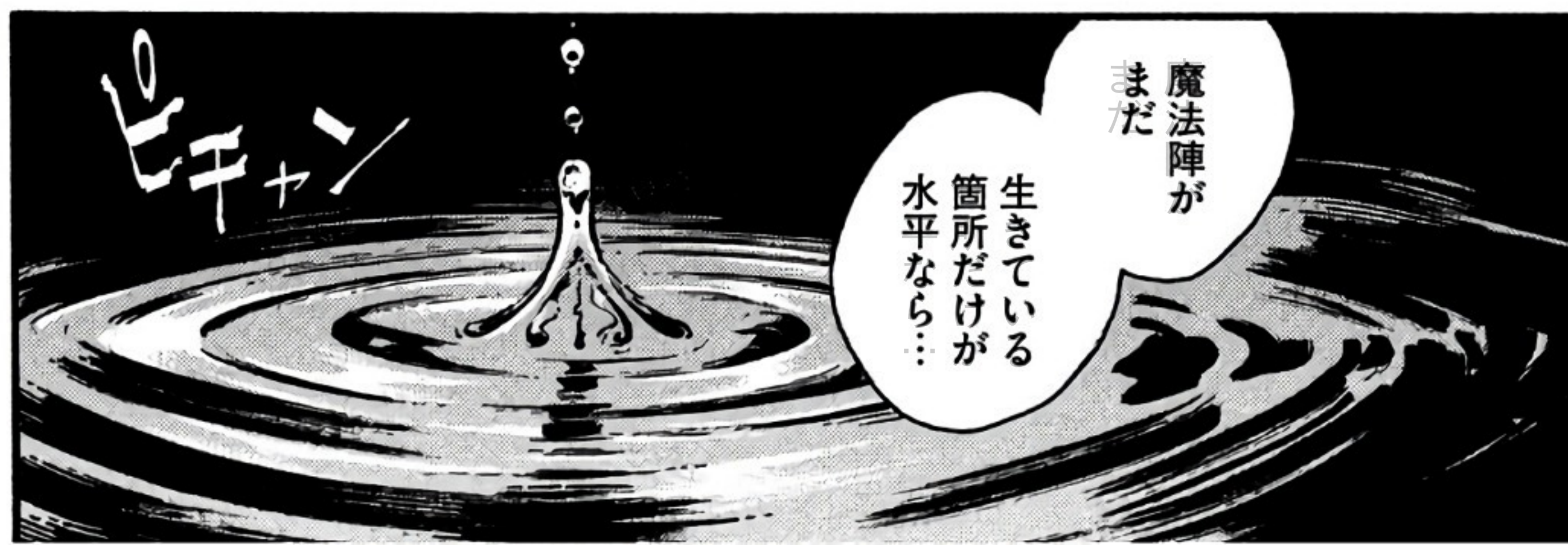
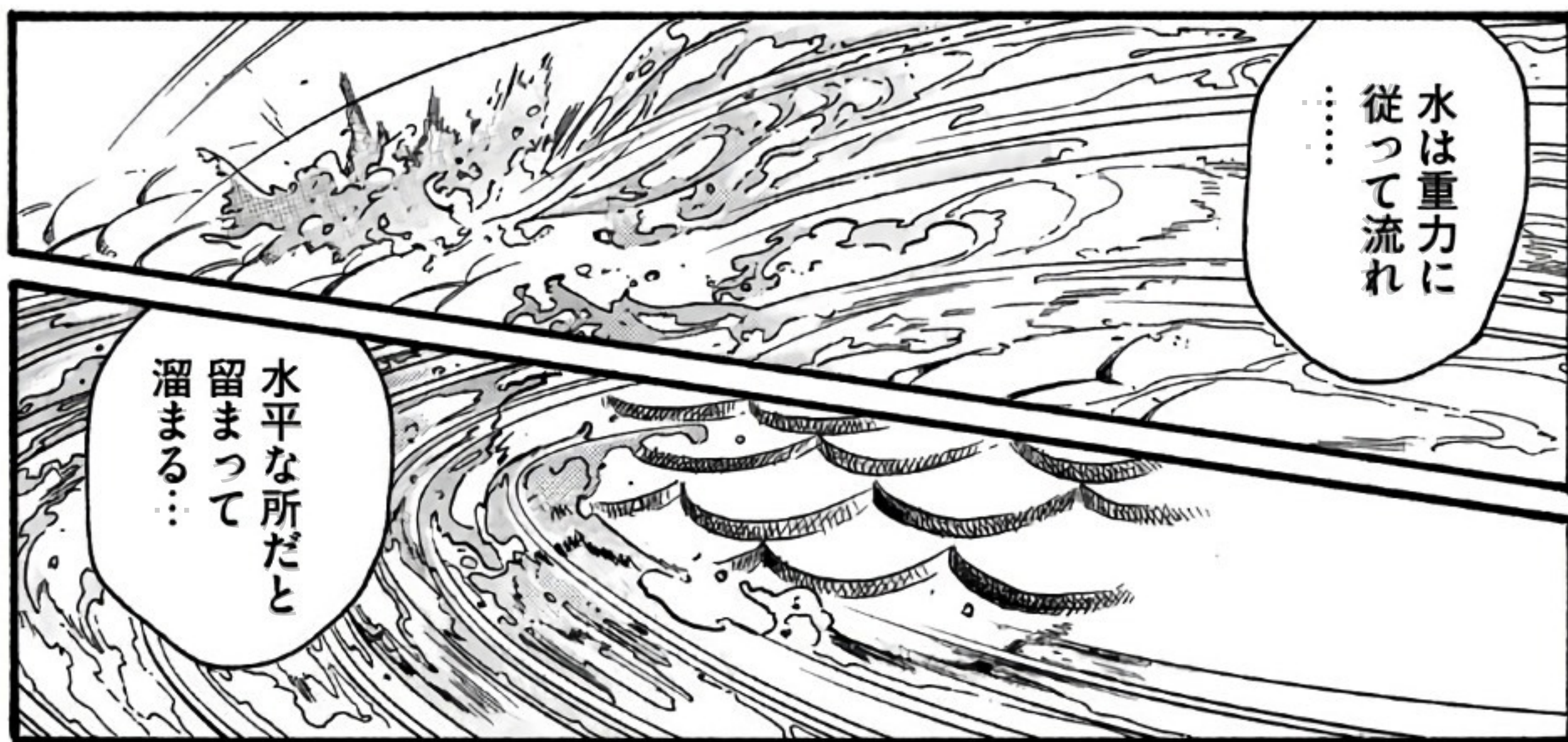
ぐねぐね
してるけど
ずっと先まで
一本道…

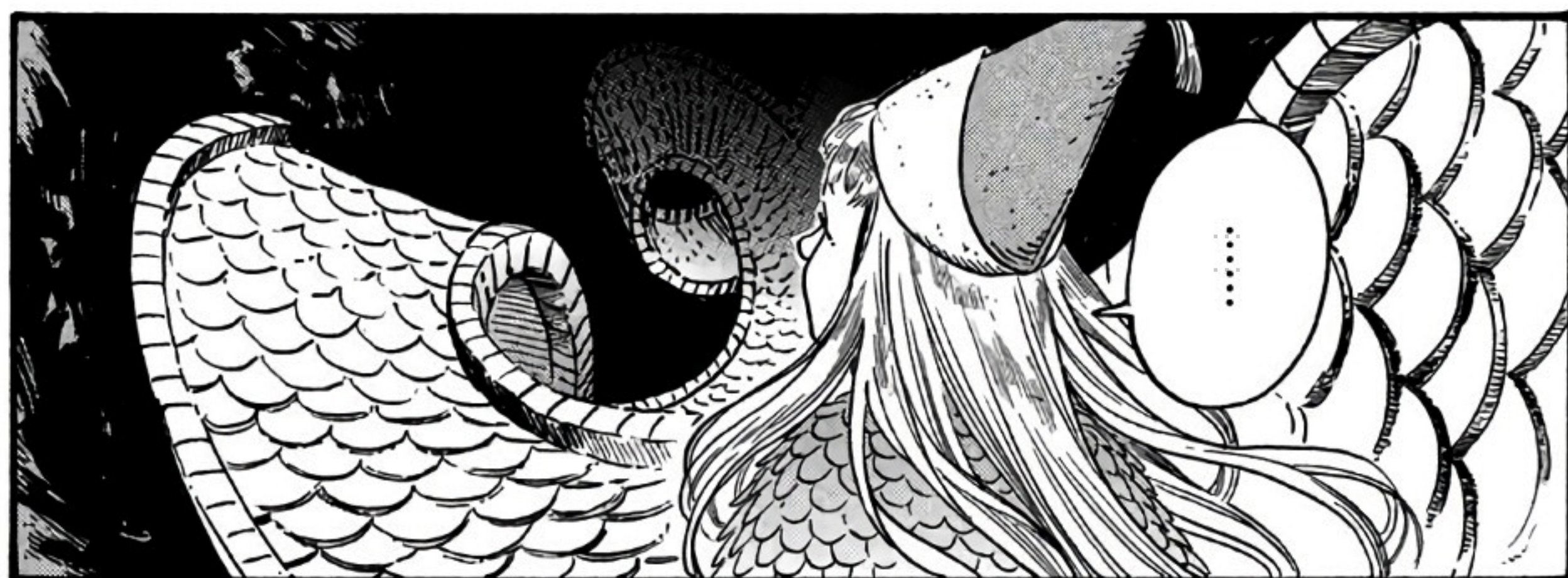
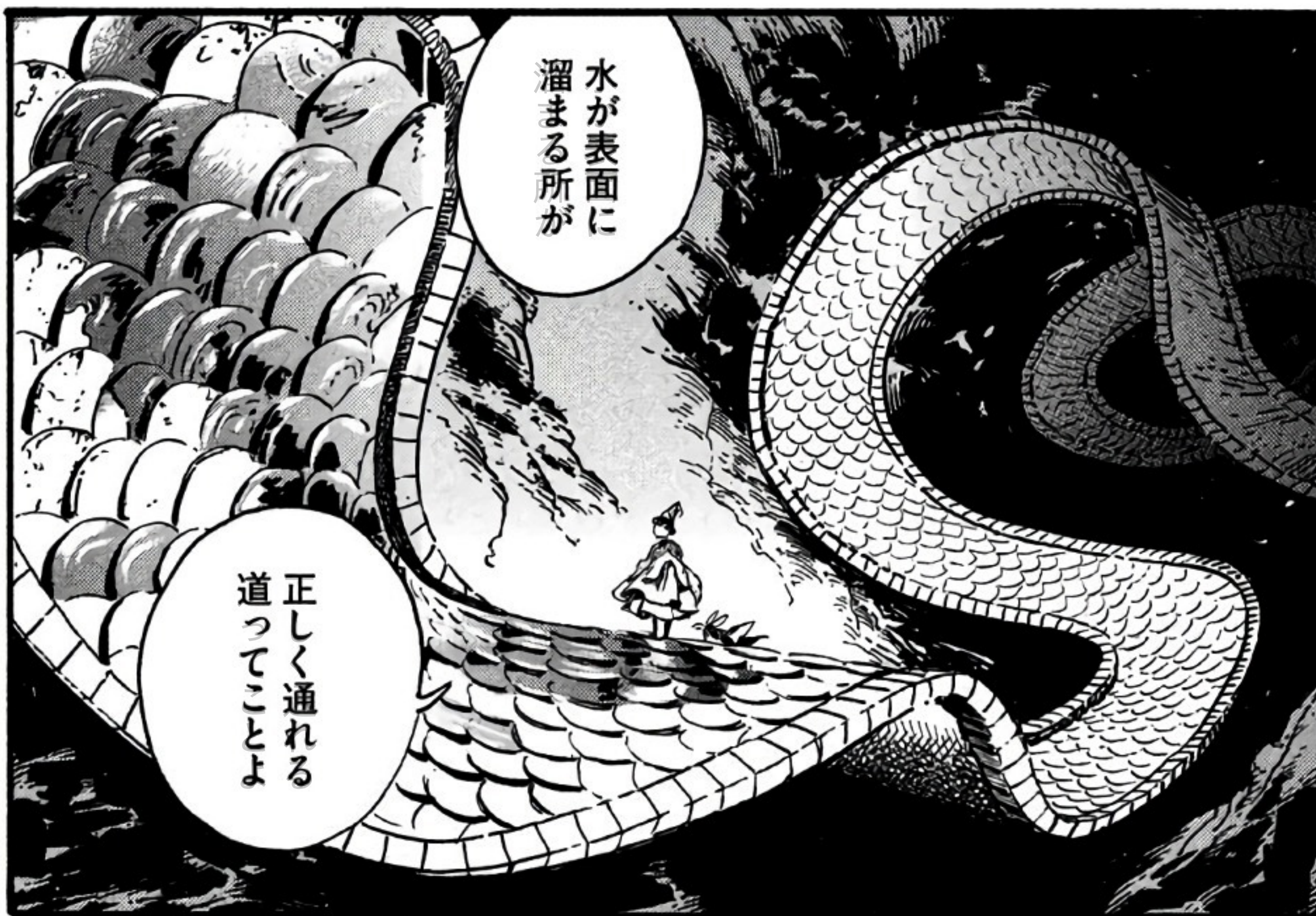


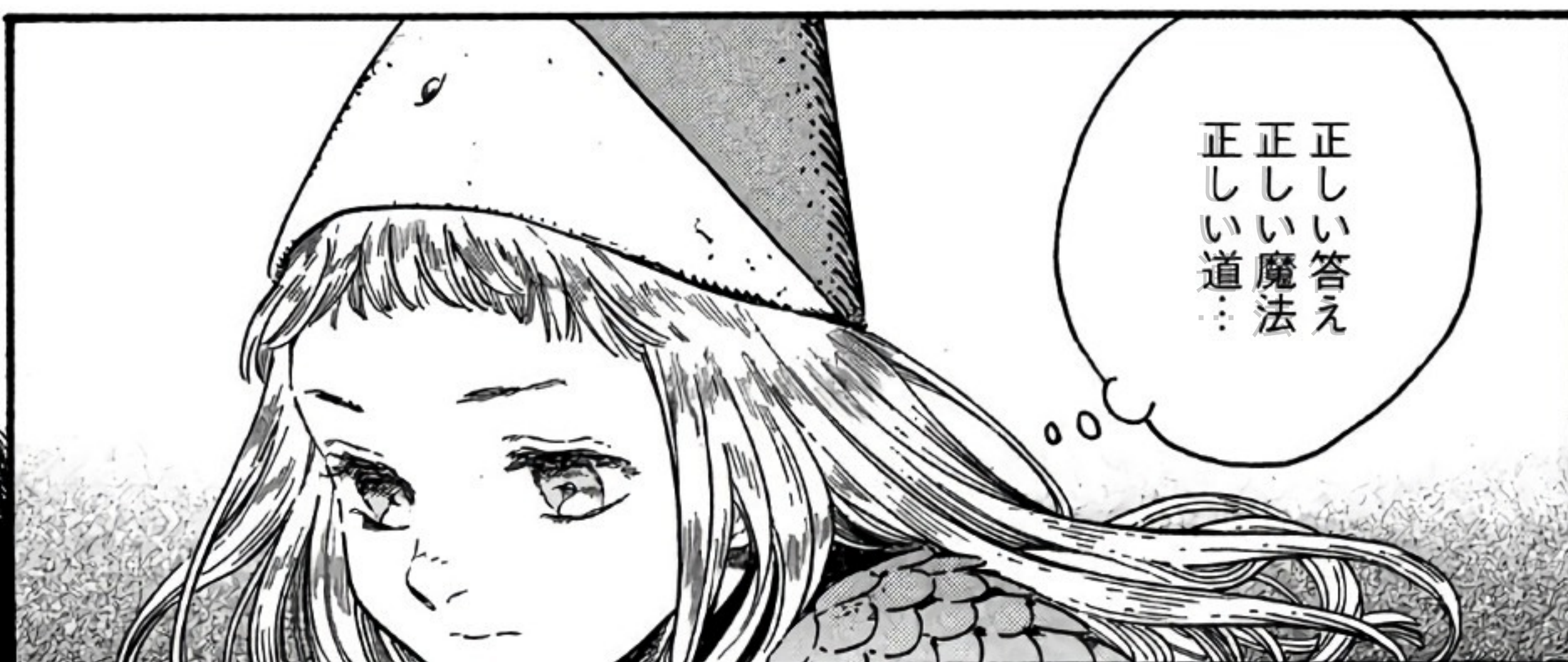












正しい答え
正しい魔法
正しい道……



こちら
リチエリット



そこから
外れたら
ダメなんて

そういうの
一番やりたく
ないのに



ほら
その落書きは
捨てなさい！



また無駄な
魔法ばかり
描いて……

そんなんじや
まっとうな
魔法使いに
なれないぞ

どうして先生の
言う通りに
出来ないんだ



捨てたくない



落書きじゃないのに

これは
リチエの魔法
なのに



ほら
こっちよ

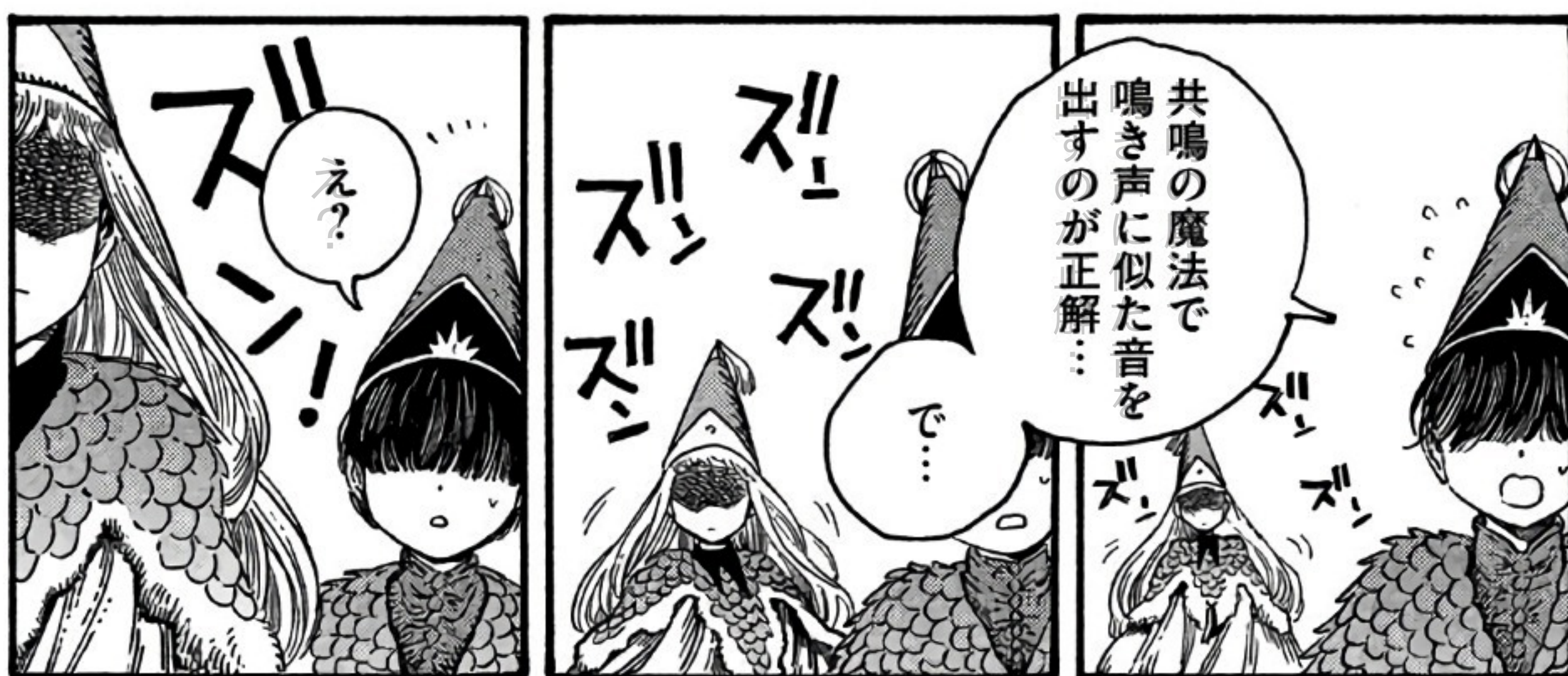
おいでー



リチエは
リチエを
捨てたくない

そのため
には…







リチエは
リチエに
なりたいの

リチエじゃない
魔法使いに
なりたい
わけじゃない

だからリチエは
自分の魔法
だけで

この道の
出口まで
行ってみせる

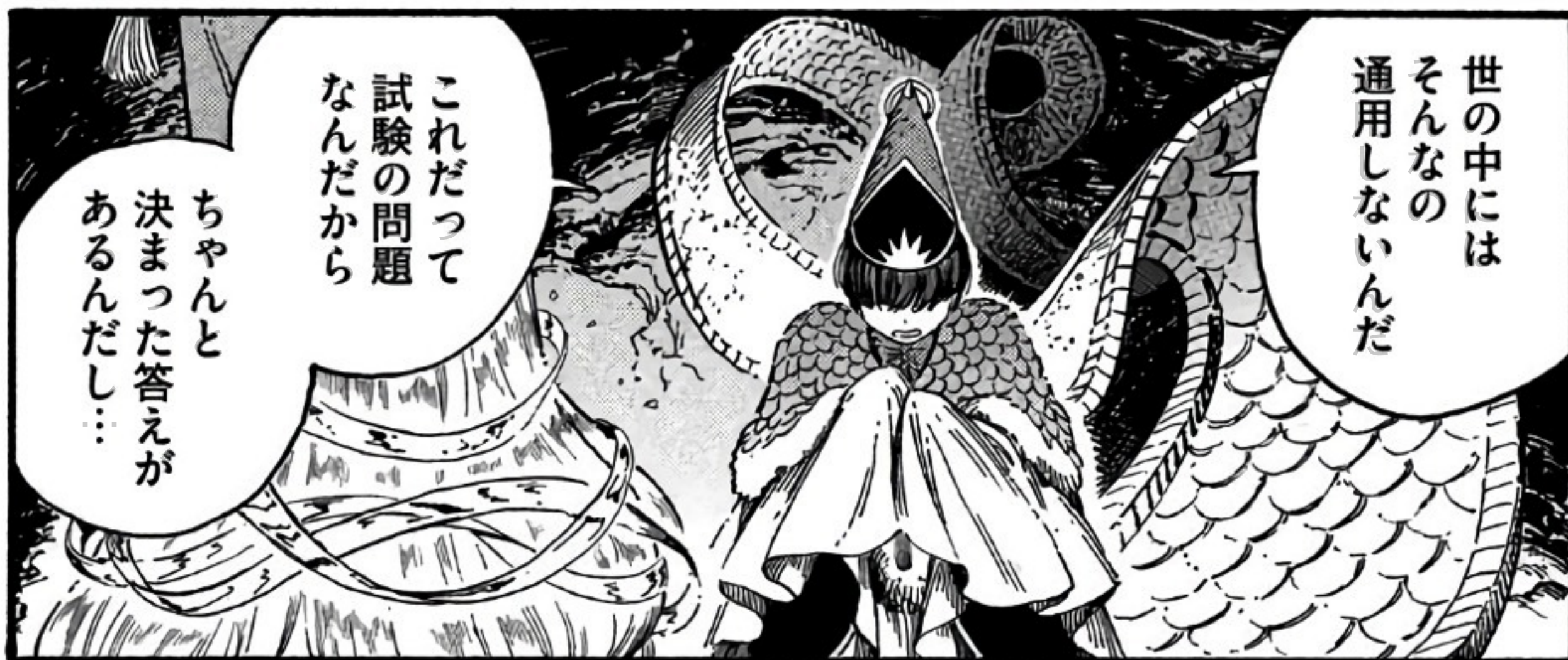
それは…

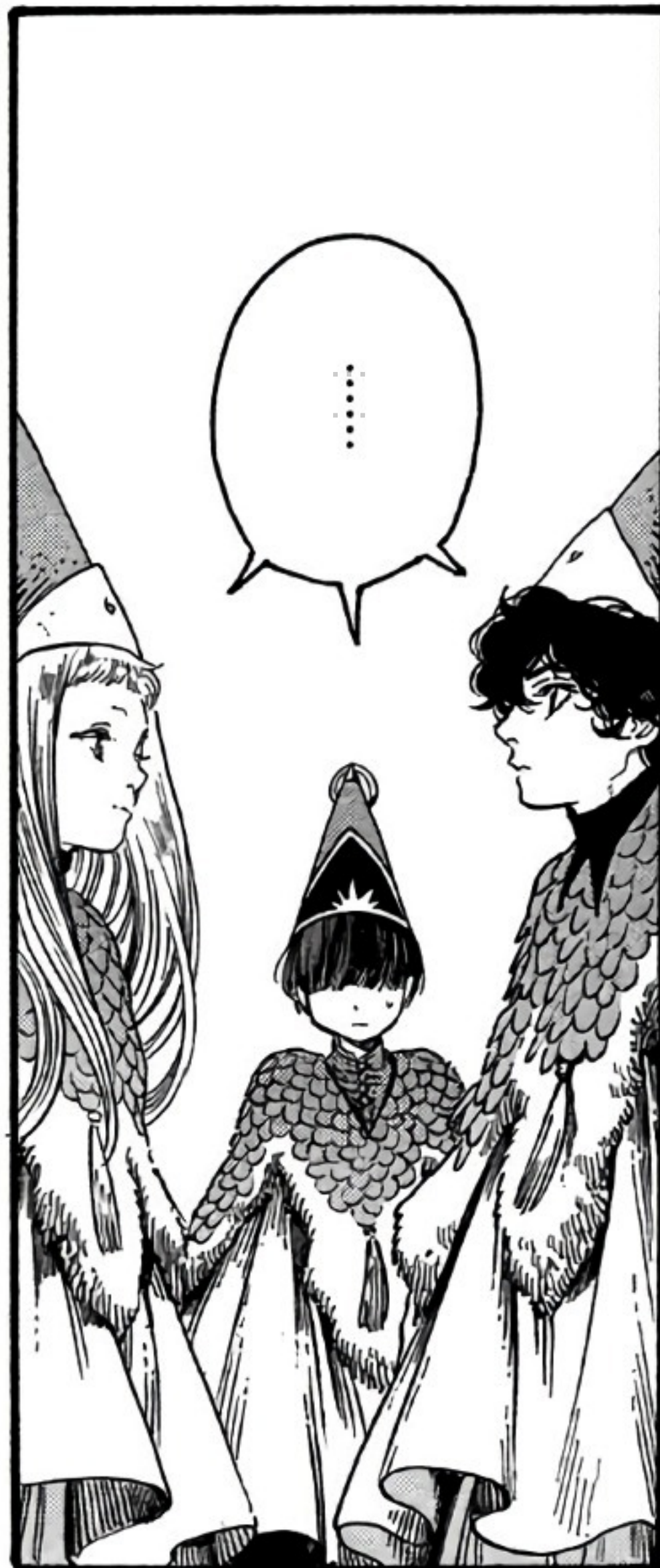
でも

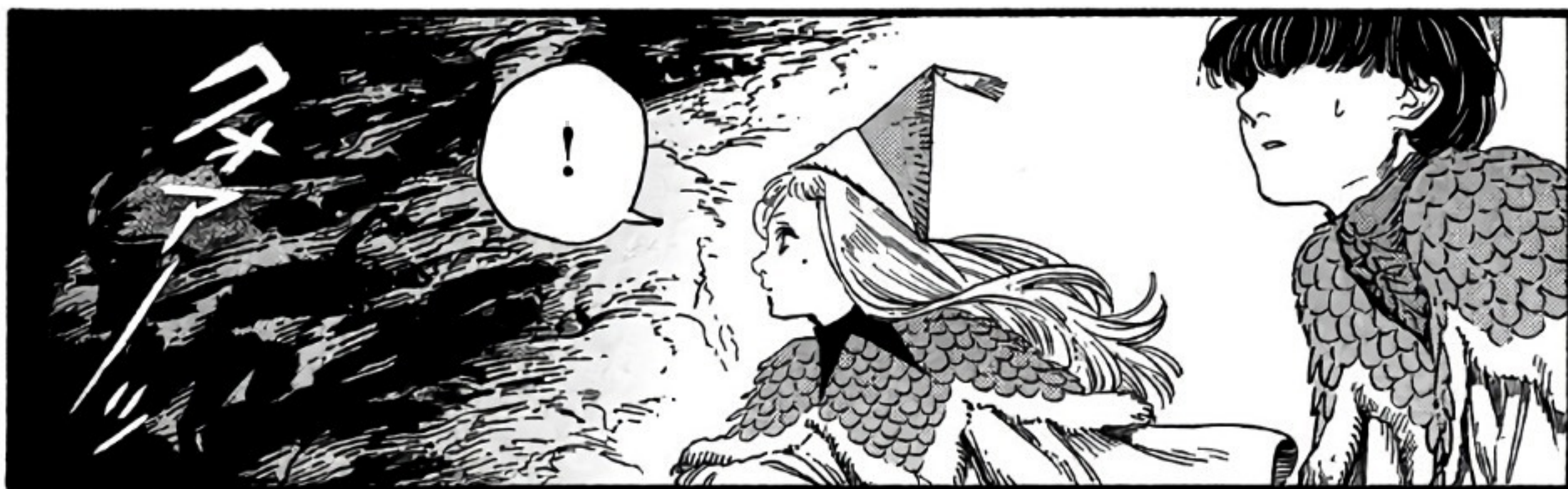
無理
だよ…

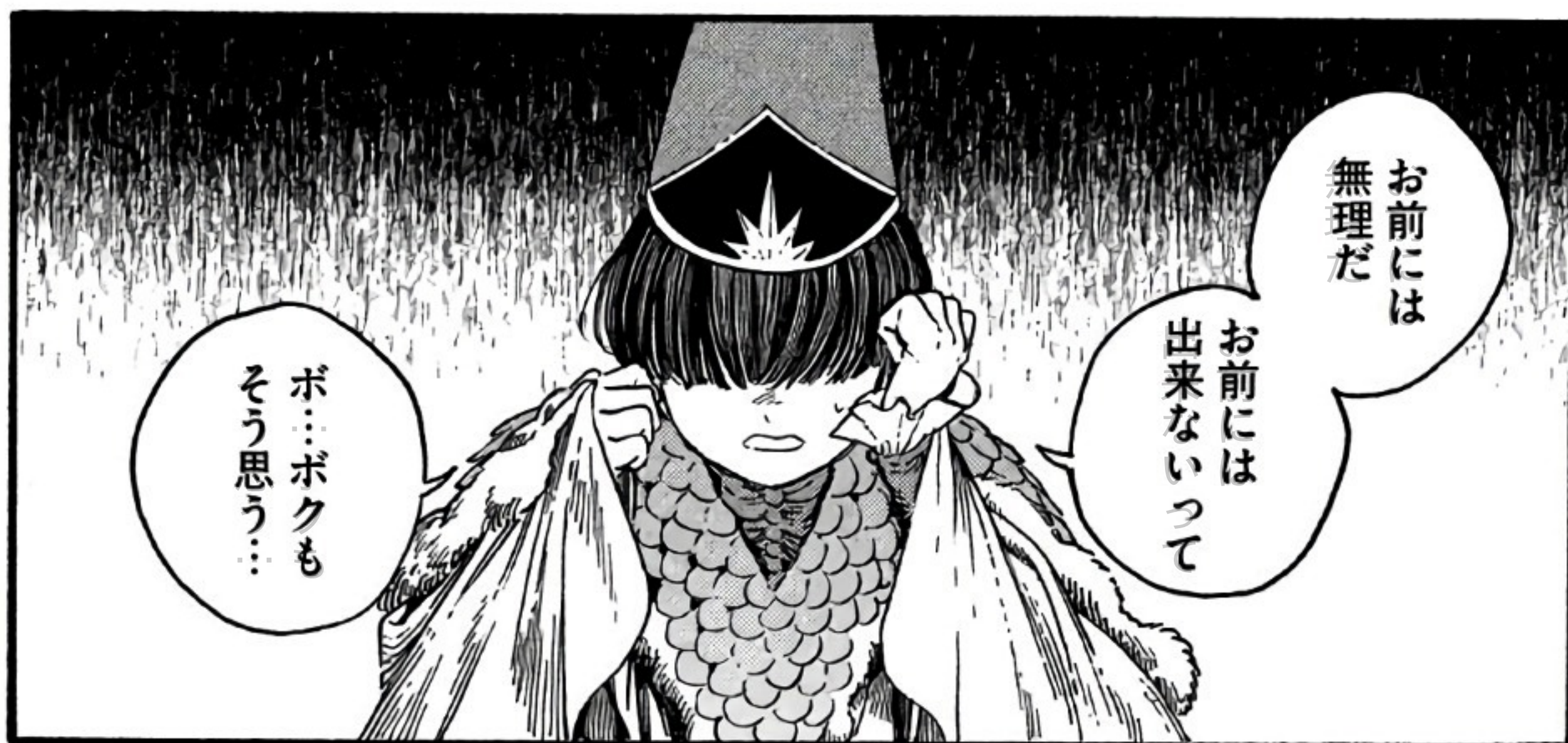
リチエ…

へ+

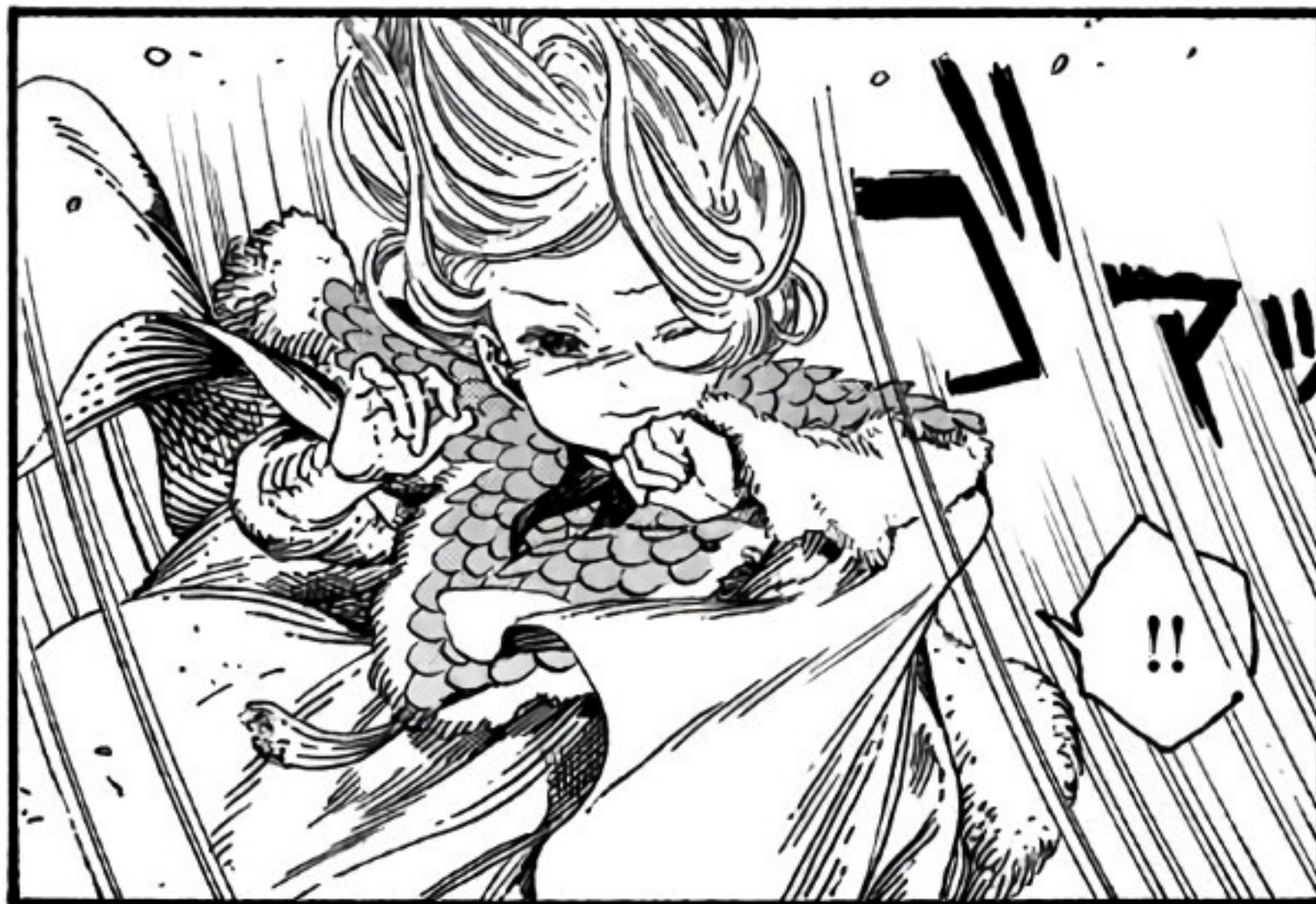
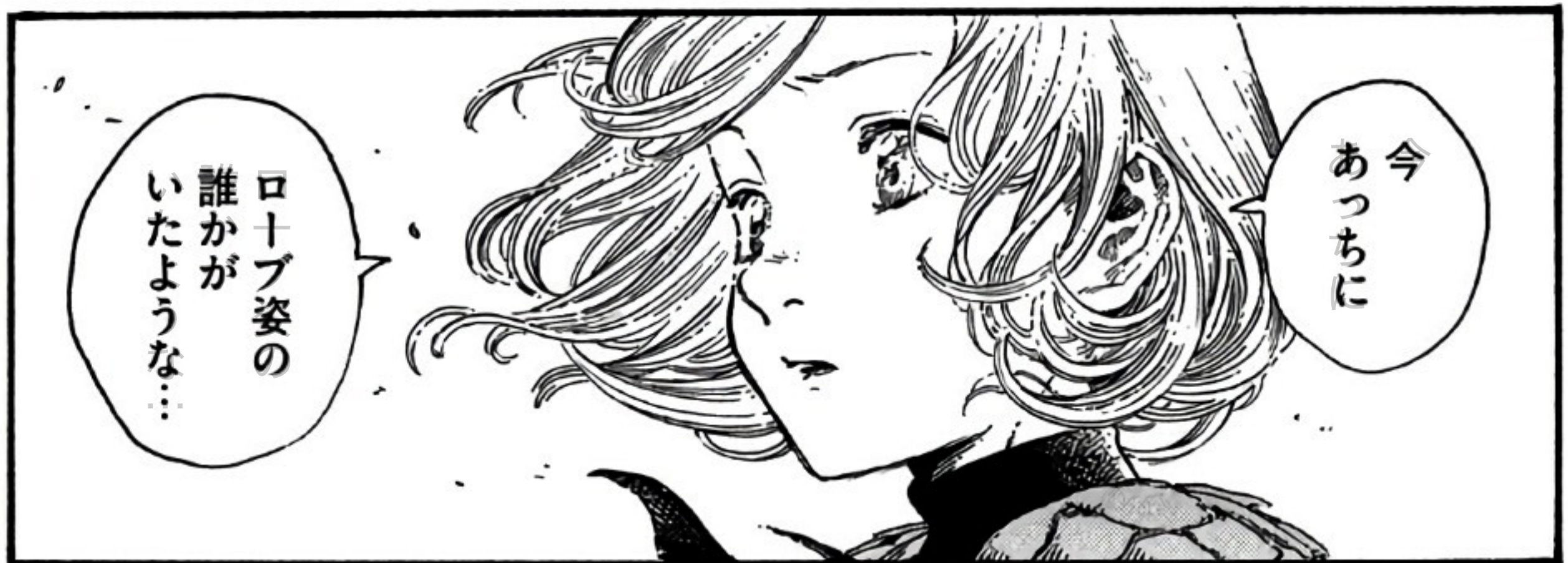


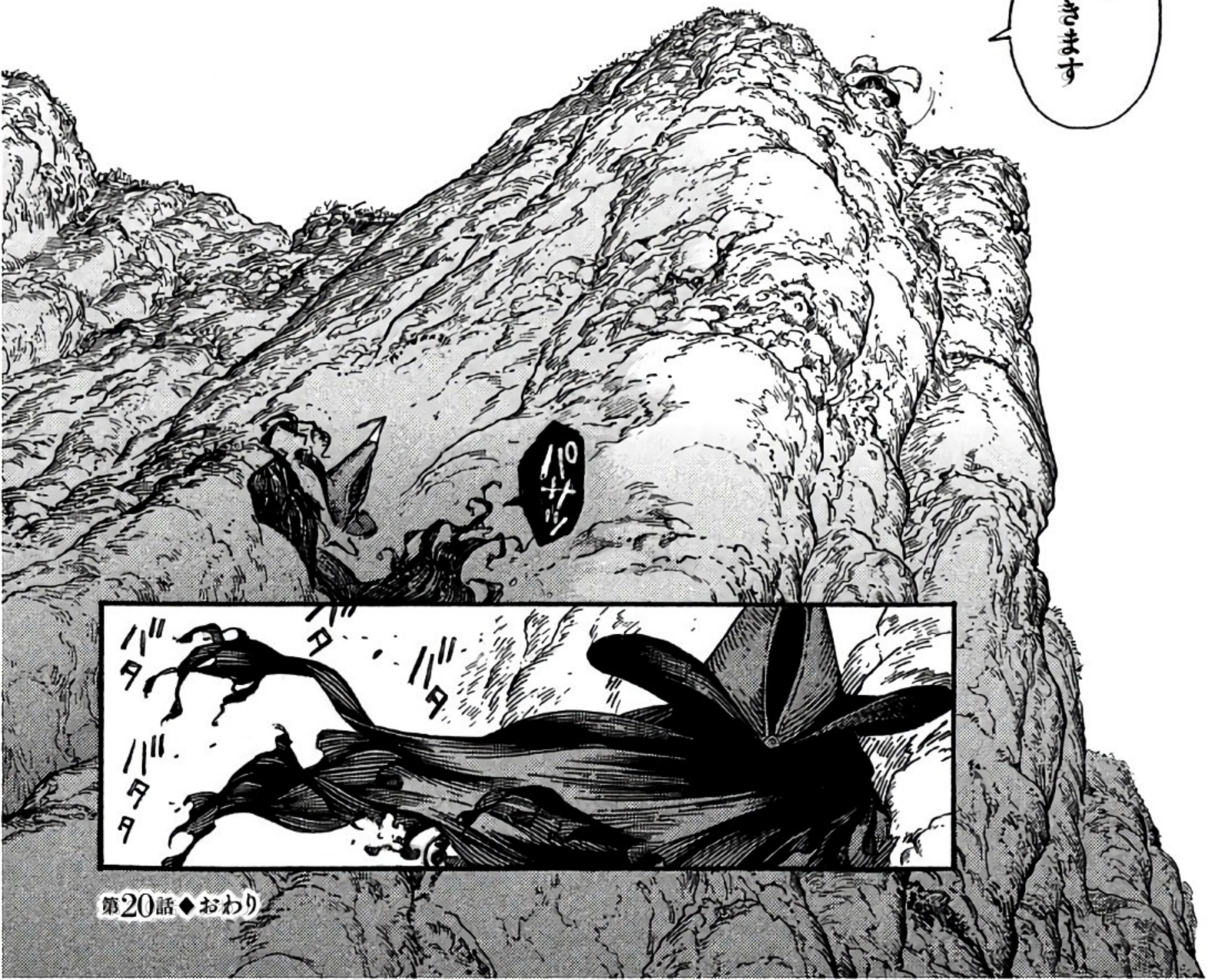
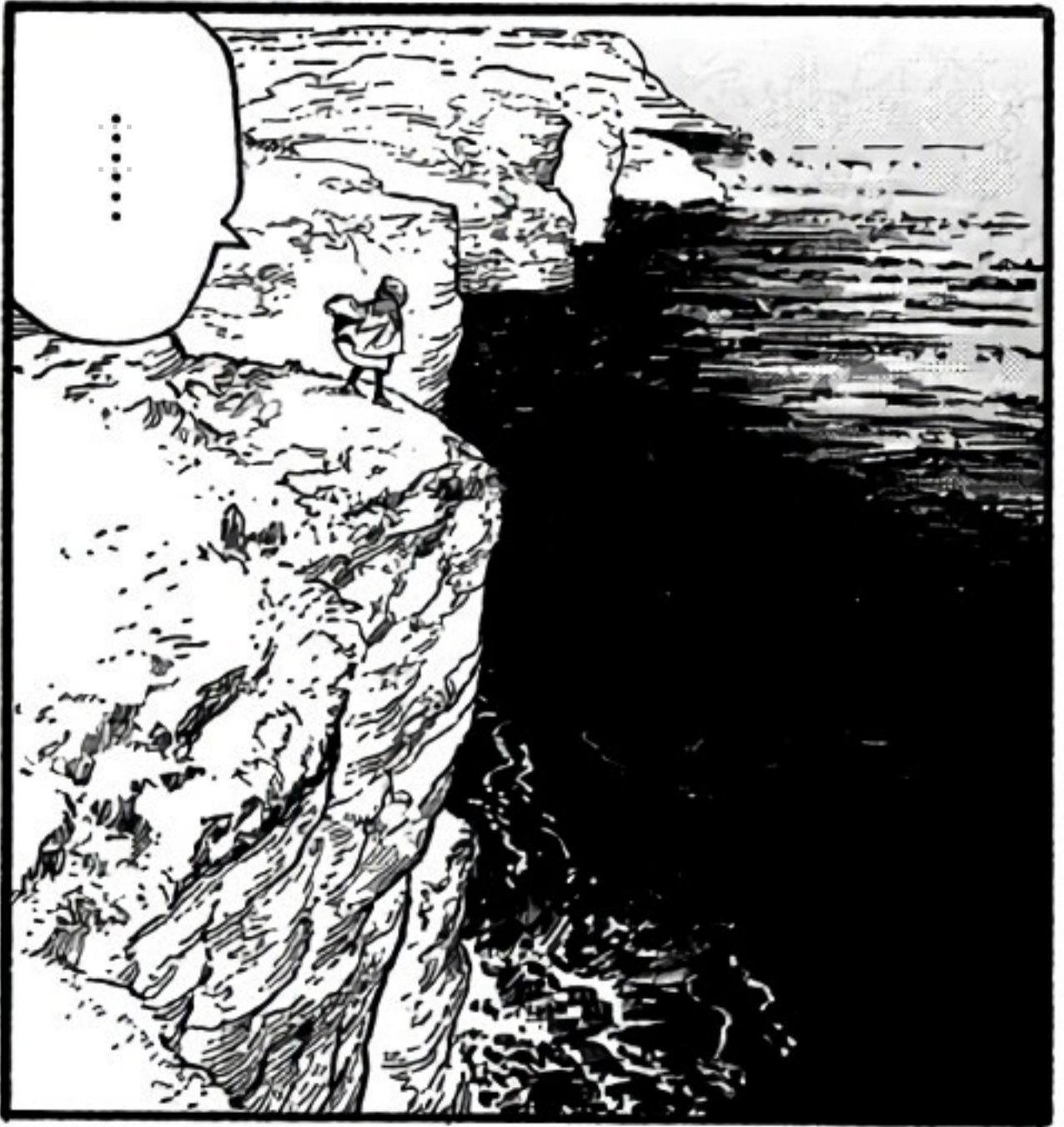
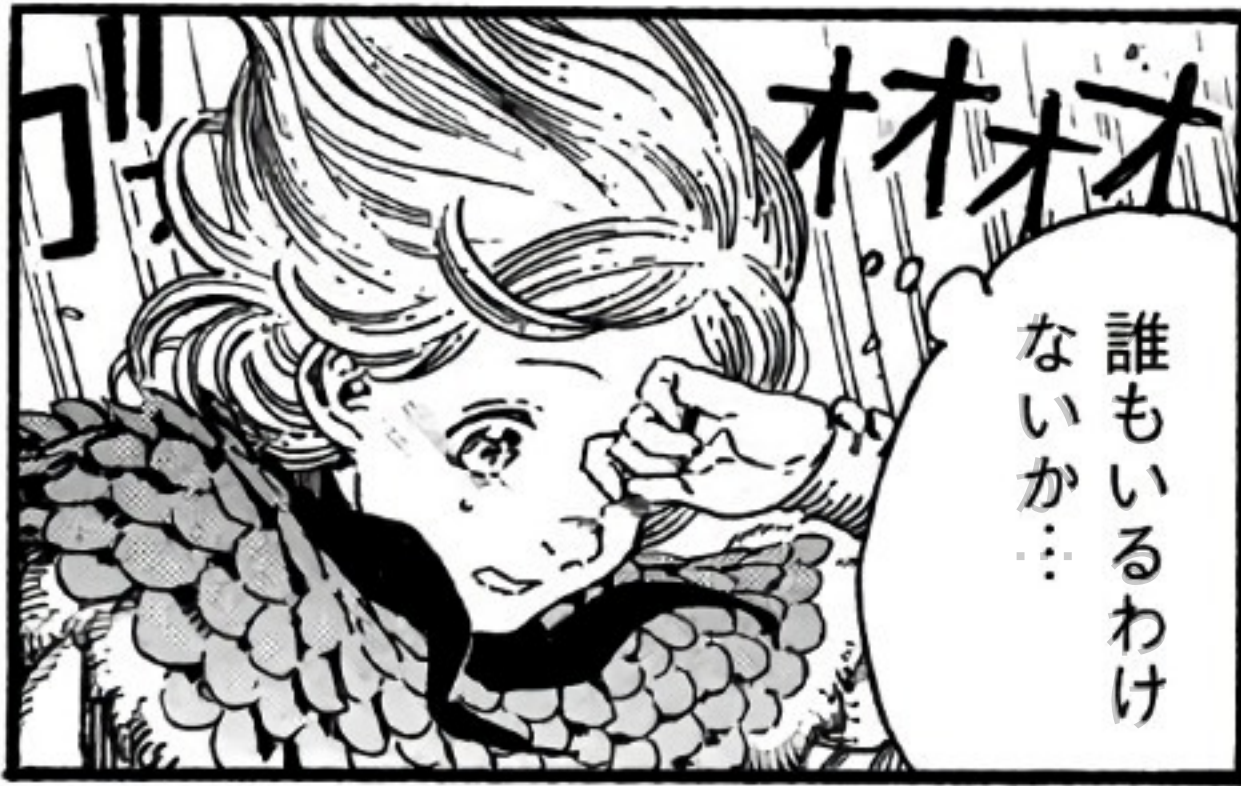












とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH AHAT







流れ落ちた水が
途中から
おかしい方向に
落ちて行つてゐる…

道が
途切れていたら
石畳の裏にある
魔法陣の効果も
ないってことね

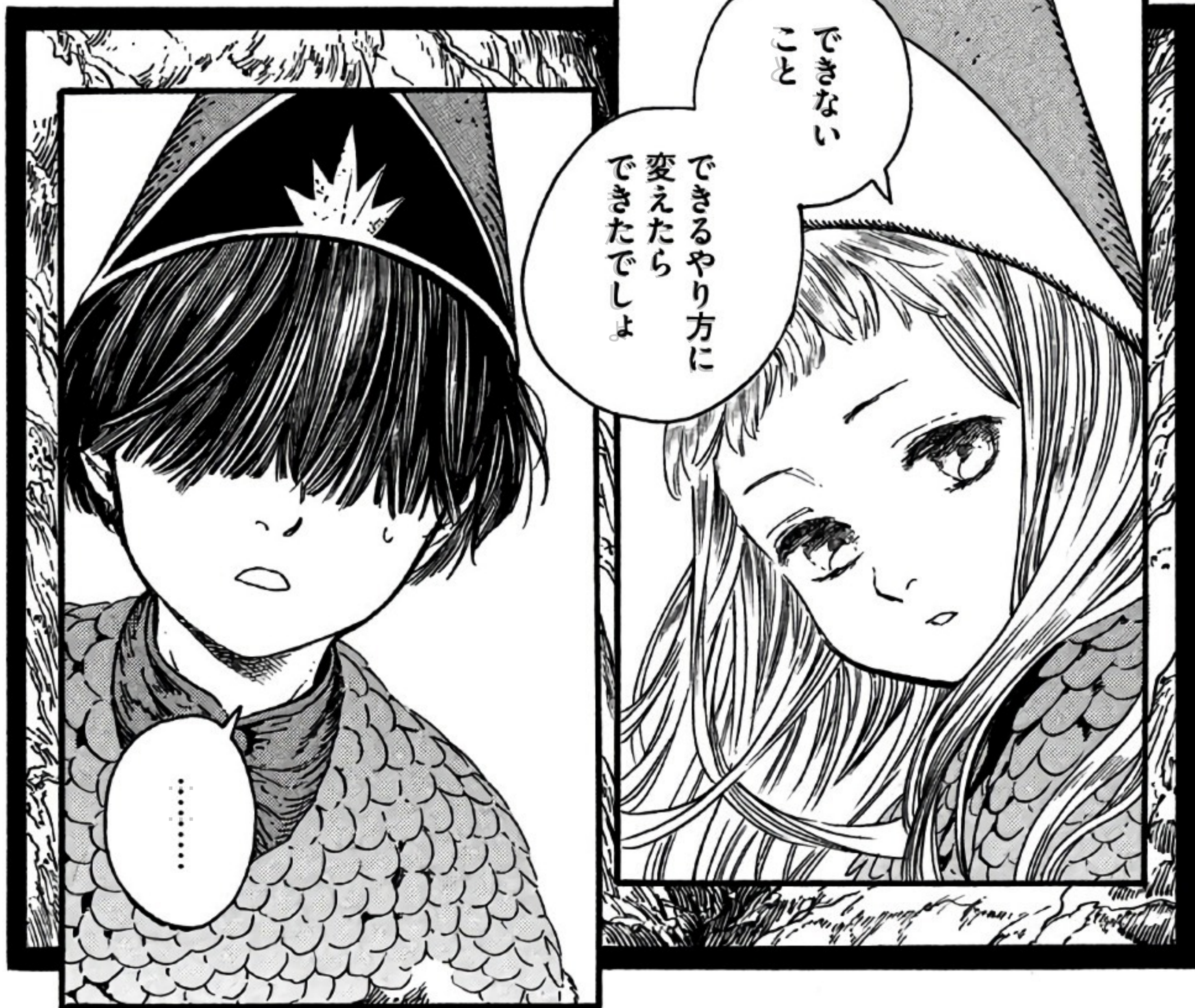


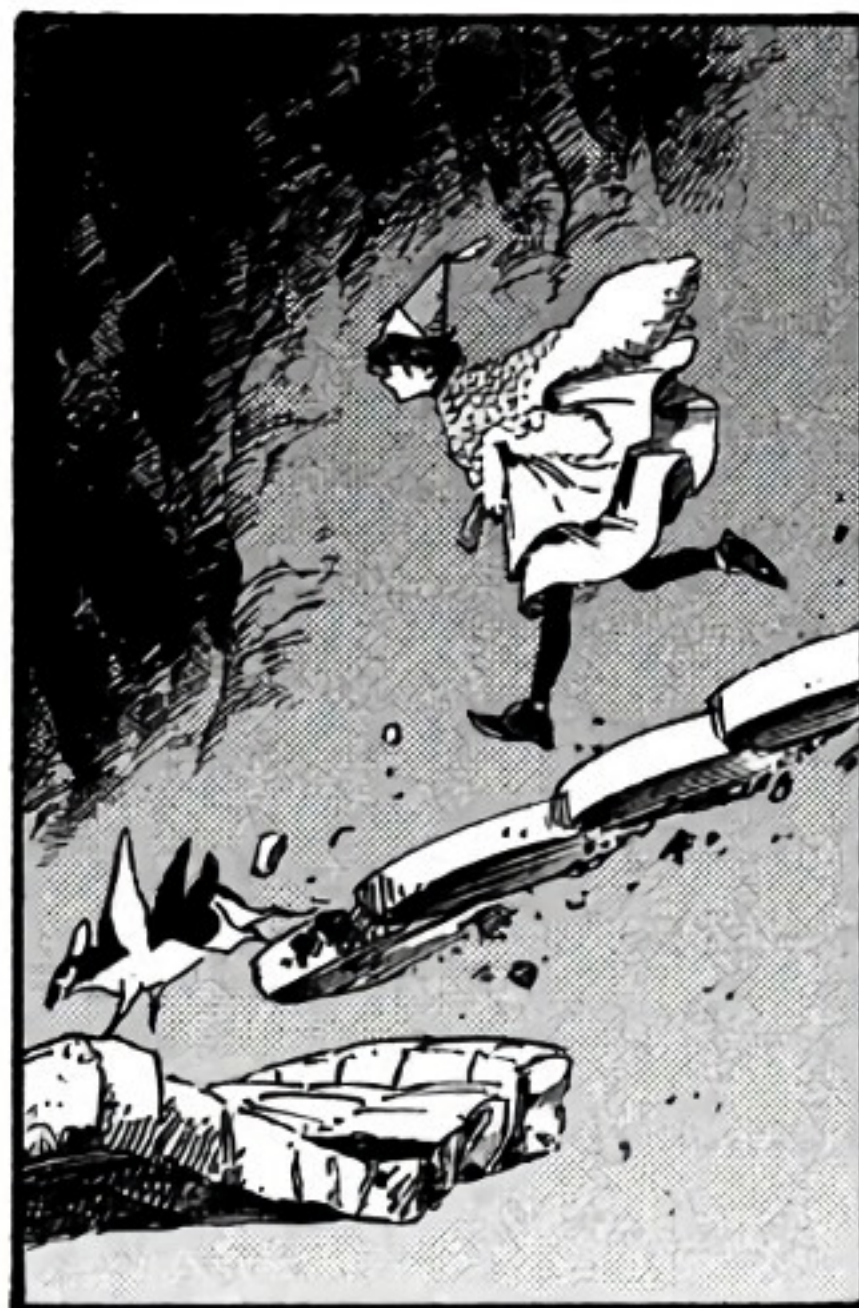
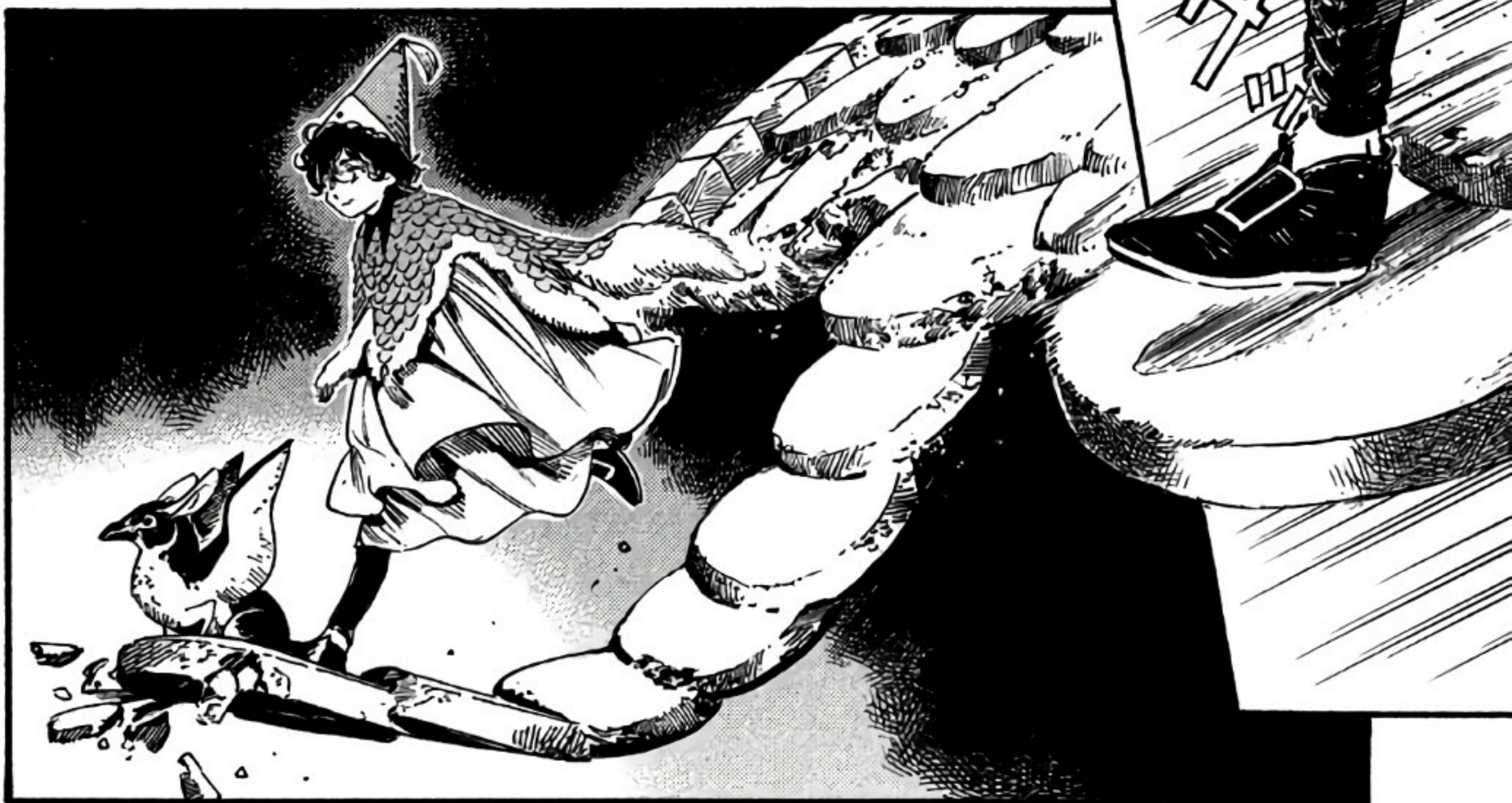
どうにかして
ここを
渡らなきゃ…

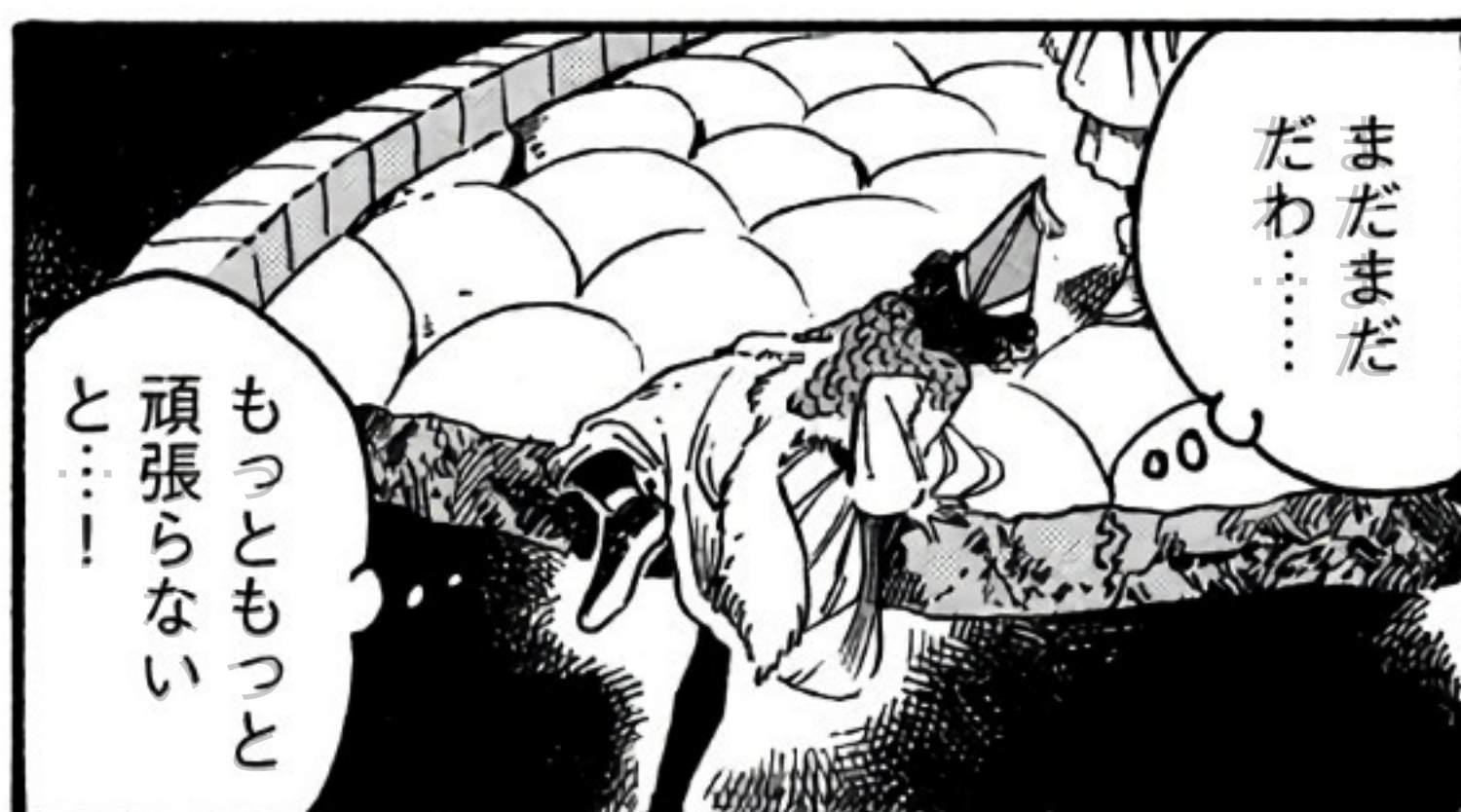


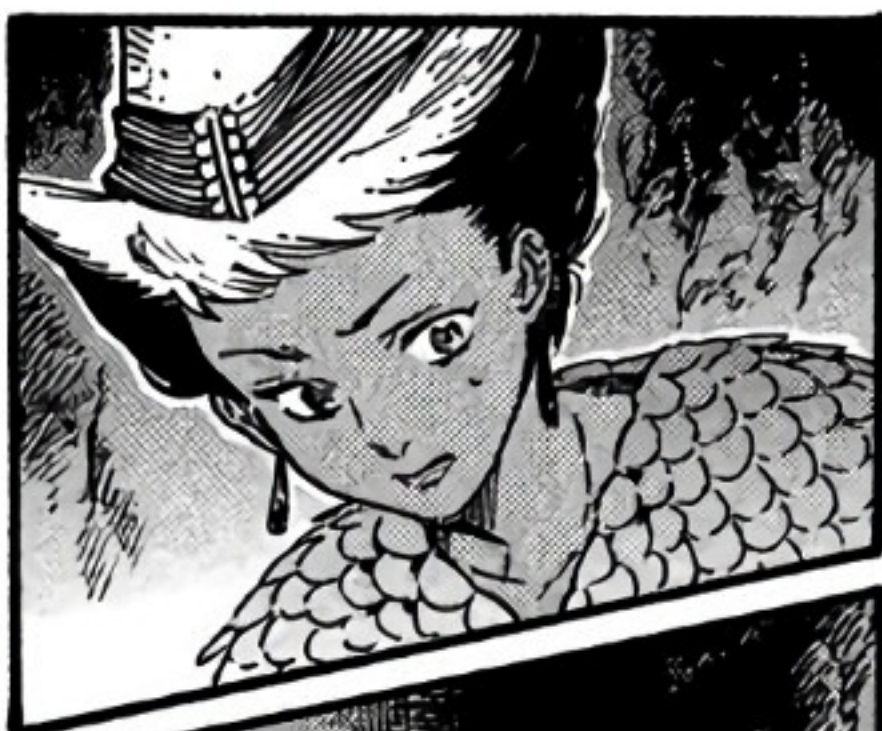




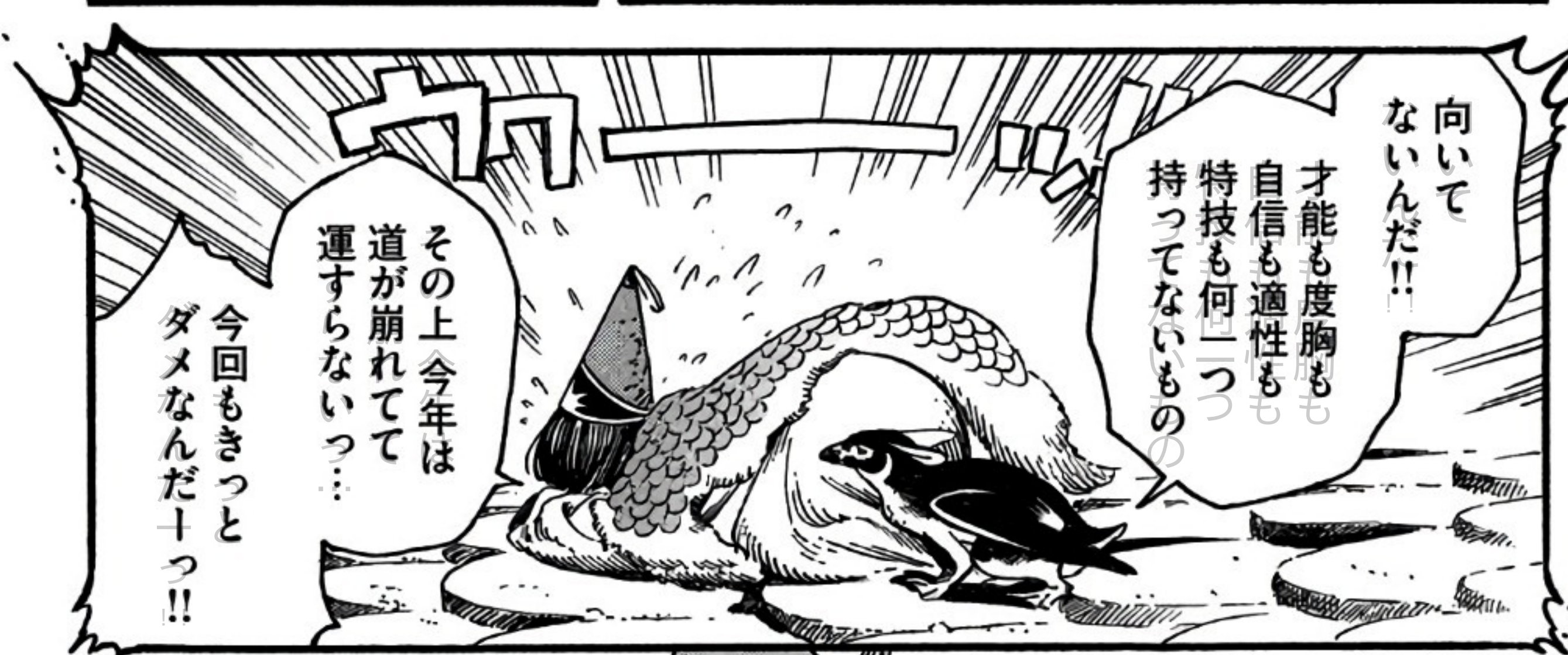








ボク
ボク
やっぱり
できないっ
...!!



向いて
ないんだ!!
才能も度胸も
自信も適性も
特技も何一つ
持っていないもの

その上今年
は道が崩れて
て運
すらないっ...

今回もきつ
とダメなんだ
っ!!

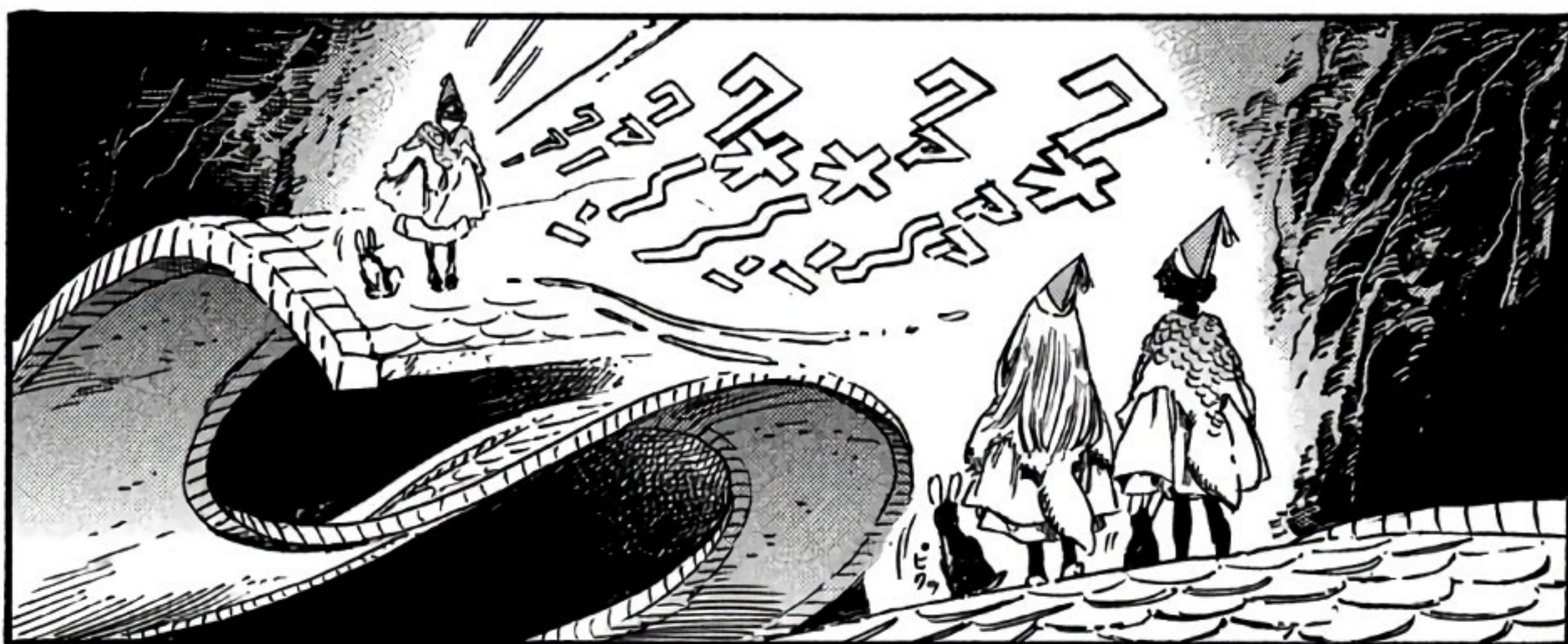


あなた最初
から分析も
うんちくも
十分に披露
して
たじゃない

2度の
経験と知識
を
活かさな
くて
どうする
のよ



あ
の
ね
え





ボ…ボク…
手の震えが
止まらなく
なっちゃうんだ



なんでもう
通り過ぎた所の
魔法なのよ!

新しいの
描かなきゃ
渡れないのに

かつ
描けないんだ!



はあ!?



自分では
どうしようも
ないんだよ…!

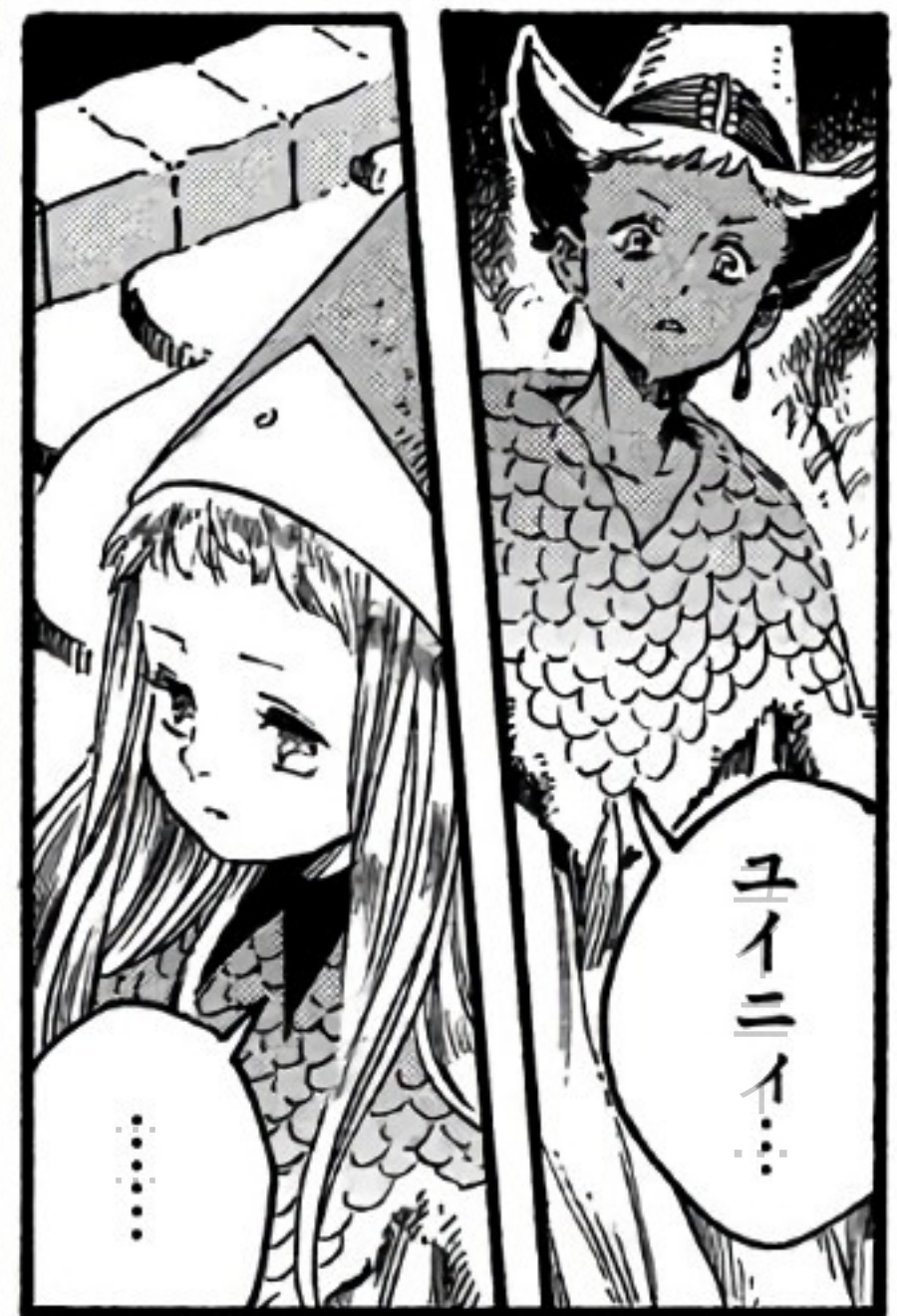


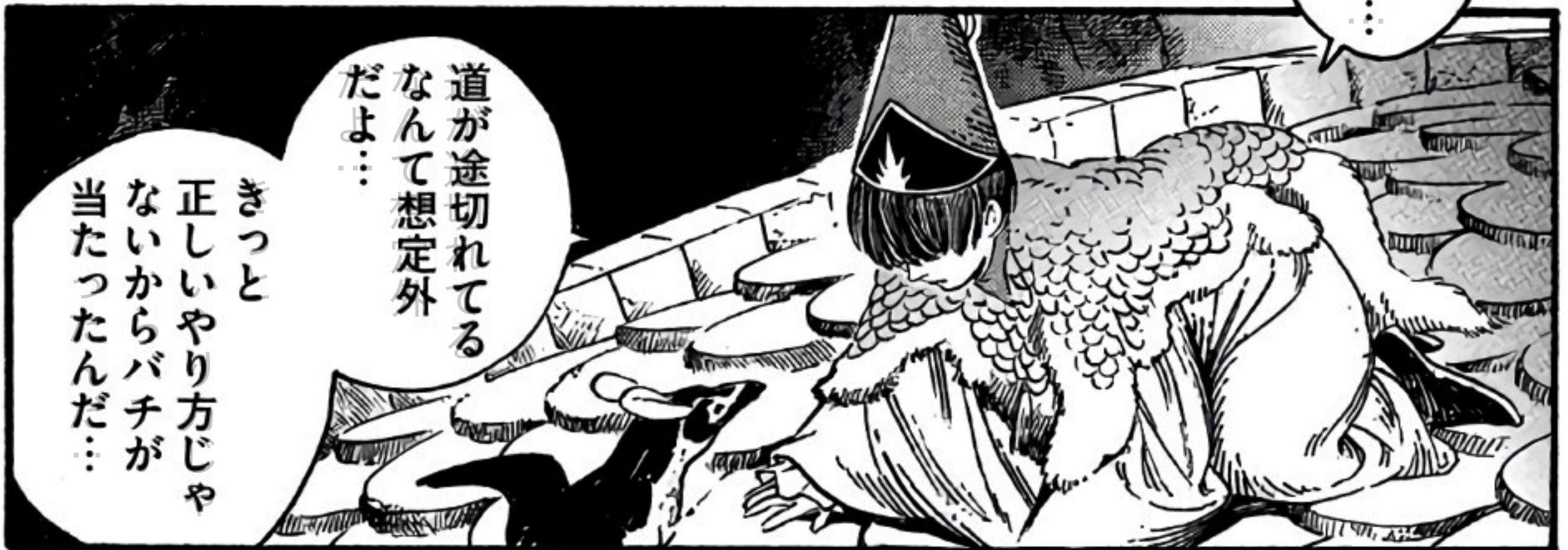
ボクだって
なんとか
したいけど

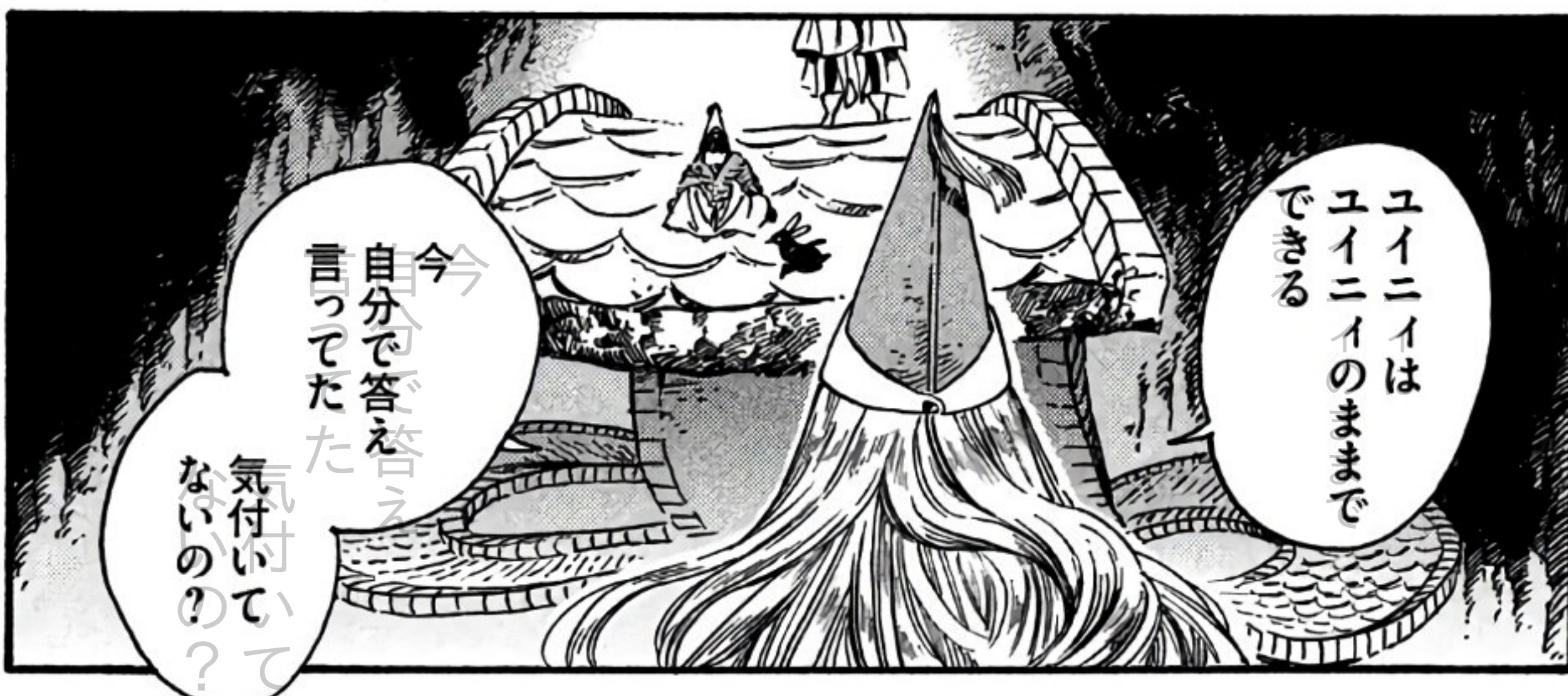
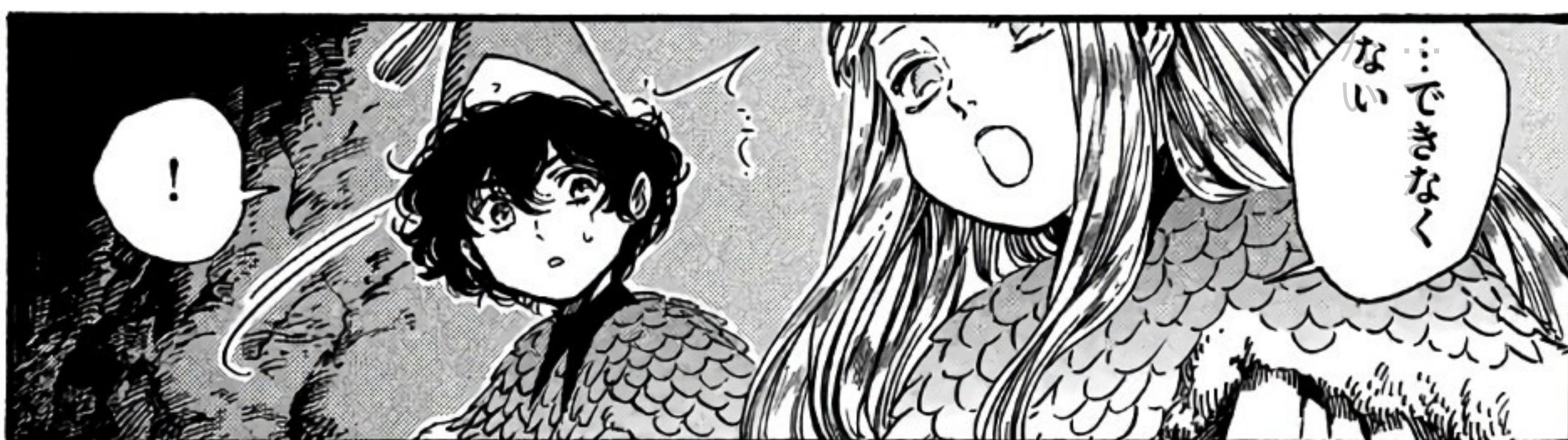


だ…誰かが
いるところで
描いた時は
一度もうまくいった
ことないんだ

見られてると思うと
汗かいて滑って
震えてブレて
酷い出来の魔法
ばかり……







一人だと
集中して
描けるなら

今二人に
なればいい
じゃん！

へ…？

そ…その
魔法が
描けないん
だけど…

じゃあ
魔法は
なしで！

えええ…

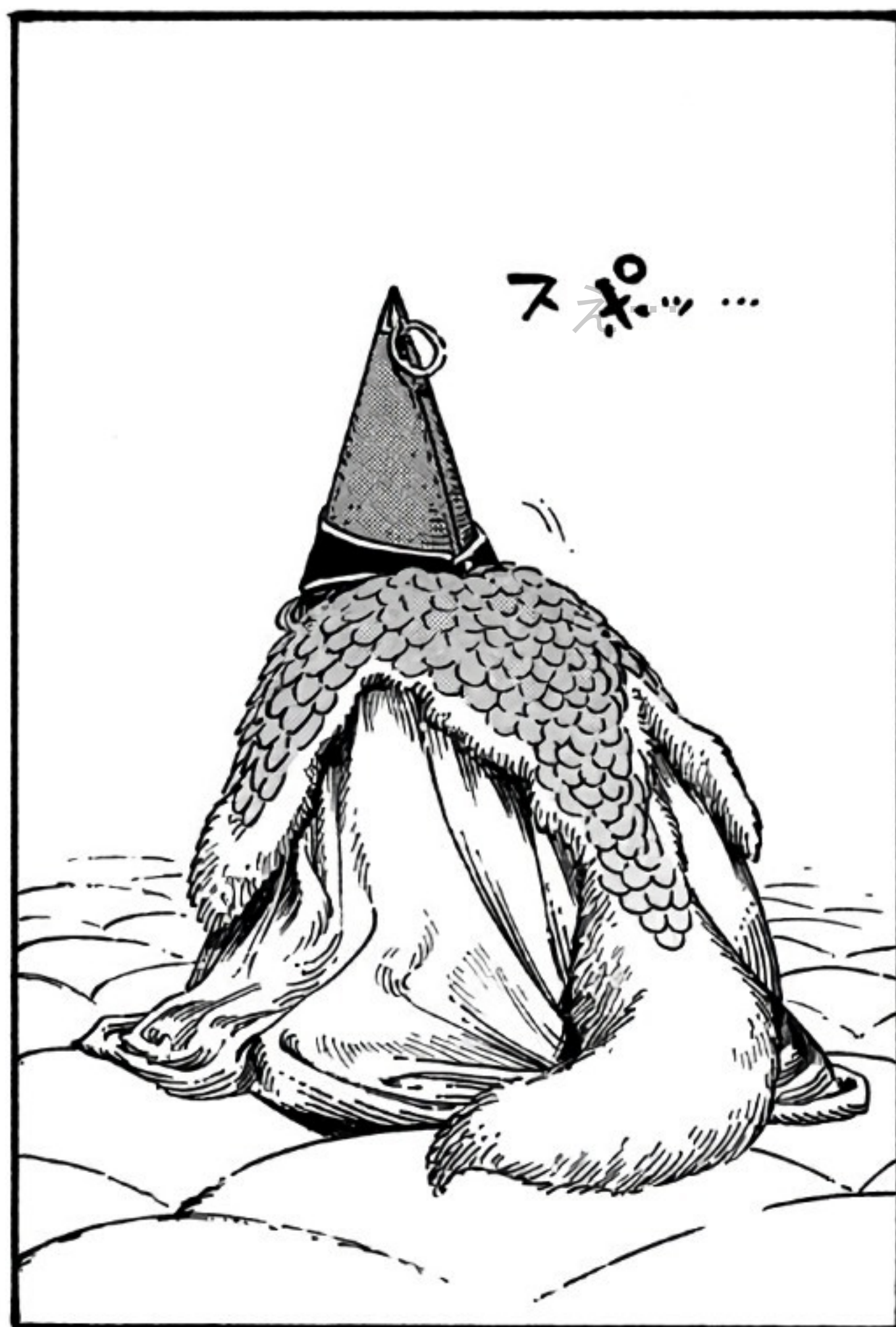
魔法では
石を伸ばしたり
雨を降らせたり
できるんだもん
一人になれる
部屋でも何でも
作れるはず！

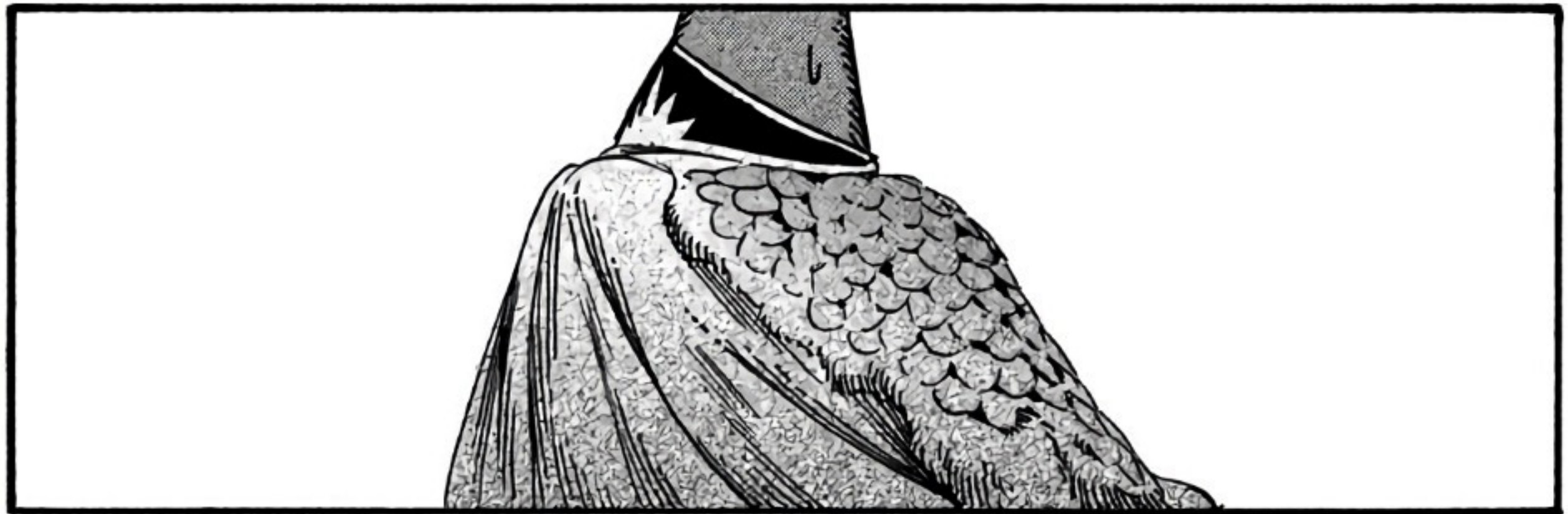
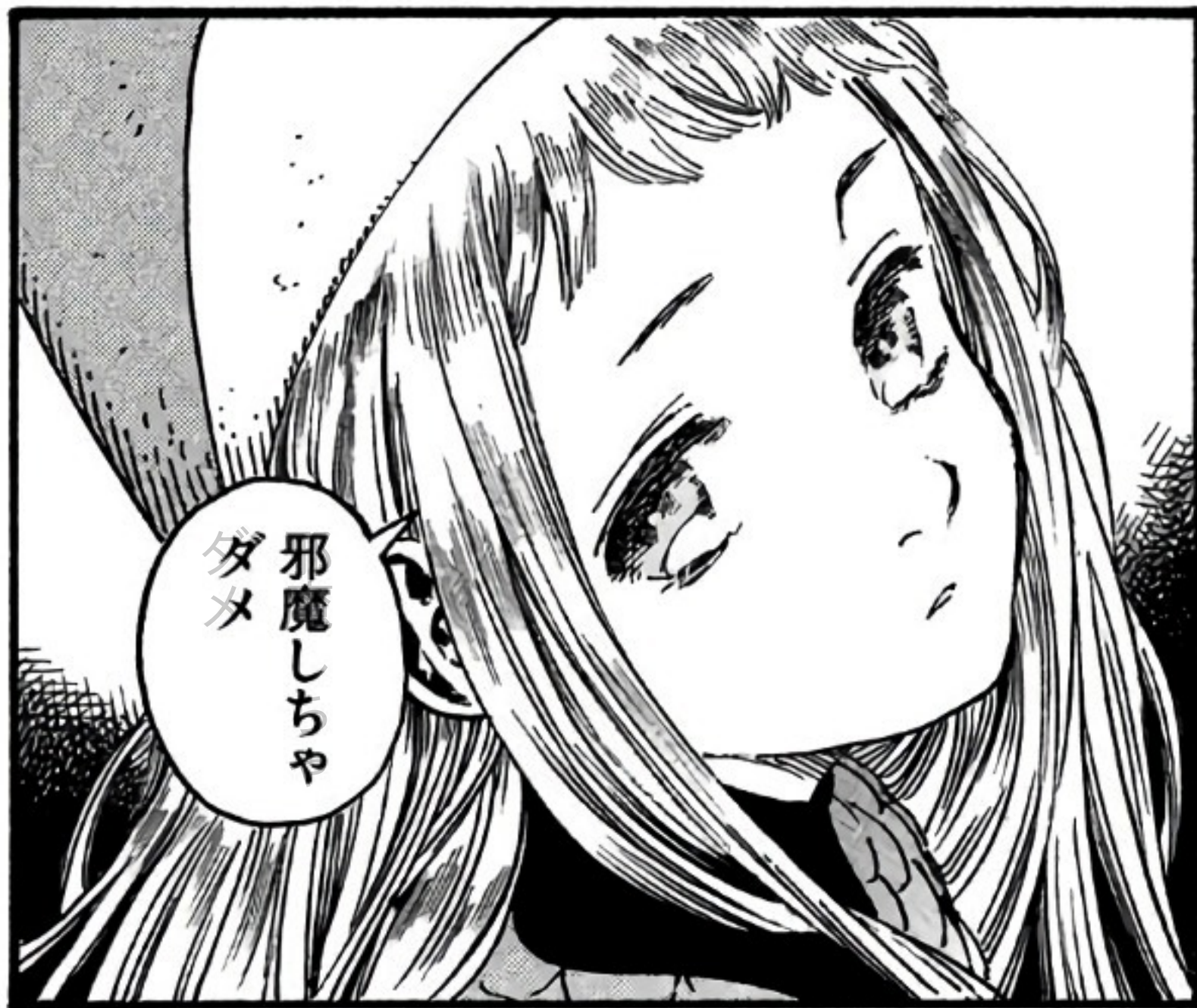
たは

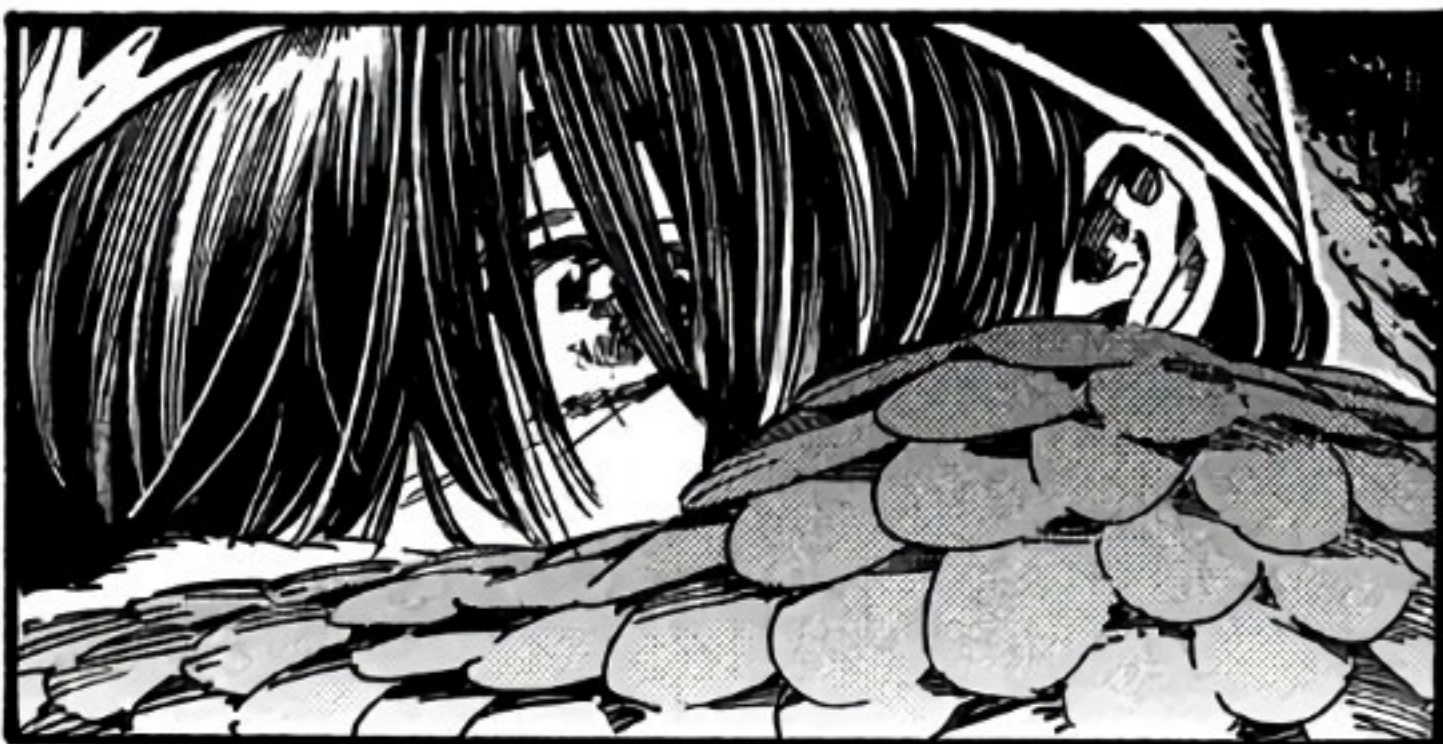
たは

たは

え…えええ…
でも
どうやって…
どうやって
でも！







笑われて
ない

誰も呆れたり
笑ったり
馬鹿にしたり
なんてしてない

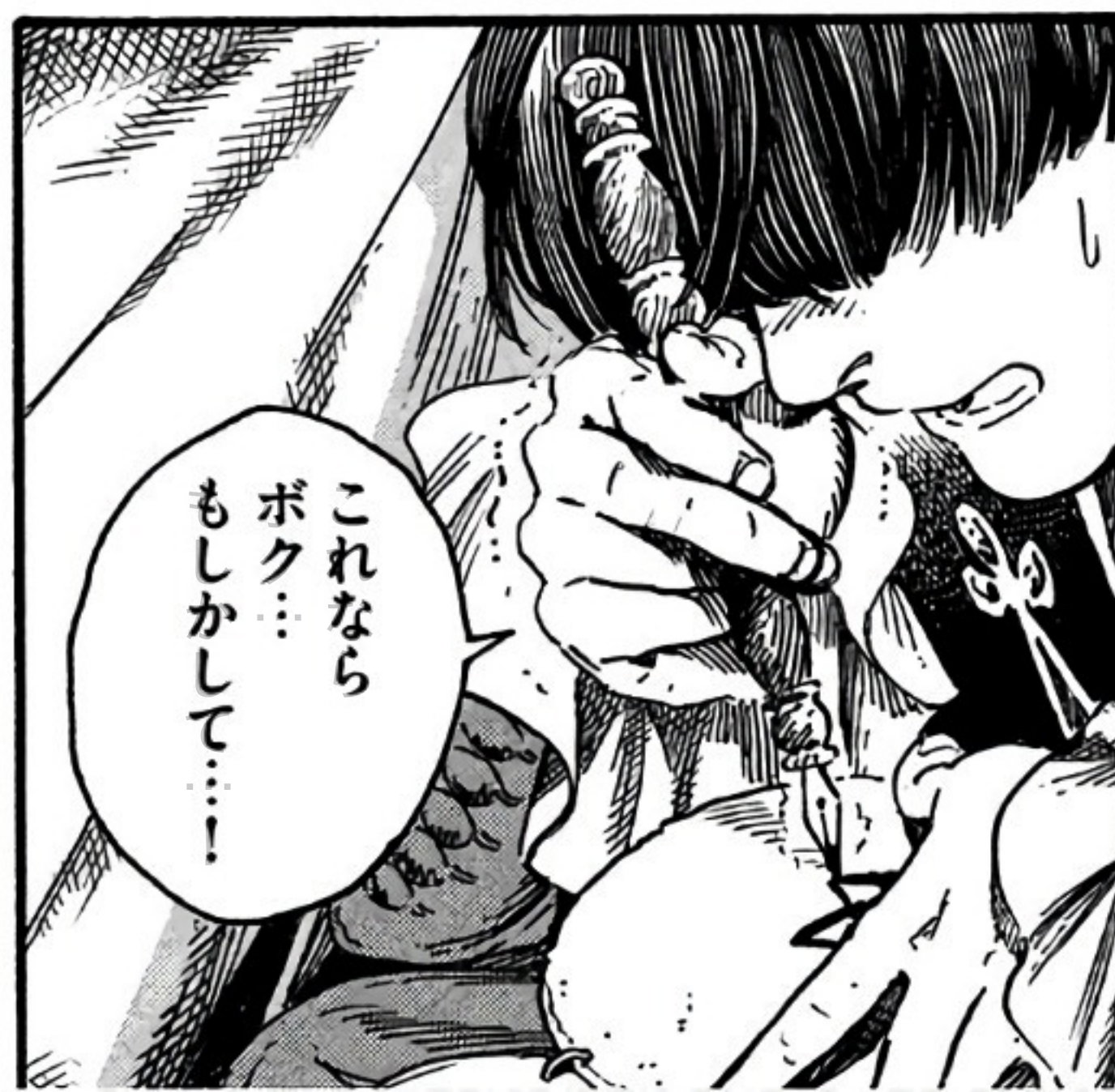
ボク自身
以外は

できるように
やれば
できる…か

そっか…

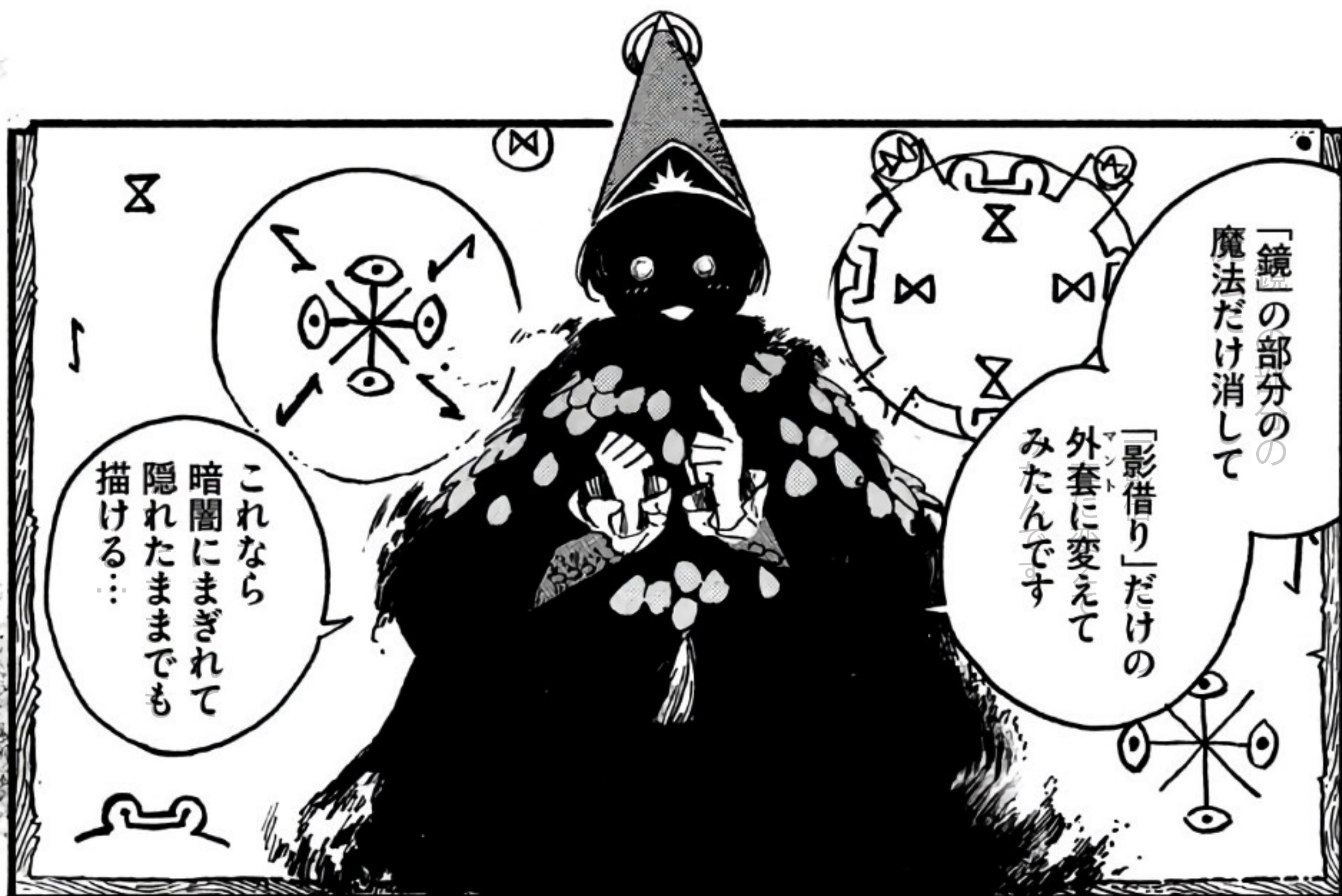
今ここでボクに
できないって
呪いをかけて
いるのは

鏡に映った
ボクだけ
だったんだ…









「鏡」の部分の魔法だけ消して

「影借り」だけの外套に変えてみたんです

これなら暗闇にまぎれて隠れたままでも描ける…



メルフォンからも見えなくなるから連れて行くのは難しくなるけど

鳴き声を真似した音魔法があるし…

彼らには人間ってバレなければいいんですよ

ま…まあ一応な

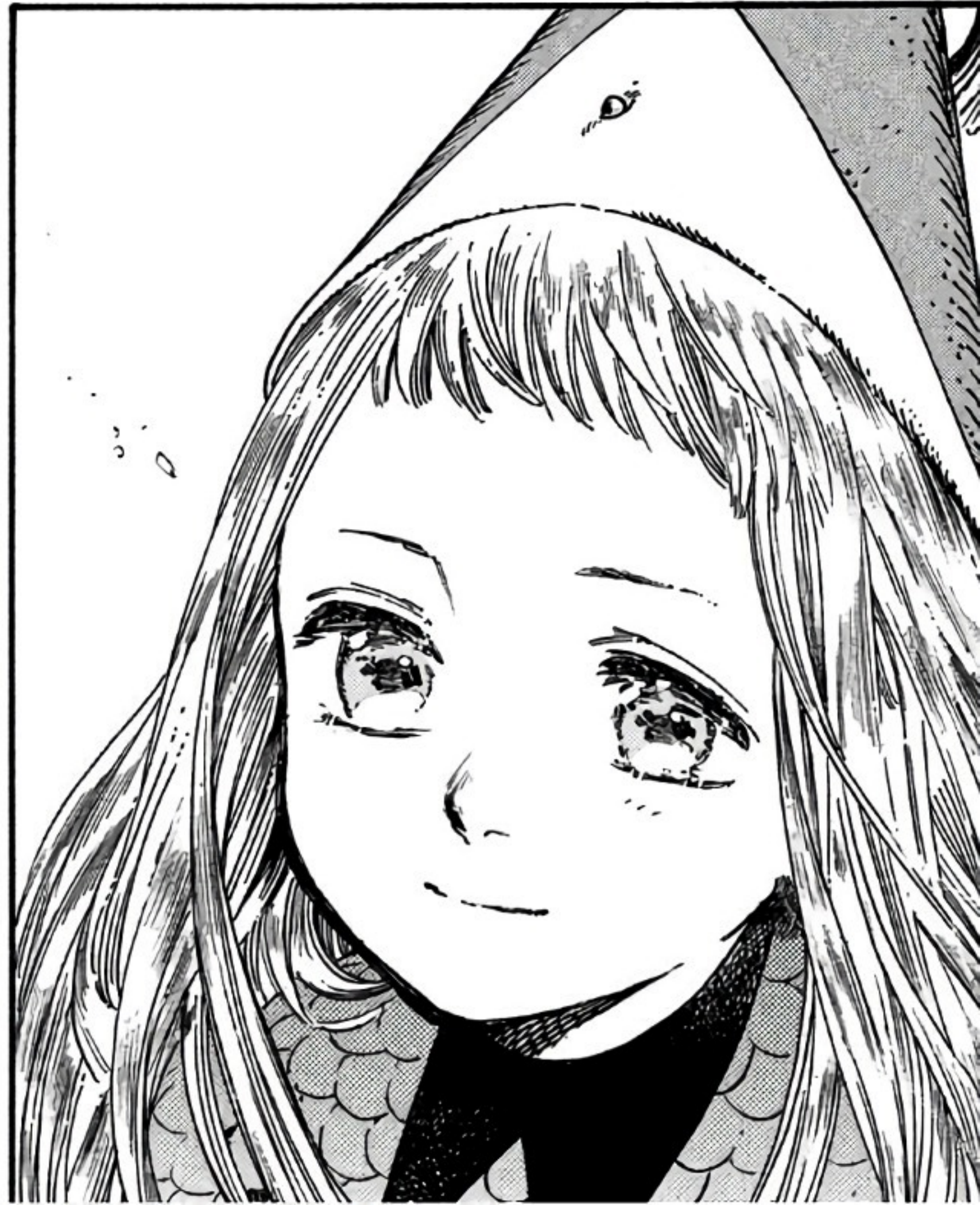
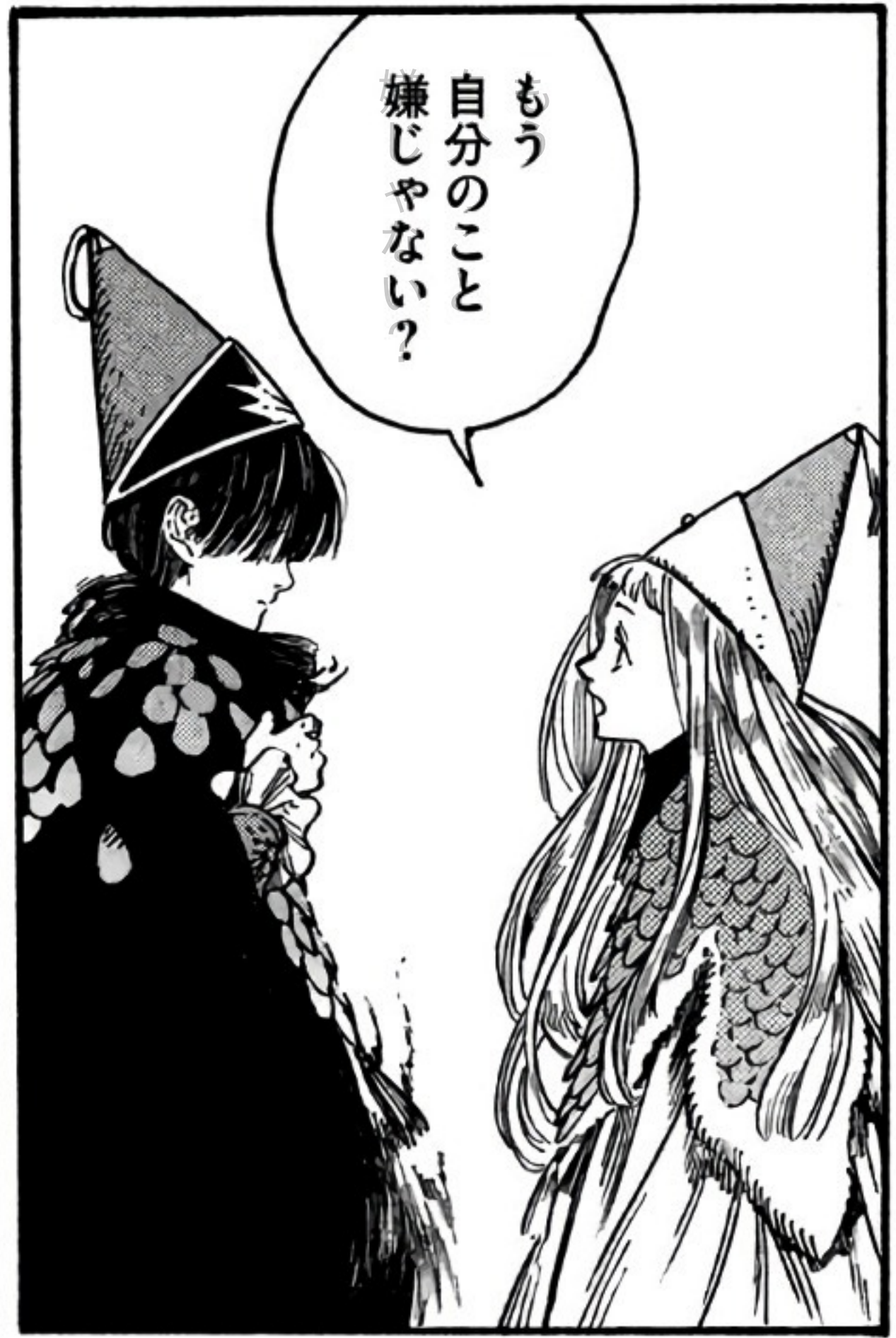


姿を隠せたら一人になれる…

集中できる！もう人目も怖くない…！！

これなら描けるかもって思ったんだ！







どうして
あいつに
助言したの？



あ…あの…
ありがとう！
リチエさん！



い…言っちゃう
かも…
で…でもそこで
終わらせないよう
がんばるよ！



やりたいのに
できない時の
嫌な気持ち

リチエも
わかるから

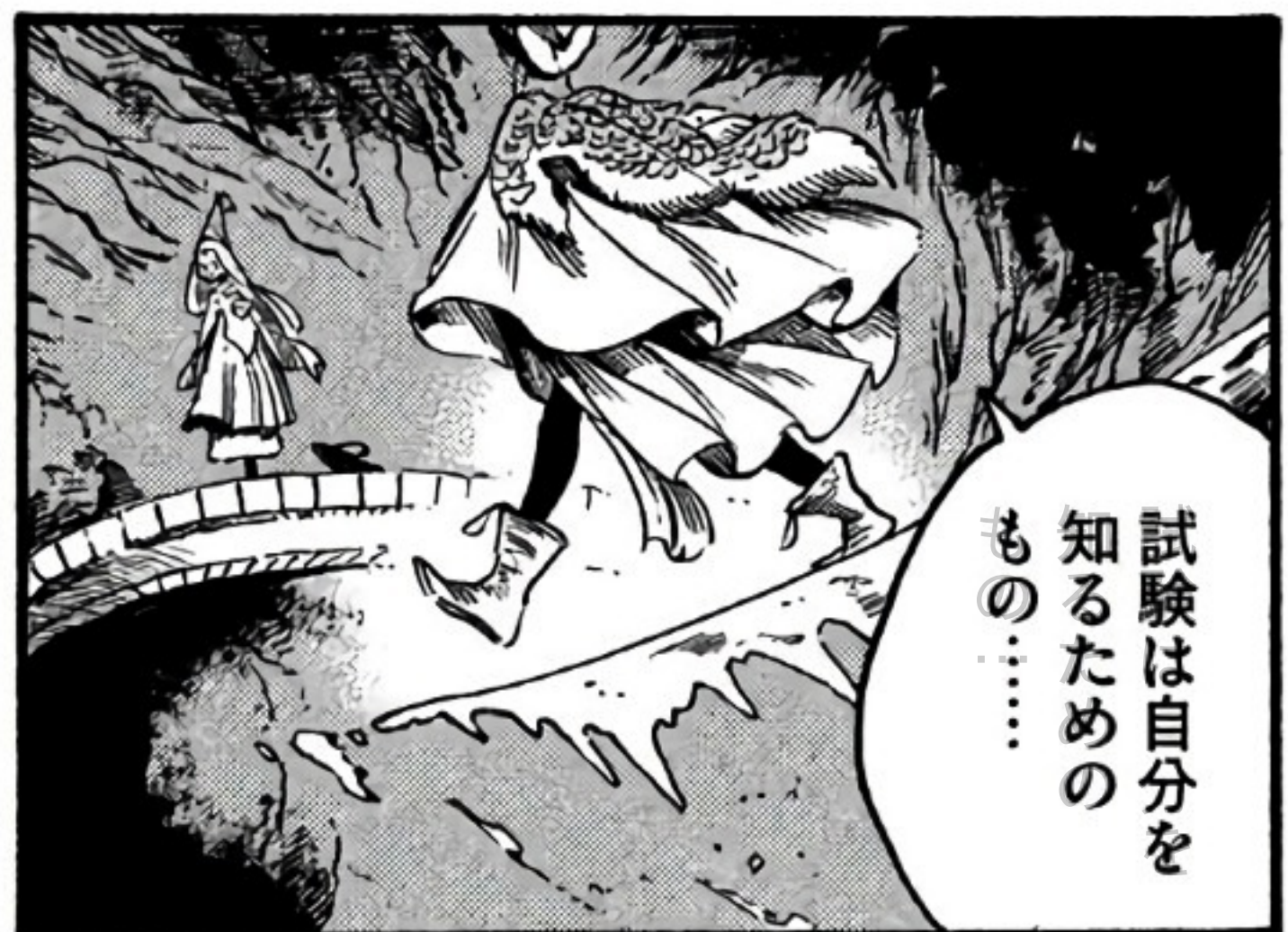


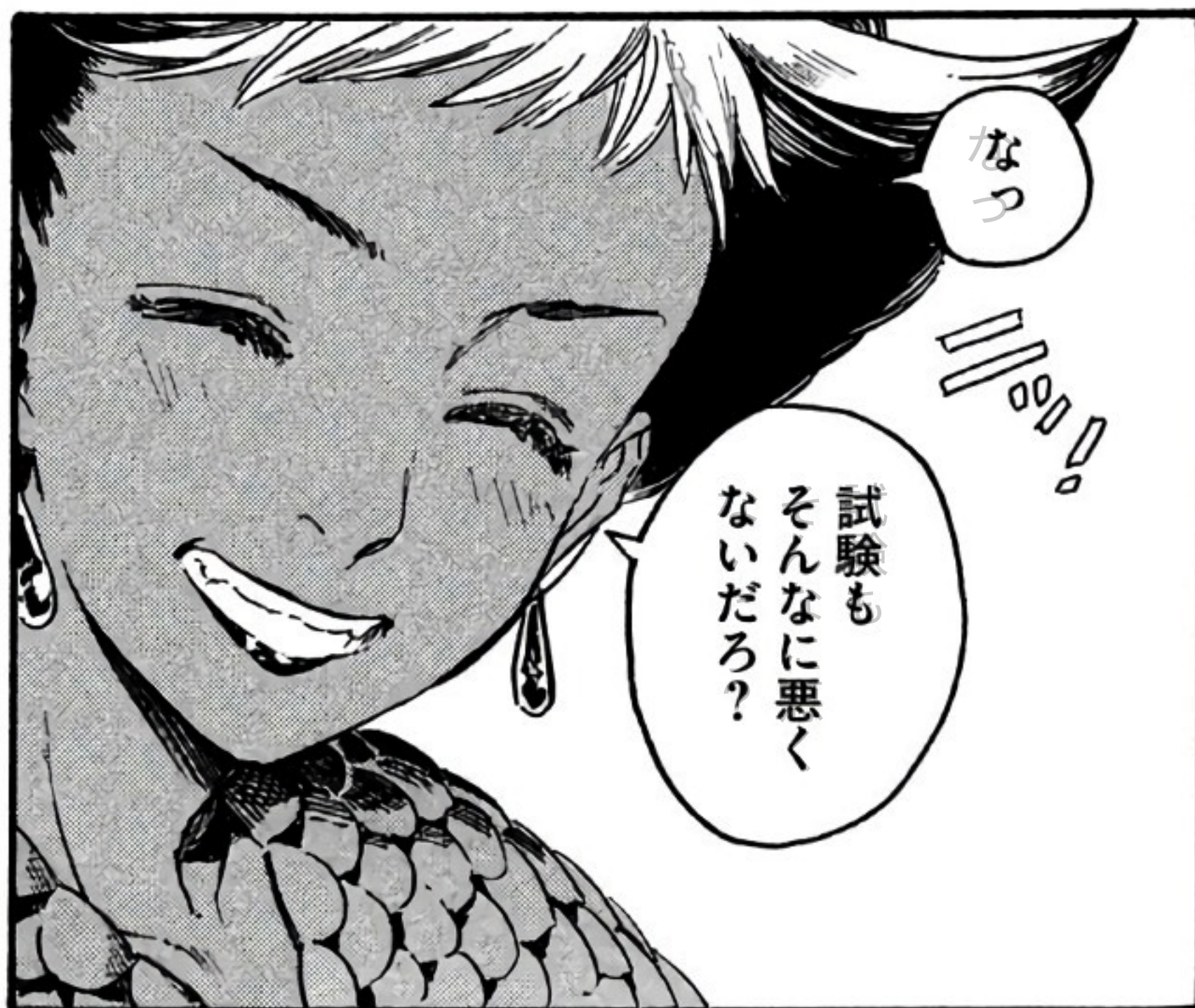
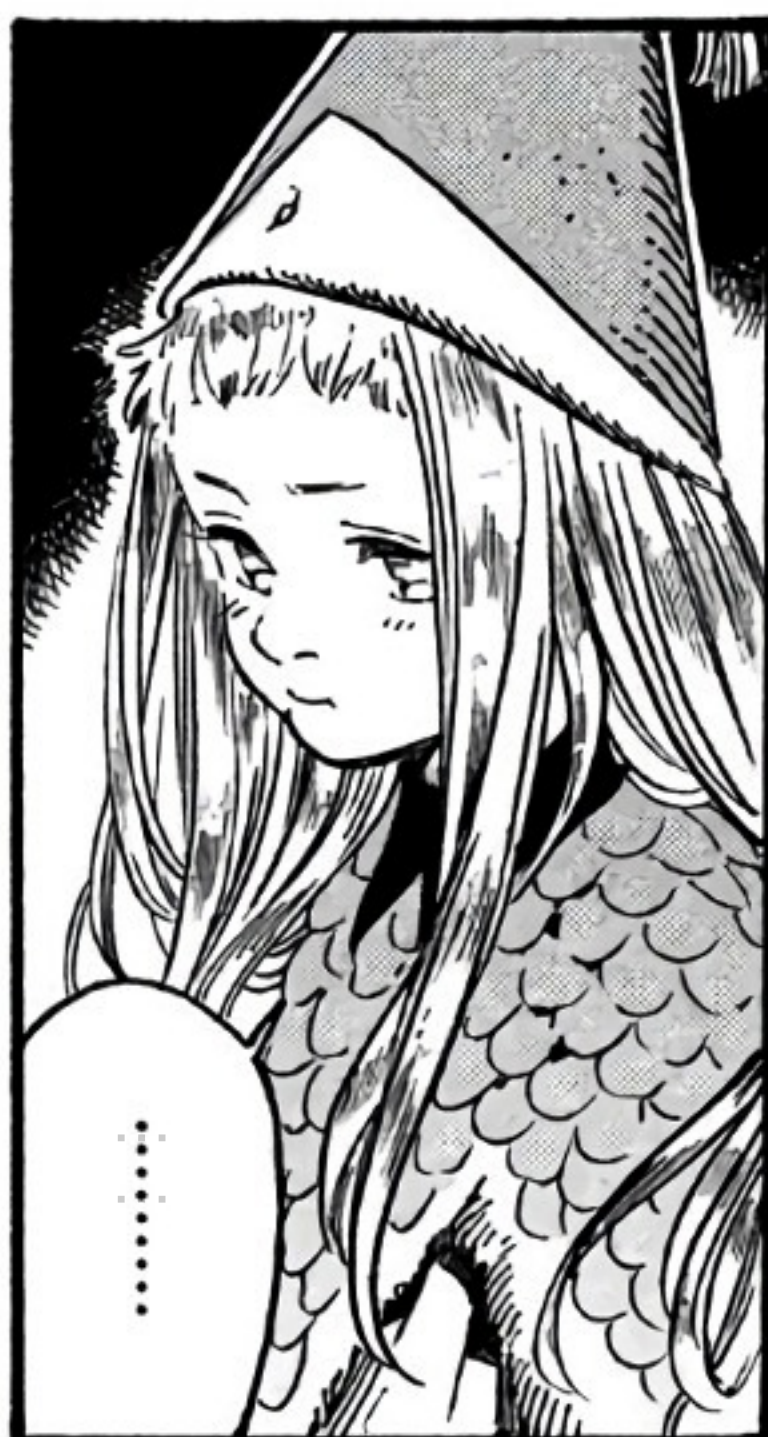
あなたは他人に
関心がないんだと
思ってたわ



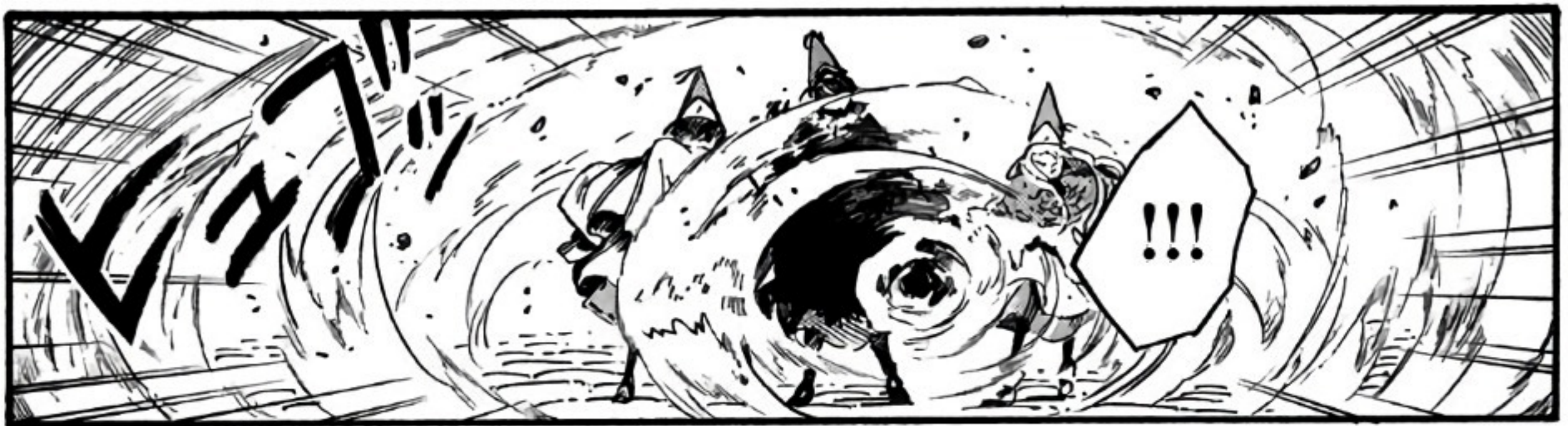
ユイニイは最初
リチエを助けて
くれたから
これでおあいこ

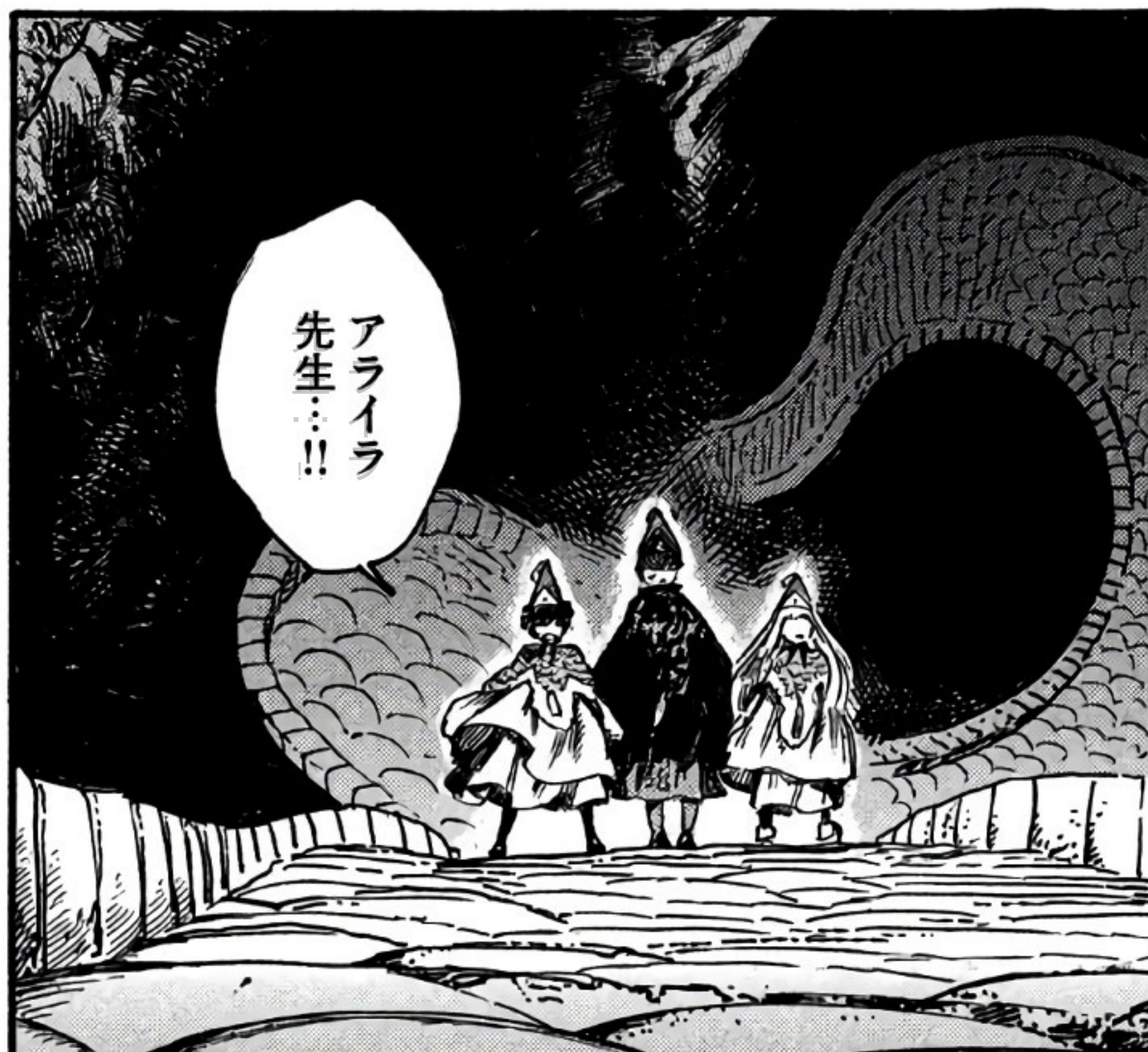
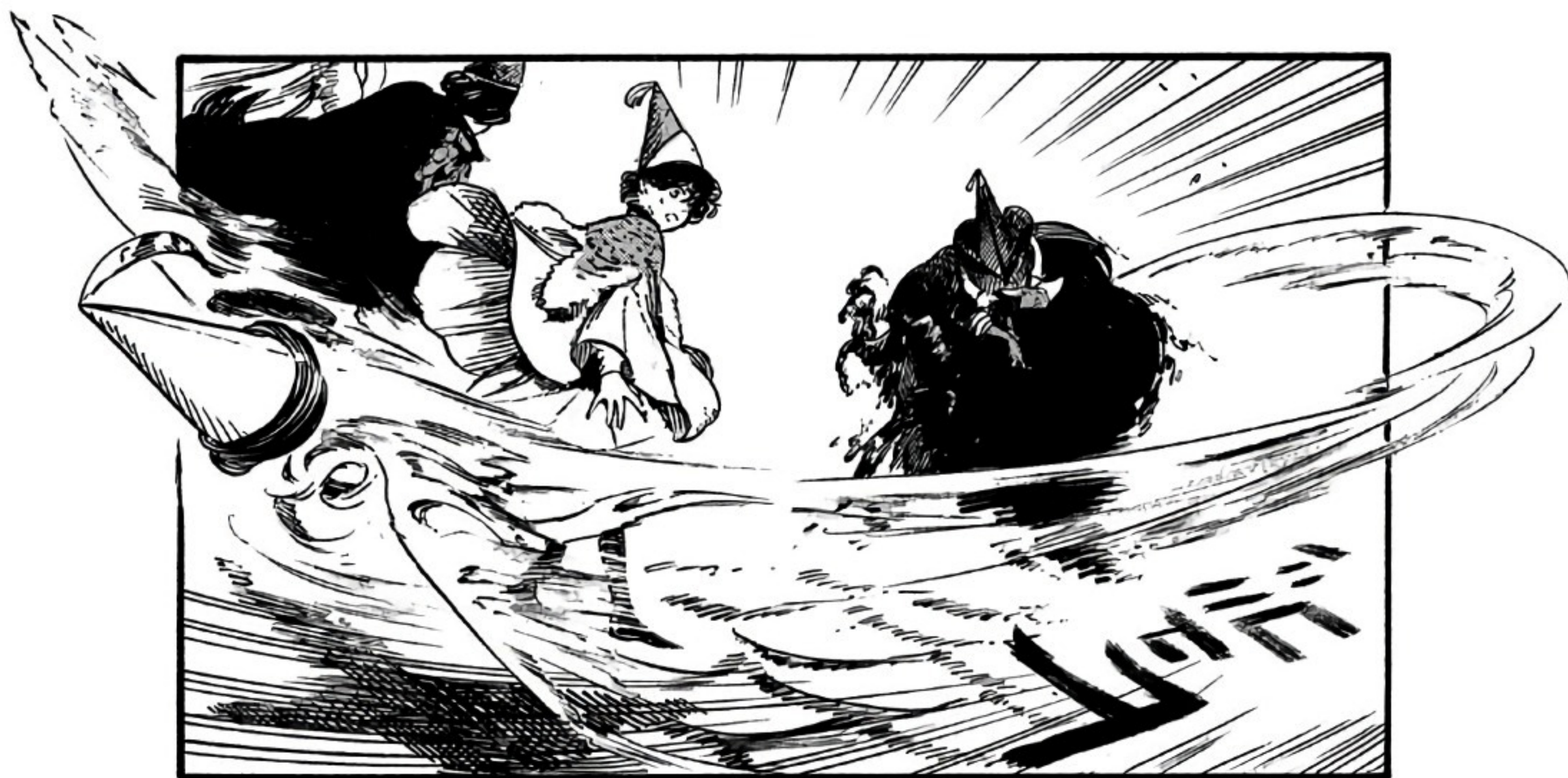
それに…









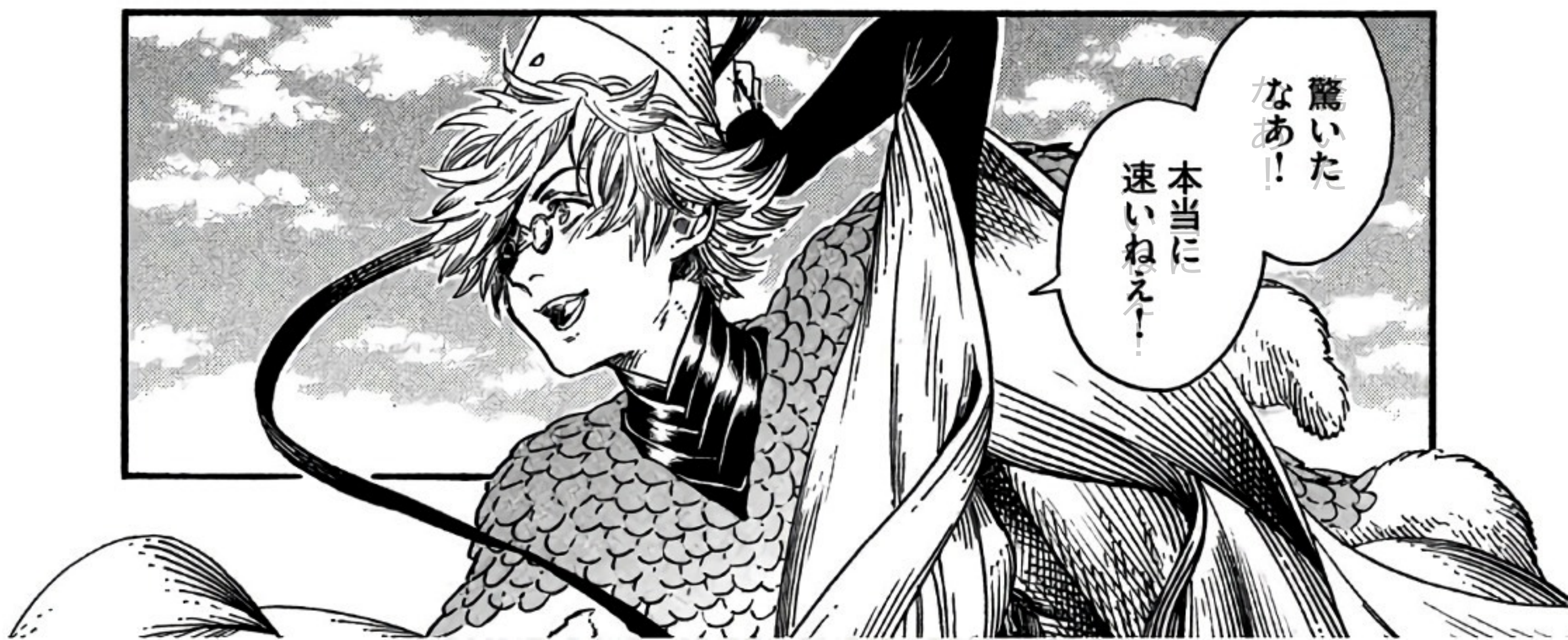
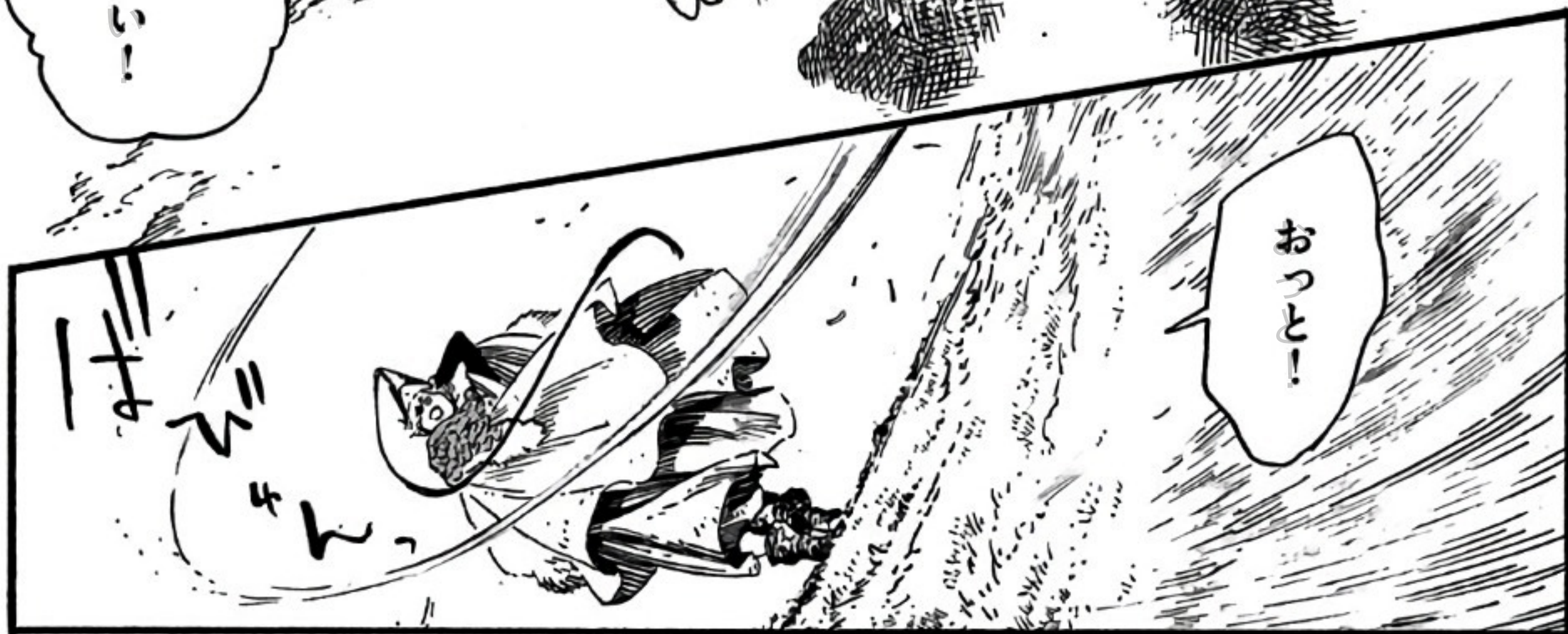


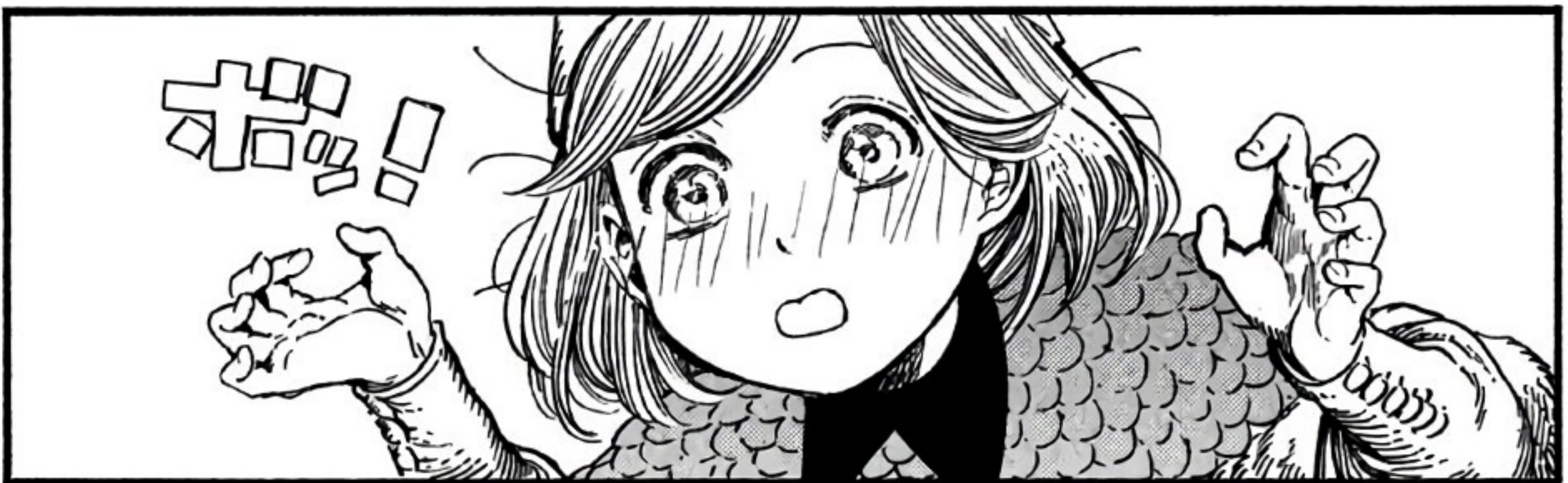
とんがり帽子のアトリエ

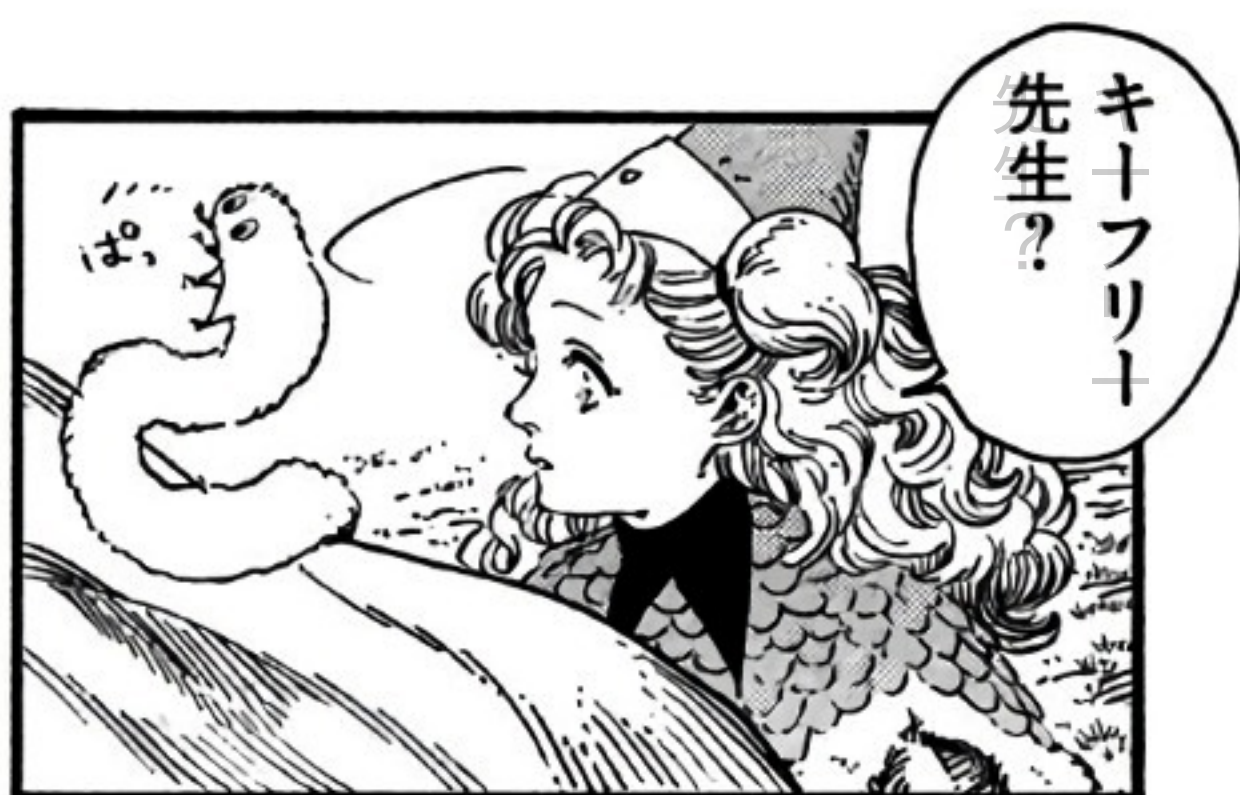
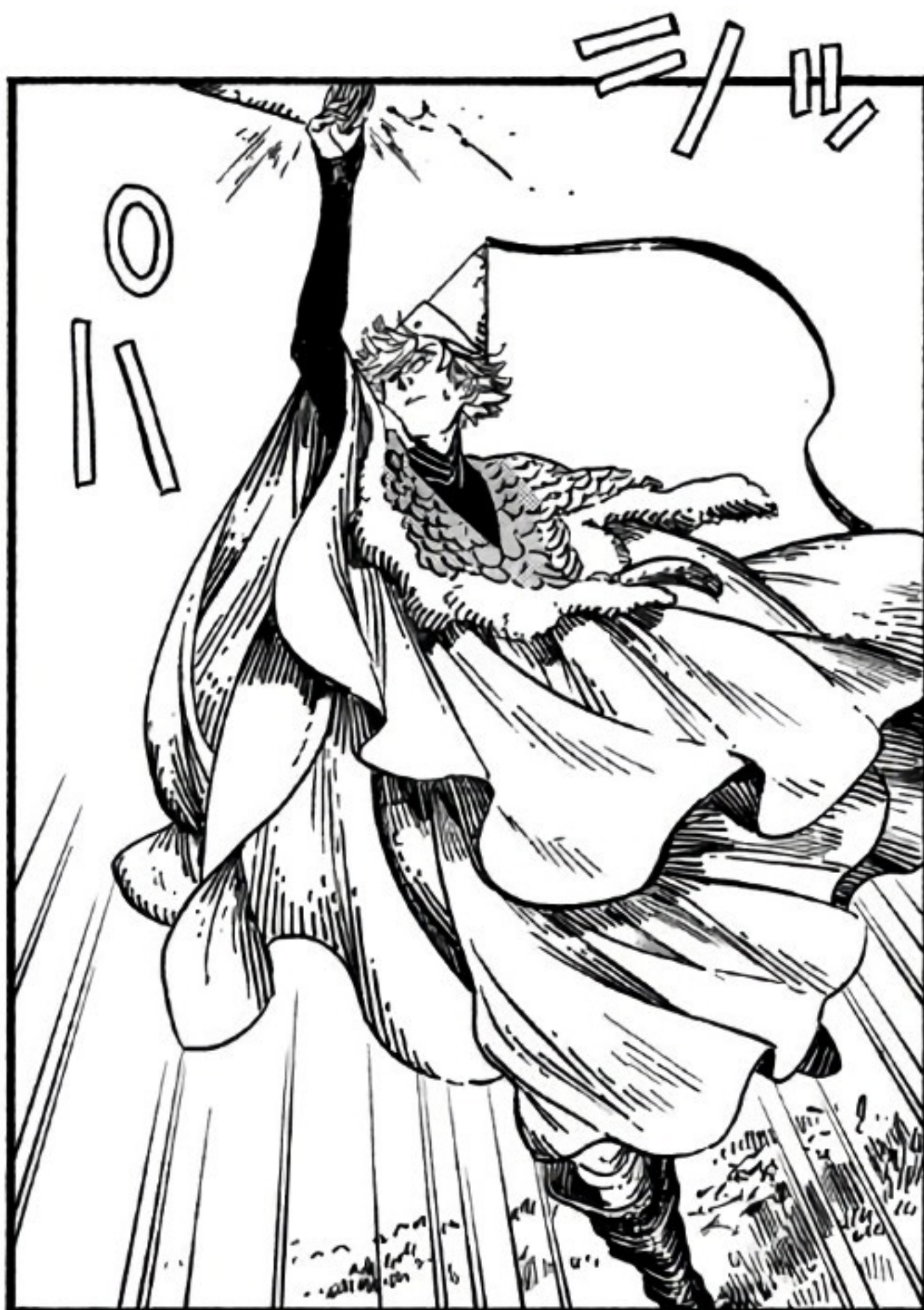
ATELIER OF WITCH AHAT













まさか…



この帽子は
魔法使いにとって
特別なもの

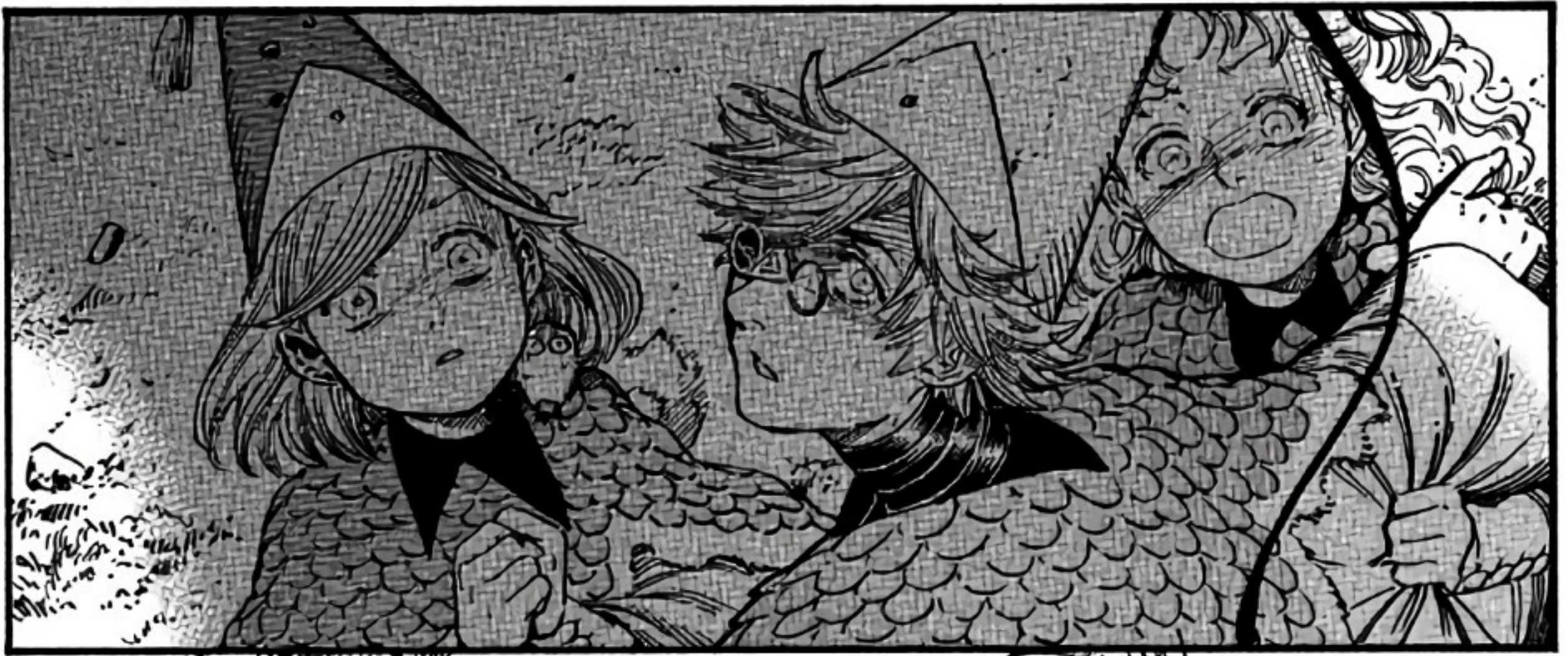
それを送つて
よこすなんて
よっぽどのが
起きたんだ



「つばあり帽」の
接触…!?









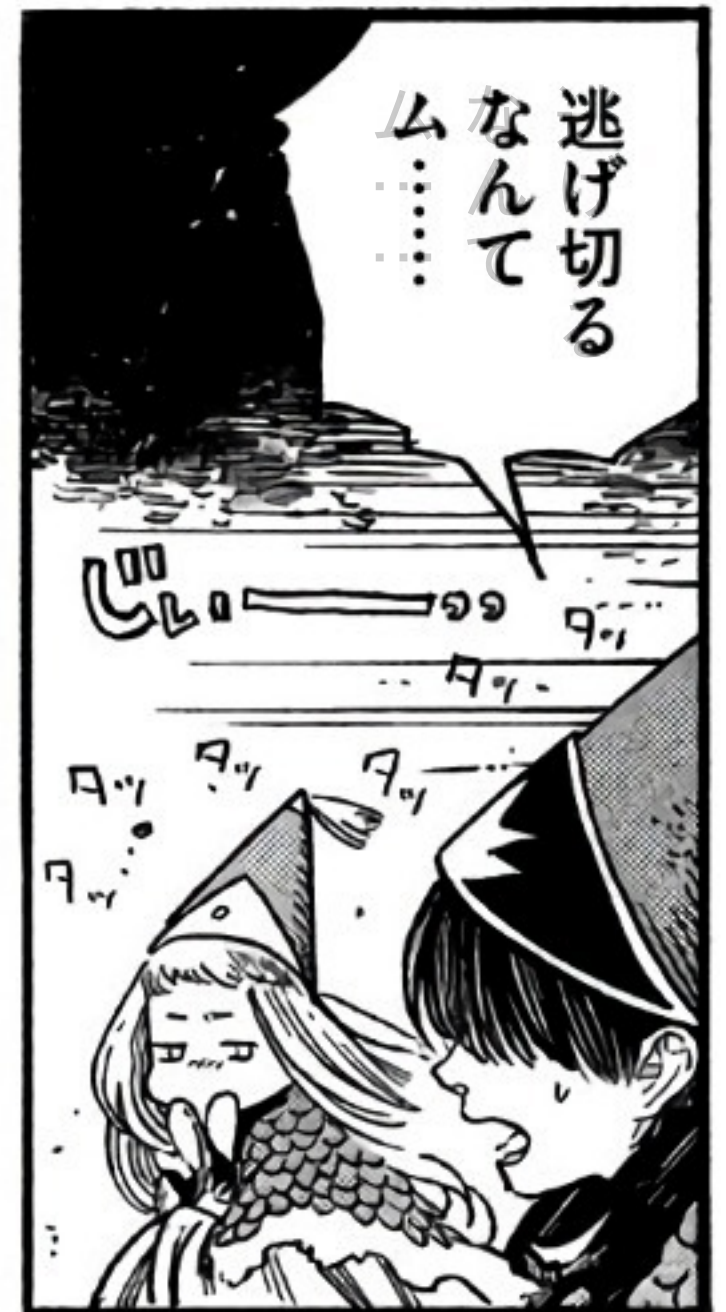
動石像
だって!?

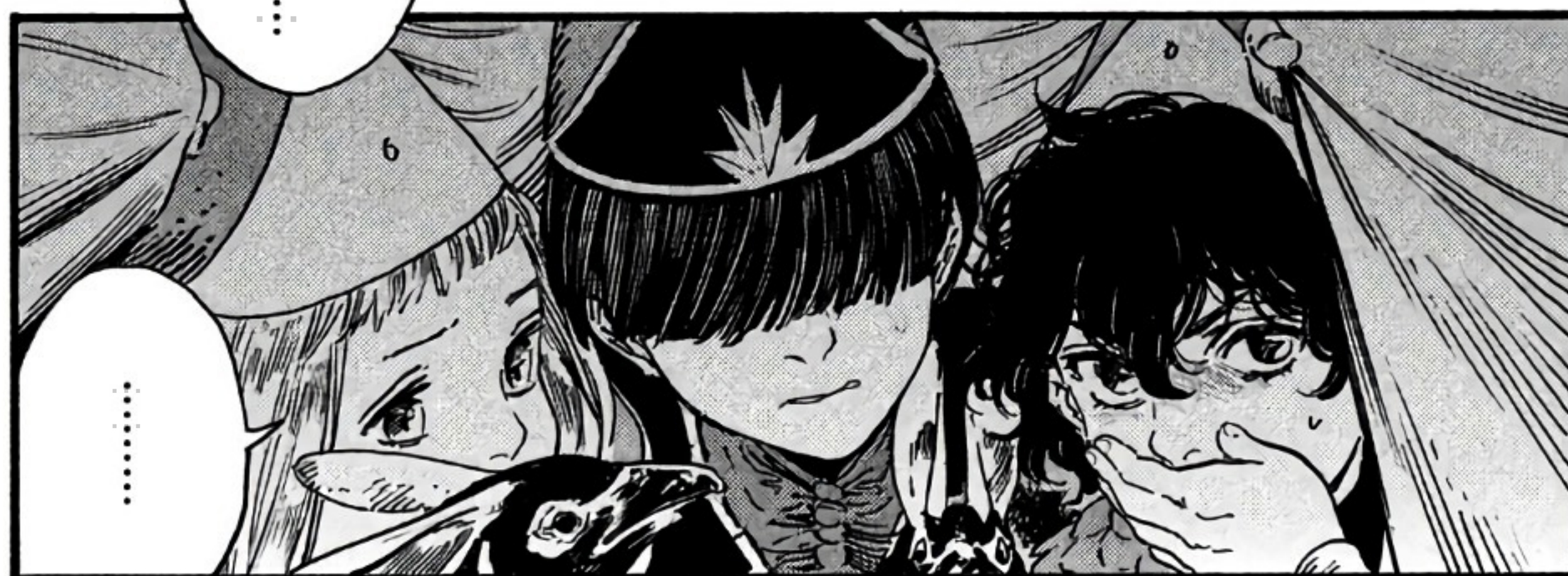
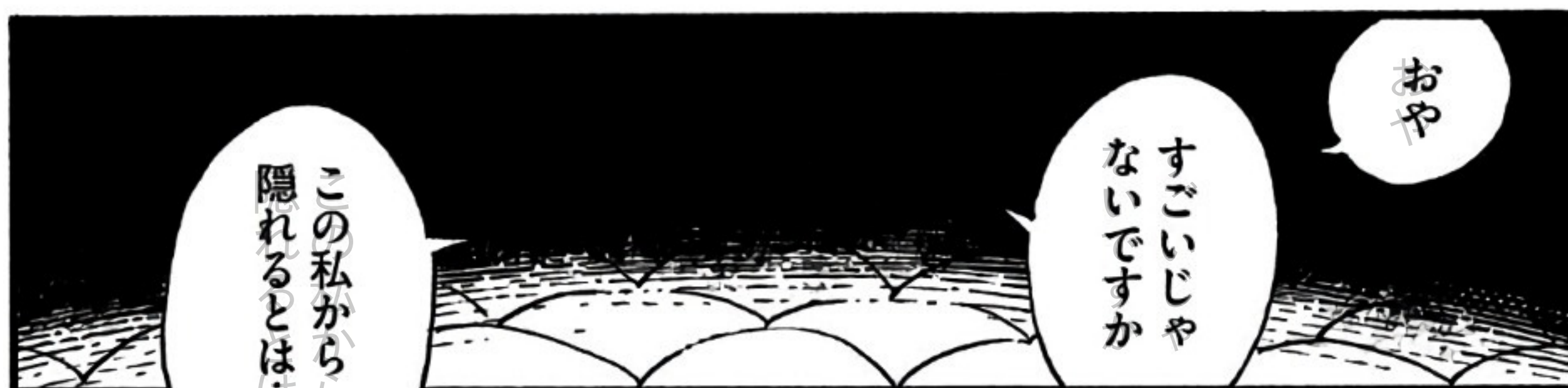
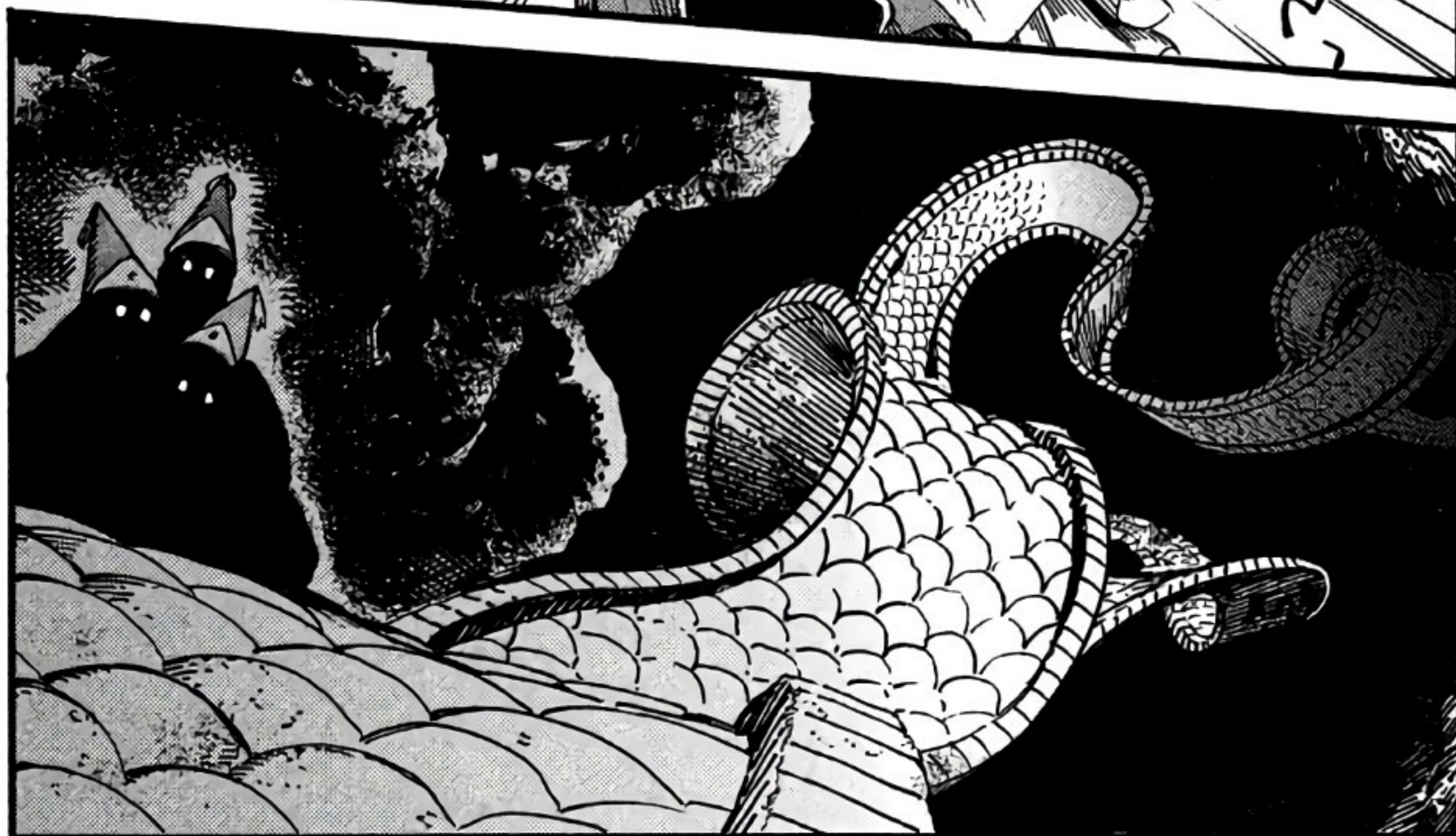
こんな古い
禁止魔法が
生きている
ハズがない

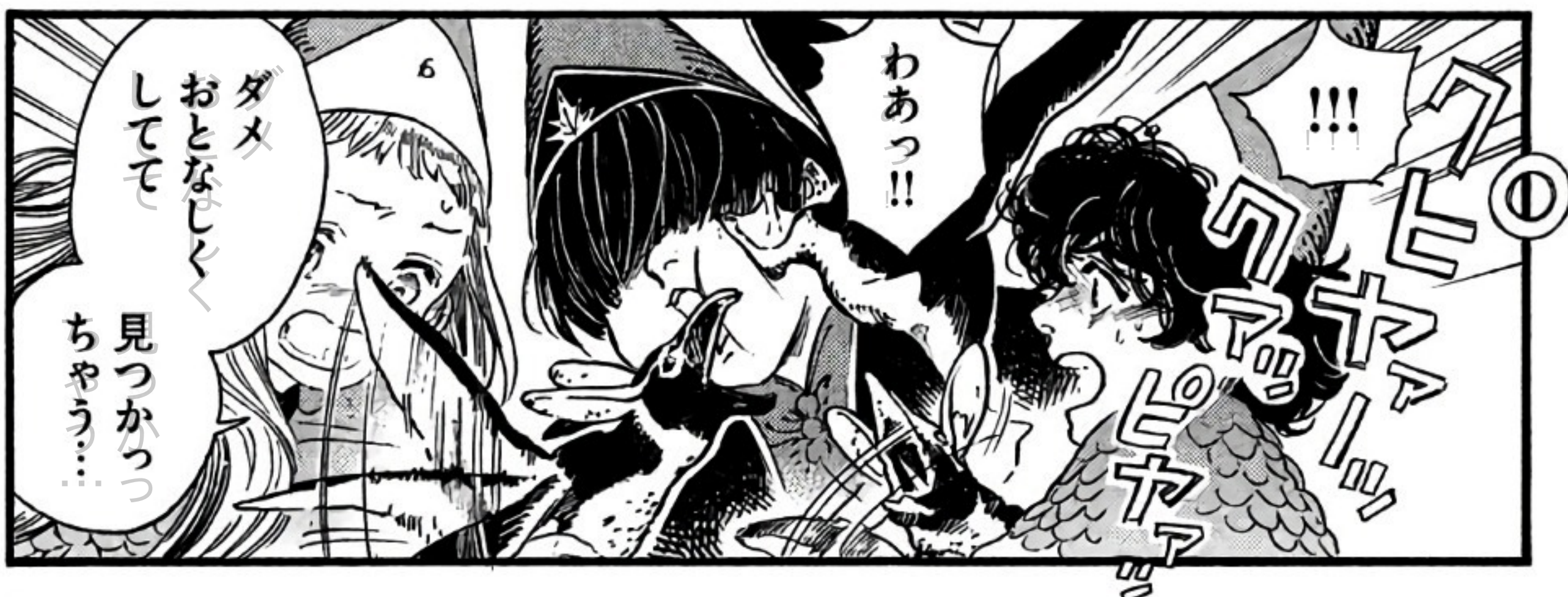
やはり
「つばあり帽」の
仕業…!!

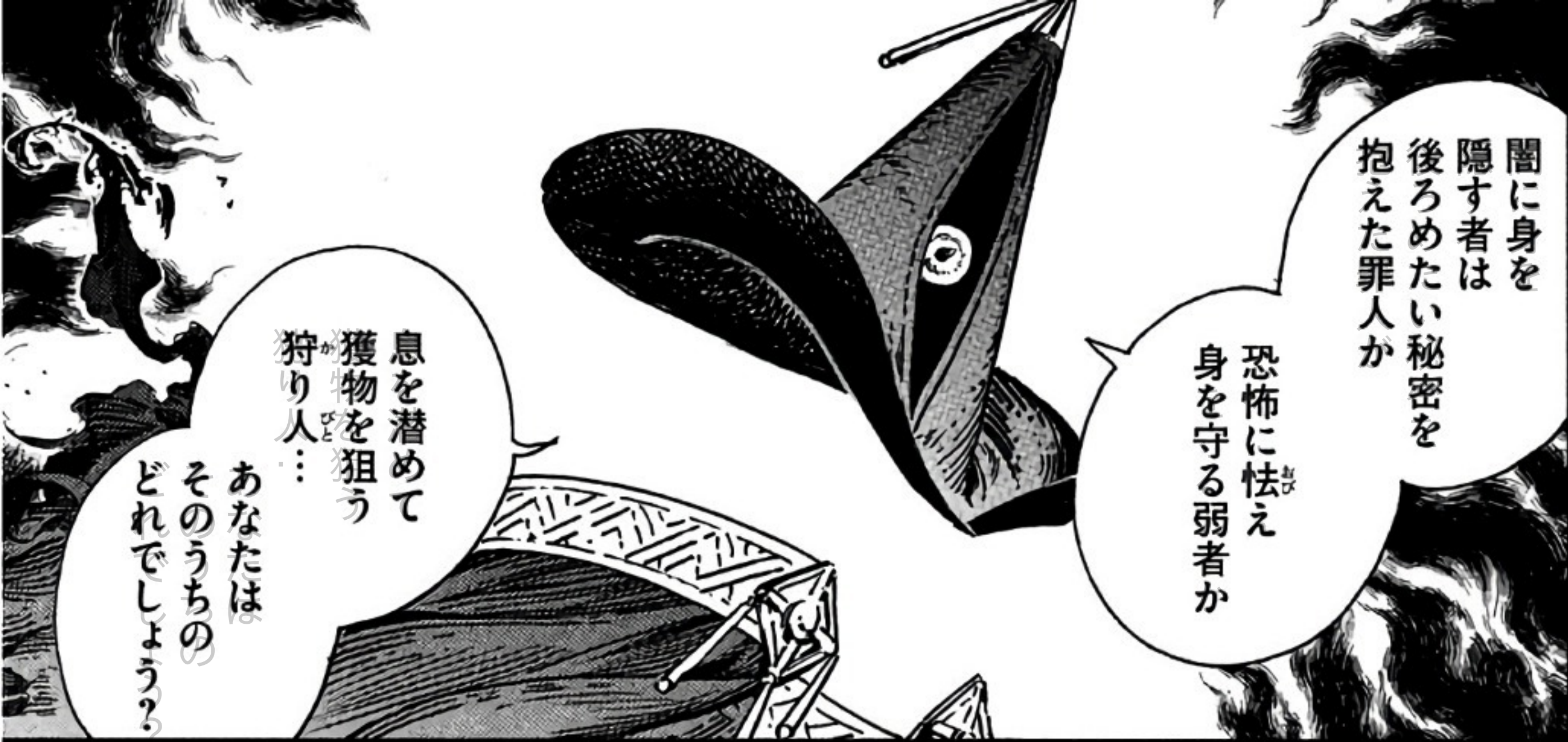
うあっ

キーフリー
先生っ!!









闇に身を
隠す者は
後ろめたい秘密を
抱えた罪人か

恐怖に怯え
身を守る弱者か

息を潜めて
獲物を狙う
狩り人……

あなたは
そのうちの
どれでしょう？



!?

消えたっ!?

狩り人で
ないことは
確かですね



助けて！
吸い込まれる！

それならっ……



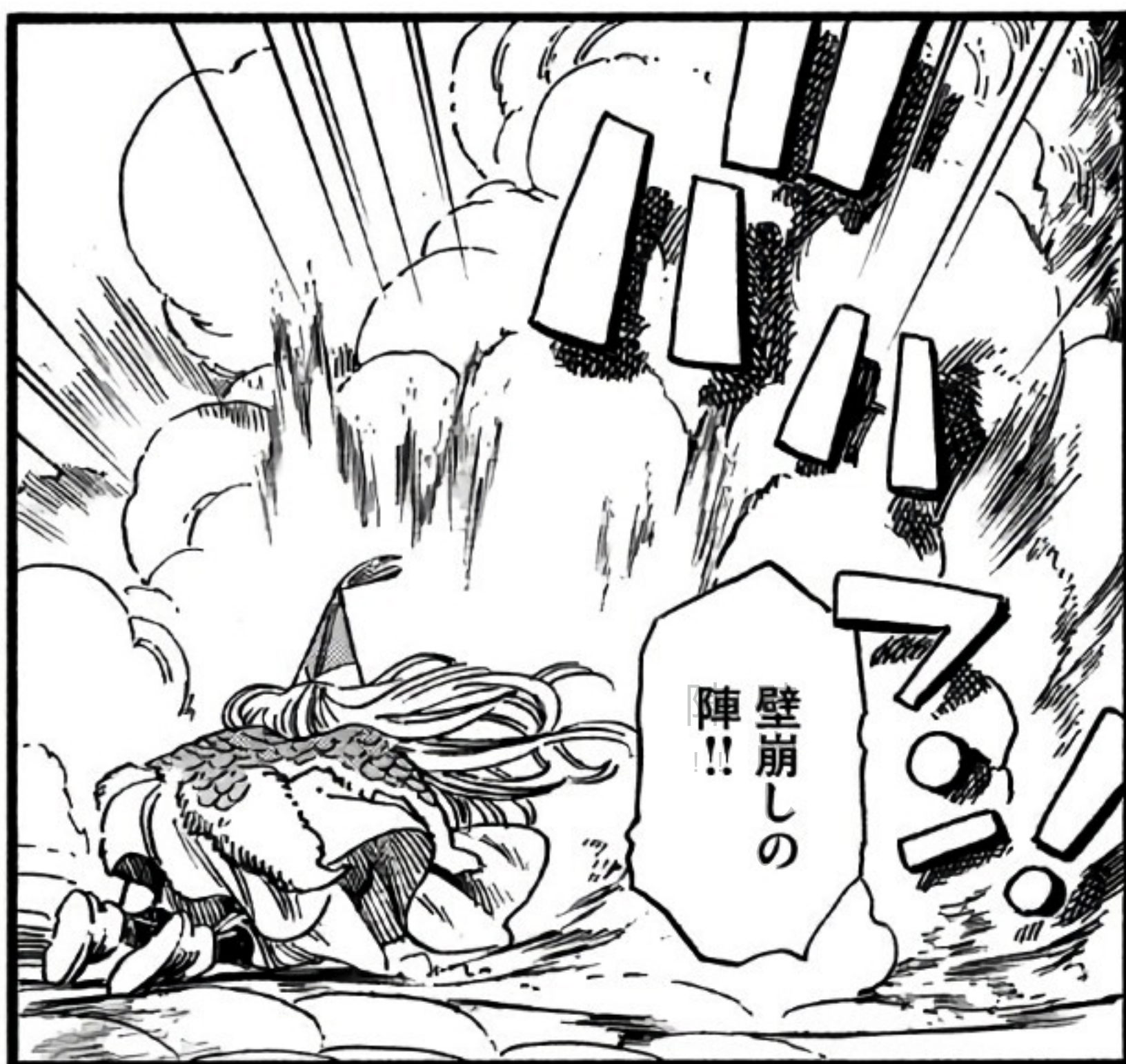
わああっ

ユイニイ!!



狩り人は
私ですから

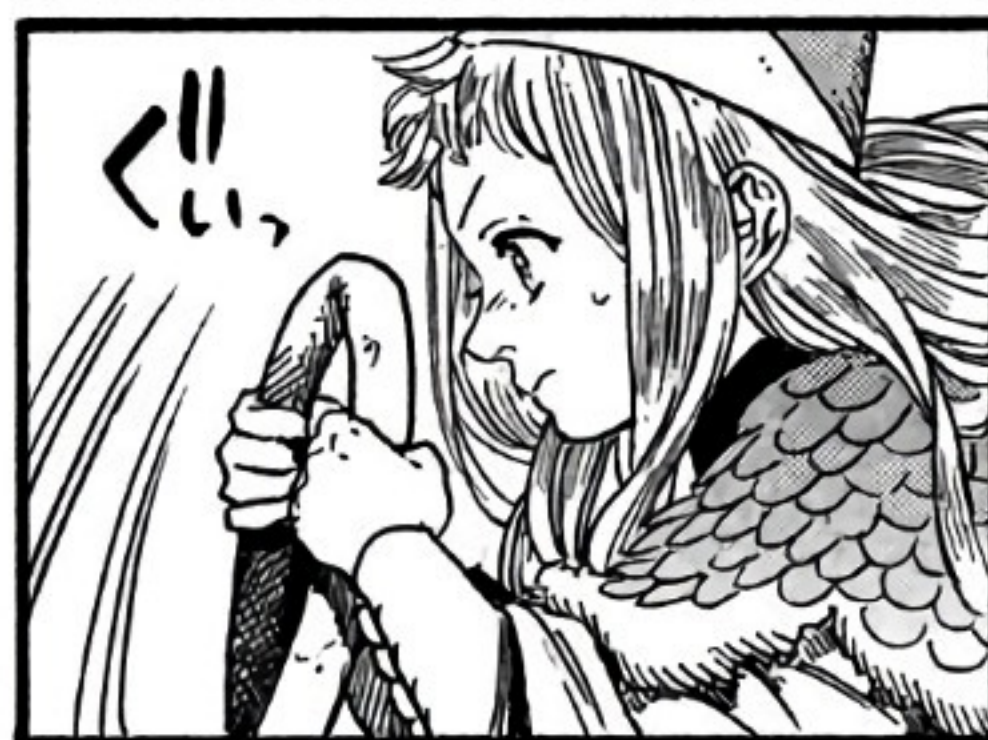
オオオオオ

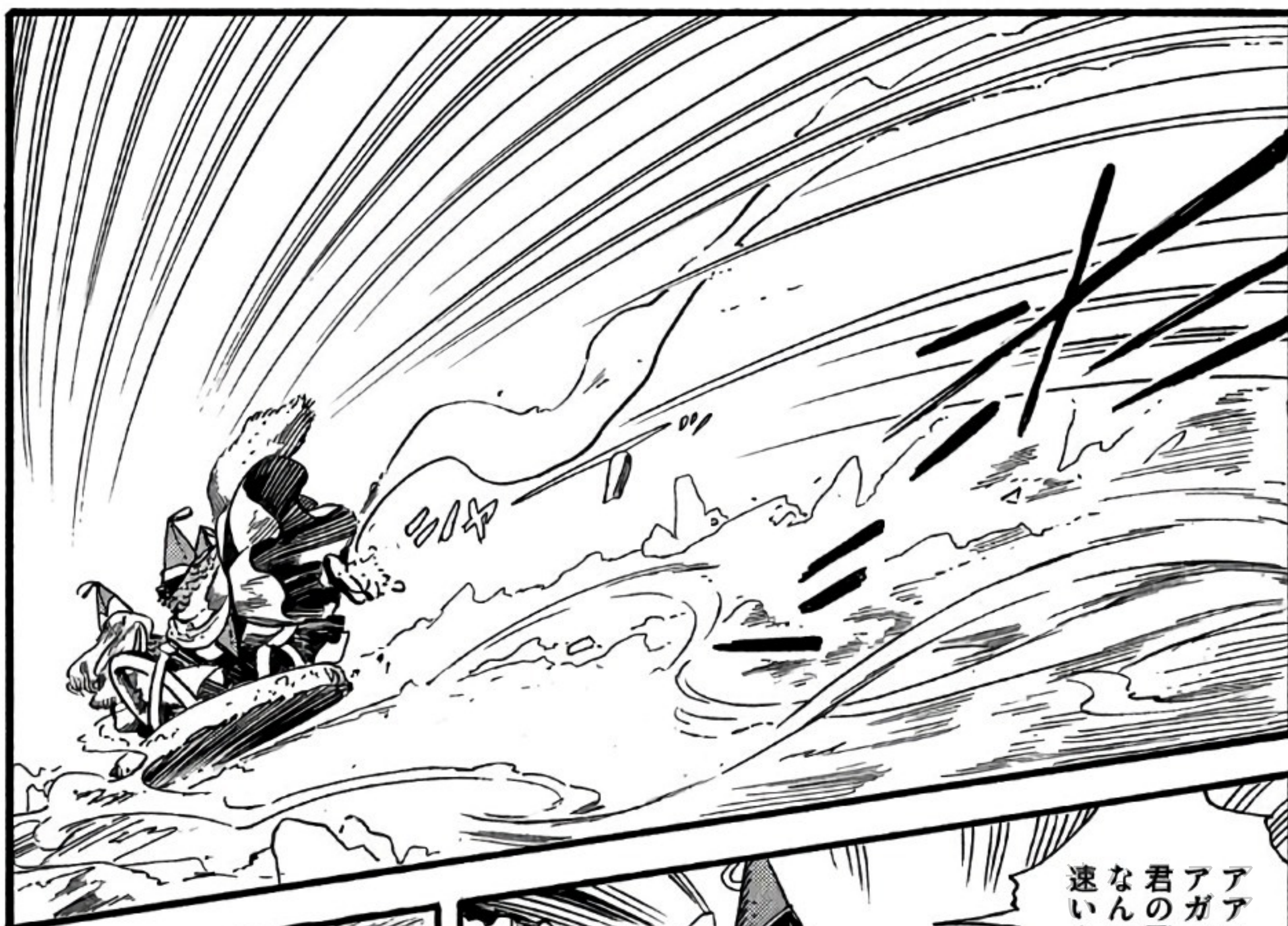


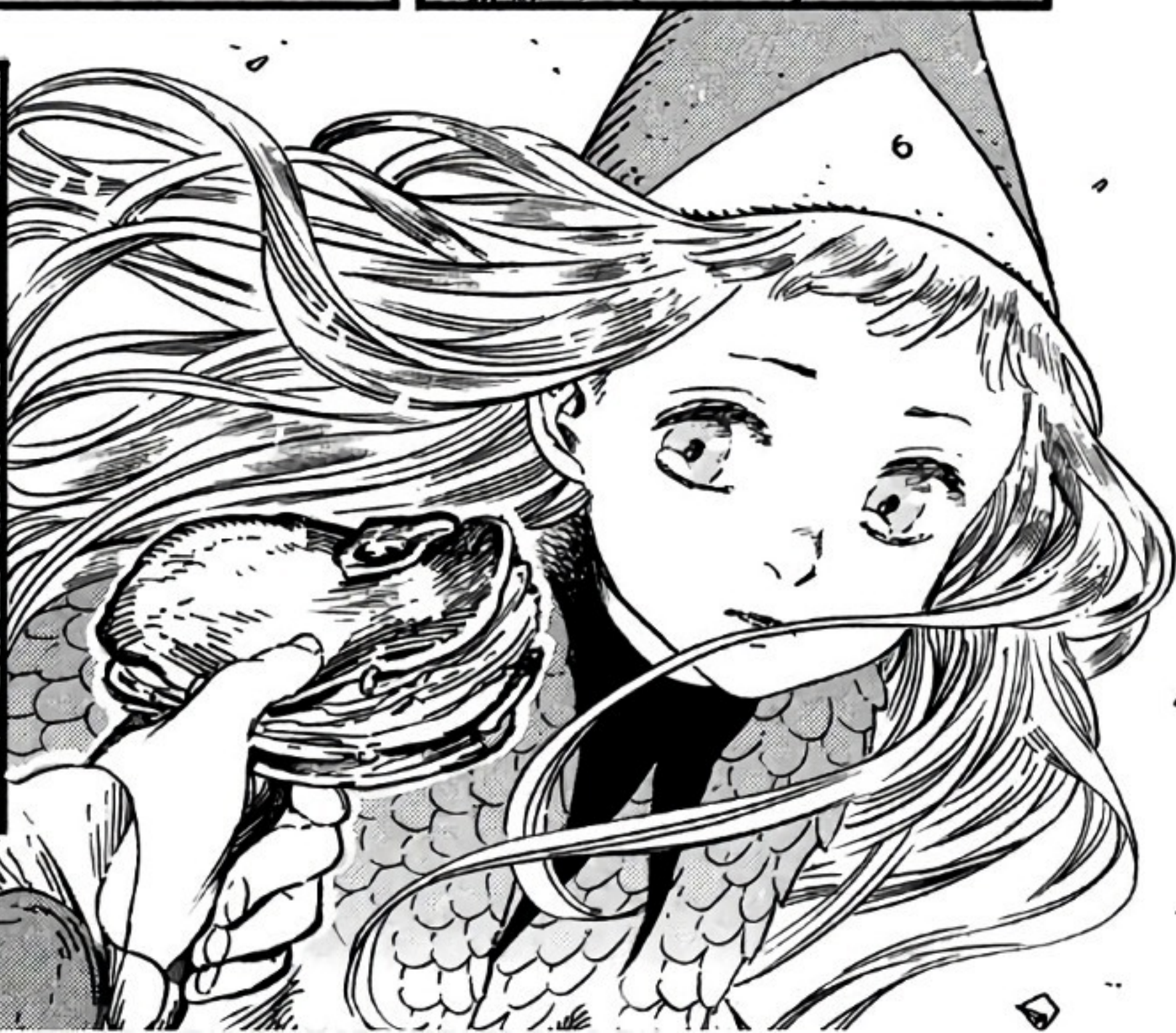


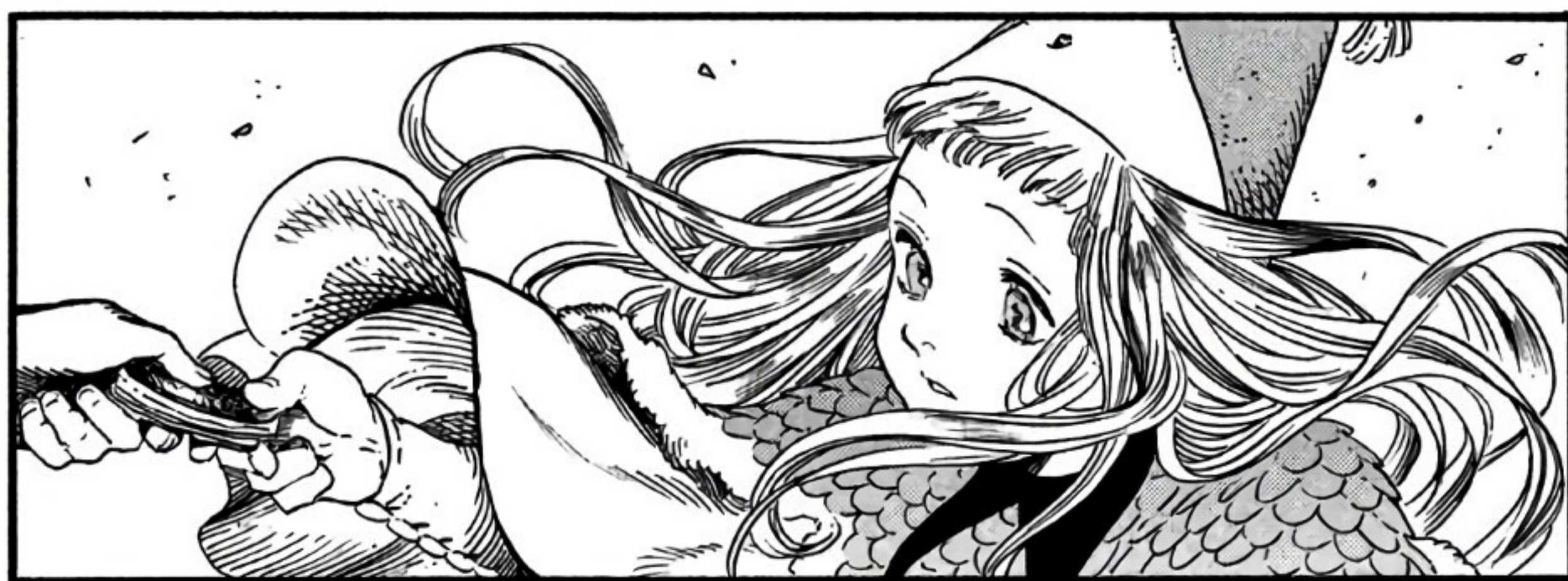
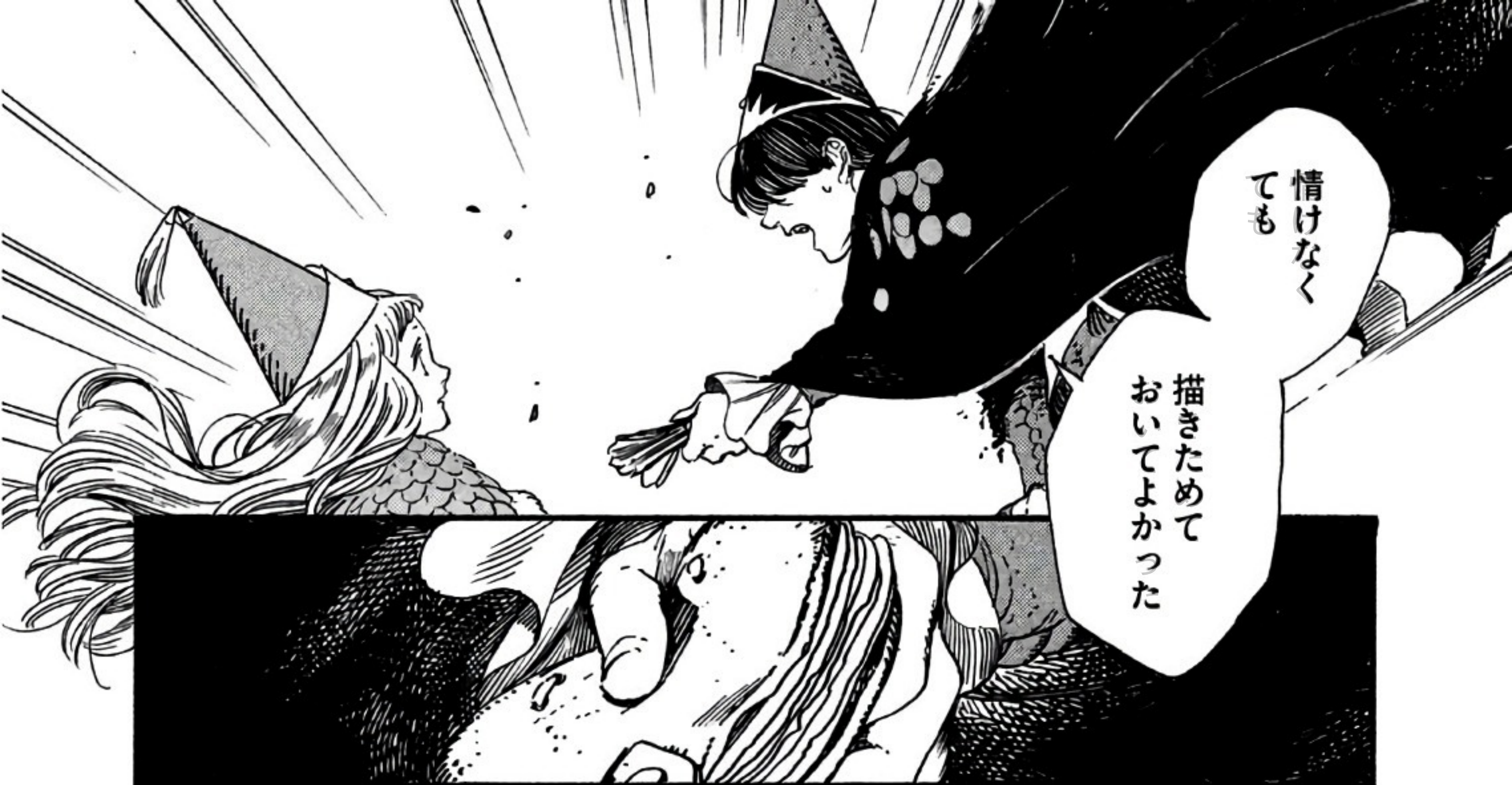
アライラさんでも
かなわなかったのに
今の私じゃ…！

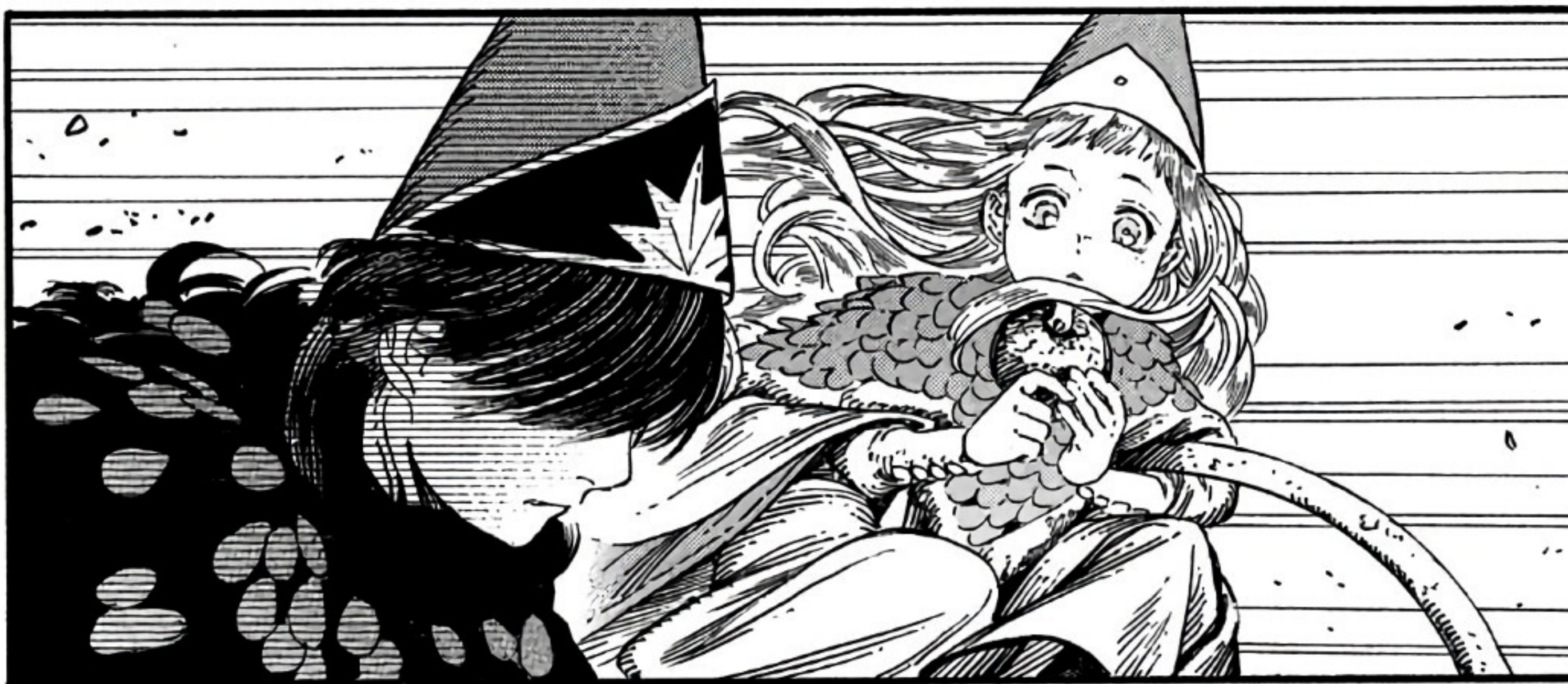












「つばあり帽」が
近付いてくる
特別な理由は

私達じゃ
なくて...

はっ

アガッ
さん!!

!!







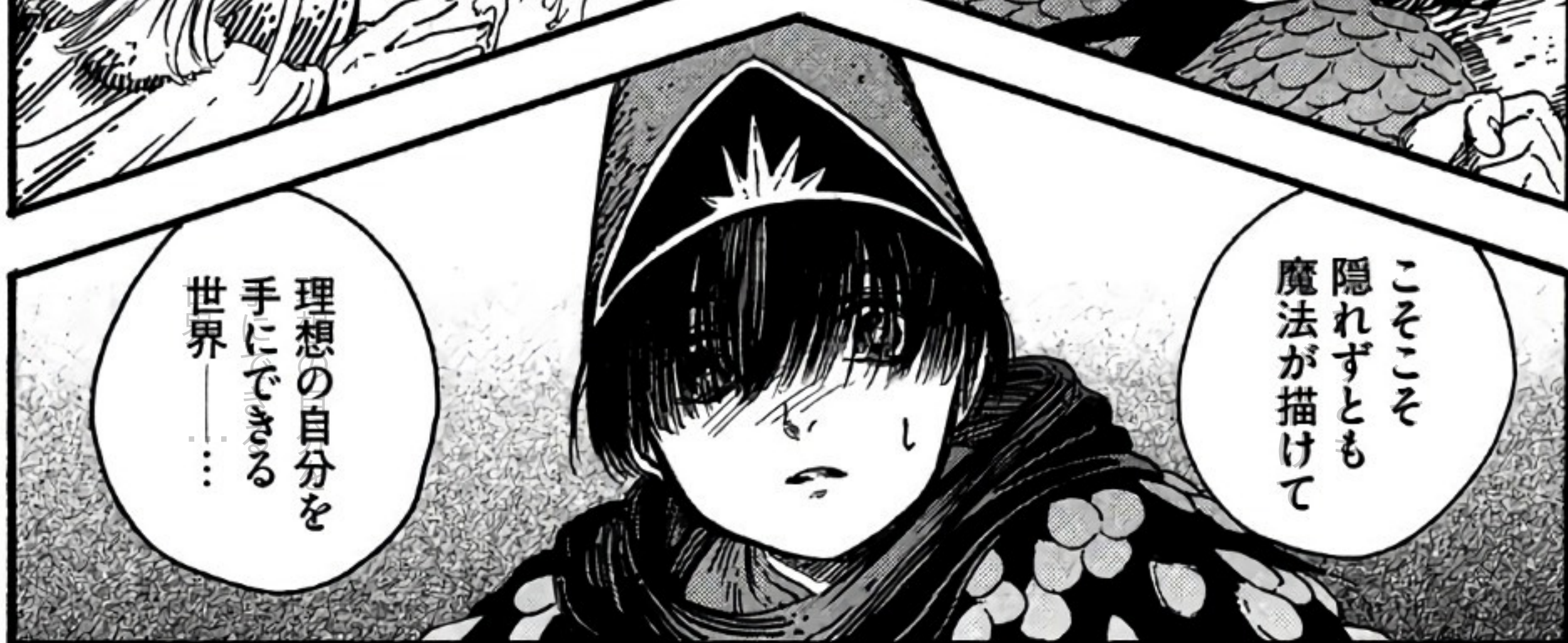




ずっと
子供でも
いられる世界



望めば
今すぐ
大人にも
なれて



こそこそ
隠れずとも
魔法が描けて

理想の自分を
手にできる
世界……

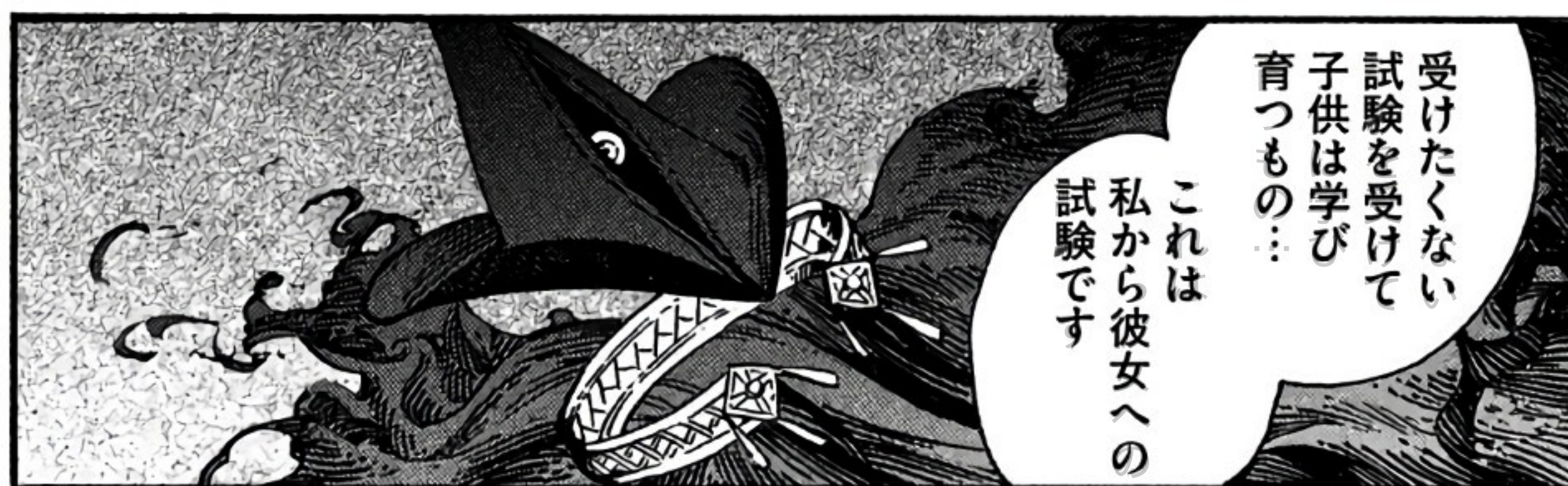


私を煩わしい
肉の枷^{かせ}からも
解放してくれた……



靴を使わずとも
空が飛べて
どこへ行くにも
思うがまま

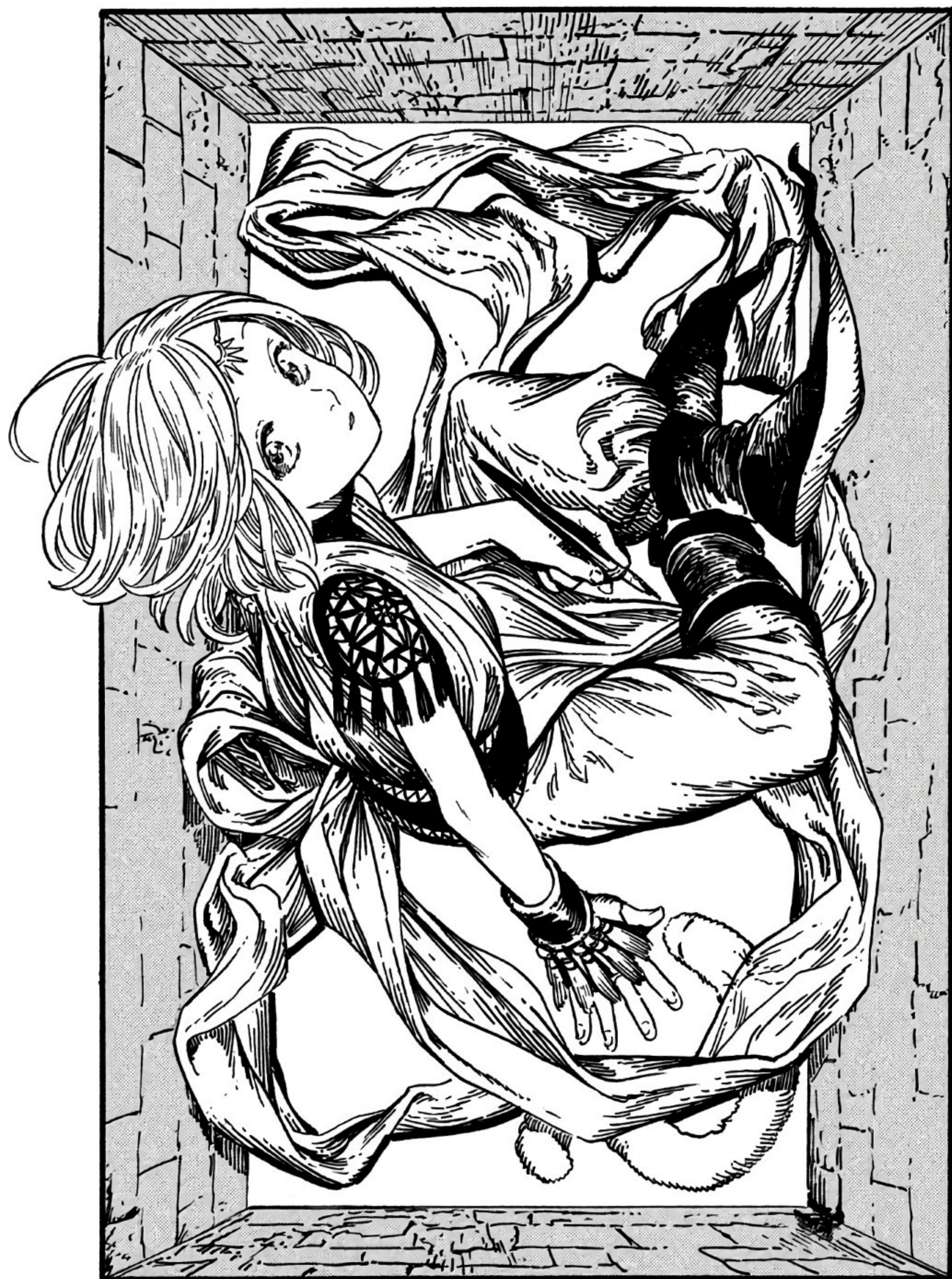


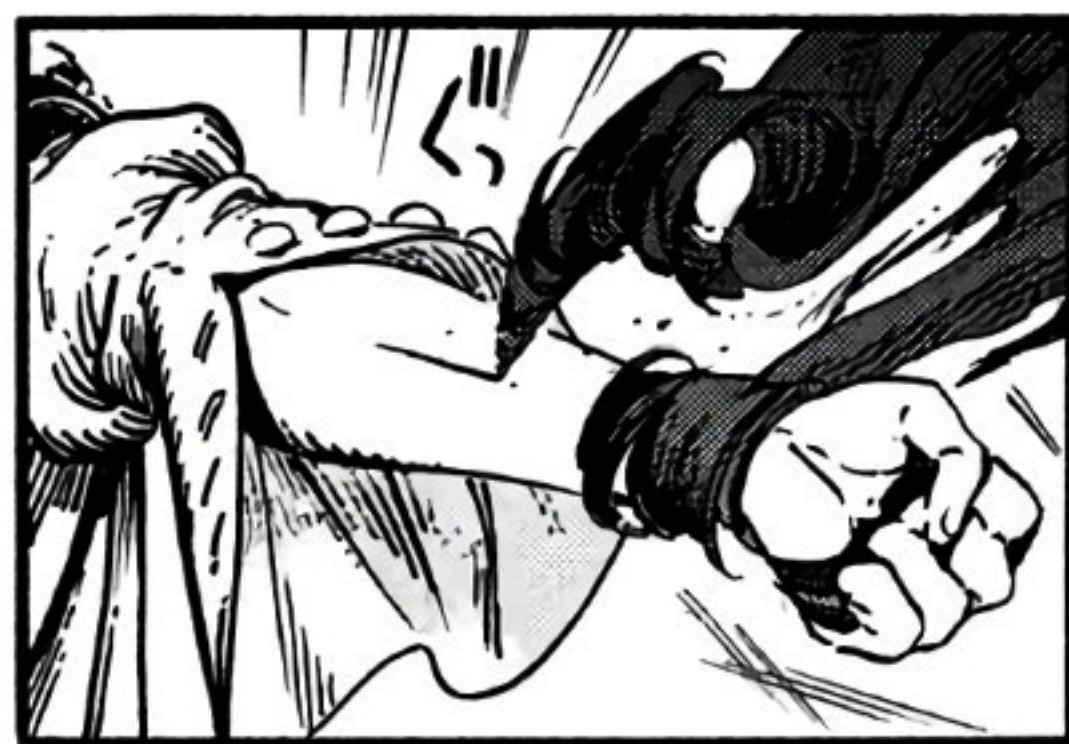
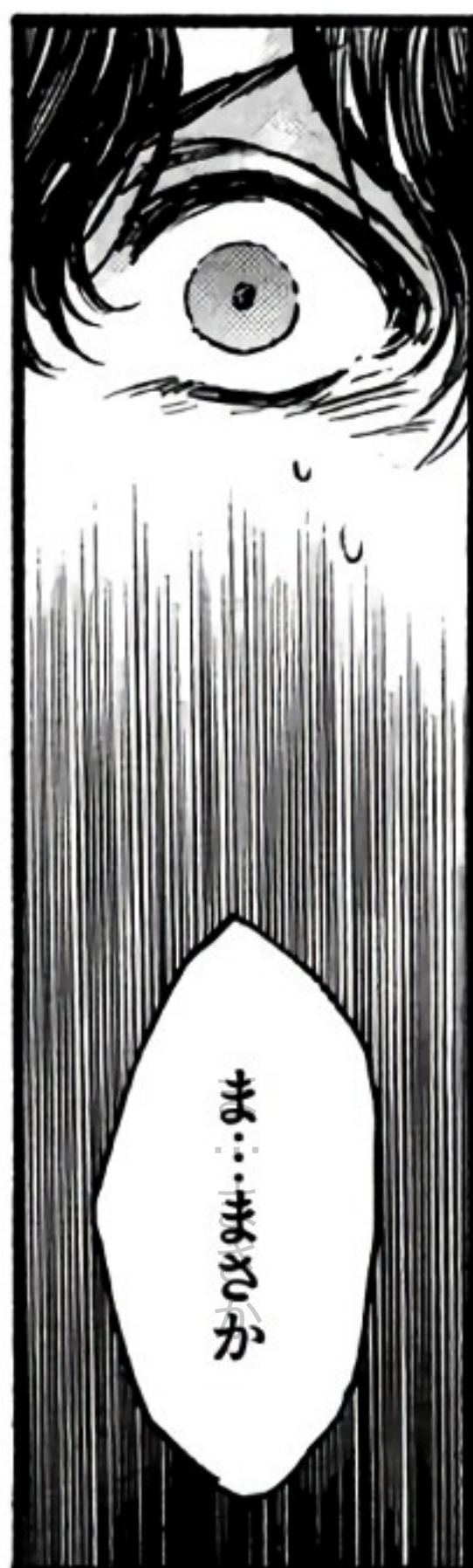


とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH AHAT







自分の意志では
なかったとしても

からだ
身体に禁止魔法を
刻むのは重罪――

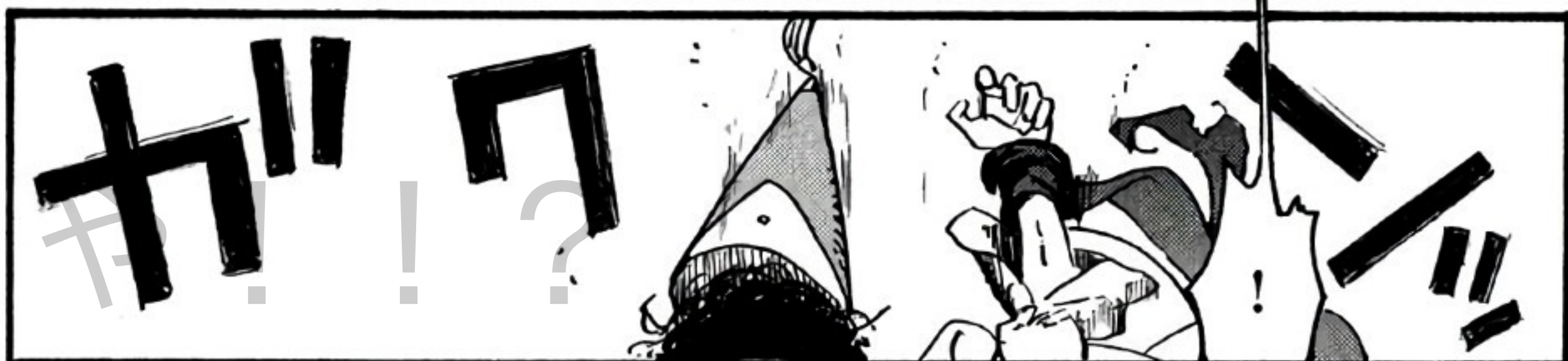
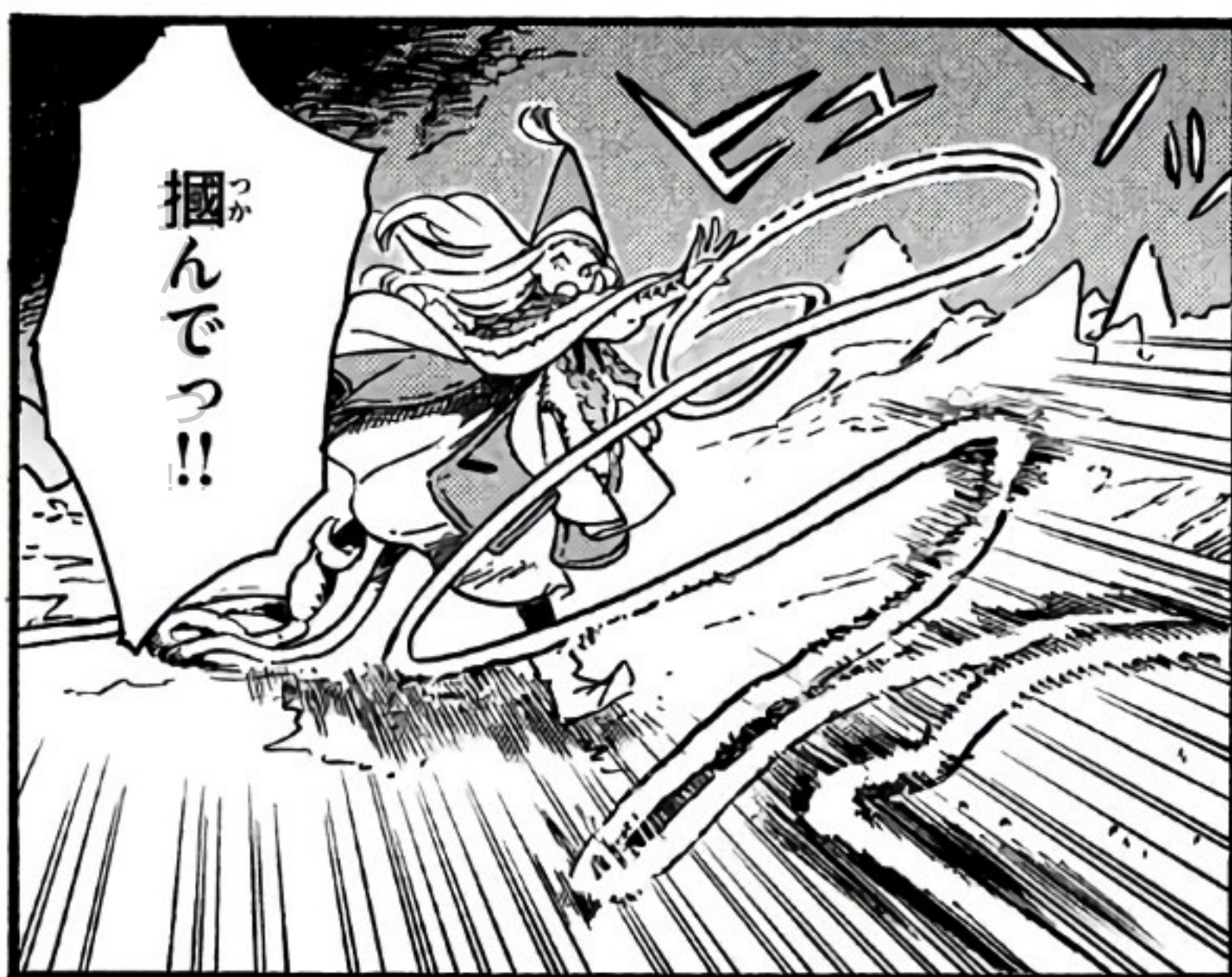
イヤッ
イヤよ!!

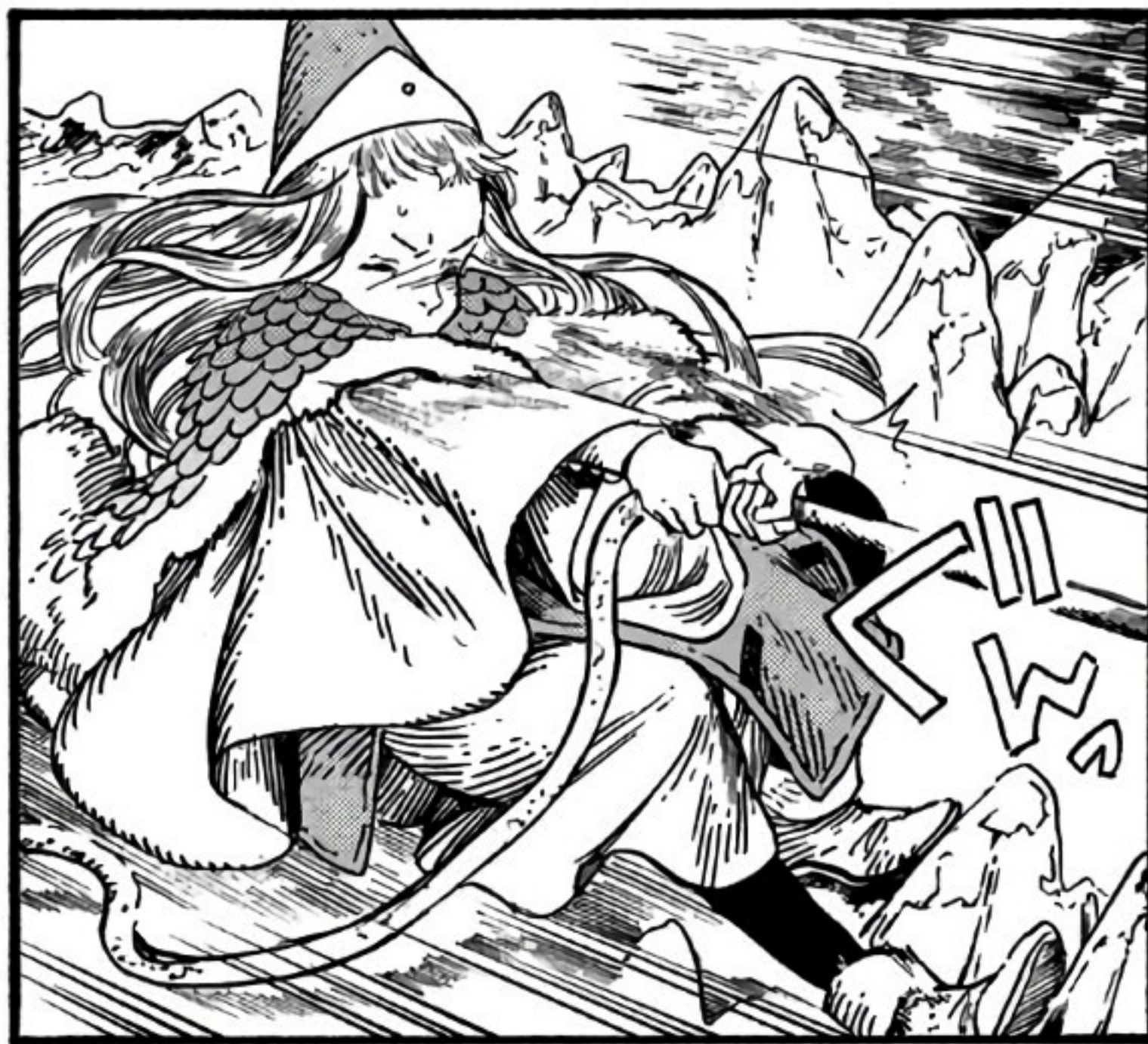
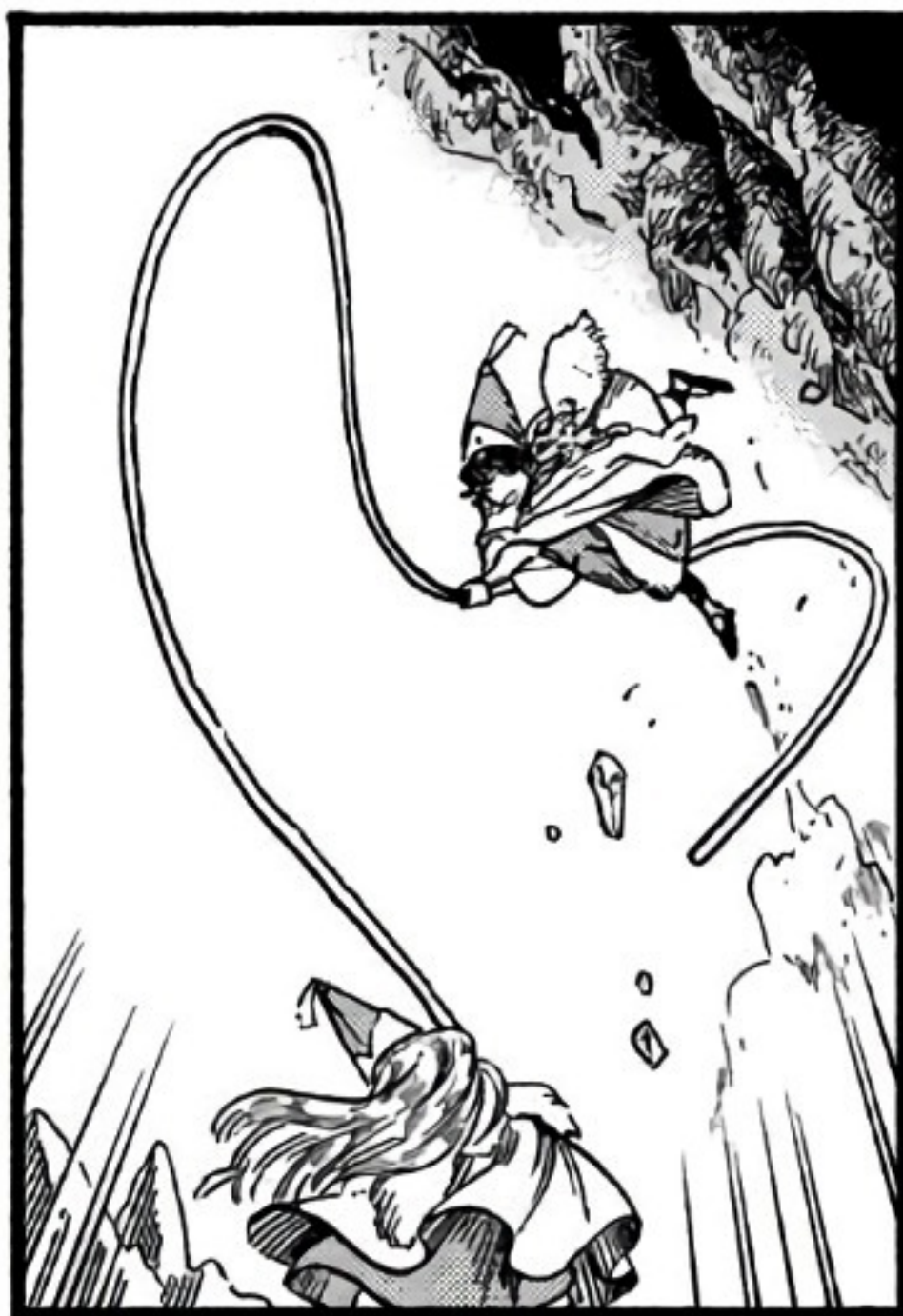
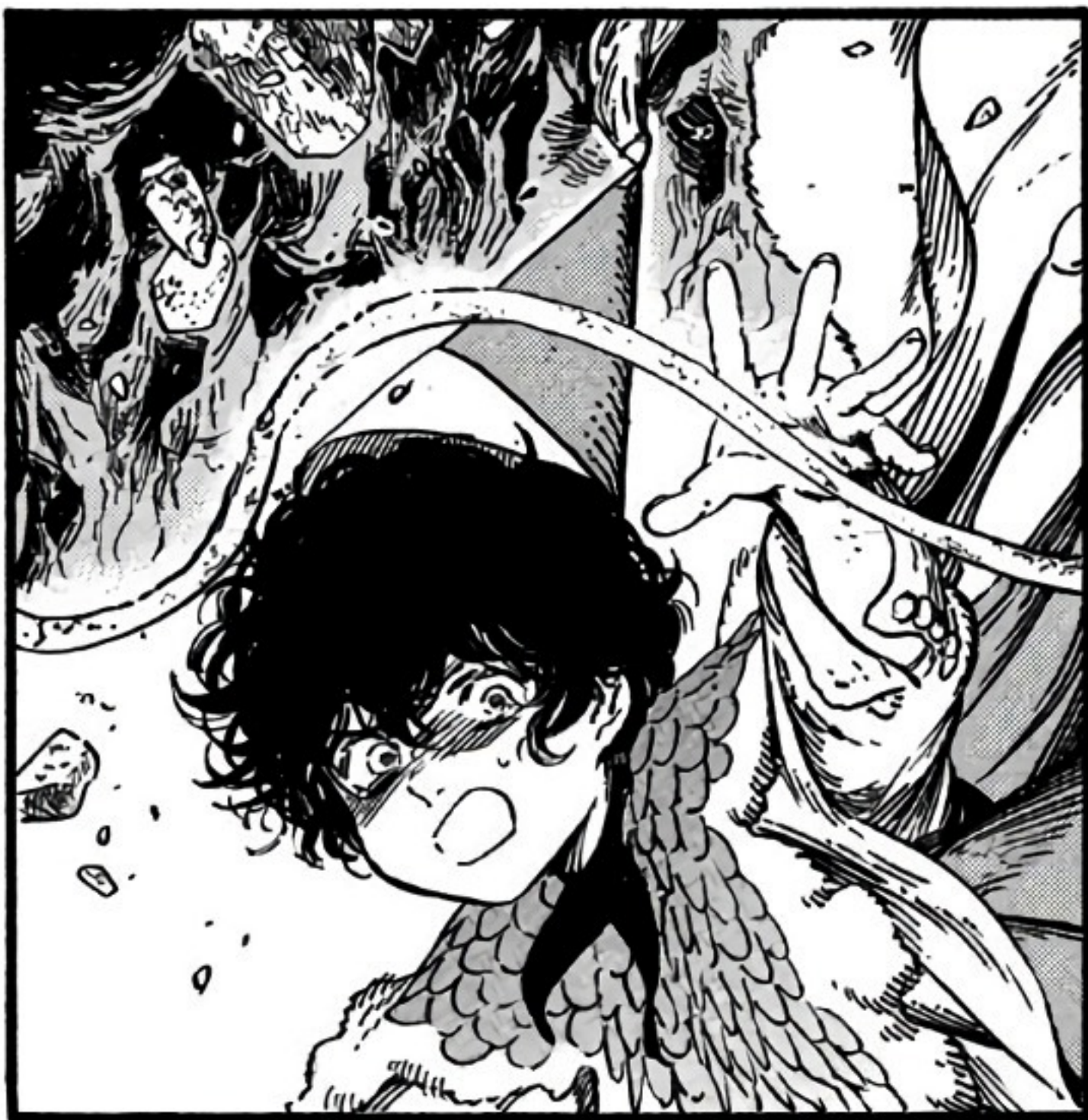
こんなことで
何もかも
失うのは
嫌っ!!!

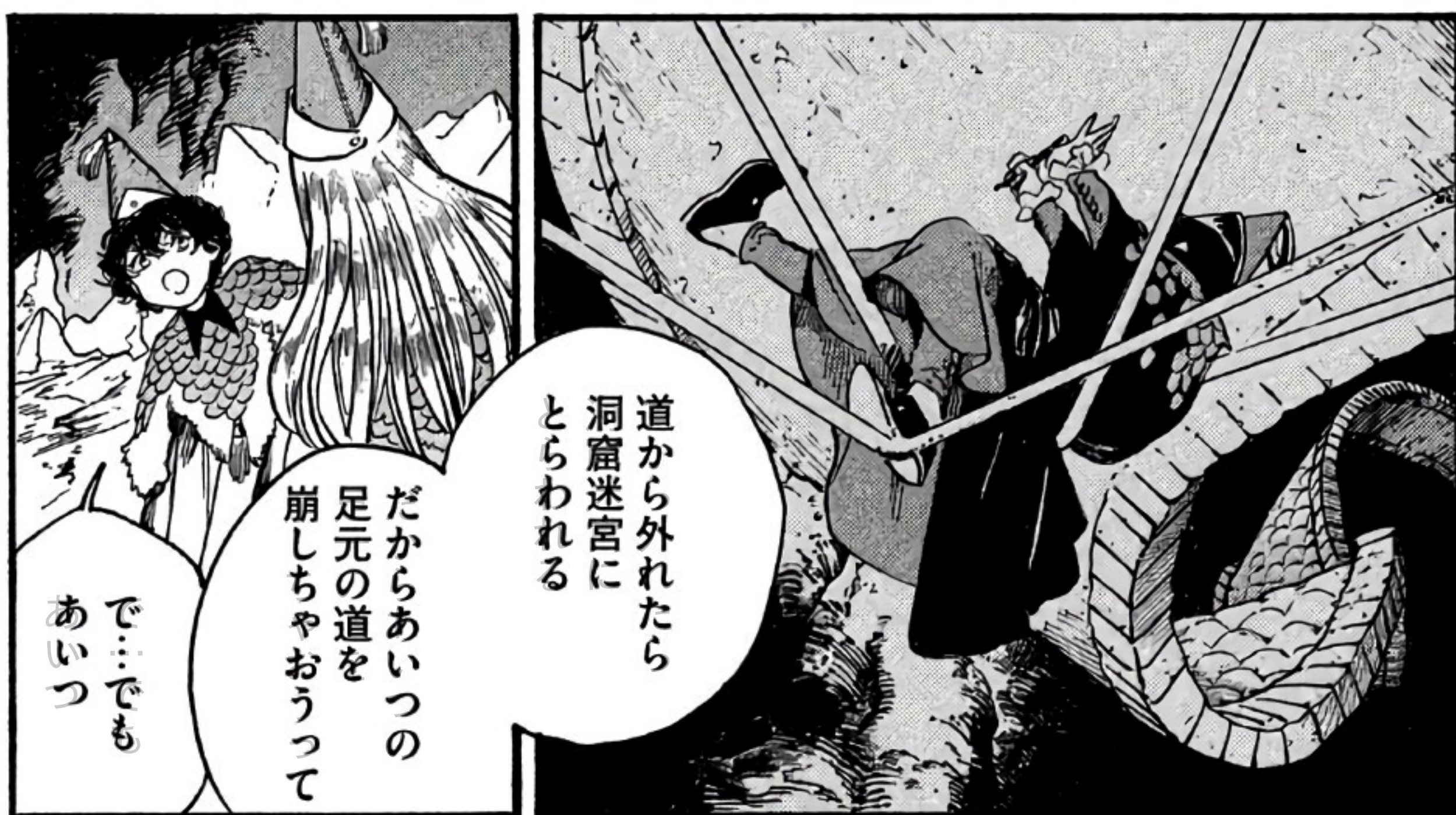
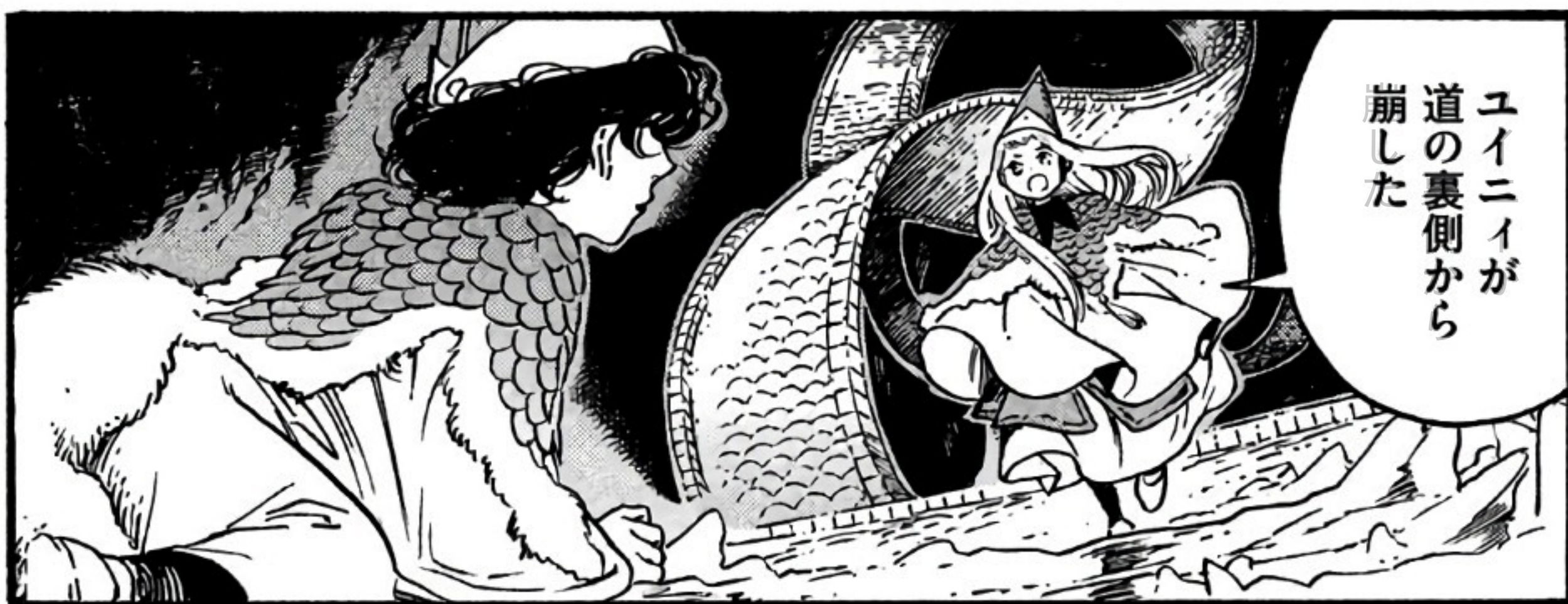
まだ
あの人に
何も…!!

アガッ

トー!!









あの
「つばあり帽」は

最初から
ずっと
浮いてたわ…!



欠点を
補うために
やってた
ことが

こんな役に
立つなんて



アガツトさん
助かった
みたい…

うまくいつて
よかったあ



うれ
しいな…

ボクでも
自信…

持つても
いいのかな
…!



聞いてください
先生
ボクは

ボクが思う程
ダメじゃない
みたいです

あなたが
言う程
ダメじゃなかった
みたいです



先生は…
理解して
くれないかも
しれないけど…

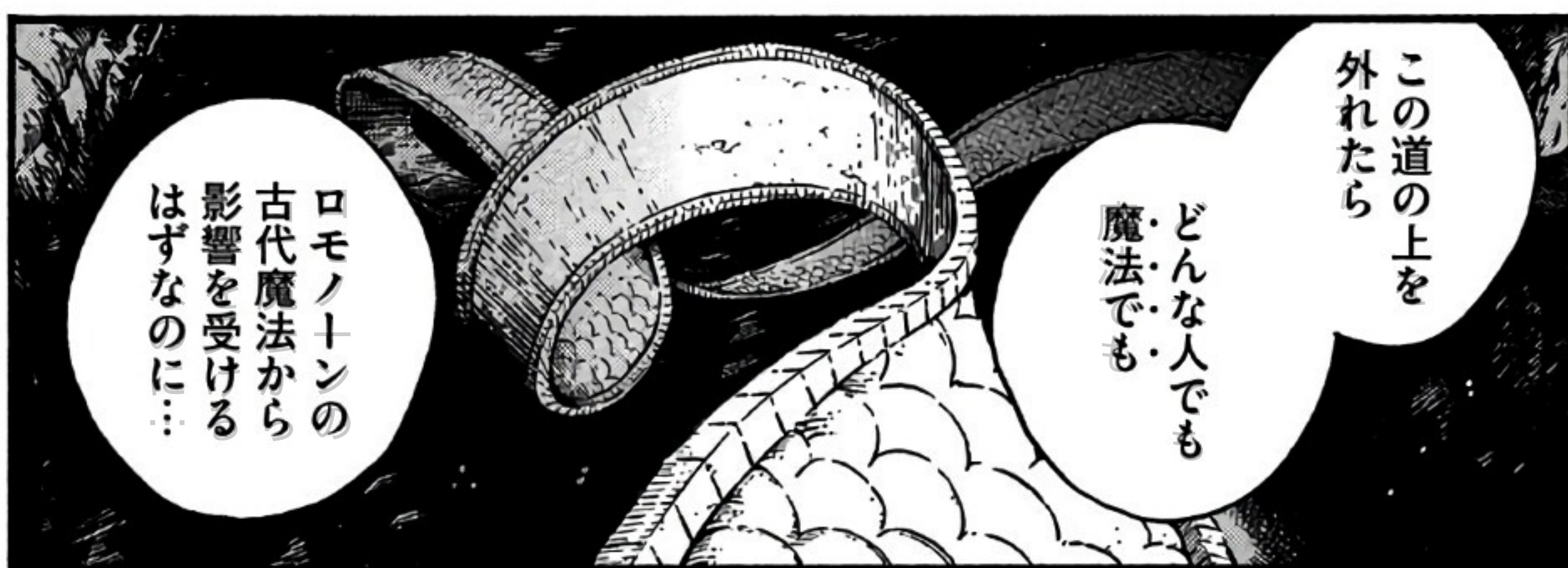
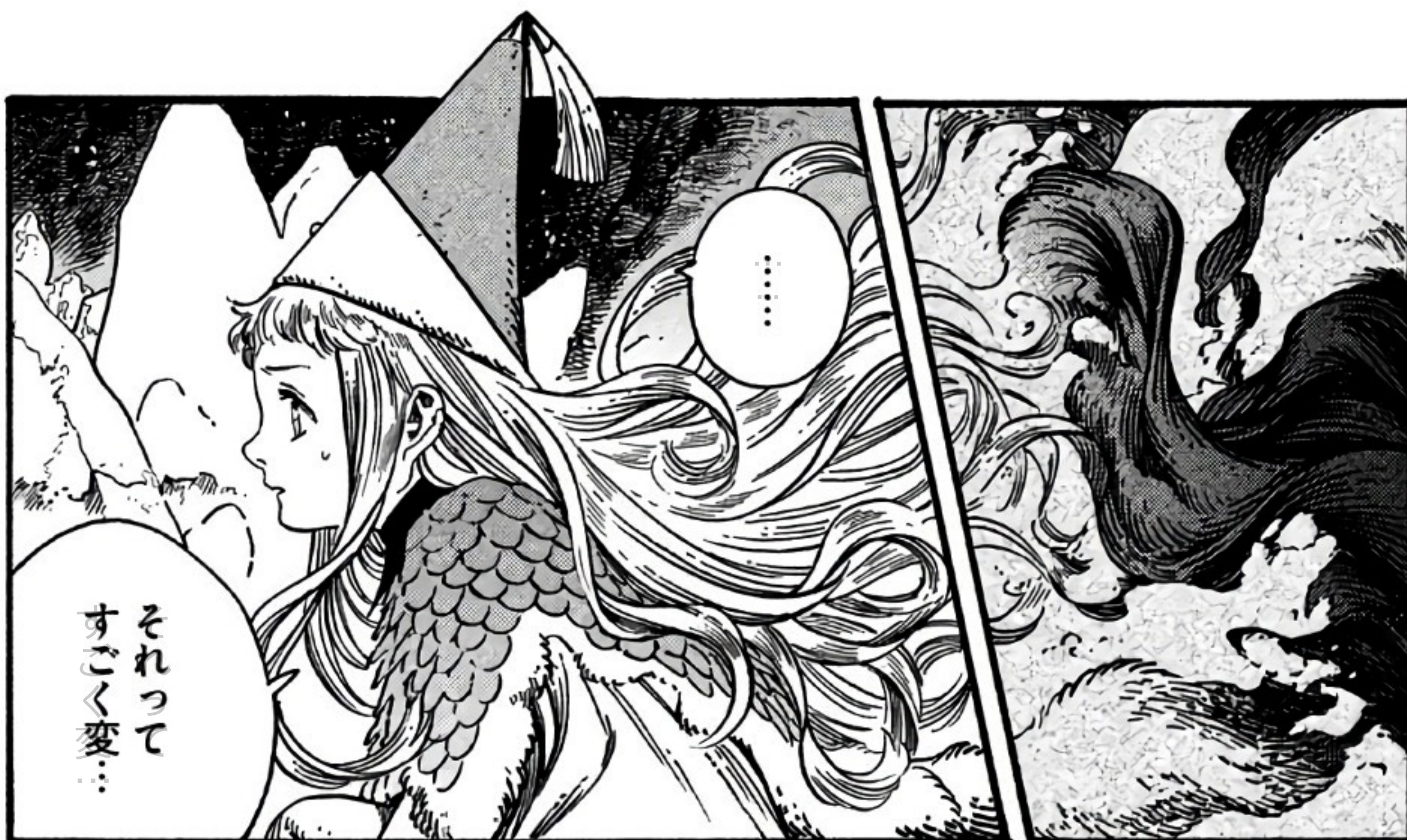
皆と
同じことが
出来ないのは

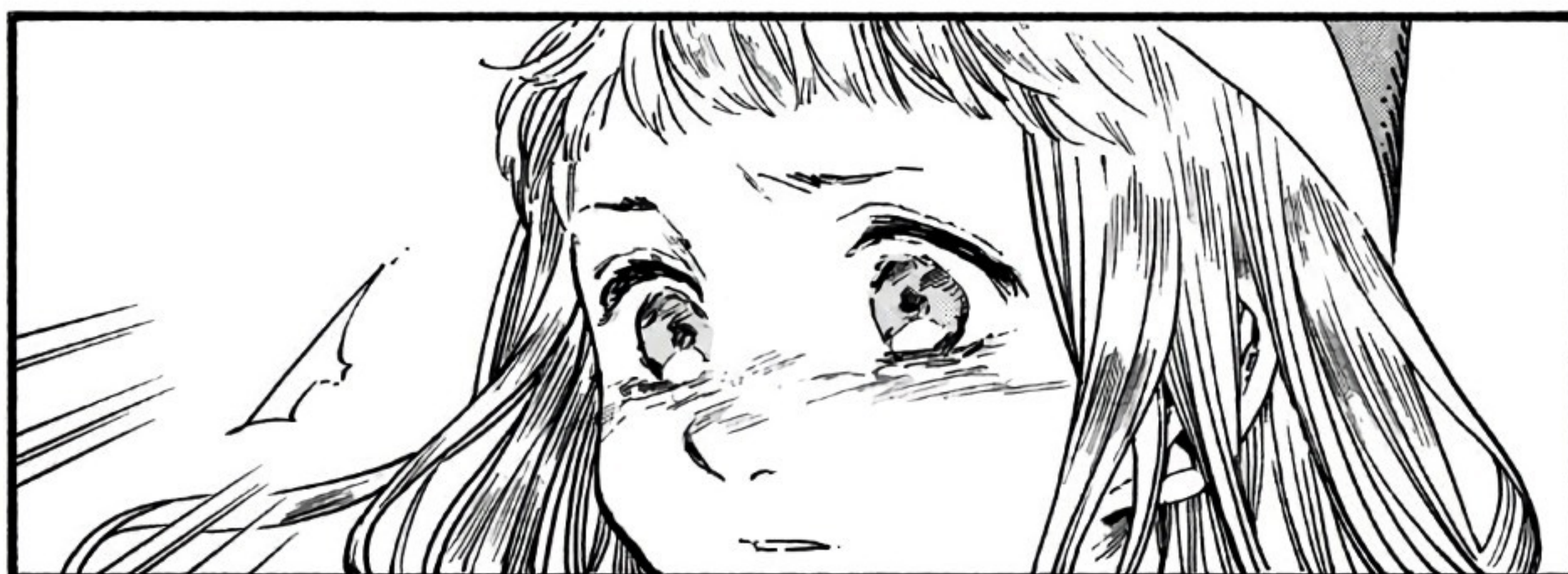
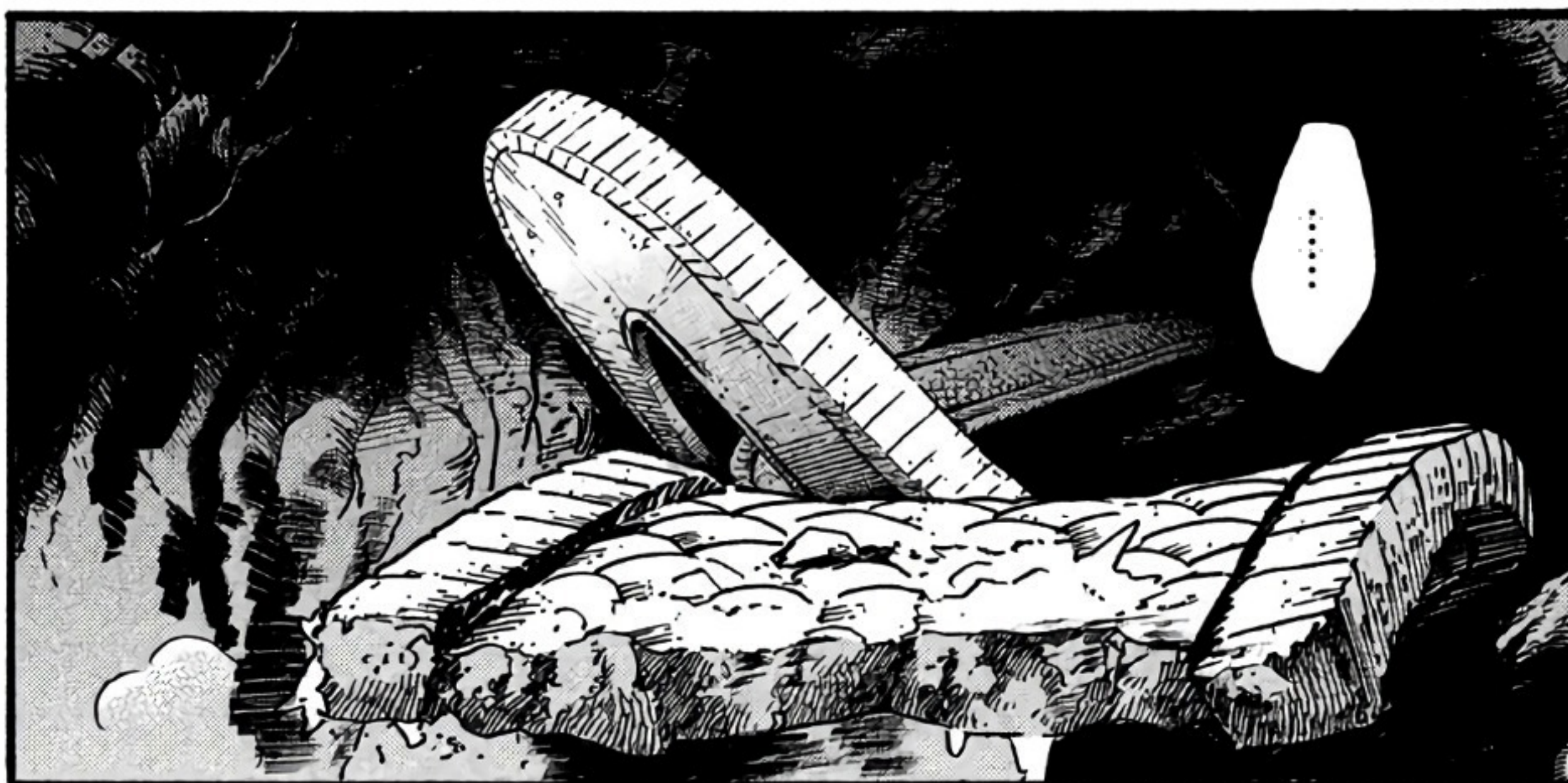
皆と
違うことが出来る
きっかけなのか
もしれない…



どうせなら
本当に

隠れたくなる
姿にして
あげますよ

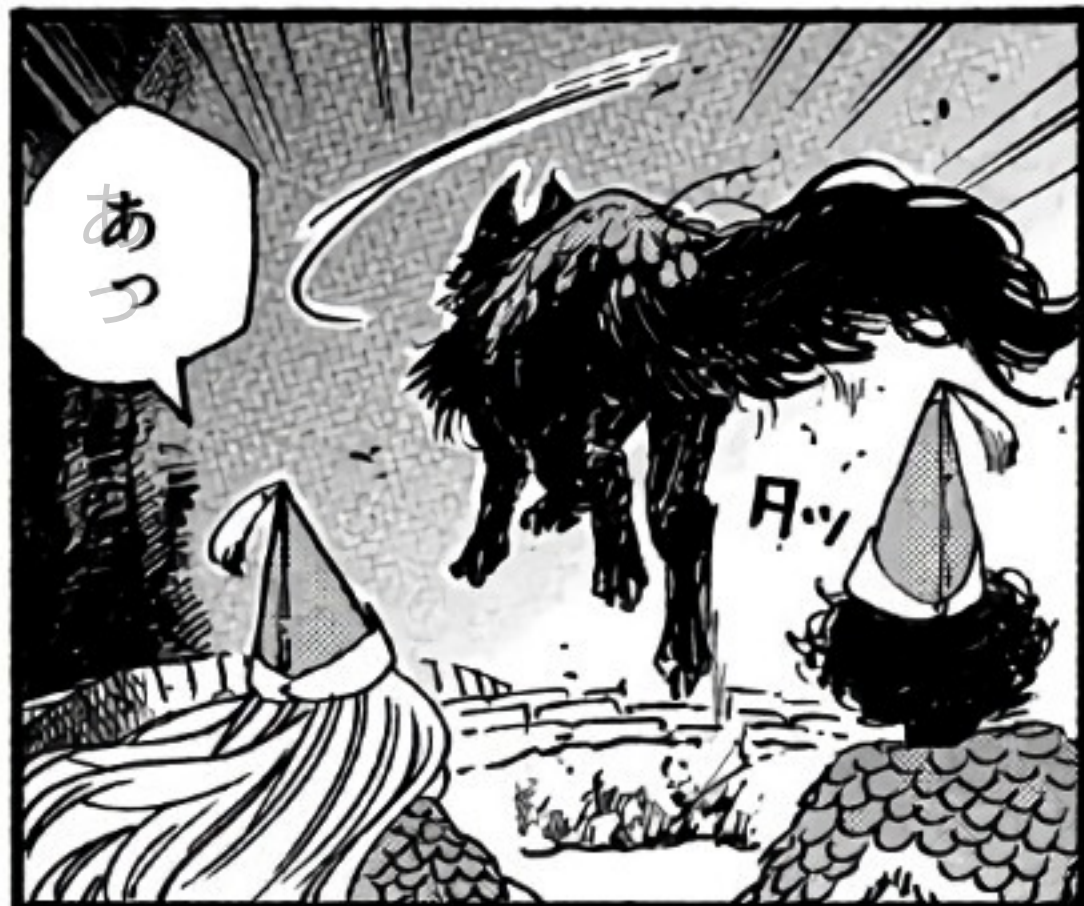














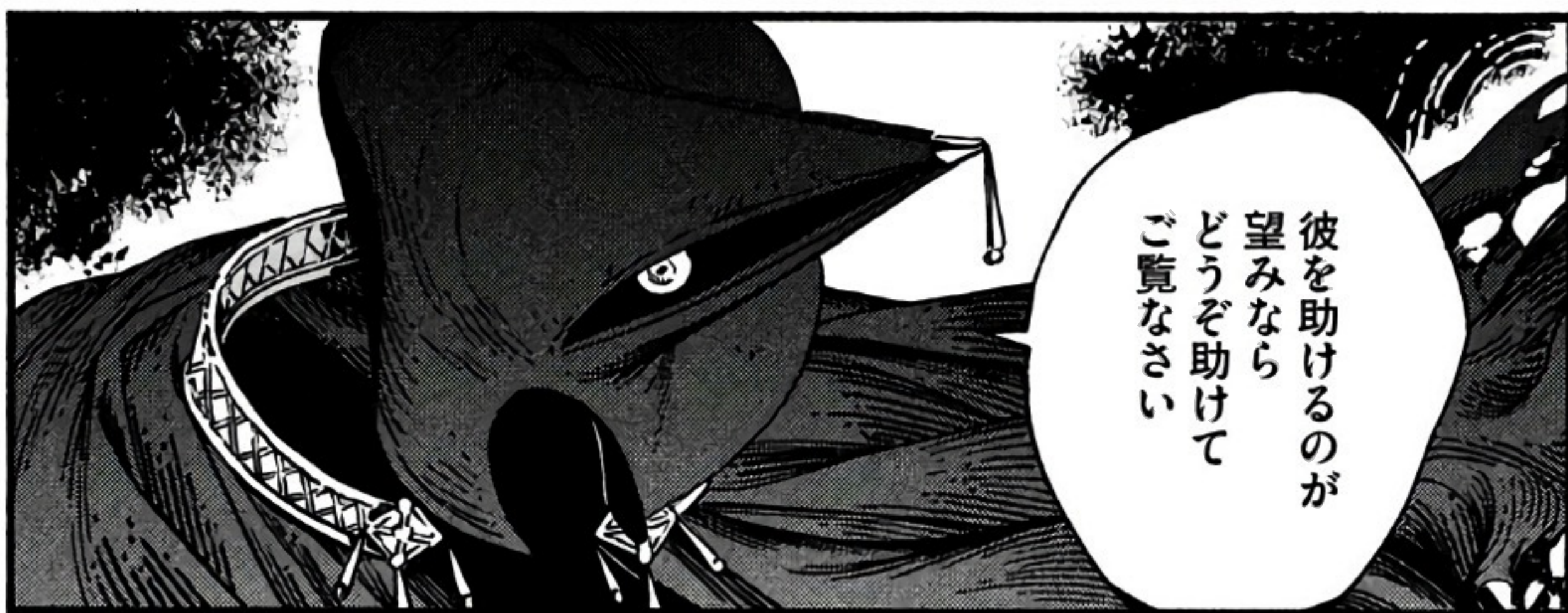
ふざけたこと
言うな！

ユイニイを
元に戻して！



当初の予定とは
違ってしまい
ましたが

まあアレでも
いいでしょう

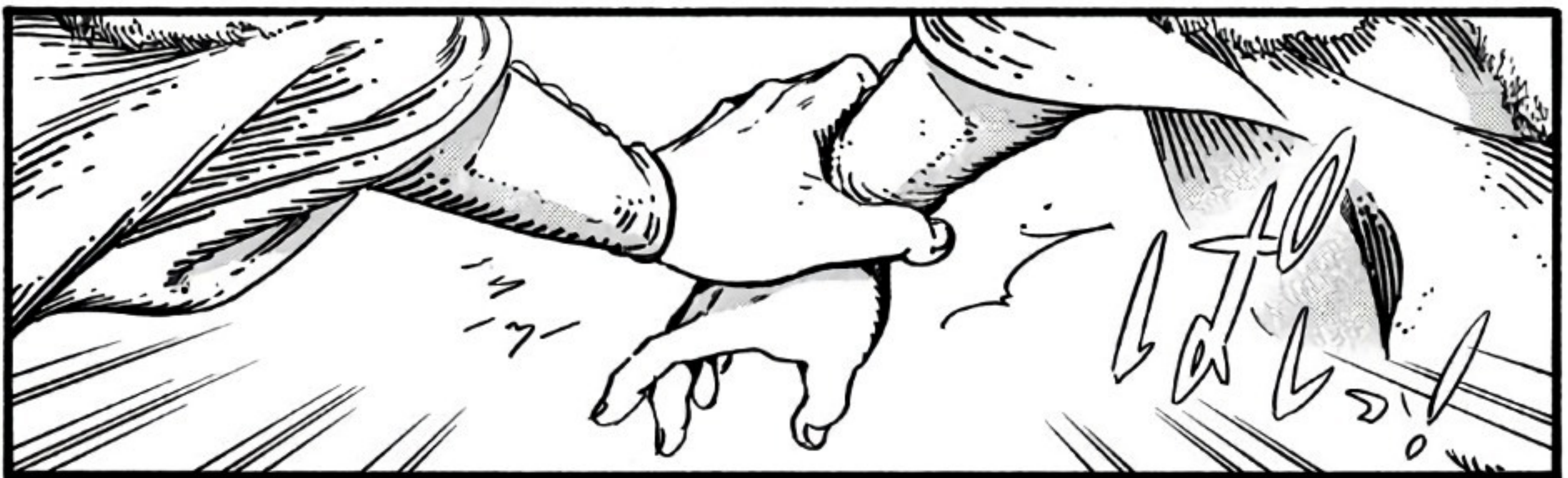


彼を助けるのが
望みなら
どうぞ助けて
ご覧なさい

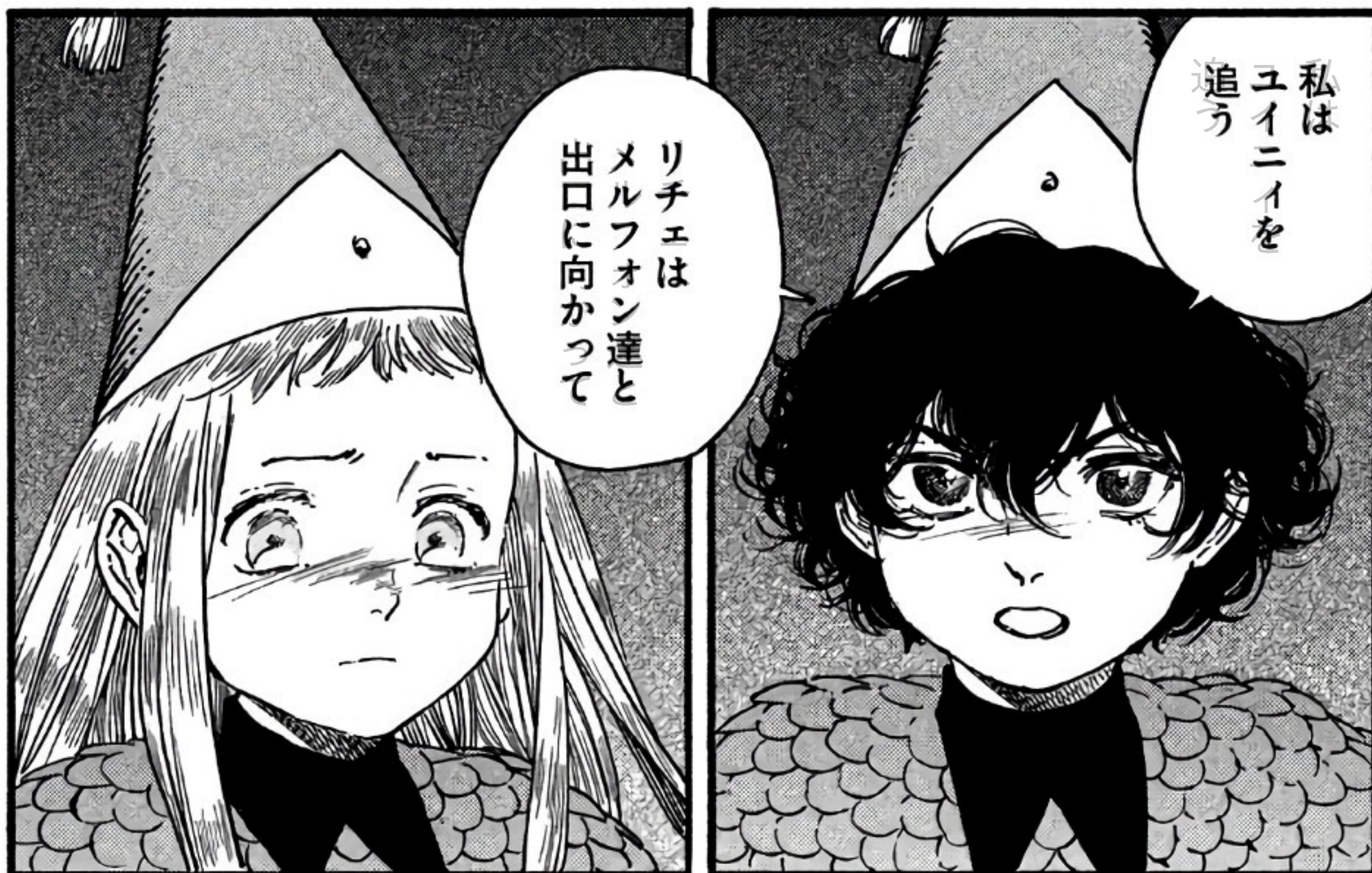


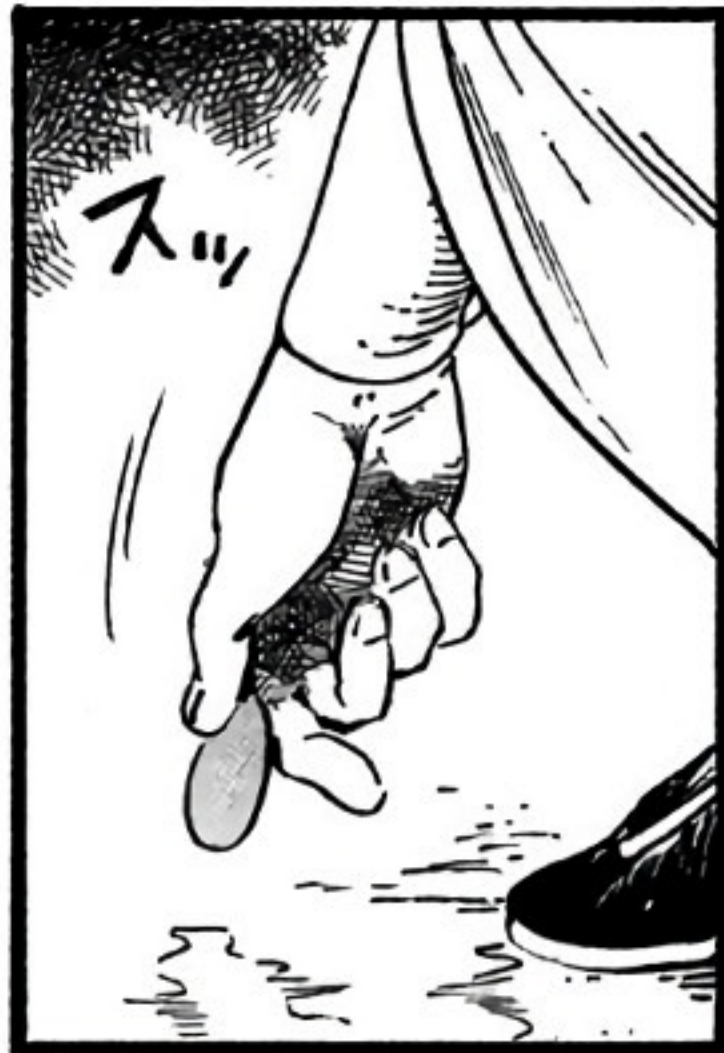
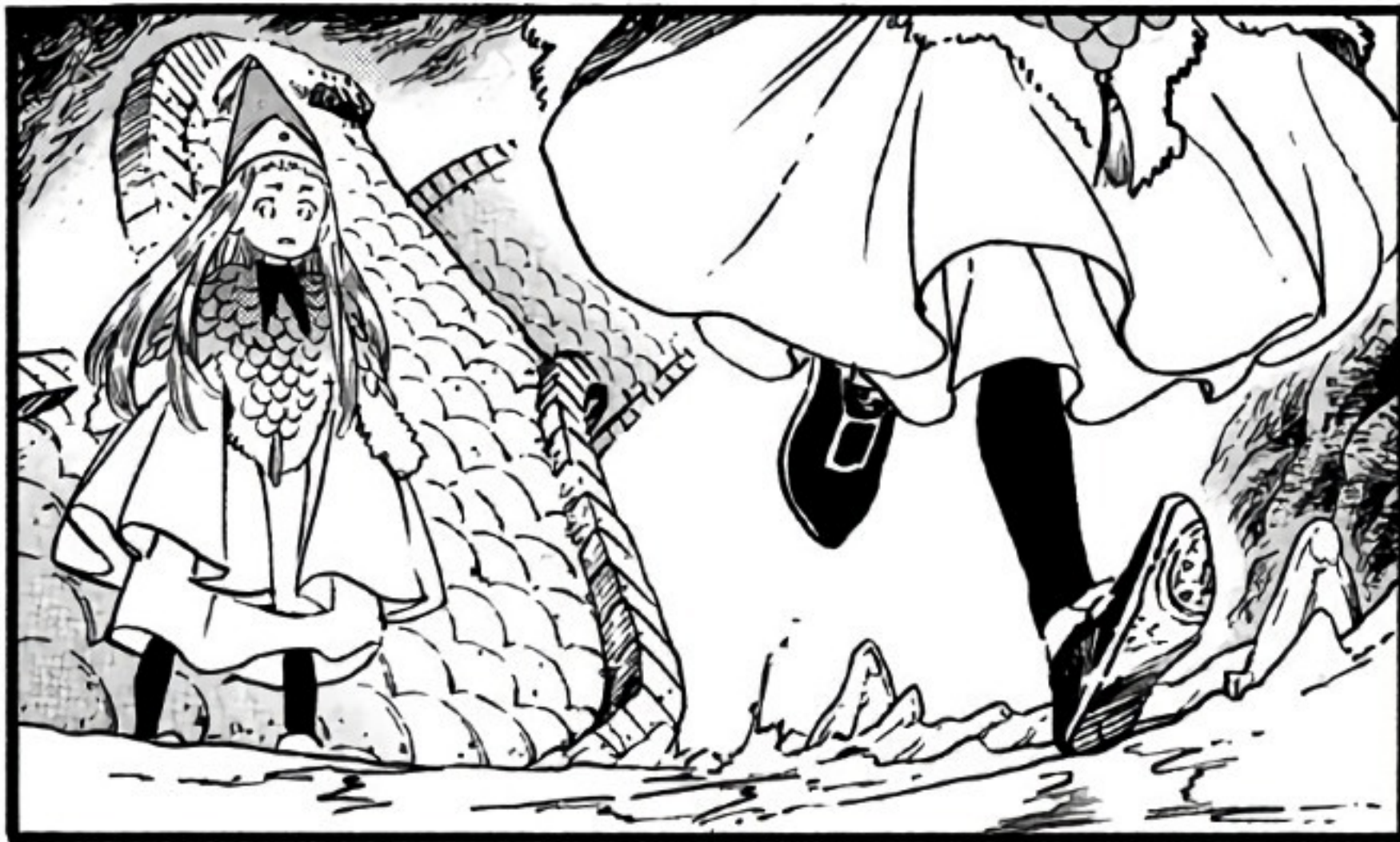
魔法には
望みを叶える
力がある

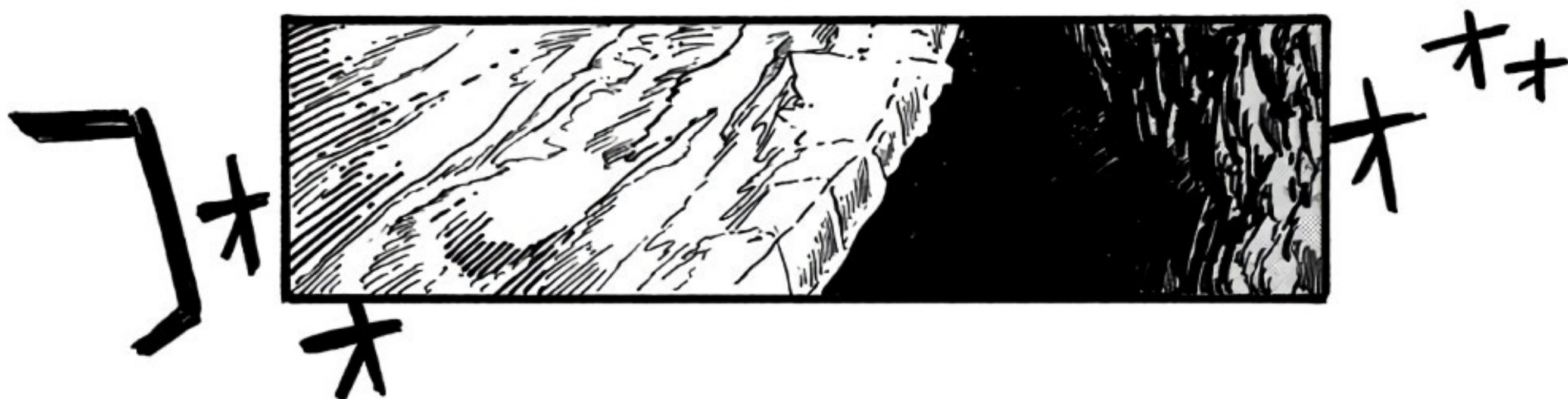
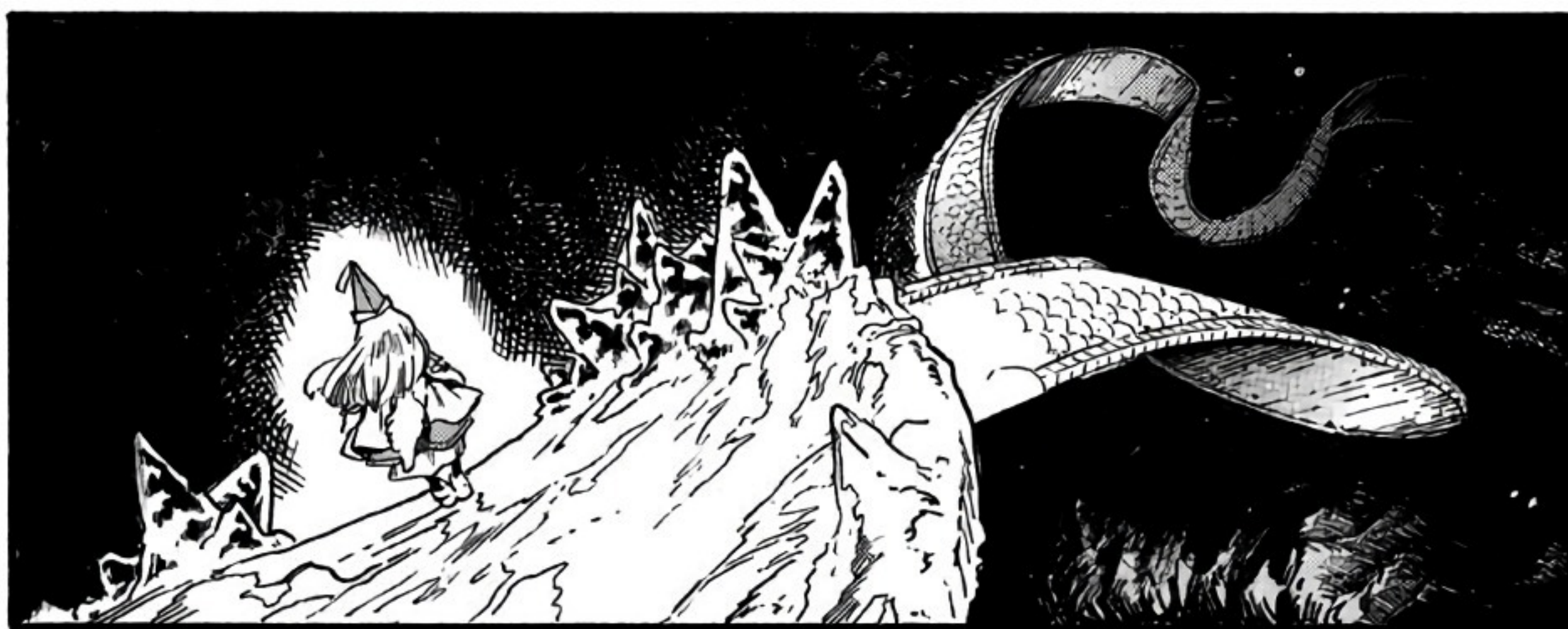
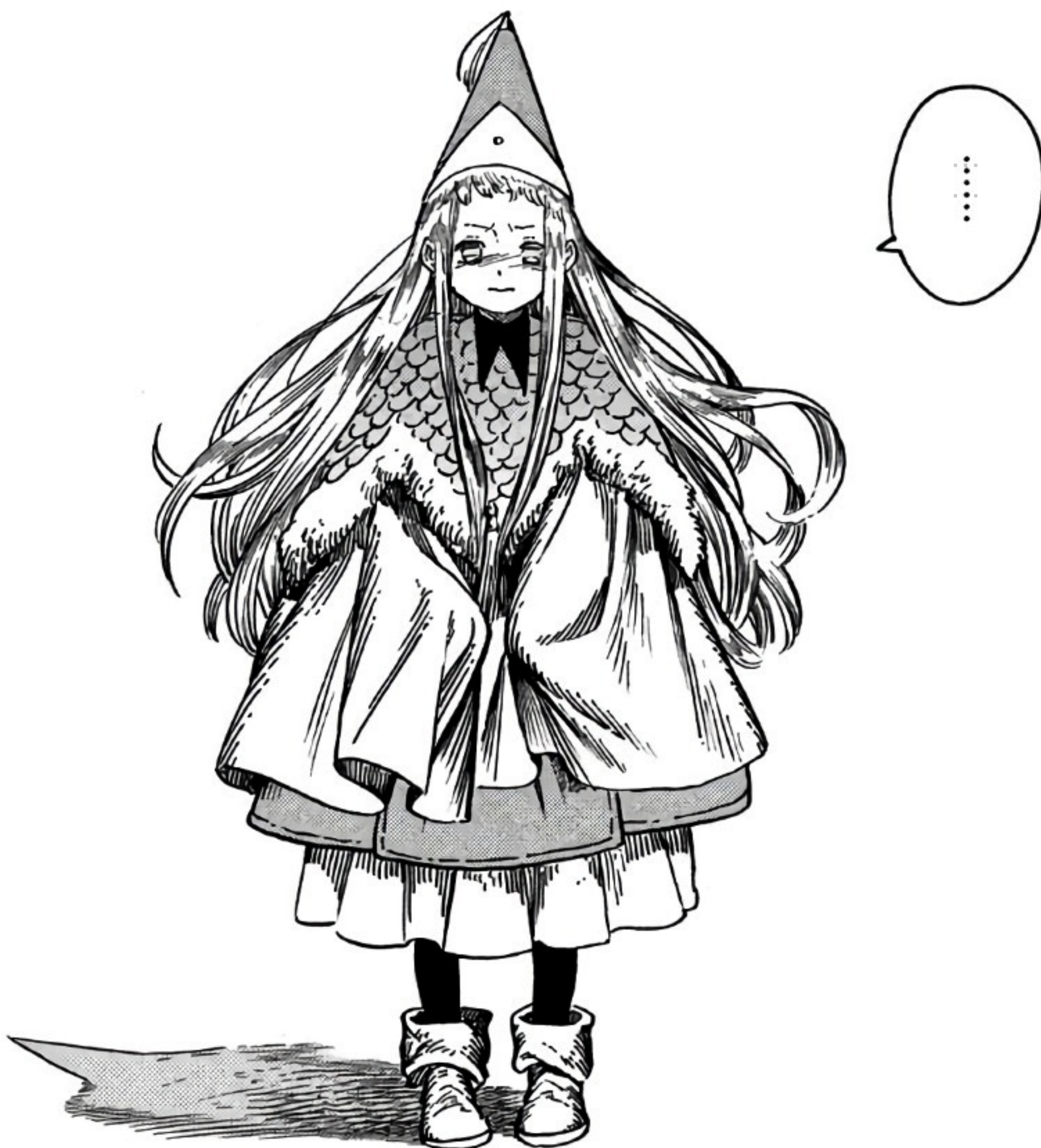
すべては
あなた達次第
なんですから…



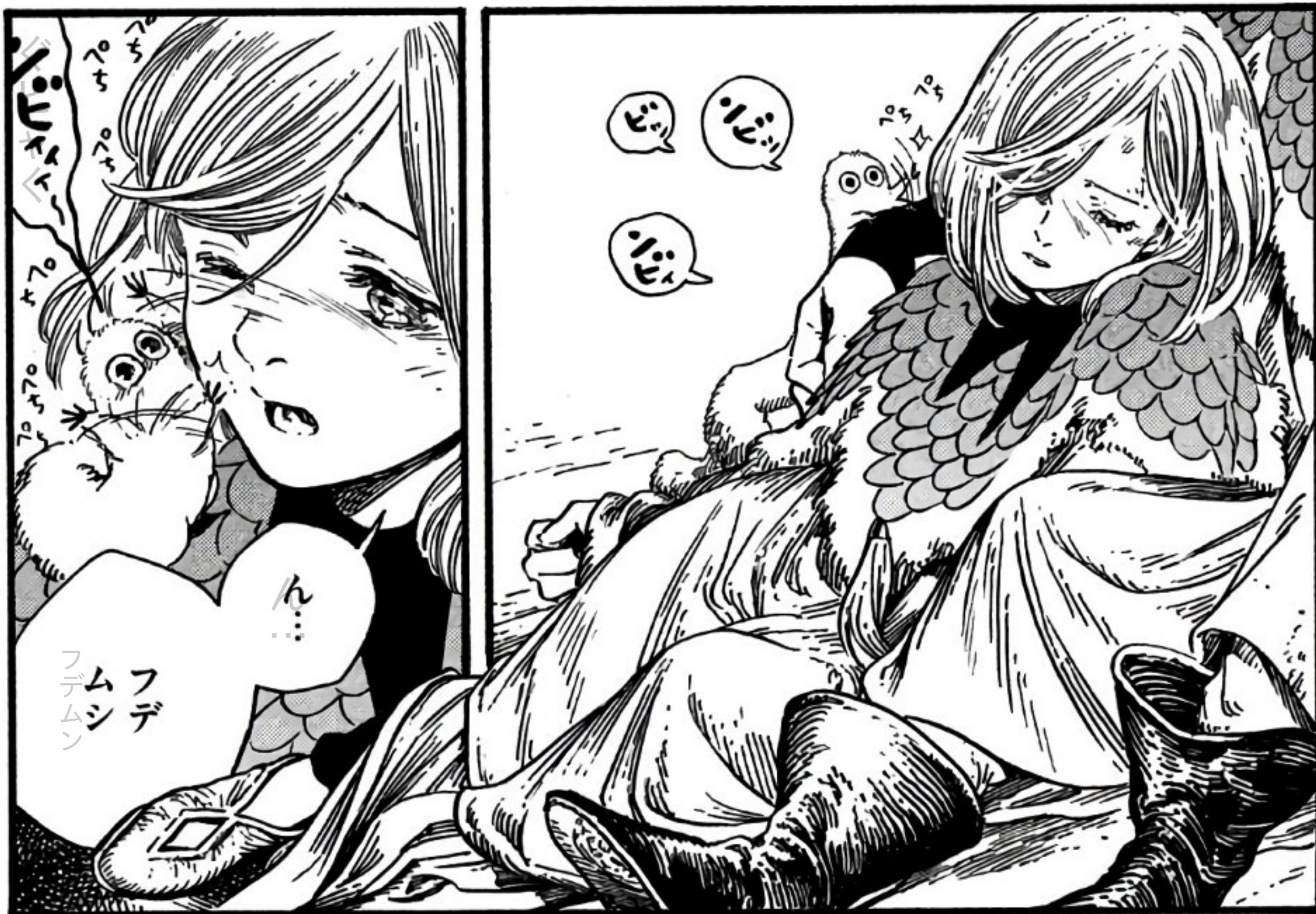


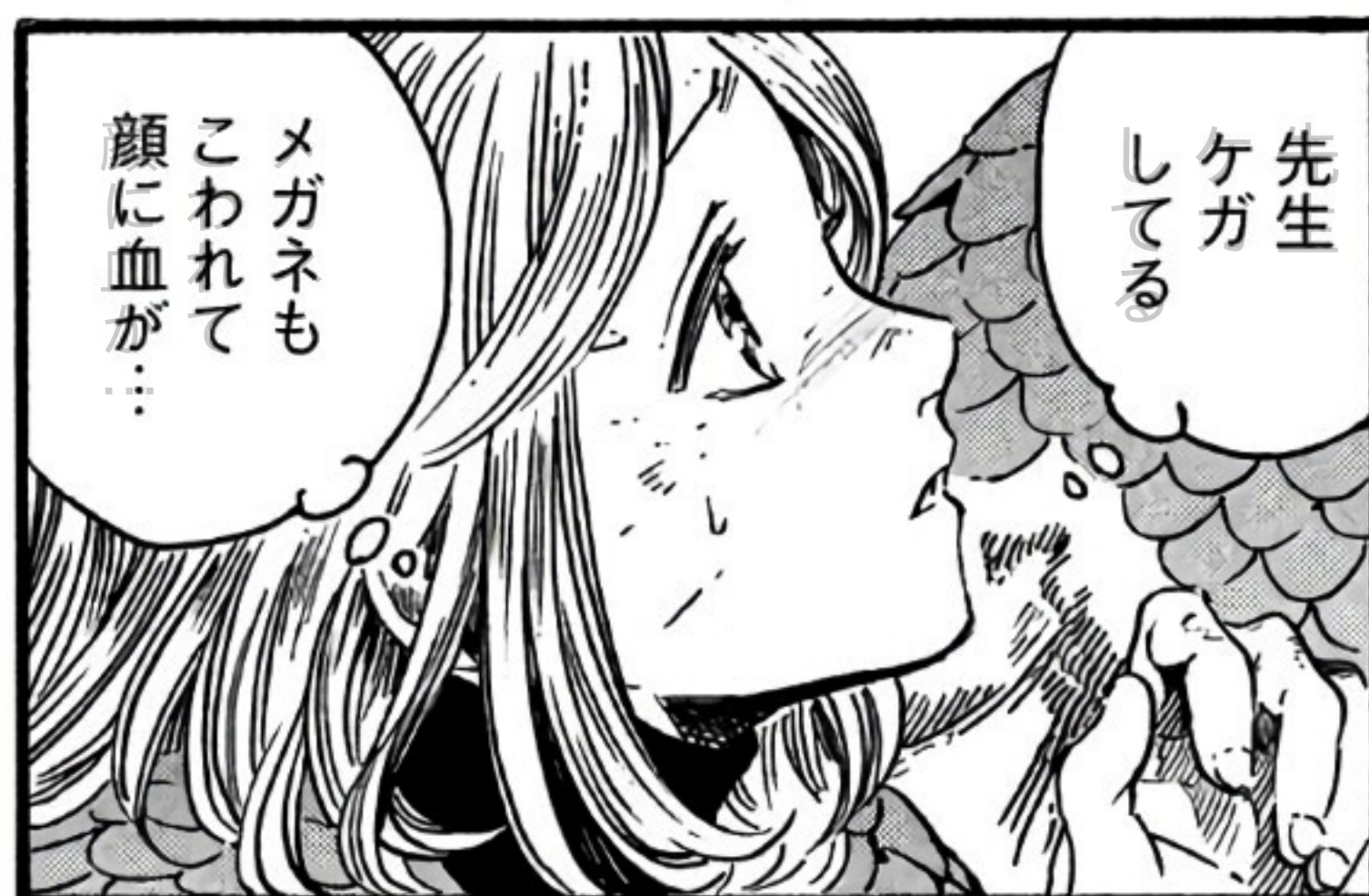
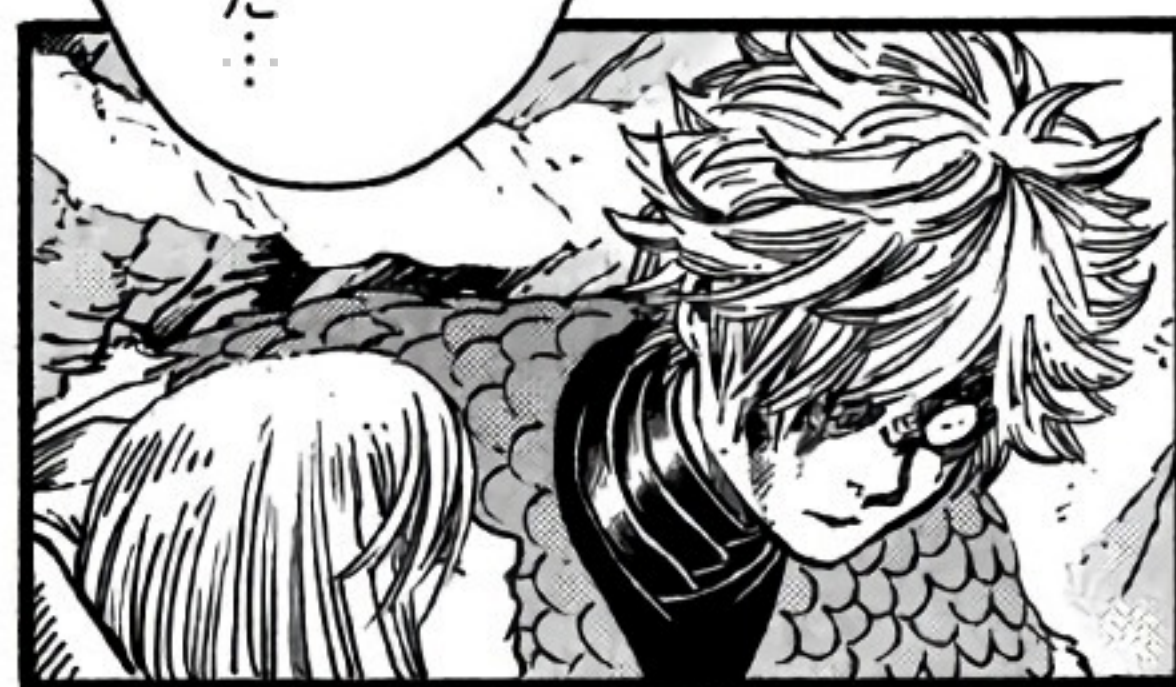


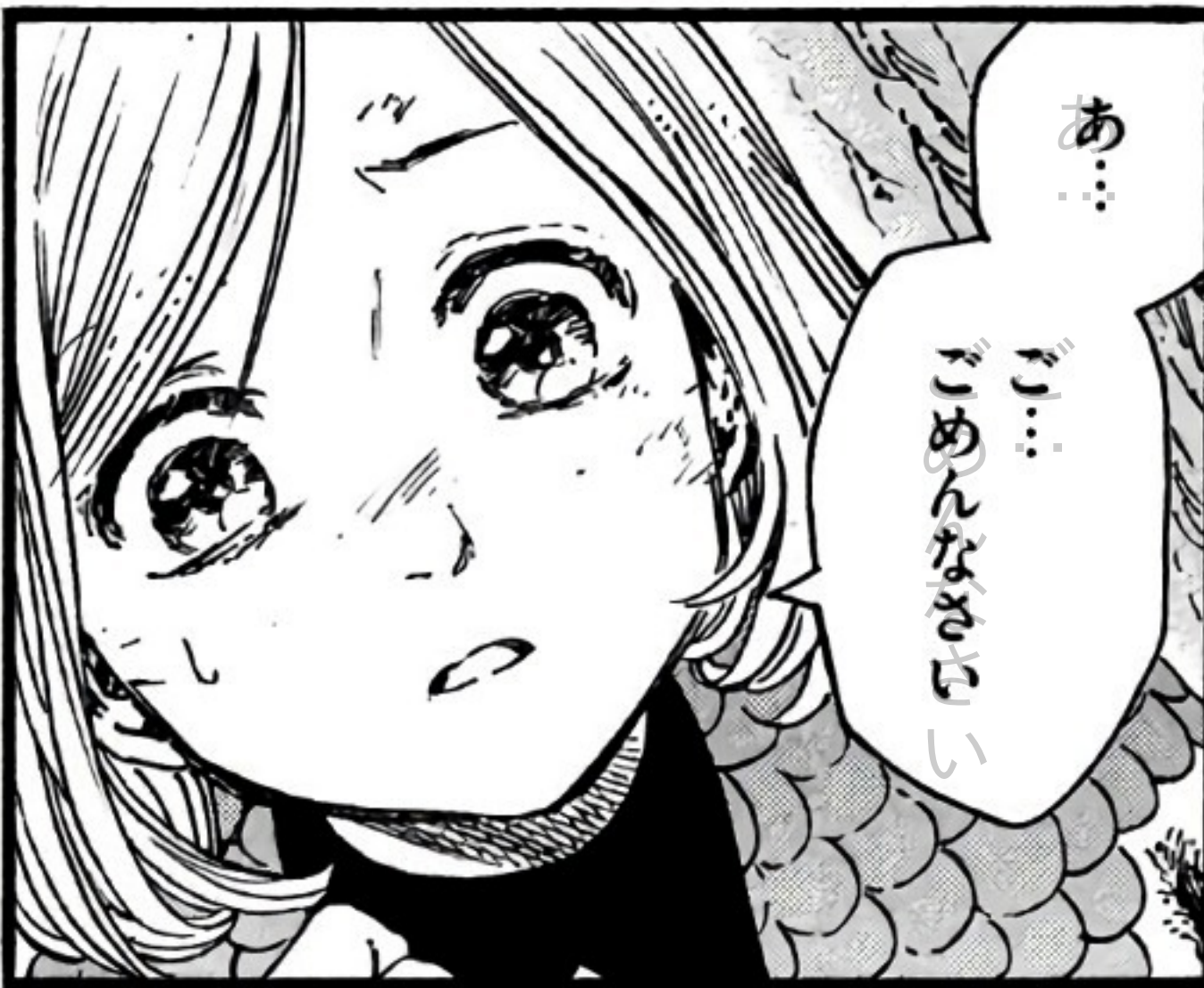
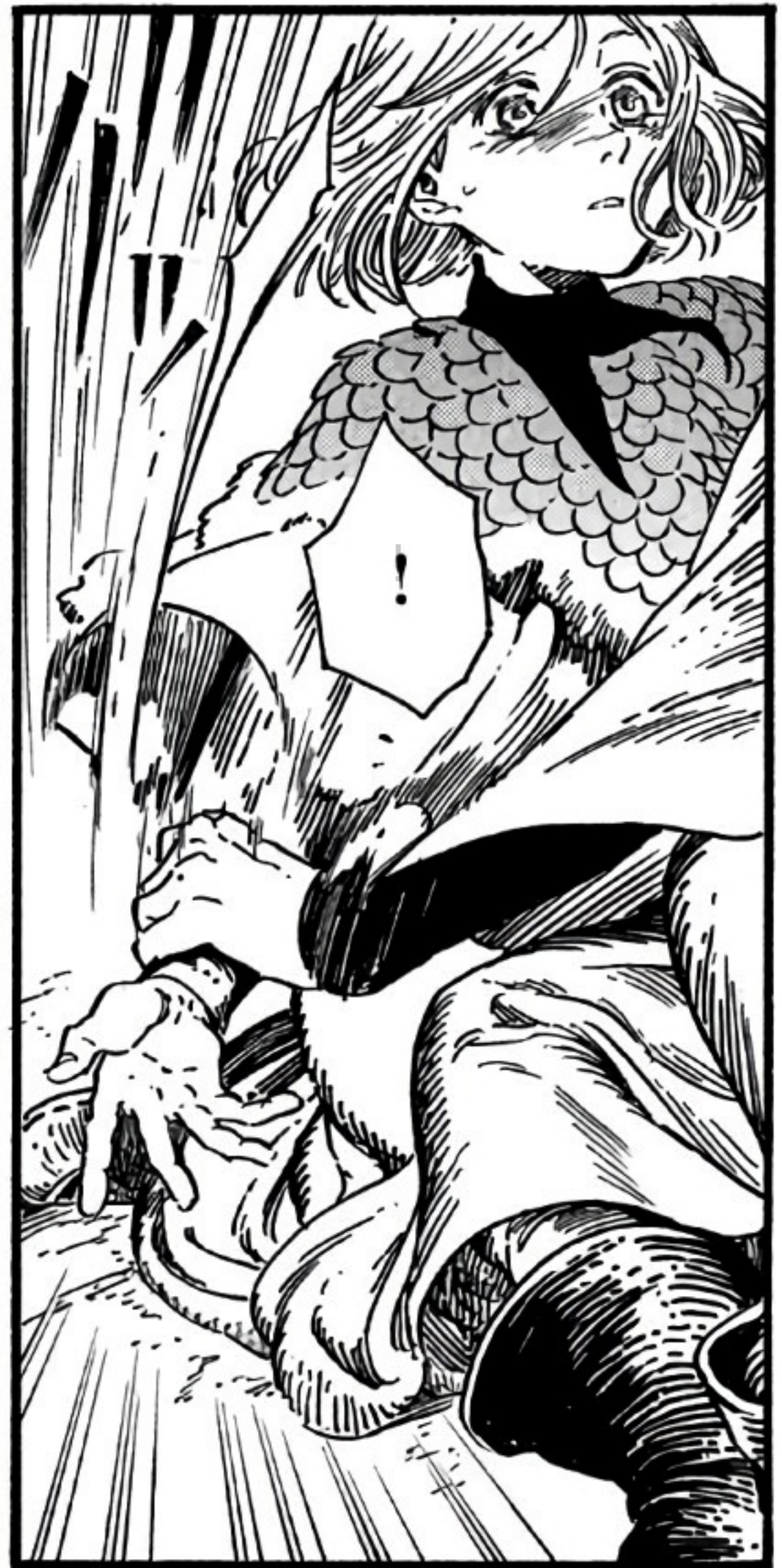
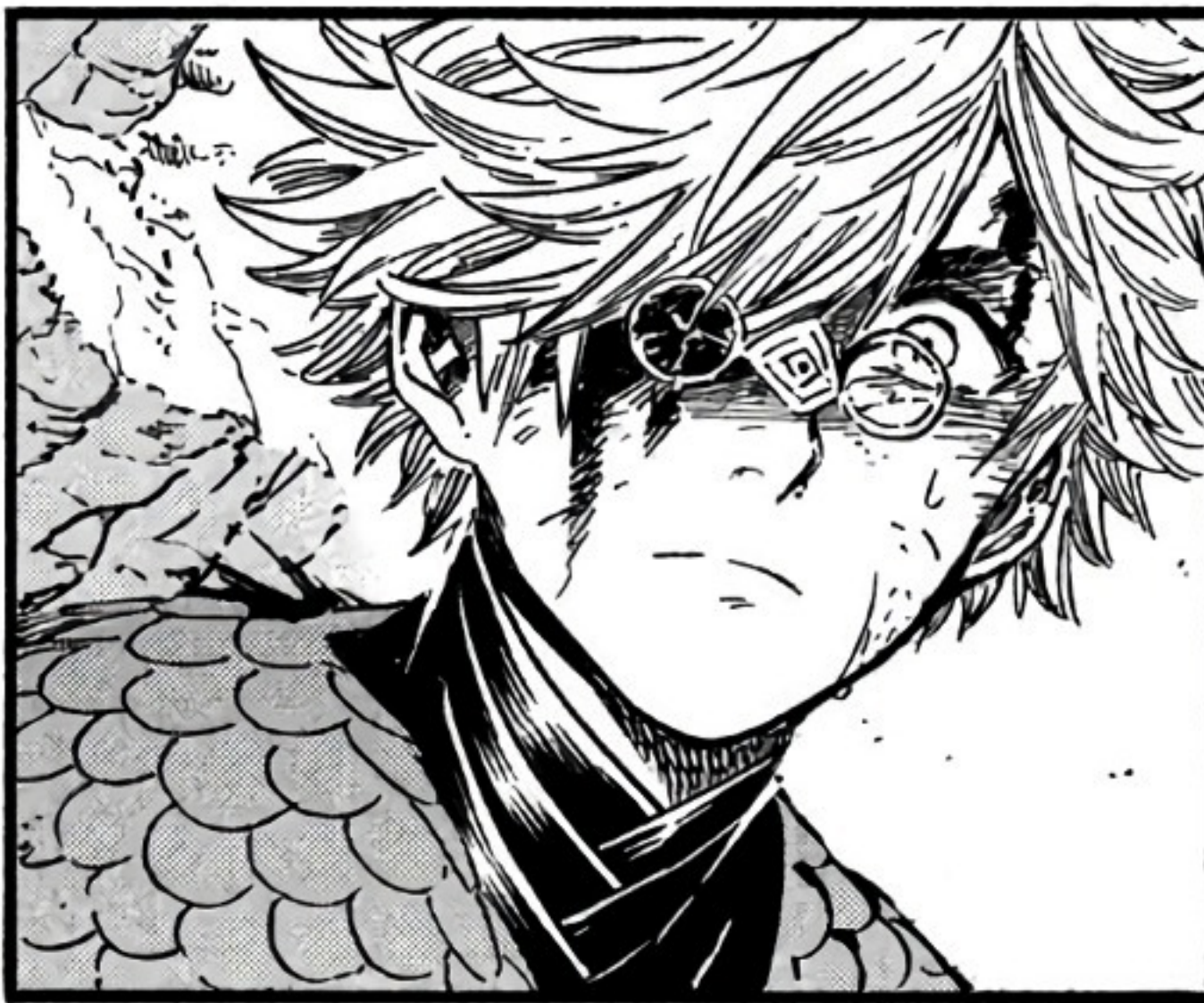


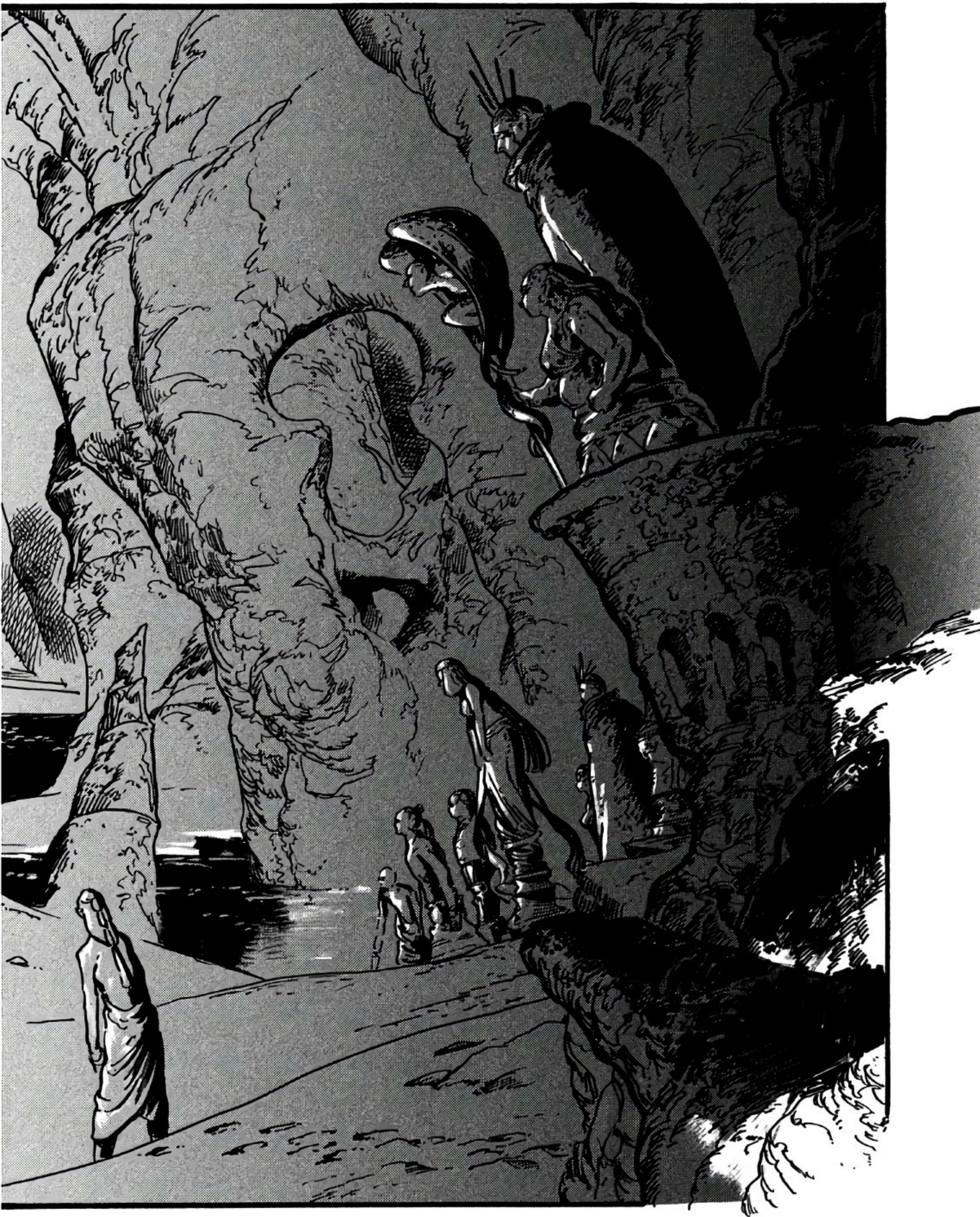






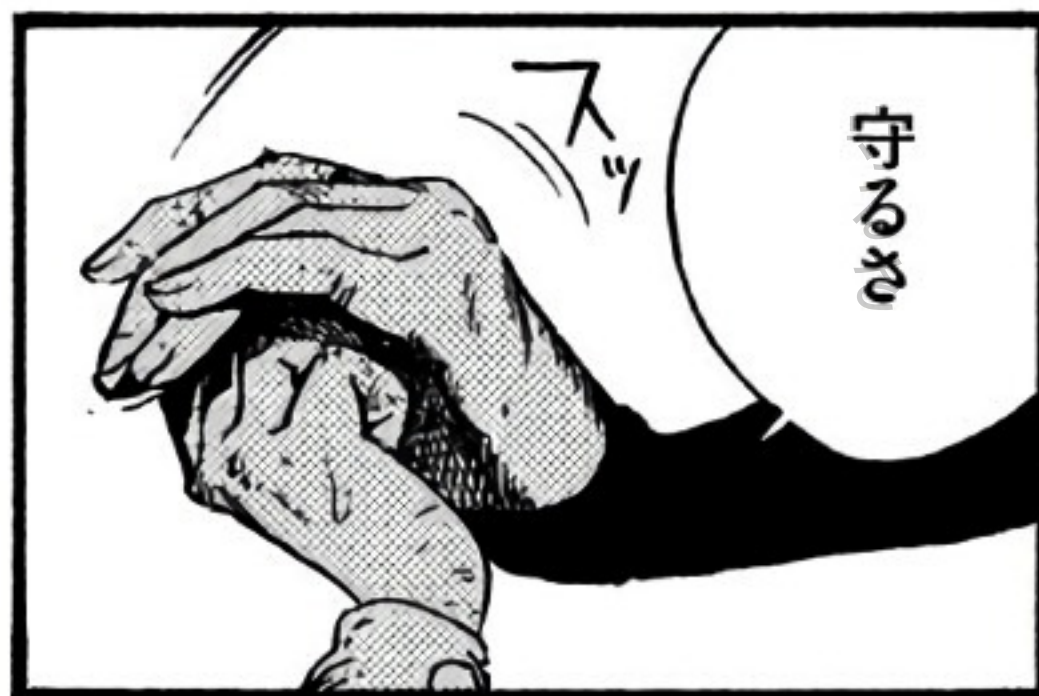















いいかい
二人共



僕から
絶対に

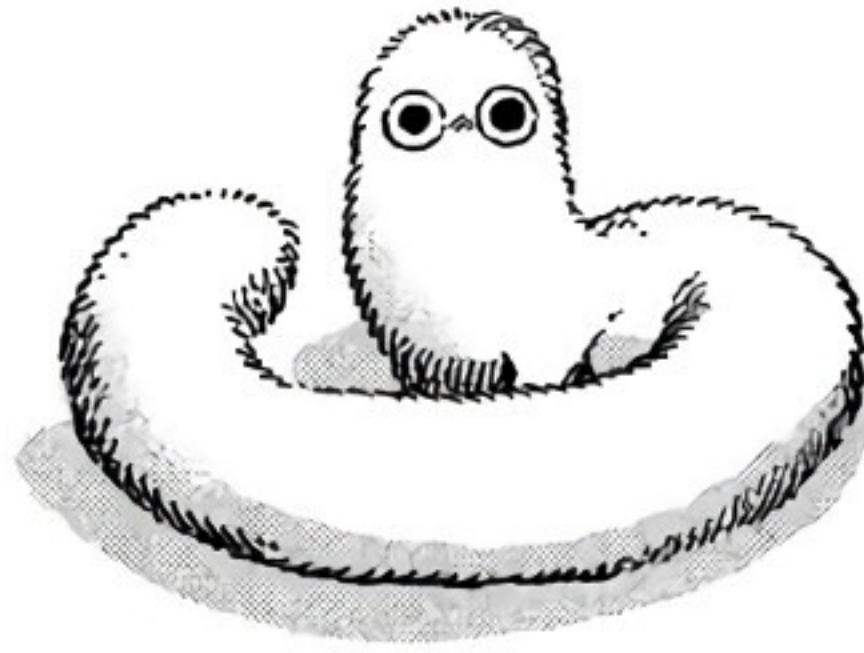
離れ
ないでね

とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH AHAT



吾輩^{わがはい}は
フテムシである



名前は
まだない

《番外編》

平均的な
フテムシパパと
フテムシママの
間に生まれ



多くの
フテムシが
そうである
ように

自然の恵みを
享受して育ち



立派で美しい尾が
充分な長さに
伸びた頃……



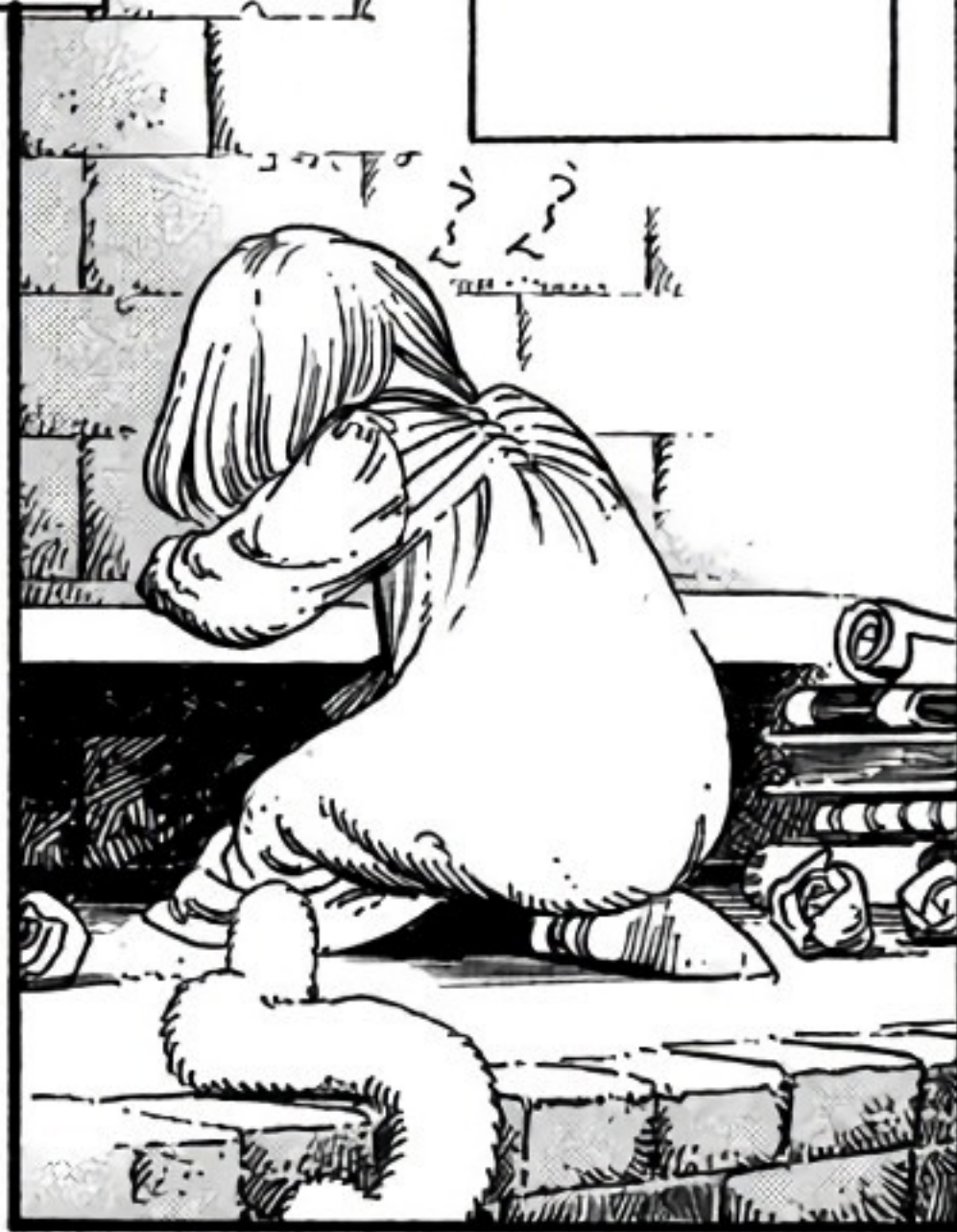
この奇^{かし}つ怪^{かい}な
「魔法使い」と
呼ばれる生き物に
出会った



彼らは
とても興味深い
生態をしている

日がな一日
机に向かって
「魔法」とかいう
ものを描いている
かと思えば

と突然
奇声を上げて
倒れ込み



モフモフ…

モフモフが
ほしい…

我が麗しの体毛に
鼻先を突っ込んで
吸いにくる

実に不快だ



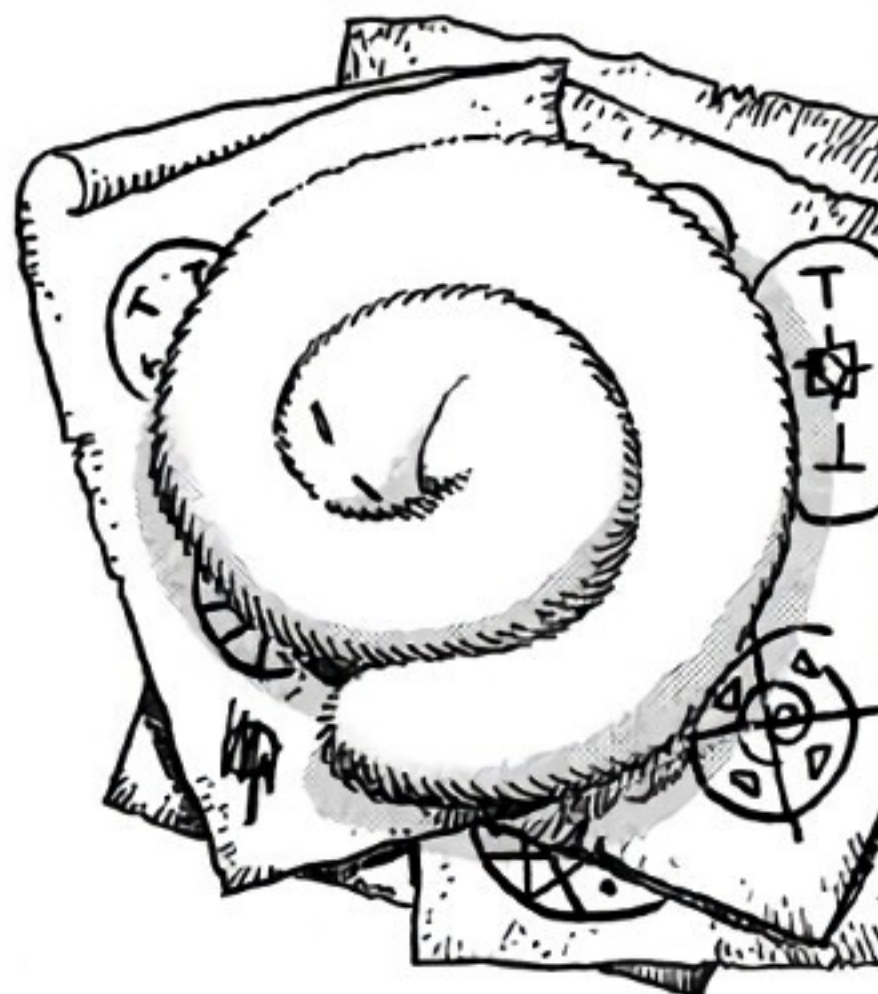
だがこの生き物は
とても魅惑的な
香りのする
魔墨なるものを
所有しているのだ

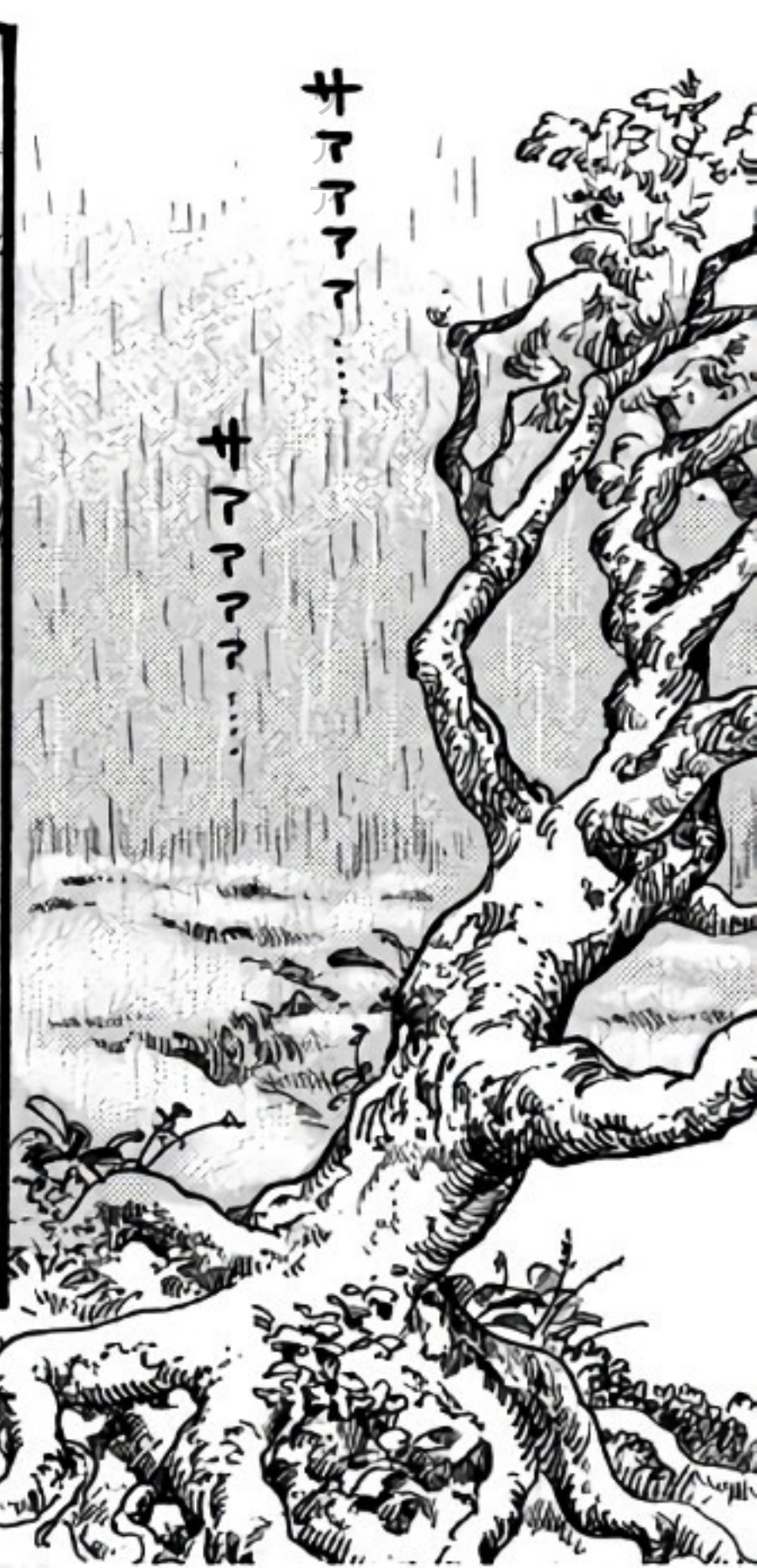
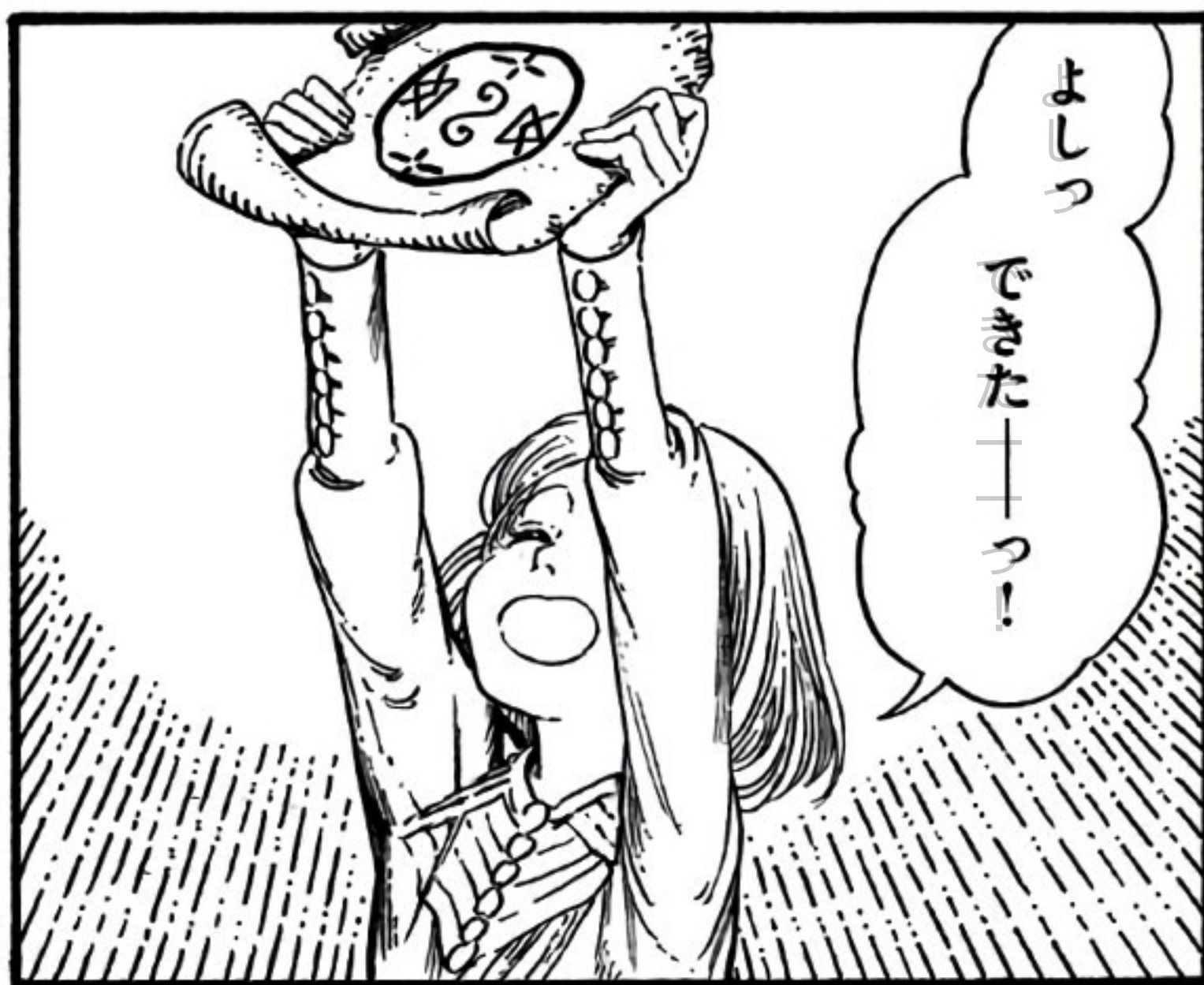
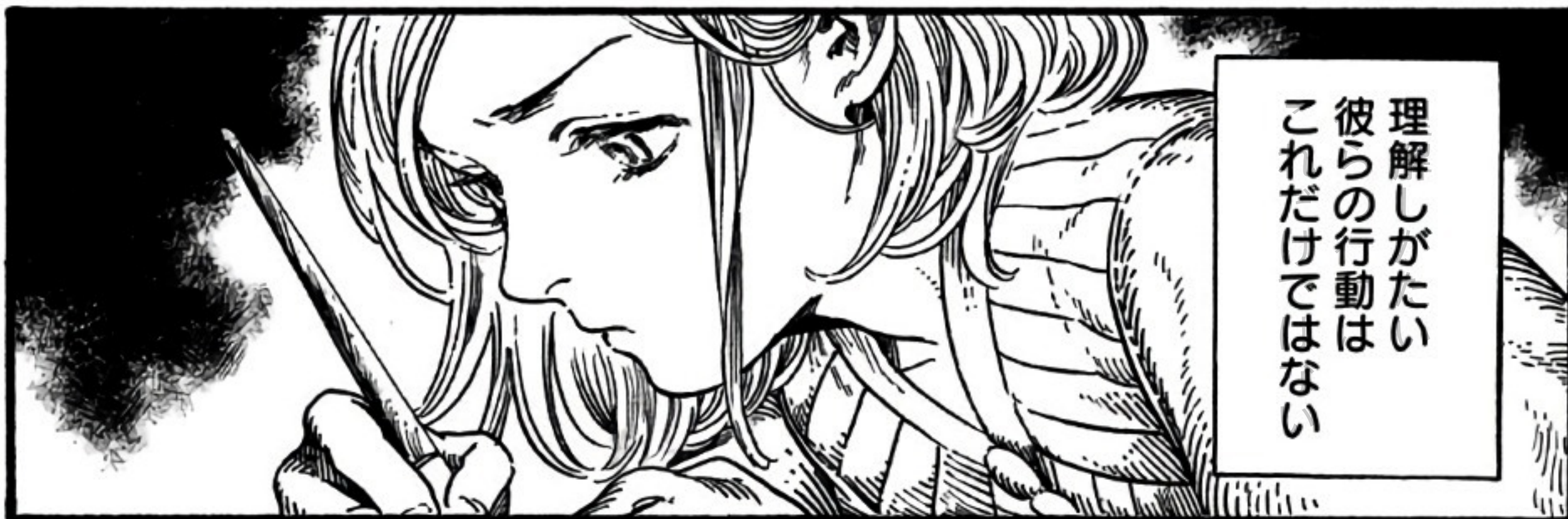
吾輩のような
度量の広い
フテムシは
彼らの共生を
許してやっている

ダメだよ
フテムシ！
描き途中の
魔法陣の上で
寝ないで！



チツ







日がな一日
机に向かって
こしらえた「魔法」を
他の群れの
生き物のために
使うのだ



タイトルは
そう……

この奇っ怪な
「魔法使い」と呼ばれる
生き物について
詳しく記した手記を
後世のために
書き残すのも
いいかもしれない

とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCH AHAT

『お薬とんがり帽子の植物たち』

PLANTS OF WHATCH HAT

おう かん そう 王冠草

〔3話に登場〕

古の禁止で空に浮かぶダダ山脈だけに群生し、魔法使いの第1の試験（弟子入りするための試験）に用いられる。見た目が王冠に似ているためその名がつけられた。かつて、ダダの王が「誰よりも高い頂に己の冠がある」ようにするためだけにダダ山脈を空に浮かべた歴史があるため、その「冠」を取ってくる（王の悪しき行動に制裁を与える）のが試験の課題になっている。



ぎん ぎん しょう じゅ 銀銀葉樹

〔5話に登場〕

魔法陣を描くのに使う「魔墨」は銀葉樹から精製される。生きている枝は銀色をしているが、死んだ枝は黒くなる。この枝から溶け出る溶液は樹血と呼ばれ、魔墨の原材料となる。言い伝えでは、銀葉樹が魔法使いに恋をして、血を魔墨として、枝を杖として差し出したとされている。



から いも 殻芋

〔8話に登場〕



芋でありながら非常に硬い殻を持つ。じっくり焼き上げるとホクホクで美味しく仕上がる。

みつ き 蜜の木

モーニング・ツ=10周年
アンソロジーコミック「食べる」に登場



枝の膨らんでいるところを割ると蜜がたっぷり詰まっている。お菓子や醸造酒の原材料になる。

やま りん ご 山りんご

〔14話に登場〕

ゴツゴツした岩の間にも根を張る低木なリンゴの木。リンゴのように酸味があり、洋梨のように柔らかい。熟すにつれて緑色から黄色になるが、稀に生る赤い実には毒があるので要注意。



いっ たわ わり 草 草

〔16話に登場〕

傷を負った場所に葉を直接あてれば消毒の効果が得られ、乾燥させて粉末にすることで解熱や咳止めの薬になる。ちなみに、15話でキーフリーがしびれの治り具合を確かめるために口に含んでいたのもいたわり草。その表情から察するに、かなり苦いようだ。



致命傷を負った師の姿。

同じ志を持つ大切な友の、切迫した危機的状況。

助けたいという想いが、強ければ強くなるほど――

「禁断の魔法が、

彼女を、 誘惑する。



月額
500円
毎週モーニングが
読める!

週刊

ウェブでもアプリでも! 電子で読むモーニング。

D E M O

Dモーニングとは…

漫画雑誌「モーニング」が
丸ごと読める電子版。

毎週木曜0時に最新号を自動配信、
有料会員登録後の号は
すべてバックナンバーに保存されるなど
電子ならではの利点がたくさん!



あなたのお好きな端末で
毎週「モーニング」をお楽しみください!!

※一部、紙のモーニングとは内容が異なります。

今すぐ **Dモーニング**  **で検索!**

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などは、一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、コミックス発売当時のまま掲載しています。

とんがり帽子のアトリエ(4)

2018年9月1日発行(01)

著 白浜 鷗

©KAMOME SHIRAHAMA 2018

発行者 森田浩章

発行所 株式会社 講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽 2-12-21